

観光学概論

Introduction to Tourism Studies

千住 一／杜 国慶／橋本 俊哉／羽生 冬佳／大橋 健一／野原 克仁／葛野 浩昭 (SENJU HAJIME/ DU GUOQING / HASHIMOTO TOSHIYA / HANYU FUYUKA/ OHASHI KENICHI/ NOHARA KATSUHITO/ KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA002
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象 必修科目

授業の目標 / Course Objectives

観光学の基礎と多面性を理論と具体例から理解し、観光学部での専門的な学びの土台を作る。

The goal of this course is to understand the foundation and various aspects of tourism studies, and to achieve the basic level of knowledge for academic studies in the College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光学に関する基礎的な理論、観光の現場や学術の場面において使われるキーワード、典型的な観光現象などについて学ぶ。

Students are expected to learn about the basic theories on tourism studies, the keywords used in practical and academic fields of tourism, the typical examples of tourism phenomena, and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：観光の現在

- 3回：観光の対象と行動（観光行動の仕組み、観光者心理）
 4回：観光の対象と行動（観光行動の対象）
 5回：観光史（観光の世界史）
 6回：観光史（観光の日本史）
 7回：観光と資源（観光と自然環境）
 8回：観光と資源（観光資源の保全と活用）
 9回：観光と文化（観光と文化）
 10回：観光と文化（文化交流の場としての観光）
 11回：観光とビジネス・経済（観光と経済）
 12回：観光とビジネス・経済（観光ビジネス）
 13回：観光と地域社会（観光／地域（1））
 14回：観光と地域社会（観光／地域（2））

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各教員の指示に従って予習、復習をしておくこと。なお、「観光学概論」で学ぶ観光学の理論やキーワード、観光現象などを「基礎演習」でも取り上げ、これらに対する理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー等:30%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

授業の際、適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

岡本伸之編 観光学入門 有斐閣アルマ 2001 4641121303

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象 必修科目

観光調査・研究法入門

Introduction to Research Practice

アカデミックスキルを身につける

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA005

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以前入学者対象 必修科目

授業の目標 / Course Objectives

観光学部での学習・研究の基礎となる知識と技法を習得する。

Students will acquire knowledge and technique, which are the foundation of learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

全体授業およびクラス別授業を通して、以下の授業計画に記す諸テーマに沿って授業を行う。第2回以降は、各クラスのアカデミックアドバイザーと、諸テーマを専門とする担当教員によって、実習形式の授業が進められる。なお、第3回～第11回はクラスごとに授業の順序が異なる。

Classes will be conducted based on the themes in the following course schedule for full classes and separate classes. From the second session, each class's academic advisor and the specialist teacher for each theme will conduct practical training classes. Note that for sessions 3 to 11, the order will vary by class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス講義：観光と学術

- 2回：ガイダンス演習：観光学部で学ぶために
 3回：レポート・小論文の書き方
 4回：『観光白書』を読む
 5回：図書館情報検索演習
 6回：観光研究の基本文献
 7回：交流文化研究の基本文献
 8回：アンケート調査の基礎
 9回：インタビュー調査・フィールドワーク調査の基礎
 10回：研究発表の方法とレジユメの作成法
 11回：行政による計画や規制を知る
 12回：演習：アカデミックスキルの応用
 13回：演習：アカデミックスキルの応用
 14回：演習：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

小テストまたは課題の成果に基づいて成績評価を行うため、授業には必ず出席すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:20% クラス別授業での小テストまたは課題（複数回）:80%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以前入学者対象 必修科目

観光経営学

Managemet in Tourism

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA008
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光のビジネスとしての側面について、経営学の基礎的な理論や知識の視点から理解する。

Understanding tourism as a business system from the points of view of the basic theories and knowledge of business management studies.

授業の内容 / Course Contents

経営学を概観し、基礎的な理論や知識、フレームワークを紹介するとともに、観光産業あるいは観光関連産業の特徴について、経営学の視点から講義する。

In addition to introducing the basic theories, knowledge, and framework of business management studies, the unique characteristics of the tourism industry or tourism-related industry will be explained from the perspective of business management.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：観光産業の構造

- 3回：観光市場
- 4回：観光商品
- 5回：観光の価格戦略
- 6回：観光の流通戦略
- 7回：観光のプロモーション戦略
- 8回：観光の競争戦略
- 9回：競争環境の分析
- 10回：観光の財務戦略
- 11回：観光の組織戦略
- 12回：観光の人的資源管理
- 13回：観光の倫理・法令遵守
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画に示した項目について、また、講義で扱われた事柄について、各種文献やインターネット等で自ら調べ、知識メモを作成する。なおこの知識メモは提出物ではない。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 授業中の提出物、出席点を加味することがある:10%

テキスト / Textbooks

資料は適宜配付する

参考文献 / Readings

講義中に適宜紹介する

観光事業論

Tourism Business

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA009
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS1000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光学を学ぼうとする学生に対し、新しい時代の観光の経済的、社会的意義や目的、効果を提示するとともに、観光事業に関する基本的な知識を習得する。

We will present the economic and social significance, purpose, and results of tourism in the new era to students beginning their studies in the College of Tourism, and gain basic knowledge about the tourism industry.

授業の内容 / Course Contents

観光事業とは、観光の効用や諸効果を促進するための活動の総称であり、政府や地方自治体、観光を可能とする各種製品やサービスを提供する民間企業、地域住民など多様な主体によって行われる。観光に関する基礎的な知識と合わせて、観光事業の全体像について、事例を交えながら講義を行う。

適宜、ゲストスピーカーを招いて観光事業の内情について解説いただく。

Tourism industry is a general term for activities promoting the utility and various effects of tourism that are carried out by diverse parties such as governments and local organizations, companies that offer various products and services that make tourism possible, and local residents. Lectures will cover basic tourism knowledge, as well as the whole picture of the tourism industry through case studies.

Guest speakers will be invited to explain the tourism industry from an insider's perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義計画等の説明
- 2 回：観光の定義と構造
- 3 回：日本の観光の概況
- 4 回：旅行業(1)
- 5 回：旅行業(2)
- 6 回：宿泊業(1)
- 7 回：宿泊業(2)
- 8 回：交通運輸業(1)
- 9 回：交通運輸業(2)
- 10 回：国の観光政策(1)
- 11 回：国の観光政策(2)
- 12 回：観光事業と地域(1)
- 13 回：観光事業と地域(2)
- 14 回：新しい観光の動向

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

自身が観光に赴く際に、どのような事業が関わっているのかに十分注意を払うこと。また、授業中に触れる内容を強く意識しながら実地に体験することで理解を深めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 適宜授業中に求める提出物:20%

テキスト / Textbooks

適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

講義中に適宜紹介する。

観光史

History of Tourism

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA017
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS1000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象
観光学科選択科目

授業の目標 / Course Objectives

観光学部での学修において必要な基礎知識やものの見方を、観光の歴史的展開から学ぶ。

Through study of the historical development of events surrounding tourism, students will learn the basic knowledge and perspective required for study in the College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光の歴史的展開のなかでも、西洋および日本の事例を取り上げる。言及する時代は、観光の特性上、近世、近代、現代が中心となる。講義では単なる基礎知識だけでなく、歴史的展開の背景にある社会的要因や、複合性・地域横断性といった観光を理解する上での基本的な分析視角も身に付ける。あわせて、今日における観光のありようをよりよく理解するためには、歴史的連続性という見方もまた有効であることを学ぶ。以上の一連の内容を、年号暗記などに拘泥せず、歴史の「流れ」や社会の変動を意識しながら歴史学的視点から整理する。

Within historical development of events surrounding tourism, this course examines cases in the West and in Japan. Periods of study are centered on characteristics of tourism in early modern, modern, and contemporary

times. The course provides not only basic knowledge, but also basic analytical perspectives needed to understand tourism, including social factors behind its historical development, complexity, regional transversality, etc. In addition, the course covers the effectiveness of historical continuity, in order to understand better the current state of tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：西洋近世1【グランドツアー】
- 3回：西洋近世2【グランドツアーの副産物】
- 4回：日本近世1【街道の整備】
- 5回：日本近世2【伊勢参り】
- 6回：日本近世3【現代との連続性】
- 7回：西洋近代1【トマス＝クック】
- 8回：西洋近代2【クックの取り組みと産業革命】
- 9回：西洋近代3【クック社と世界一周旅行】
- 10回：日本近代1【「開国」と遊歩】
- 11回：日本近代2【インバウンド誘致団体】
- 12回：西洋現代【マスツーリズムの時代】
- 13回：日本現代【バブル経済崩壊まで】
- 14回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

これまでに身につけた歴史に関する知識のうち、観光と関連が深いと思われる事柄について振り返っておく。講義で紹介する文献を積極的に読み進める。観光と関連するニュースや出来事への関心を、日頃から高めておく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

单元ごとの参考文献リストを提示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象/観光学科選択科目

基礎演習

Seminar (1st year)

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA031
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA032
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1000
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA033
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA035

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1000

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

相澤 孝文 (AIZAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA036

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1000

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

石井 一成 (ISHII KAZUNARI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA037
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

秋山 綾 (AKIYAMA AYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA038
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA039
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

投資計画論 1

Investment Planning 1

ファイナンス理論の基礎的理解

中西 哲 (NAKANISHI TETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA047

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は次の 3 点とする。

- ①財務諸表分析の基礎的理解
- ②証券投資理論の基礎的理解（投資家視点）
- ③コーポレートファイナンス理論の基礎的理解（企業側視点）

The objectives of this lecture are as follows:

- ①Basic understanding of financial statement analysis.
- ②Basic understanding of securities investment theory (from an investor's perspective).
- ③Basic understanding of corporate finance theory (from a corporate

授業の内容 / Course Contents

証券投資理論、コーポレートファイナンス理論を中心に初学者にも理解できるよう意図した講義を行う。また、ESG 投資やサステナブルファイナンスなど、近年の潮流についても触れる。

就活を念頭に置き、企業を見る目を養うことを副次効果として期待する。

なお、授業形態は講義形式とし、学生の発表やグループワークは行わない。

毎回授業のリアクションペーパーを提出してもらうことで授業態度を評価する。

We will conduct a lecture with the intention of making it understandable for beginners, focusing on securities investment theory and corporate finance theory. Additionally, we will also touch upon recent trends such as ESG investment and sustainable finance.

As a secondary objective, we hope to cultivate a perspective for evaluating companies, keeping in mind the job search process.

Regarding the class format, it will be in the form of lectures, and student presentations or group work will not be conducted. The attitude in class will be assessed by submitting a reaction paper for each class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- ・本講義で学習する内容の概要、成績評価等のルール
- ・ファイナンス論の主な体系と周辺領域

2 回：財務諸表分析 1

- ・主要三表（BS・PL・CF）の概要
- ・主な勘定科目の概念

3 回：財務諸表分析 2

- ・安全性指標、収益性指標、効率性指標の概要
- ・上場企業の株価関連指標

4 回：財務諸表分析 3

- ・回転期間分析と運転資本
- ・企業の戦略の選択と財務指標

5 回：証券投資理論 1

- ・現代ポートフォリオ理論
- ・リスク・リターンと資本市場線

6 回：証券投資理論 2

- ・効率的市場仮説と有効フロンティア
- ・ランダムウォーク理論

7 回：証券投資理論 3

- ・CAPM とシャープレシオ
- ・ファクターモデル

8 回：証券投資理論 4

- ・プロスペクト理論と市場心理
- ・バブルとクラッシュのメカニズム

9 回：コーポレートファイナンス理論 1

- ・企業の財務問題と最適資本構成
- ・モジリアーニとミラーの命題

10 回：コーポレートファイナンス理論 2

- ・資本調達と資本コスト
- ・取引コストとペッキングオーダー仮説

11 回：コーポレートファイナンス理論 3

- ・現在価値と DCF モデル

- ・WACC の設計

12 回：コーポレートファイナンス理論 4

- ・事業計画と継続価値

- ・NPV 法による投資判断

13 回：新たな潮流

- ・サステナビリティ経営への不可逆的転換

- ・ESG 投資、サステナブル・ファイナンス

14 回：総括講義及び講義内テスト

- ・継続的学習に向けたアドバイス

- ・講義内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー（複数回）・授業態度:60% 講義内テスト:40%

テキスト / Textbooks

別途指示する

参考文献 / Readings

中西哲 ファイナンス業務エッセンシャルズ 総合法令出版 2016 9784862805119

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・企業を見る目を養いたいという意欲

- ・高度な数学は不要

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

記載なし

施設・空間造形論

Facilities Planning and Spatial Design

空間の構成、造形、演出

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA080

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

建築によって作り出された空間がただ単に大きさを持つ隙間ではなく、建築が存在することによって演出された安らぎ感や躍動感、あるいは賑やかさといったものがあることを理解する。また、建築がその内部、もしくは、外部で空間を仕切り新たな空間を生み出す際に、それらの空間を個性的に演出していくことが可能であることを理解する。

Spaces created by architecture are not simply large gaps. It is the presence of the architecture that gives them a feeling of calm, activity, or liveliness. Furthermore, the interiors and exteriors of architecture divide spaces, giving rise to new spaces,

授業の内容 / Course Contents

空間をどのように捉えるかという概念的な理解をするとともに、機能面からみた発展の歴史、構成の変化、さらには空間イメージの演出技法や造形手法、作り出される空間の変容まで建築利用者が建築の特性を理解するための視点を教授する。単なる容器として建築を理解するのではなく、空間を作るための道具としての建築のあり方を学び、より良き建築主として将来活躍できる素養を身につける。

Along with a conceptual understanding of how to perceive space, we will look at the history of development from a functional perspective, changes in construction, techniques for creating and designing a spatial image, and even how to transform the created space, from a perspective that will lead users of architecture to understand the architecture's characteristics. You will learn to see architecture as a tool to create space, not as a mere vessel, and will learn the basics needed to become a good custodian of architecture in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：空間の概念（＝「間」の認識）
- 2 回：景色の認識
- 3 回：塹から要塞へ
- 4 回：機能的空間構成の思想
- 5 回：無用の用
- 6 回：数寄（侘と寂）の哲学
- 7 回：けはい（気配）の演出
- 8 回：見立て
- 9 回：仕上げ（木肌の風合い、ディテールの納まり）
- 10 回：立体構成
- 11 回：色合わせ（＝カラーコーディネート）
- 12 回：開口部による繋がり
- 13 回：デザインツールと造形
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に生活で利用する自宅や大学とは異なる種類の空間を訪れ、その空間に身を置いた時に感じる印象とその理由について考察しておいてください。設計者の意図が反映されているのか、建築空間とは別の要素がその印象を生み出しているのか、感性を研ぎ澄ましてその理由を考察し、日常には意識せずに利用している空間に込められている意味を見出す練習をしておいてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- PIE BOOKS 建築がすごい世界の美術館 パイ・インターナショナル 2015 9784756245922
 デニス・R・マクナマラ 教会建築を読み解く ガイアブックス 2012 9784882828372
 安原盛彦 白井晟一空間読解 学芸出版社 2005 4761512059
 池上英洋、川口清香、荒井咲紀 いちばん親切的な西洋美術史 新星出版社 2018 9784405072282
 スタジオワーク 建築デザインの解剖図鑑 X-Knowledge 2013 9784767815701

CASA BRUTUS（マガジンハウス）、芸術新潮（新潮社）などの雑誌も適宜目を通し、美術館やギャラリー、美術展を訪れて、建築やアート、インテリア、美術に触れる機会を増やしておいてください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

実際に街中を歩いて景色を眺める際に授業で学んだことがどのように利用されているのかを考えて授業内容を復習し、理解を深めるよう習慣づけること。

観光経済学

Economics of Tourism

環境問題と観光の関わりを経済学を用いて分析

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA081

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 1) 観光に関するデータを経済学の視点から考察できる
 - 2) 経済学の理論を用いて、観光の経済学的意義について理解できる
 - 3) 観光と自然環境の深いつながりを理解できる
 - 4) 実社会において、自らの視点で観光と経済学の関係を考察できる
- 1) Be able to consider a lot of data related to tourism from the perspective of economics
 - 2) Be able to understand the growth in tourism using economic theories
 - 3) Be able to understand the relationship between tourism and the environment
 - 4) Be able to ap

授業の内容 / Course Contents

この授業では、さまざまな観光現象を経済学的手法（ミクロ・マクロ経済学）に基づいて分析・考察する手法が紹介される。主に三つのパートからなる。第一部では、観光に関するデータを用いた計量分析について学ぶことで、観光にかかるデータを使った経済分析を紹介する。第二部では、観光産業について経済学の視点から

分析する。特に、地域固有の自然環境を観光資源としている観光地にとって自然資源の価値がどれほど観光産業に重要かを学ぶ。第三部では、新たなツーリズムの経済学的意義について考察し観光の問題点についても経済学の視点から考察す

This course will introduce methods for analyzing and considering various tourism phenomena based on economic methods (microeconomics, macroeconomics). This course consists of three main parts. First, students will learn about econometric methods and economic analysis using tourism data. Second, I will introduce the tourism industry in Japan and how analyze it from an economic viewpoint. In particular, students will learn about the importance of the value of natural resources for regions that uses area-specific natural environments as tourism resources. Finally, students will consider the economic significance of some new tourism and examine problems in tourism. Note that since this course deals with economic and econometric models, prior knowledge of mathematics and statistics is required.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：講義の説明、観光の現状と課題
- 2 回：観光統計 1（観光データの基礎知識）
- 3 回：観光統計 2（経済学の基礎知識の活用）
- 4 回：観光の経済波及効果（産業連関分析）
- 5 回：開放経済の観光分析
- 6 回：観光の需要分析（消費者行動）
- 7 回：観光の供給分析（企業行動）
- 8 回：観光資源の経済的価値①～顕示選好法～
- 9 回：観光資源の経済的価値②～表明選好法と費用便益分析～
- 10 回：気候変動が観光に与える影響
- 11 回：世界遺産と観光
- 12 回：ニューツーリズムの経済評価～エコツーリズム、グリーンツーリズム、復興ツーリズム～
- 13 回：経済学の視点から考える観光の諸問題（外部性）
- 14 回：総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

入門経済学、経済数学、統計学の書籍をしっかりと読み予習しておくこと。

講義内容について、最低でも2時間でも復習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回の小テスト:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

中平千彦・藪田雅弘 観光経済学の基礎講義 九州大学出版会 2017 9784798502045

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学生には、入門レベルで構わないので経済学、数学（微分積分および線形代数）、統計学の知識を求める。高校レベルの数学が理解できないなら、履修を勧めない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布、授業後の課題提出に「Canvas LMS」を使用する。

産業連関分析を学習する際に、Excelを使用する。

地域経済学

Regional Economics

地域の特性について、経済学を用い多角的な視点から理解する

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA082

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 1) 地域経済、環境経済の基礎知識の習得
 - 2) 地域が抱える問題に対し、自然資源や観光という観点から考察できるようになる
 - 3) 得られた知識を実社会で応用できる力を養う
- 1) Learning basic information on regional and environmental economics.
 - 2) Be able to consider some issues of regional economy in terms of natural resources and tourism.
 - 3) Adapting the acquired knowledge in practice.

授業の内容 / Course Contents

地域経済学の基礎理論及び分析方法を学び、地域間の経済構造の理解を深める。特に、地域の発展、人口と集積、地域と自然環境や観光資源との関わりを知り、統計的な分析手法についても学ぶ。都市も含めた一般的な地域と、ローカルとしての地域の問題点を理解し、地域の今後の発展に資する政策について考察する。

In this course, students will study fundamental theories and analytical methods of regional economics.

In particular, I will offer specific topics such as regional development, population, economic agglomeration, and

the relationship between the region and environment or tourism resources using statistical analysis. Students will understand the issues in urban and local economies and consider policies contributing to regional economies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：地域経済学の基礎
- 2回：日本の地域と都市+マイクロ経済学の基礎①
- 3回：日本の地域の産業構造+マイクロ経済学の基礎②
- 4回：人口移動の経済学+マイクロ経済学の基礎③
- 5回：産業連関分析の基礎+マクロ経済学の基礎①
- 6回：都市化のメカニズム+マクロ経済学の基礎②
- 7回：土地政策の分析+マクロ経済学の基礎③
- 8回：地域自然環境と経済学①ローカルコモンズの管理
- 9回：地域自然環境と経済学②自然環境に価値はあるのか？表明選好法の使い方
- 10回：地域自然環境と経済学③自然環境に価値はあるのか？顕示選好法の使い方
- 11回：地域自然環境と経済学④生態系サービスと生物多様性、自然体験型観光の経済的価値
- 12回：地域の交通政策
- 13回：地方政府の役割とは
- 14回：まとめと今後の地域活性化に向けた考察

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

地域経済学は多様な経済学の分野の中でも応用分野に該当するため、経済学の予備的知識が必須である。そのため、関連文献や新聞記事などをよく読み、予備知識（当然のことながら数学や統計学を含む）を習得しておくこと。

講義内で理解が不十分だった箇所や、より掘り下げたい内容について各自で調べること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 講義後の小テスト:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義内で適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

学生には、入門レベルで構わないので経済学、数学（微分積分および線形代数）、統計学の知識を求める。高校レベルの数学が理解できないなら、履修を勧めない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、授業後の課題提出などに「Canvas LMS」を使用する。

簡単な統計分析で Excel、R を使用する予定である。

観光行動論

Human Behavior in Tourism

観光行動の基礎的理解

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA085
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS2000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

人びとの行動・心理を理解するうえで必要とされる基礎的な知識を習得し、観光現象やサービス提供場面における行動論的・心理学的な見方を、事例に即して理解する。

You will gain the basic knowledge necessary to understand human behavior and psychology, and gain an understanding of tourism development and service provision situations from a behavioral and psychological perspective, based on real cases.

授業の内容 / Course Contents

前半に観光行動や心理に関する基礎的な内容について紹介した後、観光やサービス場面における行動・心理の理解に欠かせないノンバーバル・コミュニケーションやサービスの基礎理論、さらにはそれらの知見の応用事例や観光回遊行動の特性等について講述する予定である。

講義は講義資料と視覚教材を使用しつつ進める。講義中に質問したり、リアクションペーパーの作成・提出を求めることがある。

In the first half of the course, I will introduce basic information related to tourism behavior and psychology, as

well as the basic theories of nonverbal communication and service that are essential to understanding behavior and psychology in a tourism or service setting, and I plan to give further lectures on examples of the application of that information and the characteristics of tourist travel behavior.

Lectures will be given using lecture materials and visual course materials. During class, students may be asked questions or may be asked to write and submit reaction papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光行動の基礎理論
- 3 回：観光行動の調査方法 1
- 4 回：観光行動の調査方法 2
- 5 回：日本人の観光行動の歴史的背景 1
- 6 回：日本人の観光行動の歴史的背景 2
- 7 回：空間利用の生態心理
- 8 回：サービスの基礎理論 1
- 9 回：サービスの基礎理論 2
- 10 回：インバウンド観光者の行動
- 11 回：「誘導」の概念とその応用
- 12 回：不安心理と観光行動
- 13 回：観光回遊の行動特性
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

テキストはとくに使用せず，毎時間講義資料を配布する。

参考文献 / Readings

橋本俊哉編 観光行動論 原書房 2013

テーマごとの参考文献は講義資料にその都度記載する。

マーケティング

Marketing

売れる仕組みづくり・買ってもらえる仕掛けづくりを理解しよう

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA087
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「マーケティング・マインド」つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養ってもらうこと、それがこの授業のねらいです。ビジネスの中で培われてきたマーケティングの知識やスキルを学び、身につけるとともに、社会の様々な問題解決に向けた応用力を養ってほしいと思っています。

The purpose of this course is to develop a “marketing mind” (a marketing perspective and way of thinking). While learning and acquiring marketing knowledge and skills that have been cultivated in business, students develop abilities that can be applied to

授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代マーケティングの基本的な考え方・進め方について学んでいきます。より便利で魅力的な新製品の開発、ブランド力の強化、買いやすい価格の工夫、注目を引き記憶に残る広告、販売店の選択等、企業がライバル企業との激しい競争の中で、移ろいやすい顧客の心をひきつけ、満足してもらうためにどんな工夫を凝らしているのか、一緒に考えてみましょう。

This course focuses on the basic concepts and methods of modern marketing. Together, students think of ways

for companies in fierce competition with their rivals to attract and satisfy customers' fickle hearts, for instance, development of more convenient and attractive products, enhancement of brand power, pricing that makes it easy to buy, memorable advertising that attracts attention, store selection, and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マーケティングを学ぶにあたって
- 2回：マーケティングの目的は販売を不要にすること！－「作ったものをいかに売るか」と「売れるものをいかにつくるか」はどう違う？－
- 3回：利益獲得のカギは顧客満足にあり！－マーケティングの基本理念を理解しよう－
- 4回：満足した顧客はリピーターになってくれるか？－顧客満足と顧客ロイヤルティ－
- 5回：消費者需要の同質性と異質性を見極めろ！－マス・マーケティング v s .ターゲット・マーケティング－
- 6回：値段の安さで勝負するか、製品の特徴で勝負するか－価格競争 v s .非価格競争(製品差別化)－
- 7回：戦略を組み立てる①－企業戦略と事業戦略（成長マトリックス、ポートフォリオ分析、競争戦略等）－
- 8回：戦略を組み立てる②－どのような人に、どのようなものを、どのように提供するかを定める－
・STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）
・マーケティング・ミックス（マーケティング・ツールの組み合わせ方を決める）
- 9回：市場の発展段階を見極めろ！－製品ライフサイクルとマーケティング戦略①－
- 10回：市場の発展段階を見極めろ！－製品ライフサイクルとマーケティング戦略②－
- 11回：業界内の力関係を見極めろ！－市場競争地位とマーケティング戦略－
- 12回：消費者タイプの違いを見極めろ！－消費者の購買行動とマーケティング戦略－
- 13回：強いブランドを構築せよ！①－ブランドの意義と働き－
- 14回：強いブランドを構築せよ！②－ブランド構築のプロセス－

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

皆さんのまわりにはマーケティングを学ぶための「生きた教材」があふれています。次々と現れる新製品、百貨店やコンビニの店頭、テレビや雑誌の広告、ユニークなパッケージ、通販サイト・・・etc, そこにどのような仕掛けや工夫が凝らされているか、皆さん自身がどのようにして製品やブランド、店舗を選び、サービスを評価しているのか、身近な事例や体験を通して考えてみましょう。常に現実を目に向け、講義やテキストで学んだ知識と結びつけて考えてみることで、マーケティングをよりイキイキと学ぶことができるはずです。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内課題・リアクションペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

嶋 正・東 徹編著 『現代マーケティングの基礎知識 [改訂版]』 創成社 2017年 ○

参考文献 / Readings

外食産業論

Food Service Industry

フードサービス経営

(Food Service Management)

丹治 朋子 (TANJI TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA095
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	「対面 7回（オンライン 7回）」
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業では外食産業の歴史の変遷と現代の態様を学ぶことで、ホスピタリティ産業のひとつである外食産業の構造や特性について理解する。

In this course, through study of the historical changes and current state of the food service industry, students will come to understand the structure and characteristics of food service as part of the hospitality industry.

授業の内容 / Course Contents

外食（フードサービス）産業の歴史、市場の構成を概観した上で、外食産業の戦略的課題について学び、外食産業をとりまく社会について扱い、その経営上の対応状況を学ぶ。また、外食産業のその他の現代的課題や今後のあり方のほか、観光における「食」（フードツーリズム）についても扱う。

Students are introduced the history and market composition of the food service industry. Subsequently, the detailed current issues are given, including strategic issues related to food service, the society surrounding food service, and also food tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：外食をとりまく概念と市場の構成
- 2回：産業としてのフードサービス（オンライン授業）
- 3回：外食の歴史（1）
- 4回：外食の歴史（2）（オンライン授業）
- 5回：チェーンレストランの仕組み（オンライン授業）
- 6回：チェーンレストランの事例（オンライン授業）
- 7回：メニュー開発
- 8回：中食産業（オンライン授業）
- 9回：外食産業における環境問題（オンライン授業）
- 10回：外食産業の現代的課題（1）
- 11回：外食産業の現代的課題（2）
- 12回：外食産業の現代的課題（3）
- 13回：観光における「食」（オンライン授業）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

外食産業、中食産業や食に関する話題に日頃から関心を持ち、関連記事や専門雑誌などによる情報収集を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験：90%

平常点割合：10% コメントペーパー及び発言等：10%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

小倉朋子 メニュー開発論 創成社 2021 9784794470829

その他、授業時に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回のコメントペーパーの提出は Canvas LMS を用いる。7回は zoom にて授業を行う。したがって、両方を使える状況にしておくこと。

その他 / Others

- ・パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。
- ・この科目は半分オンライン（zoom、リアルタイム）にて実施する。日程の詳細は初回の授業にて告知するが、ゲストの都合等によりオンラインと対面の日程を変更することがある。その場合は授業内にて随時知らせる。

観光交通論（鉄道等）

Railway Business

渡邊 徹 (WATANABE TOHRU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各輸送機関（航空を除く）に関する基礎知識を身に付けるとともに、社会のさまざまな事柄を科学的にとらえ、判断するためのスキルを身に付ける。

The objectives of this course are to acquire: the fundamental knowledge of transport (except air transport); the skills for scientifically understanding and judgement of various social issues.

授業の内容 / Course Contents

航空以外の各輸送機関の特徴やトピックスなどについて、主にミクロ経済学の観点から可能な限り平易に講義する。

This course deals with the characteristics and topics of the transport from the view point of micro economics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：鉄道 (1)：鉄道事業の特徴と規制
- 3 回：鉄道 (2)：国鉄改革
- 4 回：鉄道 (3)：欧州の鉄道改革

- 5回：鉄道（4）：私鉄のビジネスモデル
 6回：道路・自動車（1）：自動車関係諸税
 7回：道路・自動車（2）：高速道路料金制度
 8回：道路・自動車（3）：道路公団民営化
 9回：道路・自動車（4）：高速バス
 10回：海運：クルーズ船（1）：世界のクルーズ市場
 11回：海運：クルーズ船（2）：我が国クルーズ市場の振興に向けて
 12回：前半の授業の復習
 13回：後半の授業の復習
 14回：授業の理解度の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の復習をするとともに、報道等で交通に関する情報を収集すること。また、授業で学んだことを応用し、社会のさまざまな事柄について自分なりの意見を考えてみることを。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業態度や授業中の発言などの向学心:20% 小テスト:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・参考文献に関心のある学生には個別に紹介する。
- ・学生と相談の上、授業計画等を変更することがある。
- ・講義形式で授業を行うが、適宜学生に発言を求める。
- ・他学部、他学科の学生も歓迎する。

観光交通論（国際航空）

International Airline Business

エアラインビジネス概論

松山 豊浩 (MATSUYAMA TOYOHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

エアライン(航空)は、急速にグローバル化が進む現代社会において、経済はもちろん私たちの生活や観光にとって必要不可欠な交通機関です。本講義では、航空機はどのようにして飛んでいるのか、マイルージの利点は何か、アライアンスの必要性は何かなど、エアラインビジネスの概要をさまざまな角度から多面的に学修します。また民間航空の発展や航空政策と規制緩和の経緯をとおして、その展開や歴史的な流れ、社会・経済への影響などを理解します。エアラインビジネスの特性や経営動向にも触れ、自分なりの見方・考え方で分析できるようになることを

The airline business is a transportation system that is essential to the advance of globalization in our modern society, economy, lifestyle, and tourism. In this course, you will study and come to understand the many facets of an outline of the airline bu

授業の内容 / Course Contents

本講義では、エアラインビジネス(航空業)におけるオペレーションの歴史や仕組み、航空政策、事業特性や戦略、業界動向、エアラインが置かれている社会環境や課題などについて、幅広く取り上げて分かりやすく説明

します。航空関連産業やツーリズム(観光)関連産業への就業を志望する学生の皆さんにとって、職業選択のみならず社会に出てからも役立つ内容です。毎回の講義では、当該講義用の教材資料(PPT/PDF等)や参考VTRなどを使用しながら客観的な説明を行います。

In this course, we will cover an outline and the history of the operation of the airline business, aviation policy, management characteristics, economic characteristics, management trends, and the societal environment and issues that surround airlines, in as broad of a scope as possible and in an easy-to-understand manner. The content will be useful for students who wish to pursue employment in aviation or tourism-related industries upon graduation. Lecture materials will be distributed in every class, and lectures will be conducted using PowerPoint. The explanations will be as objective as possible.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の目標と内容の確認、授業計画、評価方法、受講要領やルールに関する説明 など）
- 2回：エアラインの基本（航空機の基本知識、航空管制の概要、新しい航空交通管理の考え方について）
- 3回：エアラインの特性（エアラインビジネス全般の特性、経営・経済面の特徴、イベントリスクについて）
- 4回：エアラインの業務（乗員・CA・空港スタッフ・整備等のエアラインを支える各職種の役割について）
- 5回：民間航空の歴史（動力飛行機の発明から現在までの世界と日本の民間航空発展の歴史について）
- 6回：航空自由化の流れ（航空保護政策から世界的な航空政策の規制緩和への変革の流れについて）
- 7回：エアラインビジネスの概要Ⅰ ネットワーク（航空ネットワーク構築の重要性、ハブ&スポークの考え方と効果、乗り継ぎ需要 など）
- 8回：エアラインビジネスの概要Ⅱ アライアンス（グローバルアライアンス結成の背景と歴史、アライアンスの意義と効果 など）
- 9回：エアラインビジネスの概要Ⅲ マイレージ（顧客向けマイレージプログラム<FFP>の概要、ロイヤリティマーケティング など）
- 10回：エアラインビジネスの概要Ⅳ ブランド/プロダクト&サービス（エアラインのブランド向上と新規プロダクト開発の重要性 など）
- 11回：エアラインビジネスの概要Ⅴ CSとホスピタリティ（CS<顧客満足>・CX<顧客体験価値>、ホスピタリティの考え方 など）
- 12回：エアラインビジネスの概要Ⅵ LCC（LCC<ローコストキャリア>の登場と発展、新たなビジネスモデルの仕組みと特徴 など）
- 13回：航空とツーリズム（航空がツーリズムや観光活性化に果たす役割、「観光立国」とインバウンドへの貢献について）
- 14回：レビュー（航空業界の最近の動向、エアラインビジネスの将来 など）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】各回の授業テーマを意識し、関心がある航空関連の記事・ニュース・TOPIC等について事前に調べ、自身の考えやコメントをノートにまとめておくこと。

【復習】各回の授業受講後に自身でレビューと確認を行い、教材資料や説明等をもとに授業内容と新たに得ら

れた知識についてノートにまとめ、理解を深めること。

【その他】上記の予習・復習の実践とともに、講義期間をとおして、日常から「航空」そのものや「航空とツーリズム(観光)」に関する様々な話題や社会的な課題に興味を持ち、自ら積極的に見聞を広げるよう心掛けてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパーもしくは小テスト:20% 授業参画状況:20%

・出欠席確認および理解度確認のため、各回授業においてリアクションペーパーの提出もしくは小テストを行い、平常点に反映します。

・全授業回の2/3(10回)以上の出席(確認済)を前提とし、授業参画状況に反映します。

テキスト/ Textbooks

各回の授業に関する教材資料・参考 VTR 等は授業時に投影・視聴し、適宜学修支援システムに掲載します。

参考文献 / Readings

(株)ANA 総合研究所 『航空産業入門 (第2版)』 東洋経済新報社 2017 9784492762356

(株)ANA 総合研究所 『エアラインオペレーション入門 (改訂新版)』 イカロス出版 2022

9784802211437

その他、必要に応じ授業において紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

航空全般に対する高い興味・関心、社会経済全体を幅広く理解する力、職業選択に役立てる力 ほか

その他/ Others

・授業時以外の教員との連絡や質問については、学修支援システム・メール等にて行うこととします。また、受講学生への連絡や周知事項については、適宜学修支援システムの機能・メール等を利用して行います。

・シラバス内容はあくまでも予定であり、授業の進捗や到達目標の状況等により変更する場合があります。

エコツーリズム論

Ecotourism

自然と文化を守り、地域を活かす観光のあり方を考える

海津 ゆりえ (KAIZU YURIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀後半に生まれ、持続可能な観光（Sustainable Tourism）が生まれる基盤となったエコツーリズム。この授業では、エコツーリズムについて理解するとともに、実践地域の実例に触れることにより、これからの観光のあり方について学生自身が考えをもつことができるようになることを目標とする。

Ecotourism was born in the latter half of the 20th century and became the foundation for the creation of sustainable tourism. In this class, we aim to help students understand ecotourism and to have them think about the future of tourism by experiencing a

授業の内容 / Course Contents

本講義は主として次の3つの視点からエコツーリズムについて理解する。

- 1) エコツーリズム誕生の背景、定義、世界における展開
- 2) 日本におけるエコツーリズムの実践事例
- 3) エコツーリズムが照射する今日の観光の課題

講義は、講師による講義のほか、DVD を用いた海外事例の研究、ゲストスピーカーによる実践事例の講義など

を取り入れて進める。

This lecture will mainly focus on understanding ecotourism from the following three perspectives

- 1) Background of the birth of ecotourism, its definition, and its development in the world
- 2) Practical examples of ecotourism in Japan
- (3) Issues of today's tourism illuminated by ecotourism

Lectures will include lectures by lecturers, study of overseas case studies using DVDs, and lectures on practical examples by guest speakers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（講義のアウトライン、進め方、評価方法）
- 2回：エコツーリズムはなぜ生まれたのか
- 3回：世界のエコツーリズム先進地域
- 4回：エコツーリズム、日本上陸！
- 5回：日本におけるエコツーリズム発展史と3つの島々
- 6回：エコツーリズム推進法と推進地域
- 7回：宝探しのススメ
- 8回：実践事例地域（1）里山・里海のエコツーリズム
- 9回：実践事例地域（2）世界遺産地域のエコツーリズム
- 10回：実践事例地域（3）地域づくりとエコツーリズム
- 11回：保全と利用の両立をめぐる課題—ルール、環境容量、環境協力金、認証制度
- 12回：ガイドをめぐる課題—望ましいガイドとは、人材育成制度
- 13回：持続可能な観光とエコツーリズム
- 14回：エコツーリズムと未来の観光—総括にかえて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各授業について、事前に配布される資料の読み込み、その日の授業の復習などを各自で行ってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間テスト:40% コメントペーパー:10% 授業における積極性:10% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石森・真板・海津 エコツーリズムを学ぶ人のために 世界思想社 2011

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

地域づくりや地域資源の保全と活用などに関心を有すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は Canvas LMS で事前に配布し、コメントは Google Form で回収します。PC やタブレットなど、授

業資料にアクセスできる手段を準備することが望ましいです。

都市観光論

Urban Tourism

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目は都市への理解を深めた上で、大都市における観光について解釈かつ評価を行い、都市再建と再開発における観光の重要性を検討する。

In this course, you will deepen your understanding of cities, understand and evaluate tourism in large cities, and investigate the importance of tourism in urban rebuilding and redevelopment.

授業の内容 / Course Contents

観光は都市にとって極めて重要な輸出産業であり、その多くの業務は恒久的である。大都市は最も重要な観光地として認識され、観光産業も既に多くの都市で重要な役割を果たしている。首都や歴史都市のみならず、産業都市などの大都市でもつい最近になって観光の重要性が認知されている。毎回、リアクションペーパーを課す。

Tourism is an extremely important export for large cities, and many of the businesses involved are permanent. Large cities are acknowledged to be the most important locations for tourism, and the tourism industry already plays an important role in many cities. Recently, not only capital and historical cities, but industrial and other large cities have acknowledged the importance of tourism. A reaction paper will be assigned for every class.

観光政策・行政論

Policy and Administration in Tourism

観光政策を広義に捉える

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA118
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光行政は観光庁のみによるのではない。国と地方の関係性や行政の多部署による関わり、民間事業者等との役割分担、過去からの歴史的展開、政策の国際比較という視点を通じて、行政が観光に関わる意義や役割を理解することが重要である。そこで、行政による観光への介入を次の6つの視点から論じ、観光政策に関する本質的な理解を目指す。(1) 政策一般と観光政策の対比、(2) 国と地方自治体の対比、(3) 観光専門の行政と周辺領域行政、(4) 行政と民間事業者、住民、観光客、(5) 過去—現在—未来、(6) 社会状況と観光政策の関

Tourism policies are not proceeded only by tourism departments (such as Japan Tourism Agency) but also by other related departments. It is important to understand tourism policies from the following view points;
(1) Comparison between general policies and

授業の内容 / Course Contents

講義は大きく分けて3つのパートから構成される。第1に、現在の観光に関する政策を理解することである。国と地方の双方の視点から論じる。第2に、歴史を遡るパートである。現在の観光に関する政策に至る背景を歴史から論じ、行政による観光への介入の意味を理解する。第3に、過去及び現在の政策展開を踏まえた上

で、これからの観光に関わる政策に求められる視点を論じる。

The lectures will consist of the three topics: ① understanding the characteristics of current tourism policies from the viewpoint of the national and local governments, ② historical understanding of tourism policies, and ③ on the basis of ① and ②, we will discuss new topics of tourism policies in the future, such as the SDGs of tourism and tourism resilience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：政策とは何か
- 2回：観光行動からみる観光を巡る主体と行政
- 3回：[観光政策の今]観光庁を中心とした国の観光政策の視点
- 4回：[観光政策の今]観光に関わる多様な省庁の政策
- 5回：[観光政策の今]観光に関わる多様な省庁の政策
- 6回：[観光政策の今]地方自治体の置かれた状況と観光
- 7回：[観光政策の今]地方での観光に関する政策の展開
- 8回：[歴史を遡る]戦前の社会と観光に関する政策の視点
- 9回：[歴史を遡る]戦後の社会と観光に関する政策の視点①
- 10回：[歴史を遡る]戦後の社会と観光に関する政策の視点②
- 11回：[歴史を遡る]平成時代の社会と観光に関する政策の視点
- 12回：[歴史を遡る]観光政策史から見る社会と観光に関する政策の特徴
- 13回：[これから]地域の持続可能性・総合政策としての観光に関する政策
- 14回：まとめ：観光振興に求められる行政の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日常から国や地方自治体、民間事業者による観光に関するニュースに触れる習慣を付けておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:10% 授業内ディスカッション (slack 利用) :20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

阿部大輔 ポスト・オーバーツーリズム 学芸出版社 2020 9784761527600

国際観光政策論

International Tourism Policy

世界の観光先進国の観光政策を概観し、今後将来的な日本の観光政策を考える

石本 東生 (ISHIMOTO TOHSEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA119
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS2000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

- ・ UNWTO の観光政策、および EU の観光立国におけるインバウンド観光政策の特徴を説明できる。
- ・ 19 世紀半ばに欧州で始まったマス・ツーリズムとその時代背景について、その概要を説明できる。
- ・ 観光先進国の NTO や DMO の役割の概要について述べるができる。
- ・ You can explain the characteristics of UNWTO's tourism policy and also the inbound tourism strategies of the tourism-developed countries in EU.
- ・ You can explain the outline of mass tourism that started in Europe in the middle of the 19th century and its

授業の内容 / Course Contents

「国際観光」と言えば、海外より日本に観光客を迎え入れるインバウンド・ツーリズムと、日本人観光客が海外旅行に向かうアウトバウンド・ツーリズムという 2 つのタイプがある。世界の国々においては、これら国際観光政策のあり方も様々である。例えば、インバウンド政策に関しても、ビザの発給、各国政府観光局（NTO）の方針、DMO の役割、観光地域づくりの方向性など、テーマは実に多岐にわたる。

本授業においては、まず UNWTO（国連世界観光機関）が提唱する国際観光の在り方について学び、次に、

19世紀半ばに欧州で始まるマス・

Speaking of "international tourism," there are two types: inbound tourism, which welcomes tourists from overseas to Japan, and outbound tourism, in which Japanese tourists head for overseas travel. In the countries of the world, these international tourism policies are extremely various. For example, regarding inbound policies, there are a wide variety of themes such as visa issuance, policies of national tourism organizations (NTOs), the role of DMOs, and the direction of tourism area development.

In this class, we will first learn about the ideal form of international tourism advocated by UNWTO (United Nations World Tourism Organization), and then the world tourism from the background of mass tourism and its era, which began in Europe in the middle of the 19th century, an overview of the flow from then to the present.

Next, we will study mainly the inbound tourism-oriented countries and tourism area development policies in the EU, where tourism advanced countries are concentrated, and compare them with Japan's tourism policies.

In addition, we will deepen understanding while learning the success stories of each country on how tourism administration and the tourism industry should cooperate or divide roles in order to improve the tourism power of the country.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義計画概要の解説 - 観光政策とは何か。
- 2回：UNWTO（国連世界観光機関）の役目と、世界に提唱する観光の在り方
- 3回：UNWTO が提供する観光統計データおよび観光資料の見方と利用法
- 4回：19世紀半ば、英国における「産業革命」と「余暇」の発生。およびトーマスクックによる旅行産業の創出。
- 5回：第2次世界大戦の終結と国際観光のはじまり。欧州共同体（EC）そして欧州連合（EU）の創設と、欧州各国の観光振興
- 6回：EUにおける TOURISM INDUSTRIES の重要性と、条件不利地域の経済振興の牽引役となる観光セクター、NTO/DMO の働き
- 7回：フランスと英国における観光振興の特徴：共通点と相違点
- 8回：ドイツとオーストリアにおける観光振興の特徴：共通点と相違点
- 9回：イタリアとスペインにおける観光振興の特徴：共通点と相違点
- 10回：ギリシャ・エーゲ海地域における観光振興の特徴：文化資源の観光利活用
- 11回：日本国内におけるグリーンツーリズム振興とインバウンド
- 12回：欧州におけるアグリ・ルーラルツーリズム振興と、EUによる農山村観光振興策
- 13回：歴史的町並み保全とその観光資源化、および観光ビジネスの展開（その1：「南欧地域」を事例に）
- 14回：歴史的町並み保全とその観光資源化、および観光ビジネスの展開（その2：「京都」のインバウンド観光を事例に）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

UNWTO の公式ホームページ（英語版・日本語版）、EUにおける観光立国（フランス、スペイン、ドイツ、イ

タリア、ギリシャなど)の政府観光局(NTO)、およびETC(European Travel Commission)による公式ホームページを閲覧し、世界のツーリズムの最前線や、目指すべき方向性を確認しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :65%

平常点割合 :35% 中間課題:35% 最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

テキスト/ Textbooks

基本的に、担当教員が準備する資料・レジュメを使用する。

参考文献 / Readings

高橋一夫 DMO 観光地経営のイノベーション 学芸出版社 2017 97847615264670036

宮崎裕二他編著 DMOのプレイス・ブランディング 学芸出版社 2020 9787615274400036

阿部大輔、石本東生他 ポスト・オーバーツーリズム：限界を再生する観光戦略 学芸出版社 2020
9784761527600

その他/ Others

各回授業後の感想・コメントの提出、授業用レジュメ(PDFファイル)の配布、および授業に関する連絡・周知等については、基本的に Google Class Room を使用する。

消費論

Theories of Consumption

消費者が受ける影響と購買行動

齋藤 明 (SAITO AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA200

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

私たちの消費のメカニズムについて、その基本的な理論や枠組みを習得することを目標としている。

The goal is to master the basic theories and frameworks of the mechanisms of our consumption, especially from the point of view of consumer behaviour and consumer psychology.

授業の内容 / Course Contents

授業内容は、（社会）心理学および社会学を中心とした理論的視点から消費者行動がどのようになっているか、講義を進めていく。その際には、マーケティング論やブランド論など、本講義と隣接する科目との関係にふれる事でバランスのとれた内容とする予定である。

The content of the course will be based on theoretical perspectives from (social) psychology and sociology to understand consumer behavior. In doing so, we plan to balance the content of the lecture by touching on the relationship between this lecture and adjacent subjects such as marketing theory and brand theory.

At the request of students, we will also invite business people who are involved in consumer behavior theory as

guest speakers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、消費者行動研究におけるアプローチ
- 2回：消費者が受ける影響要因、消費者の個人特性
- 3回：消費者の関与
- 4回：消費者の問題認識、欲求、動機
- 5回：消費者の情報探索
- 6回：消費者の知識と記憶
- 7回：消費者の知覚
- 8回：消費者の態度
- 9回：クチコミ（ネット上を含め）の影響
- 10回：消費者が他者や集団の影響（1）
- 11回：消費者が他者や集団の影響（2）
- 12回：ゲスト・スピーカーによる、ビジネスで実践される消費者行動研究（1）
- 13回：ゲスト・スピーカーによる、ビジネスで実践される消費者行動研究（2）
- 14回：ゲスト・スピーカーによる、ビジネスで実践される消費者行動研究（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考図書、課題図書については、適宜紹介します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 受講後課題:10%

テキスト / Textbooks

使用する教材については全て、講義前に Canvas LMS 上で配布する。

参考文献 / Readings

田中洋 『消費者行動論体系』 中央経済社 2008 4502662305

青木幸弘ほか 『消費者行動論—マーケティングとブランド』 有斐閣アルマ 2012 4641124639

平久保仲人 『消費者行動論』 ダイヤモンド社 2005 4478502544

その他 / Others

実務家のゲストスピーカーを招聘予定である。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光心理学

Tourist psychology

中村 哲 (NAKAMURA TETSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA201
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） 4月15日（月）より配信します。月曜日の授業日程に準じて進めていきます。
校地： 新座
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目／
2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

授業の目標 / Course Objectives

本講義の到達目標は、受講者の皆さんが、旅行前、旅行中、旅行後の人々が行う諸々の心理や行動について、理論的かつ具体的に説明できるようになることです。

The aim of this course is to enable students to explain, theoretically and concretely, the various psychological processes and behaviours of tourists before, during and after a trip.

授業の内容 / Course Contents

旅行の一連のプロセスに沿って順番に説明します。旅行前については（モチベーション→情報探索→イメージ→選択肢の評価）の過程を詳しく展開します。その上で、旅行中の心理状態、旅行後の経験評価の概要を取りあげます。最後に、旅行をしない理由（阻害要因）を見ていきます。このほか、最新の研究トピックも紹介します。

授業期間内に Web アンケート等を用いて学生の参加を促します。

This course will present an array of themes and issues related to tourist behaviours before, during, and after travel. Motivation for travel, information search, destination image formation, reducing and evaluation of choice

sets, mental state during travel, and reflection on experiences after travel. In the last, constraints for travel are explained. In addition to these themes, the latest research topics will be introduced.

Moreover, Internet surveys related to the themes of this course will be conducted to facilitate students' understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：講義方針の説明／観光行動のプロセスに関するモデル

はじめに講義の進め方についてご説明します。

続いて、観光者行動の一連のプロセスのモデルとして、Crompton(1977)、

van Raaij (1986)、Mansfeld(1992)、Mayo and Jarvis (1981)を取り上げて説明します。

2 回：モチベーション

動機、モチベーションに関する基礎的なことを講義します。その上で、モチベーションに関する概念や類型として、プッシュ要因とプル要因、内発的動機と外発的動機、動因低減説、最適覚醒理論について、観光に関する事例を取り入れながら整理します。さらに、観光研究における Push 要因の分類に関する研究として、Gray(1970)、Iso-Ahola(1982)、Fodness(1994)、林・藤原(2008)を検討します。

3 回：モチベーション

観光研究における Pull 要因の分類に関する研究事例を紹介します。続いて、観光者のモチベーションに関して、Plog(1972)のサイコグラフィックの研究（アロセントリック・サイコセントリック）とそれに対する批判の研究を見ていきます。

4 回：モチベーション

Plog(1972)のサイコグラフィックの研究（アロセントリック・サイコセントリック）に関して、後に続いた研究を紹介します。もう1つ、観光者のモチベーションに関する有名な研究として、Pearce(1983)によるTCL(Travel Career Ladder)、Pearce & Lee(2005)によるTCP(Travel Career Pattern)を検討します。

5 回：モチベーション／情報探索

モチベーションに関する最新の研究事例として、P2P(peer-to-peer) Accommodation の利用のモチベーション、リベンジトラベルのモチベーション、に関する研究を紹介します。

情報探索の実態について、データを元に把握します。その上で、観光者がなぜ旅行前に情報探索をするのか検討します。さらに、情報探索の基本的な概念として、内部情報探索、外部情報探索、购买前探索、進行的探索を確認します。

6 回：情報探索

情報探索の多い・少ないに影響する要因は数多く指摘されていますが、その中でも、問題認識、関与、事前知識、知覚リスクを取り上げて検討します。

7 回：情報探索

クチコミに関して、定義と類型を確認した上で、クチコミの発生する条件、eWOM(electronic word of mouth)の特性を検討します。さらに、ソーシャル・メディア時代の情報探索について、電通(2004)によるAISASとその後の展開を踏まえて考えます。

8 回：イメージ形成プロセス

イメージについて定義します。続いて、Boulding(1956)、前田(1995)の記述を援用してその特徴を説明した上で、観光におけるイメージの役割を考えます。さらに、イメージの類型について、Gunn(1972)による組織イメージと誘導イメージ、Echtner & Ritche(1993)によるイメージの3次元の研究を紹介します。

9 回：イメージ形成プロセス

イメージ形成プロセスのモデルについて、Fakeye & Crompton(1991)、Beerli & Martin(2004)を用いて説明し

ます。観光におけるイメージに対する研究者の見解として、前田(1995)と Gartner(2000) をもとに整理します。さらに、風評被害について考えます。

10 回：イメージ形成プロセス／選択肢の縮減過程

観光者のイメージ形成プロセスに関する比較的新しい研究事例を紹介します。

観光者が来訪先の選択肢を縮減するプロセスについて検討します。消費者行動研究で使われているモデル（入手可能集合、知名集合、考慮集合、選択集合、選択）を確認した上で、研究事例として Woodside & Lysonski(1989)、Decrop(2010)を紹介します。

11 回：旅行中の心理

観光地現地での心理や行動の特徴について、前田(1995)による緊張感と解放感の枠組みをもとに確認します。続いて、旅行中の感情の変化について、感情曲線を用いた分析、Nawijn(2010)の研究を紹介します。さらに、観光者の現地での購買行動に関して検討します。

12 回：旅行後の経験評価

満足・不満足の原因に関して、期待—不一致モデル、衡平モデル、帰属モデル、認知的不協和、二要因理論の5つの枠組みを用いて検討します。また、旅行後にブログや SNS に経験を書き込むモチベーションに関する研究を紹介します。

13 回：旅行後の経験評価／旅行の阻害要因とその低減

一度訪れた旅行先を再び訪れるリピーターが発生する要因、またその類型に関する研究を紹介します。

旅行の阻害要因について、Crawford & Godbey(1987)による個人内・対人的・構造的の3つの阻害要因の区分を援用した研究をみていきます。続いて、日本人（特に若者）の海外旅行の阻害要因は何かを考えます。さらに、阻害要因の知覚を低減するにはどうすれば良いのかについて、Bandura(1977)の自己効力感を援用して検討します。

14 回：日本人若者の海外旅行／計画的行動理論

日本人の若者の海外旅行動向について説明し、日本における 2010 年前後の「若者の海外旅行離れ」をめぐる一連の動きを振り返ります。

コロナ禍のあとの旅行の復活について、Ajzen(1991)による計画的行動理論を援用した研究が多く見られました。この理論を確認した上で、研究事例を見ていきます。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間後に、確認小テストを受験していただきます。そのための復習を必ずしてください。

参考文献 1『「若者の海外旅行離れ」を読み解く』、参考文献 2『観光行動論』を入手し、講義進行に対応する部分を読み進めておくことで、授業の理解が容易になります。また、授業の設定レベルを超えた応用的な学習もできます。このほか、講義資料に記載する出所の文献や論文に直接あたってみることで、より専門的な理解が深まります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :61%

平常点割合 :39% 授業後に実施する小テスト（第2回から第14回）:39%

小テストは解答期限があります。期限内に解答したものを有効とします。

テキスト/ Textbooks

講義資料(pdf)を Canvas を通して配付します。詳細は下記【**学生が準備すべき機器等**】をご参照ください。

参考文献 / Readings

中村哲・西村幸子・高井典子 「若者の海外旅行離れ」を読み解く 法律文化社 2014 9784589036360

橋本俊哉(編) 観光行動論(観光学全集第4巻) 原書房 2013 9784562091911

前田勇 第2版 観光とサービスの心理学 学文社 2015 9784762025068

松井剛・西川英彦(編著) 1からの消費者行動 碩学舎 2016 9784502161513

Kozak, M. & Decrop, A. Handbook of Tourist Behavior Routledge 2009 9780415993609

上記のほか、詳細は講義資料に記載します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

先修科目は特にありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本講義は全回オンデマンド授業となります。

Canvas を使用して運営しますので、PC を使用できる環境が必要となります。

講義資料の PDF ファイルを提供します。穴埋め式プリントにつき、お手数ですが各自で印刷をお願いすることになります。ご了承の上で履修登録をしてください。開講時に資料のファイルを一括して公開します(ただし状況次第で追加資料を出すことがあります)。

その他/ Others

各週の授業は以下のスケジュールで進行させます。月曜日の授業日程を基準に運営します。

- ・ 講義動画配信開始：月曜日 08:30 (70分~90分を目安とした内容です)
- ・ 小テスト受験開始：月曜日 10:15 (解答時間は10分間を目安とします。受験は1回のみ)
- ・ 小テスト提出締切：金曜日 19:00 (以後提出はできません)

注意事項 (検索結果画面)

人数制限科目 (300名)

2019年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目 / 2020年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

農村観光論

Rural Tourism

津々見 崇 (TSUTSUMI TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA202
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS3300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目／ 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

授業の目標 / Course Objectives

農山漁村の環境・景観や生活文化などを資源とする農村観光（rural tourism）について、概念や社会的意義、実際の取り組み内容・事業形態、関連する制度や歴史的経緯について理解し、今後の農村観光経営・農村観光地域計画に向けた課題や解決策を考察できる基礎的な知識を習得する。

This lecture provides the basic knowledges about the rural tourism which utilizes local resources on environment and landscape, and living culture in the rural area and explains its concept and social significance, concrete examples and their business sch

授業の内容 / Course Contents

農村観光は農村振興と連動して考えられるケースが多く、ツーリストにとっての意義と同様に農村地域にとっての意義について理解を深める必要がある。本講義ではこれら両者の視点を踏まえつつ、これからの農村観光をプランニングするための基礎知識を解説するとともに、農村観光にまつわる近年の新たな動きについても触れ、今後の農村観光を展望する。新たな動きについてはゲストスピーカーを招へいして、具体的に解説してもらう予定である。

The rural tourism tends to be considered accompanied with the rural development, so it needs to understand its significance for the area as well as for the tourists. From these both points of view, this lecture explains the basic knowledges to plan and organize rural tourism and mentions the newest examples in order to think about its future. Some guest speakers will be invited to the lecture to specifically expound newest rural tourism practices.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、農村観光の概念
- 2回：農村観光の楽しみ
- 3回：農村観光の発展史
- 4回：農村観光の取組みメニュー(1)
- 5回：農村観光の取組みメニュー(2)
- 6回：農村観光の取組みメニュー(3)
- 7回：諸外国における農村観光
- 8回：食料・農業・農村の現状と課題
- 9回：農村観光を支える法制度や政策
- 10回：農村観光を担う人や組織
- 11回：農村観光の立地
- 12回：農村観光とインバウンド・ツーリズム
- 13回：農村観光とフード・ツーリズム
- 14回：これからの農村観光

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

前半は数回ごとに小テストを実施するので、レジюмеを元に復習を行い、知識の定着を図ること。

後半は期末レポートに向けた準備（調査等）を指示するので、講義内容を踏まえながら実例に触れ、考察を積み重ねること。なお、期末レポートの前段階としての小レポート課題を予定している。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー（毎回）:20% 小テスト（複数回）:30% 小レポート:10%

最終レポート割合 :40%

発表や討議等を取り入れる場合があり、積極的な参加には加点する。

テキスト / Textbooks

テキストは用いず、各講義においてレジюме・資料を配布する。

参考文献 / Readings

千賀裕太郎ほか グリーンライフ 実教出版 2019 9784407204292

その他、講義の中で随時紹介する。

その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

リアクションペーパー、小テストについては、次回授業等でフィードバックを行う。

ゲストスピーカーを招へいする予定であり、日程調整の結果により授業計画に多少変更が生じる場合があるが、その場合は初回ガイダンスの際に説明を行う。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以前 観光学部入学者 交流文化学科選択科目／2020年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

ヘリテージと観光

Heritage and Tourism

李 崗 (LI GANG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA300

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

履修者は、本授業を通して、

- ①ヘリテージの概念、世界遺産制度の概要や歴史の変遷を学ぶ。
- ②日本国内外にある多様なヘリテージについて学習することで、ヘリテージの多様性や多義性、およびヘリテージと観光の関連性を多面的に理解する。
- ③現代社会においてヘリテージをめぐる諸事象について分析することができる。

Through this course, students will be able to

1. Learn about the concept of heritage and the World Heritage system.
2. Understand the relationship between heritage and tourism from multiple perspectives by learning various examples.
3. Analyse current iss

授業の内容 / Course Contents

世界遺産に代表されるヘリテージは、自然や歴史、文化を学ぶ観光資源としてますます注目されるようになり、その保存・保護は世界各地で進められている。だが、ヘリテージの概念や内容、保存・保護に関する取り

組みは必ずしも世界共通ではなく、各国・地域の歴史的・社会文化的文脈に大きく依存している。

本授業では、世界遺産に限定されない多様なヘリテージを俯瞰し、日本国内外のヘリテージツーリズムの事例について学習する。現代社会を生きる我々にとって、ヘリテージはいかなる意味をもつか、ヘリテージをめぐる思考と実践は地域社会にど

Heritage, as represented by the World Heritage sites, has been attracting more and more attention as a tourism resource for learning about nature, history, and culture, and its preservation and protection is being promoted in many parts of the world. However, the concept and content of heritage, as well as practices related to the preservation and protection of heritage vary from one country to another, influenced by the historical and socio-cultural background of each country.

In this course, we will focus on various types of heritage, not limited to the World Heritage sites, and take up examples of heritage tourism both in Japan and abroad to further understand the relationship between heritage and tourism. The significance of heritage for contemporary society will also be discussed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：ヘリテージとは
- 2 回：観光資源としてのヘリテージ
- 3 回：世界遺産制度と観光
- 4 回：ヘリテージと地域社会①日本の事例
- 5 回：ヘリテージと地域社会②英国の事例
- 6 回：ヘリテージと地域社会③中国の事例
- 7 回：産業遺産①イギリスの事例
- 8 回：産業遺産②日本の事例（映像視聴）
- 9 回：ディスカッション：産業遺産
- 10 回：食のヘリテージ化①欧州の事例
- 11 回：食のヘリテージ化②中国の事例
- 12 回：国民服とヘリテージ
- 13 回：負の遺産とダークツーリズム
- 14 回：革命の遺産とレッドツーリズム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容への理解を深めるため、授業中に関連参考文献や新聞記事、ウェブサイトなどを紹介するので、授業後に読んでおくこと（一部英文資料あり）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み態度:20% 課題の提出状況:30%

テキスト / Textbooks

特に指定なし。随時、紹介・配布いたします。

参考文献 / Readings

木村至聖（編集），森久聡（編集） 社会学で読み解く文化遺産ー新しい研究の視点とフィールド 新曜社 2020
ロドニー・ハリソン（著），木村至聖（翻訳），田中英資（翻訳），平井健文（翻訳），&1 その他 文化遺産といかに向き合うのか：「対話的モデル」から考える持続可能な未来 ミネルヴァ書房 2023

小川 伸彦（著），脇田 健一（著），アンリ・ピエール ジュディ（著），山 泰幸（著），&3 その他 文化遺産の社会学ールーヴル美術館から原爆ドームまで 新曜社 2002

随時、紹介・配布いたします。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

レジャー論

Leisure Studies

レジャーの多様性と価値、また古典的および現代的な意義を考える

小澤 考人 (OZAWA TAKATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA301

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

レジャーの多様性と価値、また文明社会および現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。

The goal of this course is to understand how the concept of leisure has changed throughout human history, and to learn about its important characteristics in the contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

文明社会をつうじたレジャー概念の変化を理解したうえで、現代社会におけるレジャーの価値と多様性について、産業・空間・イベント・生活などの観点から学ぶ。

Lectures will be held on historical shifts of the concept of leisure and important aspects of contemporary leisure such as leisure industry, leisure-space, leisure-event, and lifecycle.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス：授業の目標や学習の到達目標、成績評価の基準など

序論：観光・ツーリズムと魅力的な社会

レジャーと価値観・世界観の多様性、自文化と異文化の出会い、「旅のすすめ」

2回：古代ギリシャと古代ローマのレジャー思想

地中海世界と都市国家、レジャー思想とスコレー (scholē)、パンとサーカス

3回：レジャーを支える思想と制度：中世ヨーロッパの場合

キリスト教と教会制度、レジャー思想としての観想、暦の中の祝祭日

4回：レジャーを支える思想と制度：近代化の局面のレジャー・レクリエーション

宗教改革(プロテスタント)と資本主義の精神、レクリエーション思想の誕生

5回：レジャーを支える思想と制度：近代産業社会のレジャー・レクリエーション

産業革命と工業化・都市化、合理的娯楽 (recreation) 運動、近代的レジャーの誕生

6回：パークス&レクリエーションの発想：アメリカのレクリエーション運動と実践

国立公園・自然公園の施策、プレイグラウンド/レクリエーション運動の活性化

7回：現代社会とレジャー産業、資本主義システムの現代的転回 (=情報化・消費化社会)

レジャーへのニーズ (欲望) とサービス&ホスピタリティ産業の発展

8回：前半のまとめと質疑応答、中間課題

9回：現代社会とレジャー、余暇社会論の誕生とレジャー・スタディーズの展開

レジャーとライフサイクル/ジェンダー、ワークライフバランス、レジャーと格差

10回：現代社会とレジャー・イベント、「魅力的な空間」の創造、イベントの活用と地域活性化、イベントの活用と都市再生、創造都市 (クリエイティブシティ) の実践

11回：イベントの活用と経済効果、イベントとは何か、経済効果の考え方、イベントの活用から都市再生へ

12回：メガイベントと都市再生、オリンピックとそのレガシー、2012年ロンドン大会と2020年東京大会の事例、観光・ツーリズム面のレガシー

13回：後半のまとめと質疑応答、期末課題に関する解説

14回：期末課題 (授業時間帯)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業レポートをつうじて、授業内容の把握と定着を図ること。また、授業の前半シリーズは中間課題、後半シリーズは期末課題において、あらためて内容の把握と定着を確かめる機会があることから、前半・後半それぞれ中間・期末課題に向けて理解を徹底するよう努めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の授業レポート:50% 中間課題:20% 期末課題:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

渡辺潤編 レジャー・スタディーズ 世界思想社 2015 9784790716624

安村克己ほか編著 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

岡本伸之編 観光学入門 有斐閣 2001 9784641121300

前田勇編著 新現代観光総論（第3版） 学文社 2019 9784762029172

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

情報処理演習

Information Processing Seminar

Excel で統計の基礎を学ぶ

永井 恵一 (NAGAI KEIICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA302
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS1000
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

エクセルや統計処理ソフトの操作方法と、統計データに基づく各種分析について習得する。基本統計量や相関係数などを用いた統計分析ができる力を養う。

The purposes of this course are to learn how to deal with statistical software and to understand quantitative data analysis, correlation coefficient, etc.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、統計データを活用し、それらの情報をエクセルなどの表計算ソフトにより加工し、図表作成や統計処理（基本統計量、相関係数など）を行える技能を習得するとともに、分析結果をまとめてレポートを作成する。また、授業中に統計学の基礎的な解説も行う。

This course teaches how to use Excel or other statistical software to process data and to use them for writing quantitative data reports. It also teaches the basics of statistics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：統計データを読み解く作法
 3回：統計データの活用①：データベースの作成
 4回：統計データの活用②：データの操作、各種関数の使い方
 5回：統計データの活用③：基本統計量の算出、グラフ表現
 6回：統計処理①：相関関係、回帰直線
 7回：統計処理②：度数分布表・ヒストグラムの作成
 8回：統計処理③：いろいろな確率分布
 9回：演習問題に取り組もう①
 10回：仮説の検定①：統計分析により特徴を見つける
 11回：仮説の検定②：分散分析とは
 12回：演習問題に取り組もう②
 13回：統計分析の流れとまとめ方
 14回：プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で学習した内容を復習すること。また、課題を課すことがあるので次回授業までに取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題（複数回）：60% プレゼンテーション：10% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

石村貞夫・劉晨・石村友二郎 Excelでやさしく学ぶ統計解析 2019 東京図書 2019 9784489023170 ○

参考文献 / Readings

石村友二郎・加藤千恵子・劉晨・石村貞夫 Excelでやさしく学ぶアンケート調査の統計処理 2019 東京図書 2019 9784489023286

授業内で指示する

その他 / Others

PCを用いて解説と演習を行う。初心者でも構わないが、基本的なPCやExcelの操作はできることが望ましい。コンピューター室で授業を行うため人数制限（45人）を課す。

Microsoft Excelだけでなく、Word（レポート作成）、PowerPoint（プレゼンテーション）をあわせて使用するので、可能であれば各自のPCにインストールしておくことを推奨する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象/人数制限科目（45名）

地域経営論

Regional Management

自然・社会とともにこれからの地域を考える

Thinking about the future of the region together with nature and society.

山本 真紗子 (YAMAMOTO MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標を以下の2つ設定します。

- (1)現在の「地域経営」を読み解くいくつかの要点を学び、深く考え、自分自身の意見を持つこと。
- (2)これからの「地域経営」について自ら主体的に考え、行動する能力を養うこと。

The following two objectives are set for this class.

- (1)To learn some key points to think deeply about current 'local management' and to have your own opinion
- (2)To develop the ability to think and act independently on their own about the future of 'local

授業の内容 / Course Contents

「地域経営」は時代や場所によってあり方が異なる動的な内容であり、また全ての人々の生活に深く根ざしています。そのテーマ性から感染症の後には多くの議論が起りましたが、本授業ではその最中に発表された参考図書「新しい都市の形ー世界が変わるために」(2021)(オンラインでフリーダウンロード可)を使用しながら

ら、これからの地域経営について考えます。知識の習得のみに留まらず、受講者の皆さんが自らの意見を持つるように、発言や意見交換の場を設けます。

Local management' has a dynamic content that changes with time and place, and is also deeply anchored in the lives of all people. Its theme has generated a lot of controversy after the infection. In this class we will consider future local management, using the reference book 'The Shape of New Cities - For a Changing World' (2021), which was published during the infection epidemic. The course aims not only to get knowledge, but also provide an opportunity for participants to speak up and exchange views so that they can have their own opinions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション/エコロジカル・デモクラシーという考え方について

Introduction

2回：自然と社会とともに地域を考える(1)

Thinking about regions together with nature and society(1)

3回：自然と社会とともに地域を考える(2)

Thinking about regions together with nature and society(2)

4回：住民とともに地域の個性を発見し、活かす(1)【講義、議論】

Discovering and utilising local character together with the local population(1)

5回：住民とともに地域の個性を発見し、活かす(2)【グループ発表】

Discovering and utilising local character together with the local population(2)

6回：「心に触れる」街を目指す(1)：共感が生み出すまちの大切な場所【講義、議論】

The city that touches "the heart"(1)：Empathy generates sacred places in the city.

7回：「心に触れる」街を目指す(2)：共感が生み出すまちの大切な場所【グループ発表】

The city that touches "the heart"(2)：Empathy generates sacred places in the city.

8回：都市と農(1)：農が結び直す人と土地、地方と都市【講義、議論】

Cities and agriculture(1)：Agriculture reconnects people and land, countryside and urban area.

9回：都市と農(2)：農が結び直す人と土地、地方と都市【グループ発表】

Cities and agriculture(2)：Agriculture reconnects people and land, countryside and urban area.

10回：水循環と人の営み(1)：地形がもたらす地域の特別さ【講義、議論】

The water cycle and human activities(1)：The topography creates the particularities of the region.

11回：水循環と人の営み(2)：地形がもたらす地域の特別さ【グループ発表】

The water cycle and human activities(2)：The topography creates the particularities of the region.

12回：想像力をもって街を考える(1)【講義、議論】

Thinking imaginatively about the city(1)

13回：想像力をもって街を考える(2)【グループ発表】

Thinking imaginatively about the city(2)

14回：まとめ・質疑応答

Conclusion, question and answer session

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：授業前にテキストの該当箇所を読むこと。

Preparation: Please read the relevant sections of the text before class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時間中のグループ発表:40% 出席および授業参加度:20% 最終レポート割合 :40%

グループ発表はそれぞれ1回のみ行います。（1人1回以上発表することはありません。）

テキスト / Textbooks

土肥真人、佐々木葉、杉田早苗、福永順彦、矢口哲也、山下三平、山本真紗子 「新しい都市の形ー世界が変わるためにー」 エコロジカル・デモクラシー財団 2021 9784991190919 -

上記の本はオンラインで無料ダウンロードできます。

The above book is available online for free download.

<https://ecodemofund.wixsite.com/mysite/連続シンポまとめ本>

参考文献 / Readings

ランディ・T・ヘスター 「エコロジカル・デモクラシー まちづくりと生態的多様性をつなぐデザイン」 鹿島出版会 2018 9784306073425 3052

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業では講義を聞くだけでなく、学生同士で議論し、それらをまとめて発表する機会を設けているため、授業に対する能動的な姿勢を持つことが望ましい。本授業を受講することで、地域経営の知識に加えて、一般的なアカデミックスキルを習得することも狙いとしています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学生同士での議論や発表の場があるので、可能であればPCを持参できると良いが、必須ではない。

その他 / Others

地域経営は全ての人に関わる重要なテーマです。ぜひ自分ごととして捉えながら、積極的に受講してください。質問などいつでも受け付けます。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

地域社会論

Regional Society

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA304
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、地域社会を多角的に捉えられるようになることが目的である。

The purpose is to be able to understand the local community from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

私たちは、地域社会に住んでいる。ここ日本において、地域社会を支えるべく様々な制度や組織が整えられてきた。他方で、地域社会とは実に多様なものである。地域社会ごとに多種多様であると同時に、地域社会内部もまた多様である。本講義では、日本各地の事例を適宜参照しながら、それぞれの地域社会の知識を得る。それと同時に、地域社会を多角的に捉えるために受講者の視野を広げることが狙いである。

適宜リアクションペーパーの提出を求める。

Here in Japan, various systems and organizations have been put in place to support local communities. On the other hand, local communities are truly diverse. While each community is diverse, it is also diverse within the community. In this lecture, we will acquire knowledge of each local community while referring to cases from various parts of Japan as appropriate. At the same time, the aim is to broaden the perspectives of the participants

in order to perceive the local community from multiple angles.

Requests submission of reaction papers as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：地域社会学の系譜
- 3回：地域社会を支える制度や組織（1）中央集権の視点から
- 4回：地域社会を支える制度や組織（2）地方分権の視点から
- 5回：地域社会と地方自治体：条例
- 6回：地域の歴史（1）客観的な地域社会
- 7回：地域の歴史（2）主観的な地域社会
- 8回：東京から遠く離れた地域（1）前近代性の取り扱い
- 9回：東京から遠く離れた地域（2）発展性の取り扱い
- 10回：地域社会の内外（1）河川がつなぐ二つの地域社会
- 11回：地域社会の内外（2）分断された一つの地域社会
- 12回：阪神淡路大震災（1）危機と対応
- 13回：阪神淡路大震災（2）被災当事者（講義担当者）の声を聞く
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義に関する書籍等を読み、関連するニュースなどを収集すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回のリアクションペーパー:60% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光関連法

Laws in Tourism

観光業をめぐる法律を学ぶ

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎> (YAKUSHIMARU SHOJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA305

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光産業に従事する者が知っているのと役に立つ法律を体系的に身につけ、その知識を利用する法的思考力を習得する。現代社会で発生している観光産業に関する法的問題を扱う。

The purposes of this course are to learn systematic knowledge, such as laws that are useful for employees of the tourism industry to know and clauses that constitute the content of contracts with consumers, and to acquire the ability to think critically a

授業の内容 / Course Contents

1 観光産業はすそ野の広い産業と言われる。このため、観光産業に従事する者は多くの法律に係ることになる。本講義では、幅広く従事する上で関係する法令や約款の内容を講義する。現実に発生した事例を紹介し、法的な考え方を説明した後に、受講生が自ら法的考察を行う。各授業時に小テストまたは意見発表を実施し、法的思考ができるようになったかを確認する。

2 行政書士試験、中小企業診断士試験、宅地建物取引士など資格試験を目指す学生にも役立つように幅広く社会に出てからも必要な法律知識を学ぶ。

3 観光学部の講義のため、

This course covers the following three areas: (1) Employees of the tourism industry, which is said to have a broad range, come into contact with many laws. This course includes lectures on the laws, regulations, and contracts that relate to engaging in this wide-ranging business. The instructor introduces case studies and explains the legal thought process. After that, students perform their own legal analysis. A quiz or a statement of opinion is used to confirm that students can think critically in a legal manner.

(2) Students learn a wide range of legal knowledge necessary for future employment and useful for licensing, for example, taking the Certified Administrative Procedures Legal Specialist Examination or the Registered Management Consultant Examination.

(3) Suitably for the College of Tourism, this course provides opportunities to think deeply not just about theoretical issues but also about how various laws are actually applied. Various professionals (e.g., Licensed Tax Accountant, Labor and Social Security Attorney, Certified Administrative Procedures Legal Specialist) are invited to lectures, when appropriate, to talk about issues and practices in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス，法とは何か
- 2 回：民法①
- 3 回：民法②，消費者契約法
- 4 回：行政法①
- 5 回：行政法②
- 6 回：行政法③ 旅館業法，宿泊約款，住宅宿泊事業法
- 7 回：各種保険（雇用保険法等）に関する法律
- 8 回：個人情報保護法，EU 一般データ保護規則（GDPR）
- 9 回：労働関連法規
- 10 回：入国管理法など
- 11 回：税法に関する各種法律
- 12 回：まちづくりに関する法律（都市計画法，建築基準法など）
- 13 回：独占禁止法，下請法
- 14 回：刑法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 初めて法律を学ぶ学生も多いことから，特に復習に力を入れてほしい。
- 事前にテキストや資料を指定するので，この場合は，読んでおくことが臨まれる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:15% 授業内レポート:15%

テキストは，講義初回時において最新のものを指示する。

テキスト/ Textbooks

テキストは開講時に指定する。

参考文献 / Readings

佐伯仁志 他 ポケット六法（令和6年版） 有斐閣 2023 9784641009240

大石眞(編修代表) デイリー六法 2024 令和6年版 三省堂 2022 9784385158808

淵邊善彦など ビジネス常識としての法律<第3版> 日本経済新聞出版社 2021 9784532114336

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

主体性、好奇心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業や講義資料をPDFで配布することが多いため、これらを要むことのできる機器（PC, タブレットなど）

その他/ Others

初めて法律を学ぶ学生が多いと思われるため、具体例を交えながら説明をする。

また適宜実務家を招きながら講義を行うので、講義スケジュールの順番に変更が生じることがあり得る。この場合は事前に告知する。

情報処理演習

Information Processing Seminar

エクセル(Excel) 統計入門

清原 悠 (KIYOHARA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA306
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS1000
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

エクセル（Excel）・統計処理ソフトの操作方法を習得し、統計データに基づき基本統計量や相関係数、単純回帰分析などからさまざまな現象を分析できる力を養う。

To learn how to operate Excel / statistical processing software and to develop the ability to analyze various phenomena from descriptive statistics value, correlation coefficients, single regression analysis, based on statistical data.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、統計データを活用し、それらの情報をエクセルなどの表計算ソフトにより加工し、図表作成や統計処理（基本統計量、相関係数、回帰分析など）を行える技能を習得するとともに、分析結果をまとめてレポートを作成する。また、授業中に統計学の基礎的な解説も行う。

In this class, we acquire skills in using statistical data and creating charts with spreadsheet software, and write a report that summarizes the analysis results. In addition, we learn basic explanation of statistics during class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション：授業の進め方、履修者の知識や目的の確認
- 2回：統計データを読み解くとは：リサーチリテラシーを身につける
- 3回：表計算ソフトの基本的操作①：データ入力・加工、エクセル関数の使い方
- 4回：表計算ソフトの基本的操作②：図表作成の方法（各種グラフ、度数分布表、ヒストグラム、散布図）
- 5回：統計データの基本①：基本統計量Ⅰ（母集団と代表値など）
- 6回：統計データの基本②：基本統計量Ⅱ（分布、分散・標準偏差など）
- 7回：統計処理①：推測統計と確率分布（不偏分散・標本分散など）
- 8回：統計処理②：相関関係（正・負の相関、疑似相関、相関係数の導出、近似直線など）
- 9回：統計処理③：回帰分析（説明変数・被説明変数、単回帰、重回帰、決定係数など）
- 10回：統計データの取得と加工：データの標準化、e-statの利用法
- 11回：検定Ⅰ（仮説、有意差、t検定など）
- 12回：レポートの準備——統計データの活用法の検討
- 13回：検定Ⅱ（カイ二乗検定など）
- 14回：レポートの相互発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題（複数回）：50% 小テスト：20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

羽山博・できるシリーズ編集部 できるやさしく学ぶ Excel 統計入門 インプレス 2015 9784844337317
○

参考文献 / Readings

阿部真人 『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』 ソシム 2021 9784802613194

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・Excel は初歩的な操作はできた方が望ましいが、受講にあたっての必須条件ではありません。ただし、習得のためには相応の努力は必須です。

・授業ではコースの終わりにかけて、グループワークが複数回あります。主にデータ活用に関してのグループ内議論ですが、積極的な参加が必須です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

・Excel を用いた情報処理演習です。コンピュータ室で授業予定ですが、自宅での課題学習等、PC は必須となります（タブレット端末では機能不足です）。

・PC には Excel2013（office2013）以降のバージョンが入っていることが必要となります（office365 でも可）。

・課題の配布、回収などは原則として Google Classroom にて行う。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象/人数制限科目（45 名）

投資計画論 2

Investment Planning 2

投資計画論の基礎となる会計・ファイナンスの基本知識を学び、会社や事業が存続していくメカニズムを深める

宮下 篤志 (MIYASHITA ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA316
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、学生諸氏が現在、または将来に接するビジネスの現場で重要となるおカネ(投資計画)に関して、会計・ファイナンス分野の基本知識を深めながら学びます。初学者が習得できるように推進していきますので、将来ビジネスの分野で活動を目指している学生の学びにも適するでしょう。

ビジネスの重要な目的の一つは投資に対するリターンです。投資計画はその基になる考え方であり、未来に向けた可能性を拓くビジネス知性の集積とも考えられます。しかし、将来なにが起きるのかをだれも事前を知ることはできないという共通の条件が私たちを取

In this class, students will deepen their basic knowledge in the fields of accounting and finance, and learn about investment plans that will be important in the field of business that students will encounter now and in the future. We will promote this c

授業の内容 / Course Contents

会計、金融の基礎的な考え方をベースとして、事業計画、資金調達計画、収支計画、資金管理等について、企

業やプロジェクトを支える財務面(会計・ファイナンス)での実務的な観点から説明をする。さらに、具体的事例を取り上げて、理解を深める。

Based on the basic concepts of accounting and finance, we will explain business plans, financing plans, income and expenditure plans, fund management, etc. from a practical viewpoint of financial aspects (accounting and finance) that support companies and projects. In addition, concrete examples are taken up to deepen understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

～そもそも会計とファイナンスの違いは何か～

2回：会社はおカネをどのように動かしているのか

～企業の収益のメカニズムと関係性～

3回：企業の価値をどのように捉えるのか

～財務諸表(BS、PL、CF)の基礎～

4回：財務諸表から企業の活動を読んでみよう

～財務分析の実際～

5回：個人と経済が成長するカギとしてのファイナンス思考とは(1)

～ファイナンスの基礎～

6回：個人と経済が成長するカギとしてのファイナンス思考とは(2)

～おカネの時間的価値と投資計画の関係～

7回：企業はどのように事業資金を調達し、運用しているのか

～資本とお金の流れ、計画～

8回：そもそも、なぜビジネスに投資が必要なのか

～投資計画と財務モデルの考え方～

9回：活躍している企業経営者はどのようにビジネスを考えているのか

～ゲストスピーカーに学ぶ～

10回：グローバルなビジネスで必要なファイナンスの考え方とは

11回：これからの日本企業の可能性を考える

～日本企業の改革を中心に～

12回：価値思考とは何か

～投資から企業活動、そして結果として数値～

13回：会社はどのように意思決定をして投資するのか

～パーパス(理念)とファイナンスとの関係～

14回：小クイズの実施と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発言等:30% 授業での小クイズ:70%

テキスト / Textbooks

毎回のハンドアウトは、「CanvasLMS」に掲示する。

参考文献 / Readings

石野雄一 ざっくり分かるファイナンス 光文社 2007 9784334033972

朝岡大輔他 ゼミナールコーポレートファイナンス 日本経済新聞出版 2022 9784532135249

伊藤邦雄 企業価値経営 日本経済出版 2021 9784532135140

その他 / Others

資料配布、課題の提出など「Canvas LMS」を使用する。授業は講義形式と対話形式の双方で行う。

サービス・マネジメント

Service Management

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA333
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

電車に乗る、外食をする、服をクリーニングに出す、ホテルに泊まる、美容院でカットする、学校で学ぶ、病院に行く・・・等々、私たちはたくさんのサービスを利用することで生活を営んでいます。そうしたサービスが、どのように生み出され、利用され、そして評価されているのか・・・、顧客に満足してもらえるサービスを提供するため企業はどのような仕組みをつくり、工夫を凝らしているのか・・・、皆さんの身近にあるサービスの特性を知り、ビジネスに活かしていくための基本的な課題を理解することが授業のねらいです。

We use many services in the course of our daily lives, such as riding a train, eating at a restaurant, dropping clothing off at the dry cleaners, staying at a hotel, getting a haircut at a salon, learning at a school, going to a hospital, etc. The aim of

授業の内容 / Course Contents

この授業では、「よいサービスとは何か」「顧客に満足してもらえるサービスを提供するにはどうすればよいのか」「継続的に利用してもらうにはどうしたらよいのか」といったテーマを中心に考えていきます。身近な事例を取り上げながら、サービス・マネジメントの基本的な考え方や課題を学んでいきましょう。

In this course, we will focus on themes such as “What is good service?” “How can I provide service that satisfies

the customer?" and "How can I get customer loyalty?" We will cover familiar case studies to learn the basic perspective and issues of service management.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：サービス・マネジメントを学ぶにあたって
 - 2回：サービスはモノとどう違う？（サービスの特性について理解しよう）
 - 3回：サービスの「決定的瞬間」とは？（サービスが生まれ、提供される場：サービス・エンカウンター）
 - 4回：サービス提供のしくみを“劇場”に例えると・・・？（システムとしてのサービス）
 - 5回：サービスの「よさ」はどう決まる？（サービス・クオリティ）
 - 6回：満足度は継続利用につながるか？（顧客満足と顧客ロイヤルティ）
 - E S（従業員満足）なくしてC S（顧客満足）なし！（サービス・プロフィット・チェーン）
 - 7回：サービスの特性は利点か欠点か？（サービスの「工業化」と「個客化」）
 - 8回：質の高いサービスを生み出す“現場力”を高める仕組みとは？（エンパワーメント、「逆さまのピラミッド」）
 - 9回：需要の“波”にどう対応する？（サービスの需給マッチング）
- 最大収容力と適正収容力はどう違う？
- 10回：LCCを好む人、好まない人（顧客の知覚コストと知覚価値）
 - 11回：サービスの価格をどう決める？（様々な価格設定の方法）
 - 12回：客単価と稼働率、どちらが大事？（イールド・マネジメント）
 - 13回：顧客の苦情にどう対応する？（サービス・リカバリー）
 - 14回：サービス・ビジネスの現代的課題
 - ・シェアリングエコノミーと新たなサービス・ビジネス
 - ・ホスピタリティ・ビジネスの“稼ぐ力”と“働く魅力”を高める

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

皆さんのまわりにはサービスを考えるための「生きた教材」があふれています。電車やバスに乗る時、カフェでコーヒーを飲んだり、ファストフードやファミレスで食事をする時、旅行に行ったり、ホテルに泊る時、風邪をひいて病院に行った時・・・「よいサービスってなんだろう」「利用者に満足してもらい、また利用してもらうにはどんな工夫をすればよいのだろう」・・・そんなことをチョッと考えてみてください。常に現実に目を向け、講義や文献で学んだ知識と、身近な事例や体験を結びつけて考えてみることで、サービス・マネジメントをよりイキイキ

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内課題、リアクションペーパー等:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

旅行情報システム

Information Systems for Tourism

野口 洋平 (NOGUCHI YOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA338

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） 授業形態はオンライン（一部対面）とする。そのうち、第1回／4月12日（金）は授業全体のガイダンスを兼ねているため対面で実施する。第6回／5月24日（金）、第8回／6月7日（金）、第11回／6月28日（金）はグループディスカッションを行うため対面で実施する。第14回／7月19日（金）は対面で実施する。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

旅行、観光において情報がどのような機能・役割を担っているか、旅行情報システムが現代の旅行・観光をどのように支えているかを理解し、適切な旅行・観光をめぐる情報受発信のデザインができるようになる。

You will come to understand the function and role of information in travel and tourism, as well as how travel information systems support modern travel and tourism, and you will be able to design information reception and transmission systems appropriate

授業の内容 / Course Contents

まず、旅行・観光と「情報」や「情報システム」の関係について、旅行・観光の仕組みと歴史を踏まえて説明する。次に、旅行・観光をめぐる情報がどのように送受信されてきたかについて説明する。さらに、旅行・観光の情報システムの現状と展望について説明する。その上で、「情報」や「情報システム」が現代の旅行・観光をどのように支えているのかを議論する。その際に、具体的な事例について取り上げる。授業は講義と履修者

同士のディスカッションを通じて展開する。なお、担当教員と履修者、履修者同士のコミュニケーションにはリアクションペーパー

First, I will explain the relationship of information and information systems to travel and tourism, based on the mechanisms and history of travel and tourism. Then I will explain how information related to travel and tourism has been sent and received. I will further explain the current situation and outlook for travel and tourism information systems. After that, we will discuss how information and information systems support modern travel and tourism. At that time, we will cover specific case studies. Classes will consist of lectures and group discussion among students. Note that reaction papers will be used for communication with students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：旅行情報と観光情報
- 2 回：旅行情報の分類
- 3 回：オンライントラベルエージェント（OTA）と GDS
- 4 回：旅行情報としてのガイドブック
- 5 回：観光産業と ICT 革命
- 6 回：旅行情報としてのガイドブック
- 7 回：消費者の行動と旅行情報
- 8 回：消費者の行動と旅行情報
- 9 回：旅行ビジネスと情報
- 10 回：評価情報
- 11 回：評価情報
- 12 回：顧客情報
- 13 回：旅行情報とパッケージツアー
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

(1) 自分と旅行ガイドブック、旅行番組との関係について振り返ってみる。必要に応じてそれらを旅行ガイドブック、旅行番組を見て現状を理解する。(2) インターネットを使って旅行・観光の任意の情報を収集してみる（SNS も含む）。(3) オンライン旅行予約サービスのサイトを訪問し、実際に任意のホテル、航空券などを検索してみる（実際に予約・購入する必要はない）。(4) 旅行会社の店舗を訪問し店内の様子を観察する（営業の妨げにならないように配慮すること）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

必要に応じてレジュメ、資料を配付する。また、インターネット上の資料や関連サイトを提示する。

参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介する。

その他/ Others

授業ではリアクションペーパーなどを通じた履修者同士のディスカッションを行う回が複数ある。また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、必要に応じて次回授業の冒頭に質問等について回答する。

旅行業経営実務

Travel Industry Management

(前半) ツーリズム×経営

(後半) 現役社長・経営者ライブ

風間 欣人 (KAZAMA YOSHIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA344

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

将来、旅行産業、観光産業において経営者など中核的な役割を担う「人財」の育成を目標として、特に旅行産業及び旅行関連産業の経営戦略・機能別戦略の概要、現状と課題、環境変化への対応、将来への展望などを理解する。そしてリアルなビジネスに携わる経営者・実務責任者がメッセージを直接伝えることで「ビジネスの面白さ」「情熱」を直に学んでもらうのと同時に実社会の職業観、社会観も提示し、就活や今後の社会人として必須の心得・考え方も体得してもらう。

With the goal of developing "Human Resources" who will play key roles as managers in the travel and tourism industry in the future, this course aims to provide participants with an understanding of the management and functional strategies, current status

授業の内容 / Course Contents

旅行産業、ツーリズム産業のマーケット環境の変化とそれに対応する旅行会社の具体的な経営戦略、財務戦略、人事戦略、ブランド戦略及びツーリズム関連ビジネスの経営などを分析する。

コース前半は、日本最大の旅行会社である（株）JTBの代表取締役社長を始めとしたJTBグループの経営者、実務責任者が具体的、実態的事例に基づき直接解説し、各分野に関する課題、環境変化への対応、将来展望などを経営者の視点から考察する。コース後半は、「現役社長・経営者ライブ」と銘打ち、ツーリズム関連の様々な企業の現役社長・経営者をゲスト講師と

This course will analyze the changes in the market environment of the travel and tourism industry and the specific Management strategies, Financial strategies, HR strategies, Brand strategies of travel agencies, and Tourism-related business management in response to these changes.

In the first half of the course, the President & CEO of "JTB Corp.", Japan's largest travel agency, as well as other executives and business managers of JTB Group will provide direct explanations based on specific, real-life examples, and examine issues related to each field, responses to changes in the environment, and future prospects from a management perspective. The last half of the course is called "Active Presidents/Executives Live," and guest lecturers, such as current presidents and executives, are invited to talk about corporate strategies and corporate management in tourism-related businesses, as well as to explore the human aspects of the presidents and executives themselves, mainly through question-and-answer sessions.

If you have taken the Travel Industry course, it is easier to deepen your understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス講義
- 2回：旅行業のSDGs
- 3回：JTB代表取締役社長×学生のQ&Aセッション
ゲスト講師：（株）JTB代表取締役社長執行役員 山北 栄二郎 氏
- 4回：旅行会社における経営戦略
- 5回：旅行会社における財務戦略
- 6回：旅行会社におけるHR（人財）戦略
- 7回：旅行会社におけるブランド戦略
- 8回：ツーリズム関連ビジネスの経営（限界集落から豊かな循環型社会を目指す）
- 9回：ツーリズム関連ビジネスの経営（事業再生とマーケティング）
- 10回：ツーリズム関連ビジネスの経営（観光サービスとアクティビティ）
- 11回：ツーリズム関連ビジネスの経営（新規事業開発）
- 12回：ツーリズム関連ビジネスの経営（出版事業）
- 13回：ツーリズム関連ビジネスの経営（商事事業）
- 14回：理解度の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席・授業への取り組み:30% リアクションペーパーの内容:20%

テキスト/ Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他/ Others

ゲスト講師のスケジュール都合により講義内容が前後する場合がある。

コンベンション産業論

Convention Industry

M I C E の構造や役割、観光政策・観光地づくりとの関係について学ぶ

守屋 邦彦 (MORIYA KUNIHICO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA345

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

M I C E を構成する Meeting、Incentive、Convention、Exhibition/Event の開催目的、開催意義等の特徴やビジネスモデル、それらの課題に関する基本的な知識を学び、説明出来るようになる。

また、国や地方自治体の観光政策における M I C E や I R（統合型リゾート）の位置付けや、レジャートラベルとビジネストラベルの相違等についても理解し、説明出来るようになる。

Through this class, students will learn and be able to explain the purpose and significance of Meeting, Incentive, Convention, and Exhibition/Event, their business models, and basic knowledge of their issues.

Also, to understand and be able to explain the

授業の内容 / Course Contents

M I C E とはどのようなものなのかの基本的な事項と、観光政策の中でどのような意味・役割があるのか、更に M I C E の誘致・開催に関わる各主体とそれぞれの役割等について講義する。

その上で、観光地づくり、I R の整備、ビジネスとレジャーが融合した旅行などが M I C E とどのような関りがあるのか、より広い視点から M I C E が理解できるよう講義する。

なお、講義では主にビジネス目的のMICEを取り扱う。

The lecture will cover the basics of what MICE is, its meaning and role in tourism policy, and the various actors and their respective roles in attracting and holding MICE events.

The lecture will also cover how MICE is related to the development of tourist attractions, IR, and travel that combines business and leisure, etc., so that MICE can be understood from a broader perspective.

The lecture will focus mainly on MICE for business purposes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義計画等の説明
- 2回：MICEの意味や意義、取組の変遷
- 3回：MICEの各分野（1）
- 4回：MICEの各分野（2）
- 5回：MICEの現状と政策（1）
- 6回：MICEの現状と政策（2）
- 7回：MICEの現状と政策（3）
- 8回：MICEを誘致・開催・運営する組織
- 9回：MICEを開催する施設（1）
- 10回：MICEを開催する施設（2）
- 11回：MICEと観光地づくり
- 12回：MICE開催中/開催前後の旅行
- 13回：MICEとIR
- 14回：まとめ/MICEの全体像の理解

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

MICEは学生の立場では体験することが少ない分野なので、国際会議、展示会の開催などに関する日々のニュースに関心を持つ、講義前に参考文献や関連ページなどを読むなどにより、どのようなものなのか視覚的にもイメージを掴んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー（毎回）：30% 小レポート（2回）：30% 最終テスト：40%

小レポートは講義内で問題提示、回収（回収する講義日は都度指定する）を行う。

最終テストは、最終講義時に実施する。

テキスト / Textbooks

授業時に随時資料を配布する。

（PowerPointを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する）

参考文献 / Readings

（株）コンベンションリンケージ MICE 入門編 日本再興のカギ ダイヤモンド社 2021 9784478084823

経済産業省 展示会産業概論～はじめて展示会に関わる人のための入門書～ 経済産業省 2014

(参考となる関連団体等のホームページ)

観光庁 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/index.html>

観光庁 (MICE の誘致・開催の推進) <https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>

日本政府観光局 (JNTO) <https://www.jnto.go.jp/jpn/>

日本コンベンション協会 <https://jp-cma.org/>

日本展示会協会 <https://www.nittenkyo.ne.jp/>

地域デザイン論

Regional Design

地域社会の諸課題を把握し、地方自治体や民間による地域デザインのためのアプローチ手法を考える。

小地沢 将之 (KOCHIZAWA MASAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA347

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンラインは第3・4・6・8・10・11・13回に実施する。その他は、教材配布やテスト実施のため、対面で7回実施する（第1・2・5・7・9・12・14回）。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域社会の課題は多様化し、その解決に向けた道筋も複雑化している。この講義では、課題解決のための手法として地域デザインの具体的な手法を理解するとともに、これからの地域社会のあり方を構想する力を身に付ける。

We face many problems in our communities, and the paths to solving them are complicated. In this lecture, you understand the specific methods of regional design, and you acquire the ability to envision the ideal form of our communities.

授業の内容 / Course Contents

講義では、地方自治体や民間による地域デザインのアプローチ手法を取り上げる。都市計画や交通まちづくり、商業活性化、市民活動、エリアマネジメントなどについて、最新のトピックを交えながら、それぞれの基本的な考え方を紹介する。

The lectures cover methods of regional design by local governments and private sectors. I introduce the basic

concepts of urban planning, transportation, commercial revitalization, civic activities, area management, etc., with the latest topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：地域デザインとはなにか
 2回：集落のガバナンス
 3回：地方自治体によるまちづくり1
 ～現代社会の課題
 4回：地方自治体によるまちづくり2
 ～都市計画とまちづくり
 5回：地方自治体によるまちづくり3
 ～交通とまちづくり
 6回：地方自治体によるまちづくり4
 ～商業活性化とまちづくり
 7回：民間によるまちづくり1
 ～民間によるまちづくりの主体
 8回：民間によるまちづくり2
 ～市民活動黎明期の事例
 9回：民間によるまちづくり3
 ～地域コミュニティの疲弊と新展開
 10回：民間によるまちづくり4
 ～エリアマネジメント
 11回：生産活動・消費活動とまちづくり
 12回：災害復興とまちづくり
 13回：地域資源を活用したまちづくり
 14回：公共施設とまちづくり
 まとめと最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：毎回の小レポートの回答の題材として、宿題を課すので、これに取り組むこと。

復習：Canvas LMSの「理解度チェック」により復習すること。講義で紹介する事例などについて、報道や書籍などを通じてさらに理解を深めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 毎回の小レポート（Small Report）:20%

最終テスト割合：:30%

テキスト / Textbooks

小地沢将之 都市・まちづくりのためのコミュニティ入門 一住み続けられるまちをデザインする視点と解法

学芸出版社 2024 ○

参考文献 / Readings

小地沢将之 まちづくりプロジェクトの教科書 森北出版 2020 9784627553613

饗庭伸、鈴木伸治 初めて学ぶ都市計画（第三版） 市ヶ谷出版社 2024

その他 / Others

- ・ PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。指定のテキスト以外に、配布資料を用いる。
- ・ 毎回、Canvas LMS を用いて小レポートを課し、Canvas LMS により適宜フィードバックを行う。
- ・ 対面講義 7 回、オンライン講義 7 回を予定している。実施回については、講義の中で案内するとともに、Canvas LMS で指示する。

環境・景観論

Environmental Design

小野 良平 (ONO RYOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA348
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

景観や風景(ランドスケープ) が単なる景色ではなく、人間と環境との間の「現象」であることを理解し、景観・風景を成り立たせる人間および社会と環境との諸関係について学んだ上で、観光と関連した景観保全および環境保全に関わる諸課題を知り、考察する。

You will come to understand that a landscape is not just its scenery but a phenomenon of interaction between people and environments. After learning about the various relationships between people and societies who create landscapes and their environment,

授業の内容 / Course Contents

多様な景観概念に触れた上で、観光に関わる景観・ランドスケープ概念に沿いつつ、空間計画論的な立場から、景観の分析・評価およびデザインや保全の方法について紹介する。また自然景観、都市景観、農山村景観、漁村景観など、具体的対象空間に分けて、人々の生活、特に観光・レクリエーションとの関わりについて現状や課題を考察する。また環境倫理学における景観概念の位置づけについても紹介する。

After reviewing various concepts related to landscapes, along with landscapes concepts related to tourism, I will introduce analysis and evaluation methods, as well as design and preservation methods from the point of view of

spatial/regional planning theory. In addition, we will divide natural landscapes, urban landscapes, agricultural village landscapes, fishing village landscapes, etc. into specific spaces, and consider the current situation and issues surrounding them with regard to people's lives, especially when it comes to tourism and recreation. I will also introduce the position of landscape concepts in environmental ethics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（環境・景観・風景）
- 2回：景観概念の多義性
- 3回：景観の評価
- 4回：景観の知覚
- 5回：景観のデザイン
- 6回：景観保全の計画
- 7回：景観保全の制度
- 8回：自然景観
- 9回：都市景観
- 10回：農山村景観
- 11回：漁村・港湾景観
- 12回：文化的景観・産業景観
- 13回：環境倫理と景観
- 14回：観光と景観（風景観の変遷）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布

参考文献 / Readings

講義の中で紹介

都市計画論

Urban Planning

都市計画の基礎を学ぶ

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA349

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

都市計画に関する基本的知識を身に付け、都市空間の見方や分析方法を習得する。また、観光地を観光地として成立させるのに影響を与えている都市計画関連制度について理解する。

You will gain basic knowledge about urban planning, and learn how to look at and analyze urban spaces. You will also come to understand urban planning systems and their effects on the establishment of tourist spots.

授業の内容 / Course Contents

観光まちづくりを理解するためには、その前段として、都市計画の理解が欠かせない。本講義では、我が国における都市計画の基本的な考え方やその歴史的経緯を理解した上で、観光との関わりが深い都市の歴史的環境保全や景観法について学ぶ。この授業を通じて、都市とは何か、都市はどうやって出来上がっているのかということへの関心を高める。

本講義を履修すれば、きっと都市に対する見方が大きく変わるであろう。

After understanding the basic concept of urban planning in Japan and its historical background, you will learn

about the urban preservation and landscape laws, which are deeply connected to tourism.

In this course, we will raise our level of understanding of what cities are and how they are formed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：現在の都市計画制度（1）
- 3回：現在の都市計画制度（2）
- 4回：現在の都市計画制度（3）
- 5回：現在の都市計画制度（4）
- 6回：現在の都市計画制度（5）
- 7回：都市計画の歴史（1）
- 8回：都市計画の歴史（2）
- 9回：都市計画の歴史（3）
- 10回：都市計画の歴史（4）
- 11回：歴史的環境保全と景観（1）
- 12回：歴史的環境保全と景観（2）
- 13回：都市計画とまちづくり
- 14回：総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

最新の都市計画やまちづくり事情に関するシンポジウム等の情報を提供するので、それらに積極的に参加してもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業後のリアクションペーパー:10% 授業内のディスカッション（slack 利用）:20%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜案内する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜案内する。

ホテル運営論

Hotel Operation

池尾 健 (IKEO KEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA350
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） オンラインで7回実施する（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「ホテル」という言葉の一つとっても、人によってその捉え方や意味合いは異なっています。旅行先の寝泊りする場所という一般的にはゲストとしての捉え方もあれば、ホテルを表現の場として捉え自身のアートや建築としてその空間を捉える人もいます。一方で事業としてホテルを捉えると、ホテルを収益不動産として認識して投資を生業とするものもいれば、ホテル事業を運営するためのマーケティングのプロもいたりします。本講義では、業界で最前線で活躍されているゲストをお呼びし、もしかすると狭義的に捉えられている「ホテル」「ホテルに関わ

The word "hotel" has different meanings and connotations for different people.

Some see it as a place to sleep when traveling, generally as a guest, while others see a hotel as a place of expression and view the space as their own art or architecture.

On

授業の内容 / Course Contents

本講義では、日本全国において広くホテル、リゾート開発や運営を展開する森トラスト・ホテルズ&リゾーツ

社より不動産や新規ホテル開業、

マーケティングなど様々な分野でご活躍されている方々をゲストスピーカーとしてお招きし、テーマに沿ってご講演やパネルディスカッションを行っていく予定です。

基本的に①ゲストスピーカーによる講義、パネルディスカッション、②①のトピックをもとにしたグループワーク、を1セットとして、全部で6セットほどのセッションを行っていきます。

①ゲストスピーカーによる講義については、オンラインも

Mori Trust Hotels & Resorts, which develops and operates a wide range of hotels and resorts throughout Japan, has invited guest speakers who are active in various fields such as real estate, opening new hotels, marketing, etc. They will give lectures and participate in panel discussions on various themes,

We plan to invite guest speakers from Mori Trust Hotels & Resorts, which develops and manages a wide range of hotels and resorts throughout Japan, to give lectures and participate in panel discussions on a variety of topics.

Basically, there will be about 6 sets of sessions, consisting of (1) lectures by guest speakers, panel discussions, and (2) group work based on the topics in (1) above.

The lectures will be given by guest speakers, either online or in person, and will be followed by a panel discussion with the faculty member in charge of the session based on the lectures and questions asked in advance.

As for group work in (2), group work will be conducted based on a specific topic, following the class in (1) held prior to the class.

Through repeated input and output, we expect participants to gain insights in "learning" and "career" that are not bound by fixed concepts.

In the past, we have also organized internships and study tours in the projects and regions where our guest speakers are involved, although they are voluntary members.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 3回：前回授業の振り返り・ディスカッション
- 4回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 5回：前回授業の振り返り・ディスカッション
- 6回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 7回：前回授業の振り返り・ディスカッション
- 8回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 9回：前回授業の振り返り・ディスカッション
- 10回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 11回：前回授業の振り返り・ディスカッション
- 12回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 13回：前回授業の振り返り・ディスカッション
- 14回：担当教員・学生による総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド*（パワポ*等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○	

上記いずれも用いない予定

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業後課題（毎回）:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

【森トラスト・ホテルズ&リゾーツ株式会社について】

「不動産事業」「ホテル&リゾート事業」「投資事業」を主軸に、全国の 65 棟のビル・住宅・商業施設と、31ヶ所のホテル&リゾート施設の開発・運営を手掛ける森トラストグループのホテル&リゾート事業を担う中核企業として、

1973年に日本初の法人会員制倶楽部「ラフォーレ倶楽部」を創業。2023年3月時点で、「翠 SUI ホテル」、「マリオットホテル」や「コートヤード・バイ・マリオット」、「ラフォーレホテルズ&リゾーツ」など、21の自社・国際ブランドのホテル&リ

宿泊産業論

Lodging Industry

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA352
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 宿泊業の事業領域、ビジネスモデル、および経営課題について理解する
 - ホテル・旅館の経営や M&A に関する報道内容を正しく理解する
 - 外資系ホテルオペレーターやデベロッパー、ホテル投資家などで働くうえで必要なホテル経営学の基礎知識を身に付ける
- This course covers business fields, business models, and challenges of lodging industry.
 - The course participants are expected to understand the context of the media reports regarding management as well as mergers and acquisitions in the hotel and ryok

授業の内容 / Course Contents

- 宿泊産業の本質を解き明かし、その歴史を簡単に振り返る
 - ホテル事業における複数のビジネスモデルを紹介し、ホテル事業固有の経営課題を明らかにしたうえでその対処法について議論する
 - 最後に、周辺産業を採り上げ、宿泊業との関りについて解説する
- This course starts with identification of what a lodging business is and brief review of its history.

2.Then, it outlines various business models in the industry, followed by challenges on management, and discuss how to overcome such.

3.Lastly, it picks up businesses surrounding lodging industry and explain how they relate each other.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：宿泊産業とは何か
- 2 回：宿屋ビジネスの発祥と提供される機能の変遷
- 3 回：業態 - 顧客目線による分類
- 4 回：経営ストラクチャー - 経営者目線による分類
- 5 回：客室ビジネスの本質
- 6 回：料飲ビジネスの本質
- 7 回：宴会ビジネスの本質
- 8 回：運営組織と意思決定プロセス
- 9 回：関連ビジネス 1：開発関連
- 10 回：関連ビジネス 2：運営関連
- 11 回：オーナー業とホテルアセットマネジメント
- 12 回：住宅ビジネスとの境界線
- 13 回：チェーン運営
- 14 回：旅館業

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 小テスト:30% レポート:40%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910 ○

参考文献 / Readings

仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信 ホテル・ビジネス・ブック第2版 中央経済社 2016 9784502181412

その他 / Others

- 1.講義はレクチャー型を基本とする
- 2.講義資料は毎回指導教員によって作成・配布され、その資料は講義中にプロジェクターで表示される
- 3.知識の定着および思考能力の向上を目指し、毎回受講生からのリアクションペーパー提出もしくは小テスト実施を行なう。その回答内容につき、次回講義にて指導教員が解説を行なうことで、インタラクティブなクラス運営を行なう
- 4.受講にあたり、宿泊産業とはどんなものなのかを理解するためにホテルもしくは旅館での宿泊ないし飲食体験を行なっておくことを推奨する

政策評価論

Policy Evaluation

長谷川 明彦 (HASEGAWA AKIHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA358
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

2000 年以降の長引く景気低迷を背景に、国や自治体では政策評価（行政評価）が導入され、限られた予算の中で効果的な事業が求められるようになってきました。

今、行政の現場では、社会経済情勢を的確に把握するため、分析力を持つ人材が求められています。本講義では、講義と演習を通じて分析力を身に着けることを目標とします。

In light of the prolonged economic downturn since 2000, policy evaluations (administrative evaluations) have been introduced to national and local governments, who in turn are demanding more effective operations within limited budgets.

Currently the publi

授業の内容 / Course Contents

統計基礎及び分析手法を身に着けることを目的に演習を進め、政策現場におけるエビデンスの重要性を体感してもらいます。

We will conduct seminars with the objective of learning basic statistics and analysis methods, and experience the importance of evidence in the policy field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、政策評価制度の意義、概要
- 2回：統計基礎
- 3回：統計演習1
- 4回：ゲストスピーカー1
- 5回：統計演習2
- 6回：地域特性分析演習1
- 7回：地域特性分析演習2
- 8回：中間テスト
- 9回：ゲストスピーカー2
- 10回：地理情報システム1
- 11回：地理情報システム2
- 12回：ゲストスピーカー3
- 13回：地理情報システム3
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱った演習は、復習したうえで出席する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内に行う中間テスト:30% リアクションペーパー:30% レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

長谷川明彦 データで読み解く被災地観光の可能性 大阪大学出版会 2017 9784872595680

後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・坪井塑太郎・加藤一郎 MANDARA と Excell による市民のための GIS 講座
古今書院 2013 9784772241625

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

WindowsPC（Excel の入った PC、Mac 不可）を使用する。

注意事項（検索結果画面）

人数制限科目（100名）

経営戦略論

Management Strategy

新時代を創造する企業の戦略を探求する

二木 真 (FUTAKI MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA362
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「戦略とは何か？」について、代表的な戦略理論とツーリズム産業をはじめとする企業実践（ケーススタディ）を通して理解する。合わせて、社会人としての必須資質である戦略的思考法を身につける。

“What is strategy?” You will understand this through representative strategical theory and case studies of the tourism industry, etc. At the same time, you will learn the strategical thinking necessary to function in the workforce.

授業の内容 / Course Contents

日本のツーリズム産業はグローバル競争とライフスタイルの変化の中で転換期を迎えている。当講座では、訪日外国人旅行者の増加をビジネスチャンスと捉え、代表的な戦略理論の理解と主要なツーリズムおよびサービス関連企業のケーススタディ（実践）を融合した参加型授業を行う。

観光・広告・メディア業界等のトップ企業から戦略を統括するキーマンをゲストに迎え、最新の企業戦略を体感することで、学生自身の将来を考える有益な機会を設けたい。

Japanese tourism industry is at a turning point in global competition and new lifestyle. In this course, we will

consider the business opportunities presented by increase in foreign visitors to Japan while conducting participatory classes that combine an understanding of representative strategical theory with major tourism and service industry-related case studies.

We will invite key persons from top companies in the tourism, advertising, and media fields, etc. who oversee their company's strategy as guest speakers, and through experience of the latest corporate strategy, students will be given an advantageous opportunity to think about their future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（戦略とは何か）
- 2回：第4次産業革命とポストコロナの環境変化
- 3回：戦略の構想（理念とビジョン）
- 4回：戦略の構築（マーケット環境と経営資源）
- 5回：成長戦略
- 6回：ゲストセッション①
- 7回：競争戦略
- 8回：ケーススタディ（業界内競争から異業種競争へ）
- 9回：リソースベースレビュー（資源ベースの戦略）
- 10回：ゲストセッション②
- 11回：ビジネスモデルとイノベーション
- 12回：ケーススタディ（フリービジネスモデル）
- 13回：プラットフォーム戦略とビジョナリーカンパニー
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書及び参考資料（講義内で配布）を熟読のうえ講義に参加すること。

講義後は原則として、毎回コメントシートの提出の提出を求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み・発表：30% 講義内レポート：30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

遠藤功 「経営戦略の教科書」 光文社新書 2011 ○

参考文献 / Readings

スコット・ギャロウエイ GAFAs 東洋経済新報社 2018

沼上幹 わかりやすいマーケティング戦略 有斐閣パルマ 2010

竹中平蔵 第4次産業革命 PHPビジネス新書 2017

通常講義内に随時紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

経営学・マーケティング関連及びツーリズム産業への興味・関心が高いこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回の講義資料を PDF にて配布するため、PC を持参することが望ましい。(ただし、必須ではない)

その他/ Others

講義では、日本を代表する業界トップ企業（観光・広告・地域マネジメント等）の最前線で活躍するキーマンをゲストに迎え、企業人のリアルな考え方と実践を学び、受講者との交流の場を提供する。

観光計画論

Tourism Area Planning

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA363
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光を計画するとはどういうことか、またよりよい観光地づくりとは何を指すことか、といったことについて理解するとともに、計画技法を身につける。

Students will come to understand what should be the aim of planning for tourism to create better tourist destinations, and will learn planning techniques.

授業の内容 / Course Contents

持続可能な観光の実現のために、地域はどのようなコンセプトのもと目標を立て実現に向けた手段を講じていくべきか。また、魅力的な地域づくりのために、どのような項目がその対象となるか。本講義では観光計画の意味・意義について論ずるとともに、計画策定の基礎的な技術について講義を行う。

In the pursuit of sustainable tourism, what concepts should a community use to create their goals, and what procedures should they implement to achieve them? Furthermore, what areas should be targeted to create an attractive community? In this course, we will cover the meaning and significance of tourism planning, and lectures will go over basic skills for planning strategy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義計画等の説明
- 2回：観光計画の定義付け・意義
- 3回：観光計画の基本概念
- 4回：観光資源（1）
- 5回：観光資源（2）
- 6回：観光計画の実例（1）
- 7回：観光計画の実例（2）
- 8回：観光計画の構成
- 9回：プランニングの主体とプロセス
- 10回：現状の把握・分析
- 11回：コンセプトづくり・施策の立案
- 12回：観光計画の実例（3）（ゲストスピーカー）
- 13回：観光計画の実例（4）（ゲストスピーカー）
- 14回：観光と地域

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

観光地に訪れる際に、様々な観点から現地の状況を把握し、自分なりの課題の発見に努めること。授業中に触れる内容とその課題とを付き合わせて、解決方法を検討すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 適宜授業中に求める提出物:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

講義中に適宜紹介する。

観光施設論

Facilities Design for Tourism

建築の変容と観光資源化

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA365

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

旅館やホテル等の宿泊施設、遊園地やテーマパーク等の娯楽施設、劇場やコンサートホール、博物館などの文化施設等に関する歴史や空間構成についての理解を深める。

Through this lecture, students will deepen their understanding of the history and spatial composition of accommodation facilities such as inns and hotels, recreational facilities such as amusement parks and theme parks, and cultural facilities such as the

授業の内容 / Course Contents

観光施設が必要とする空間の機能と構成について講義し、施設提供者の想いとユーザー側の評価のギャップを客観的に理解する。各施設が登場してきた背景や変容の過程を十分理解した上で人々に求められる観光施設像を検証し、魅力的な施設を実現する知識を身につけることを期待する。

Lectures will be given on the function and composition of the space required for tourism facilities, and objectively understand the gap between thoughts of facility providers and users. After fully understanding the background of each facility and the process of transformation, we will be able to imagine shapes of tourist

facilities required of people and expect to acquire knowledge to realize attractive facilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：観光施設の広がり
- 2 回：「すみか」を作る術（すべ）
- 3 回：建築史概説 1
- 4 回：建築史概説 2
- 5 回：建築史概説 3
- 6 回：ホテル建築の特徴と変容
- 7 回：旅館の特徴とその変容
- 8 回：国家的イベントと観光施設
- 9 回：博覧会の登場とその時代背景
- 10 回：遊園地とテーマパーク
- 11 回：劇場と音楽ホール
- 12 回：都市計画と娯楽施設
- 13 回：リゾート施設と地域開発
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自ら観光のために訪れた施設について思い起こし、自分が暮らす住宅や大学の建物と何が異なるかについて考察しておくこと。また、建物はその中で暮らす人たちの安全を守るためにその形状を保つことを第一につくられています。どのような工夫がなされているのかについて調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

本授業を受講し、授業内容を理解した上でレポートを記載すること。

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

橋爪紳也 日本の遊園地 講談社現代文庫 2000 9784061495203

富田昭次 ホテルと日本近代 青弓社 2003 9784787232151

若山滋他 世界の建築術 彰国社 1986 9784395270262

鈴木博之他 日本の駅舎とクラシックホテル 白揚社 2005 4826901224

フレッチャー 世界建築の歴史 西村書店 1996 9784890135479

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

地理や世界史についての基礎的な知識がある方が理解しやすい。力学の基礎は学んでいることが望ましいが、自習して理屈だけは理解しておいてください。数学的な計算力を求めるものではありませんが、算数的な四則

演算は問題なくできること。

簿記論

Bookkeeping

観光学部で簿記の資格を取ろう

井出 健二郎 (IDE KENJIROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA366
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

目標は、ただただ日本商工会議所主催の簿記検定初級/3 級を合格しようとするものです。

Students will aim to pass the beginning level of the bookkeeping exam given by the Japan Chamber of Commerce and Industry.

授業の内容 / Course Contents

内容は、2020 年 12 月から開始された簿記検定 3 級 CBT 試験あるいは 2017 年 4 月から開始された簿記検定初級の取得を目指すものです。初めて、簿記を勉強される方を対象としています。なお、講義では検定試験に近い問題演習を行います。

Content will focus on obtaining a beginning qualification in the bookkeeping exam given by the Japan Chamber of Commerce and Industry since April 2017. This course is for those studying bookkeeping for the first time, so we will begin with learning. We will also go over practice questions that are similar to the test in class. Instruction for the 3rd level of the bookkeeping exam will also be given.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：簿記とは何か…簡単に言ってしまうと、決算書の作り方です。
- 2回：決算書 貸借対照表…企業にいくら財産があるかを示す表について学習します。
損益計算書…企業がいくらもうかったかを示す表について学習します。
- 3回：決算書の作り方 仕訳…人工知能(AI)がどんなに進んでも、この仕訳という作業はヒトがおこなうものです。
- 4回：決算書の作り方 仕訳…現金などを扱う取引(身近なこと)を仕訳してみましょう。
- 5回：決算書の作り方 仕訳…会社・企業が実際に行っている取を仕訳してみましょう。
- 6回：決算書の作り方 転記…仕訳に続く簿記の手続きの二つ目です。
- 7回：決算書の作り方 試算表の作成…仕訳や転記などこれまでの作業が正しく行われているか確認します。
- 8回：決算書の作り方 精算表の作成…決算書作成には便利な表があります。それを学習します。
- 9回：小テスト実施と3級範囲の仕訳…一度これまでの学習が理解できているかを確認します。また、さらに上級の簿記の資格の対応をします。
- 10回：3級範囲の仕訳…取引が複雑になった時、どのように仕訳するかを確認します。
- 11回：3級範囲の仕訳…取引が複雑になった時、どのように仕訳するかを確認します。
- 12回：検定試験レベル精算表・決算書の作成…3級を意識した検定試験の問題をトレーニングします。
- 13回：検定試験レベル精算表・決算書の作成…3級を意識した検定試験の問題をトレーニングします。
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には復習として、紹介します。簿記検定取得に関わる問題集などを活用し、トレーニングを行っていただき、検定合格に役立ててください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% 出席確認・授業への取り組み:30% 最終テスト割合 :40%

なお、講義期間中に検定合格された方等については評価加点いたします。

テキスト / Textbooks

上記にも示したアプリをダウンロード(有料)していただき、検定試験に向けてトレーニングをしていただきます。

参考文献 / Readings

その他 / Others

簿記を初めて勉強される方も多いはずですが、心配しないで、まずは授業に参加して講義を聴き、決算書の作り方をマスターしてください。初級そして3級は合格できるはずですし、関心が出てきた方は2級にチャレンジするなどしてください。

観光地経営論

Destination Management

持続可能な地域のための地域観光をプランニングする

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA375

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

あなたがもし観光客が大幅に減少し衰退してしまった温泉地の再生を手掛けたら？あなたがもし過度な観光地化によって住民の生活に影響が生じている観光地の問題解決を考えなくてはならなかったら？

本講義では、持続可能な観光地域の発展のために必要な観光地全体のマネジメント、すなわち「観光地経営」の考え方とその推進にあたって必要な方法論について学ぶものである。

Imagine that you are to revitalize a hot spring resort. Imagine that you are a manager of a destination with over-tourism problem. What will you do for the destination?

This course will discuss the methodology of destination management for the sustainable

授業の内容 / Course Contents

現在の日本国内の観光地が置かれた状況を、歴史的な視点から俯瞰し、観光地という単位でのマネジメントが求められるようになっていくことを理解する。その上で、観光地経営に求められる視点と、観光地経営の地区スケールの計画論としての「地域観光プランニング」のアプローチを概説する。理論と事例の双方から講義を行っていく。

なお、いわゆるマーケティング的な「経営論」とは一線を画す講義であり、地域づくりや観光まちづくりに主眼を置いている。

Students will understand historical development of destination management in Japan. After that the methodology of "sustainable destination planning approach" will be discussed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー観光地のマネジメントとは
- 2回：観光地経営の全体像
- 3回：地域特性と資源の把握 ①
- 4回：地域特性と資源の把握 ②
- 5回：地域特性と資源の把握 ③
- 6回：観光体験・空間体験の構想と創造①
- 7回：観光体験・空間体験の構想と創造②
- 8回：将来の理想を描くビジョンと個別事業の検討①
- 9回：将来の理想を描くビジョンと個別事業の検討②
- 10回：レポート課題の発表
- 11回：雇用創出と経済の域内循環
- 12回：観光地経営の推進組織形成と財源
- 13回：観光地経営を支える行政の制度・政策
- 14回：全講義の振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から観光地に関するニュースや興味深い事例を集めておく習慣をつけること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:10% 授業内ディスカッション参加度:20% レポート課題
1:30% レポート課題 2:40%

テキスト / Textbooks

講義中に適宜案内する

参考文献 / Readings

日本交通公社 観光地経営の視点と実践 丸善出版者 2019 9784621303849

観光地づくり

Destination Planning

JTBF、調査研究・コンサルティング業務の現場から

菅野 正洋 (KANNO MASAHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA377
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 公益財団法人日本交通公社寄付講座

授業の目標 / Course Objectives

主に当財団が関わった全国各地での実践例から観光地づくりの要諦を具体的に学び、観光地づくりの知識と関心をより深める。

Students will learn the essentials of destination planning mainly from examples of different places where JTBF has been concerned. And students develop the knowledge and interest in creating tourist destinations.

授業の内容 / Course Contents

国・自治体の「観光地づくり」に関する政策等を丁寧に解説する。また、近年、当財団の関わった代表的な調査業務から、研究員が実務の現場の最新情報や、観光地や旅行・観光産業に関わる調査研究業務の実際について詳説する。

We will carefully explain to the students the policies of the national and local governments regarding the destination planning. In addition, we will focus on details the typical consulting work that JTBF researchers recently worked on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光市場の動向
- 3回：観光産業の動向
- 4回：観光政策の変遷
- 5回：観光計画・ビジョン
- 6回：観光地マネジメント
- 7回：観光財源
- 8回：観光地のマーケティング・ブランディング
- 9回：観光消費と地域への経済効果
- 10回：資源の保全と活用（自然系）
- 11回：資源の保全と活用（人文系）
- 12回：危機管理・レジリエンス
- 13回：観光による復興
- 14回：観光地を取り巻く社会環境の変化

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

我が国および海外の直近の観光の現状について関心を持ち、インターネットやニュース等を通じて情報収集しておくこと。また前回の内容をよく復習して講義に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :72%

平常点割合 :28% 各授業時のコメントシート等の提出:28%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

公益財団法人日本交通公社 旅行年報 公益財団法人日本交通公社

公益財団法人日本交通公社 観光文化 公益財団法人日本交通公社

公益財団法人日本交通公社 観光地経営の視点と実践 第2版 丸善出版 20190401

※上記のうち、「旅行年報」「観光文化」は、当財団ホームページ（<https://www.jtb.or.jp/>）上にて全文公開している。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

説明資料等は基本的にすべて Canvas LMS を通じて配布することとしており、授業内で紙の資料は配布しない予定である。授業当日にも資料を教室前方のスクリーンに投影するが、手元で見たい場合には適宜 PC やタブレット等を準備されたい。

その他 / Others

公益財団法人日本交通公社 Web サイト

<https://www.jtb.or.jp/>

ホテル経営論

Hotel Management

杉山 起良 (SUGIYAMA KIYOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA385
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスの構造や特性について理解するとともに、ホテル経営に関する基礎知識から経営分析・戦略立案についてのスキル取得を目的とします。

The purpose of this study is to understand the structure and characteristics of the hotel business, and to acquire skills in management analysis and strategy planning based on basic knowledge of hotel management.

授業の内容 / Course Contents

本講座ではホテルビジネスに必要な基礎知識や特徴から損益計算書の分析及び経営戦略について講義します。また宿泊・レストラン・宴会（婚礼・一般）の収益構造やホテル業と不動産業の両面から見たホテルビジネスの課題について講義します。

In this course, we will lecture on analysis of profit and loss statements and management strategies based on basic knowledge and characteristics necessary for hotel business. In addition, we will lecture on the profit structure of accommodation, restaurants, banquets (weddings, general) and problems in the hotel business from both the hotel industry and real estate industry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、本講座の目的およびスケジュール解説
- 2回：ホテルビジネス概論
- 3回：ホテルビジネスの基礎知識（宿泊）
- 4回：ホテルビジネスの基礎知識（レストラン）
- 5回：ホテルビジネスの基礎知識（婚礼宴会）
- 6回：ホテルビジネスの基礎知識（一般宴会）
- 7回：ホテル損益の基礎知識
- 8回：ホテル損益計算書の分析
- 9回：ホテル視察
- 10回：ゲストスピーカー講義
- 11回：ホテル開発
- 12回：ホテル会計
- 13回：危機管理・SDGs
- 14回：ホテルと地域経済

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ホテルに関連するニュースや話題に日ごろから関心を持ち情報収集したり、経営者の視点で実際にホテルを利用してみるなど積極的に取り組むことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーなど:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

ホテル視察、ゲストスピーカー講義は予定であり、時期を含め変更となることがあります。

ホテルアセットマネジメント論

Hotel Asset Management

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA386
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ホテルアセットマネジメントの目的、業務領域、および手法を理解する
 - 外資系ホテルオペレーター、デベロッパー、ホテル投資家で働く際に必要なホテル経営学のフレームワークを実践できる素養を身に付ける
- This course outlines purpose, business field, and the way of conduct of hotel asset management.
 - Course participants are expected to learn basic knowledge of hotel management which is required at international hotel operators, developers, and hotel inv

授業の内容 / Course Contents

ホテルアセットマネジメントとは、（オペレーター/総支配人ではなく）ホテルオーナーにおける収益と不動産の管理を行なう業務を指す。ホテルアセットマネジャーは総支配人を代表とするホテルオペレーターと協力してホテルの資産価値向上を目指す。本講ではホテルアセットマネジメントに関する以下の項目につき講義を行なう

- 導入環境
- 業務領域

3. ホテルアセットマネジャーの資質
4. ホテルアセットマネジメントを実行するためのフレームワーク
5. 不動産投資ストラクチャーおよび資産価値評価手法

Hotel Asset Management is to manage profits and real estate of a hotel together with the hotel operator led by General Manager in charge. A hotel asset manager aims to increase the hotel asset value with the operator. This course is designed to pick up the following topics in the lecture:

1. The management environment where hotel asset management can be introduced
2. Business fields of hotel asset management
3. Required skill-set for hotel asset managers
4. Frameworks used for hotel asset management
5. Real Estate Investment Structure and asset valuation methods

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ホテルアセットマネジメントとは何か 1
- 2 回：ホテル事業における運営・経営・所有の分離
- 3 回：ホテルアセットマネジャーの帰属先と守備範囲
- 4 回：ゲストスピーカー招聘
- 5 回：ユニフォームシステム会計
- 6 回：KPI 分析
- 7 回：予算管理
- 8 回：ゲストスピーカー招聘
- 9 回：マーケティングレビュー
- 10 回：修繕・改装・リブランディング
- 11 回：ファイナンス
- 12 回：コンプライアンスとリスクマネジメント
- 13 回：買収と売却
- 14 回：ホテルアセットマネジメントとは何か 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 小テスト:30% レポート:40%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910 ○

参考文献 / Readings

- グレッグ・デントン他 ホテルアセットマネジメント 立教大学出版会 2014 9784901988261
仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信 ホテル・ビジネス・ブック第2版 中央経済社 2016 9784502181412
日本ホスピタリティ・アセットマネージャー協会（HAMA Japan） 資産価値向上のためのホテルアセットマネジメント実務資料集 総合ユニコム 2023 9784881507735

その他/ Others

- 1.講義はレクチャー型を基本とする
- 2.適宜、業界のプレイヤーをゲストスピーカーとして招致し、講義内容の補完を行なう
- 3.講義資料は毎回講師によって作成・配布され、その資料は講義中にプロジェクターで表示される
- 4.知識の定着および思考能力の向上を目指し、適宜受講生との質疑応答ならびに小テストを実施する
- 5.講義内容には会計分野の知識が必要となる部分があるが、未履修者向けの説明を加える
- 5.本講受講にあたり、HA352「宿泊産業論」の事前受講を推奨する（必須ではない）

旅行産業論

Travel Industry

(前半) 旅行産業の現状と課題、環境変化への対応、将来展望の考察

(後半) 未来のツーリズムと新たなビジネスチャンスの提示

風間 欣人 (KAZAMA YOSHIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA387

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

将来、旅行産業・観光産業において経営者など中核的な役割を担う「人財」の育成を目標として、旅行産業・観光産業の事業戦略の概要、現状と課題、環境変化への対応、将来への展望などを講義する。そして事業を担当する第一線で活躍する事業責任者・実務責任者がメッセージを直接伝えることで「ビジネスの面白さ」「情熱」を直に学んでもらうのと同時に実社会の職業観、社会観も提示し、就活や今後の社会人として必須の心得・考え方も体得してもらう。

With the goal of developing "Human Resources" who will play key roles as managers in the travel and tourism industry in the future, this course aims to provide participants with an understanding of the business strategies, current status and issues, respo

授業の内容 / Course Contents

観光（ツーリズム）産業は「21世紀の基幹産業」と謳われているが、新型コロナウイルスによって大きな打撃を受け、「観光産業に未来はあるのか?」「将来、観光産業に就職しても大丈夫だろうか?」など疑問や不安を

感じる皆さんも多いことであろう。

本コースでは以上の疑問に対する解として、コース前半では、コロナの影響から回復フェーズにある旅行産業を取り上げ、旅行産業の現状と課題及び将来展望を実例・実態を踏まえながら講義する。日本最大の旅行会社であるJTBグループの経営者、実務責任者が直接解説し、JTBグループの事例をもと

The tourism industry is touted as "the key industry of the 21st century," however, it has been devastated by the new coronavirus. Does the tourism industry have a future? "Will I be able to find a job in the tourism industry in the future?" I am sure that many students are concerned about the future of the tourism industry.

In the first half of the course, to answer the above questions, the course will focus on the travel industry in its recovery phase from the impact of COVID-19, and lecture on the current situation, challenges, and future prospects of the travel industry based on actual examples and realities. The course will be directly explained by executives/core personnel of the JTB Group, Japan's largest travel agency, and will examine issues related to each business, responses to social environmental changes, new trends and business opportunities in the post-coronavirus era, and future prospects based on case studies of the JTB Group. The last half of the course, entitled "Future Tourism and New Business Opportunities," will focus not only on the traditional players in the tourism business, but also on the new business opportunities that will be created by combining tourism with various peripheral industries and local resources, such as adventure, sports, guided tours in the famous tunnels, food, and entertainment. By doing this, participants will learn about the broad scope of tourism and how to solve regional issues through combination.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス講義
- 2回：旅行事業（個人旅行・店頭販売）
- 3回：旅行事業（オンライントラベル・Web販売）
- 4回：アドベンチャー×ツーリズム（アドベンチャーツーリズムによる地域活性化）
- 5回：旅行事業（法人旅行・教育旅行・地域交流事業）
- 6回：エリアソリューション事業（エリア開発・着地型事業）
- 7回：ビジネスソリューション事業（法人ソリューション）
- 8回：ビジネスソリューション事業（ビジネストラベル）
- 9回：訪日インバウンド事業
- 10回：スポーツ×ツーリズム（スポーツ・ツーリズム）
- 11回：トンネル×ツーリズム（トンネルからインフラツーリズム、地域活性化へ）
- 12回：食×ツーリズム（ガストロノミー・ツーリズムによる地域活性化）
- 13回：エンターテインメント×ツーリズム（エンターテインメント手法を用いた地域活性化）
- 14回：理解度の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席・授業への取り組み:30% リアクションペーパーの内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師のスケジュール都合により講義内容が前後する場合がある。

経営財務論

Management Finance

西山 健介 (NISHIYAMA KENSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA389
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、経営財務に関する多様な視点から企業分析を試みることにより、企業の財務諸表の見方や経営理論の基礎知識を習得し、実際の企業の分析力を高めることを目標とする。

This course aims for students to learn how to examine corporate financial statements and to acquire basic knowledge on management theory by attempting to analyze companies from diverse managerial/financial-related perspectives, thereby improving their abi

授業の内容 / Course Contents

授業では、企業の財務諸表の見方、経営理論、分析手法などについて解説する。

その際、観光関連企業を中心に、具体事例、ニュース、記事、話題を取り上げながら進めていく。

後半では、CSR、リスクマネジメント、コーポレートガバナンスなど、経営財務に関する比較的新しいトピックについても解説していく。

This course covers ways to examine corporate financial statements, management theory, and analysis methods, among other topics. Case examples of companies, news reports, and various other relevant topics are discussed.

The latter half of the course covers relatively recent topics related to management and finance, such as

consolidated financial management,, corporate social responsibility (CSR), risk management, and corporate governance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：企業の財務諸表と財務データの活用について解説を行う。
- 3回：企業の収益性分析について解説を行う。
- 4回：企業の安全性分析について解説を行う。
- 5回：企業のキャッシュフロー分析について解説を行う。
- 6回：企業のマクロ環境分析・セグメント分析について解説を行う。
- 7回：企業の価値関連情報について解説を行う。
- 8回：企業の審査について解説を行う。
- 9回：企業のCSRについて解説を行う。
- 10回：企業のリスクマネジメントについて解説を行う。
- 11回：企業のコーポレートガバナンスについて解説を行う。
- 12回：企業のCSR報告書、統合報告書について解説を行う。
- 13回：まとめ
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義中に必要な情報収集を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度(課題提出状況などを含む)(複数回):60% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034 ○

講義中に資料を配布する。

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034

講義中に紹介する。

旅行産業演習 1 (A)

Travel industry seminar 1(A)

2階建てオープントップバス「スカイバス」を使ったナイトタイムエコノミー（夜間経済）活性化を目的とした商品企画及び販売促進策策定

風間 欣人 (KAZAMA YOSHIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA393

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

新型コロナウイルスから回復ステージにある観光及び旅行の現場で起きている実態・課題に触れ、実務を通じ課題解決の方策や取り組み方を自ら考えることで、卒業後のそれぞれの現場で役立つ「環境変化に対応できる実践的なものの見方や考え方及び社会人としての必須のスキル」を身につける。

This course offers a hands-on learning experience, particularly tailored to meet the distinct challenges faced by the tourism and travel industry in its post-COVID-19 recovery phase. By thinking about how to solve these challenges and how to tackle them t

授業の内容 / Course Contents

21世紀のリーディング産業と言われる観光（ツーリズム）産業は、現在、新型コロナウイルスによって生じた課題を乗り越え、回復局面に向かっている。また、国内外の抱える社会課題解決の手段として観光の果たす役割は大きく、注目度も高い。当演習では「社会課題の解決手段としての観光（訪日インバウンド領域含む）」に主眼を置き、コロナを乗り越え、観光を通じ社会課題を解決する旅行商品開発や販売促進策についてグループ

討議を通じ検討する。

各テーマに関する基礎的な知識や具体的な事例を紹介する「講義」、講義を踏まえ少人数グループで

Tourism, heralded as a pivotal industry of the 21st century, is currently navigating its resurgence following the challenges posed by the COVID-19 pandemic. This sector is garnering significant interest for its crucial role in addressing social issues both in Japan and internationally.

Our course will explore tourism as an instrument for resolving local social challenges, including inbound tourism. Participants will engage in group discussions focused on developing travel products and devising sales strategies tailored for the post-pandemic era, aiming to contribute to the resolution of societal issues through tourism.

The course is structured in three integrated phases: "Lecture" providing foundational knowledge and specific case studies on the topic, "Group Discussion" to further explore the lecture material, and "Presentation and Review".

We are planning course designs and sales promotion strategies to revitalize the nighttime economy in Tokyo using double-decker, open-top buses (Sky Buses).

The objective is to actively engage in product planning that addresses issues such as revitalizing the nighttime economy and mitigating the severe summer heat in Tokyo.

This course aims to let participants reach a level where they can actually work on product planning, then sell it to the market as travel products.

Once it is decided to launch these products in the market, we will explore various promotion strategies, including issuing Press Releases and utilizing social media for marketing purposes.

Through these activities, participants will acquire not only planning and proposal skills, but also practical and essential skills as businesspersons, such as teamwork and presentation skills.

As fieldwork, Sky Bus nighttime tour in Tokyo will be conducted on May 12th (Sunday).

Attendance at the fieldwork is strongly recommended.

Students are required to take the fall semester course "Travel Industry Seminar 1 (B)" consecutively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

自己紹介・グループ分け

講義：訪日インバウンド、スカイバスの事業概要説明及び商品企画・販売促進策策定に当たってのアドバイス

2回：講義：観光協会・観光施設からのナイトタイムエコノミー促進のプレゼンテーション

3回：グループ討議：スカイバスの商品企画、販売促進策

4回：グループ討議：スカイバスの商品企画、販売促進策

5回：グループ討議：スカイバスの商品企画、販売促進策

6回：グループ討議：スカイバスの商品企画、販売促進策

7回：中間発表：スカイバスの商品企画、販売促進策発表・講評

8回：グループ討議：スカイバスの商品企画、販売促進策

9回：グループ討議：スカイバスの商品企画、販売促進策

10回：最終発表：スカイバスの商品企画、販売促進策発表・講評

11回：グループ討議：ニュースリリース案作成

※販売が決まった際に必要となるニュースリリース（広報発表）案を作成する。

12回：発表・全体討議：ニュースリリース案発表

13回：全体討議・グループ討議：スカイバスの販売促進策・ガイドシナリオ検討

※SNSを活用した実際の販売促進策、バス観光地の（車窓からの）ガイドシナリオを作成する。

14回：全体討議・グループ討議：スカイバスの販売促進策・ガイドシナリオ検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

ゲスト講師のスケジュール都合により講義内容が前後する場合がある。

旅行産業演習 1 (B)

Travel industry seminar 1(B)

(前半) SDGs × 観光まちづくり：茨城県 行方市の地域活性化プランの作成

(後半) 音声アプリ「エモリップ」を利用した街歩き企画作成

風間 欣人 (KAZAMA YOSHIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA394

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

新型コロナウイルスから回復ステージにある観光及び旅行の現場で起きている実態・課題に触れ、実務を通じ課題解決の方策や取り組み方を自ら考えることで、卒業後のそれぞれの現場で役立つ「環境変化に対応できる実践的なものの見方や考え方及び社会人としての必須のスキル」を身につける。

This course offers a hands-on learning experience, particularly tailored to meet the distinct challenges faced by the tourism and travel industry in its post-COVID-19 recovery phase.

By thinking about how to solve these challenges and how to tackle them t

授業の内容 / Course Contents

21 世紀のリーディング産業と言われる観光（ツーリズム）産業は、現在、新型コロナウイルスによって生じた課題を乗り越え、回復局面に向かっている。また国内外の抱える社会課題解決の手段として観光の果たす役割は大きく、注目度も高い。当演習では「地域の社会課題の解決手段としての観光」に主眼を置き、社会課題、特に「SDGs × 観光まちづくり」をテーマとし、カードゲームやグループ討議を通じ検討する。このことはポ

ストコロナにおける観光の果たす意義・役割としても重要なテーマである。

各テーマに関する基礎的な知識や具体的な事例を

Tourism, heralded as a pivotal industry of the 21st century, is currently navigating its resurgence following the challenges posed by the COVID-19 pandemic. This sector is garnering significant interest for its crucial role in addressing social issues both in Japan and internationally.

The main focus of this course will be on "tourism as a means of solving local social issues." The theme of social issues, especially "SDGs and tourism town planning," will be discussed through card games and group discussions. This is also an important theme in terms of the significance and role of tourism in the post-Corona era.

The class will consist of four steps: "Lecture" to introduce basic knowledge and specific examples of each theme, "Card Game" to learn about the theme in a fun and lively atmosphere, "Group Discussion" to discuss the lecture topics in small groups, and "Presentation and Review".

The first half will focus on "SDGs and tourism town planning: Creation and proposal of a regional development planning for Namegata City of Ibaraki Prefecture," while the last half will focus on "Planning and proposal of a town walking guide using the voice application "Emorip"".

Instead of past case studies, the participants will work on real cases in real time, formulate local revitalization plans that connect tourism/travel with solutions to social issues, and actually give their presentation to Namegata City and HAKUHODO Inc. Through these activities, participants will acquire not only planning and proposal skills, but also practical and essential skills as businesspersons, such as teamwork and presentation skills.

On Sunday September 29, fieldwork (one-day trip to Namegata City) will be conducted.

Attendance at the fieldwork is strongly recommended.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス及び講義：行方市の観光面における現状と課題
- 2 回：カードゲーム：「SDGs ×観光まちづくり」ビジネスカードゲーム
※カードゲームを行いながら「観光まちづくり」について学習する
- 3 回：講義：カードゲームの振り返りと観光まちづくりを考えるワークショップ
- 4 回：グループ討議：行方市の観光まちづくりプラン
- 5 回：グループ討議：行方市の観光まちづくりプラン
- 6 回：グループ討議：行方市の観光まちづくりプラン
- 7 回：中間発表：行方市の観光まちづくりプラン発表とレビュー
- 8 回：グループ討議：行方市の観光まちづくりプラン
- 9 回：グループ討議：行方市の観光まちづくりプラン
- 10 回：最終発表：行方市の観光まちづくりプラン発表とレビュー
- 11 回：講義：音声アプリ「エモリップ」を使った街歩き企画
- 12 回：グループ討議：エモリップを使った街歩き企画作成
- 13 回：グループ討議：エモリップを使った街歩き企画作成
- 14 回：最終発表：エモリップを使った街歩き企画発表とレビュー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表 : グループ発表 :○ ディスカッション・ディベート :
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :○
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

宿泊産業演習 1 (A)

Lodging Industry Seminar 1(A)

日本の優良宿泊事業会社、特に星野リゾートを研究することによって、宿泊施設経営における高収益達成手法や理論を学ぶ

This course is designed to learn lodging business management for high performance and related logics through case studies over Japanese blue-chip lodging companies, especially Hoshino Resorts.

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA395

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ホテル経営に興味を持つ学部生を対象とし、主に星野リゾートに関する記事・開示資料の読解を通じて、日本における宿泊施設経営課題ならびに欧米流の経営手法を学ぶ
- 学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
- Participants are expected to touch on frameworks used in a MBA course and to acquire viewpoints of a manager, rather than just a rank-and-file.
- This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and focuses on hot

授業の内容 / Course Contents

●レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営における実学を学ぶ

●This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker sessions with Q&A dialogue to learn real business issues of lodging business.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：自己紹介とプレゼンテーションスキル確認
- 3回：マーケティング1
- 4回：マーケティング2
- 5回：マーケティング3
- 6回：ゲストスピーカー1
- 7回：テクノロジー1
- 8回：テクノロジー2
- 9回：人材管理1
- 10回：人材管理2
- 11回：ゲストスピーカー2
- 12回：損益管理1
- 13回：損益管理2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 質疑応答:40% 小テスト:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

- 資料の読み合わせやグループワークが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- 欠席の際は、必ず指導教官に連絡をいれること
- 指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- 受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある

宿泊産業演習 1 (B)

Lodging Industry Seminar 1(B)

日本の優良宿泊事業会社、特に星野リゾートを研究することによって、宿泊施設経営における高収益達成手法や理論を学ぶ

This course is designed to learn lodging business management for high performance and related logics through case studies over Japanese blue-chip lodging companies, especially Hoshino Resorts.

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA396

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ホテル経営に興味を持つ学部生を対象とし、主に星野リゾートに関する記事・開示資料の読解を通じて、日本における宿泊施設経営課題ならびに欧米流の経営手法を学ぶ
- 学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
- This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and focuses on hotel management issues in Japan, and management methods adopted by international hotel operators, through reading articles and disclosure documents

授業の内容 / Course Contents

- レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講話と

質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営における実学を学ぶ

●This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker sessions with Q&A dialogue to learn real business issues of lodging business.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ファイナンス1
- 2回：ファイナンス2
- 3回：ホテルアセットマネジメント
- 4回：星野リゾートリート開示資料1
- 5回：星野リゾートリート開示資料2
- 6回：星野リゾートリート開示資料3
- 7回：星野リゾートリート開示資料4
- 8回：ゲストスピーカー1
- 9回：星野リゾートリート関連記事1
- 10回：星野リゾートリート関連記事2
- 11回：ゲストスピーカー2
- 12回：グループワーク1
- 13回：グループワーク2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 質疑応答:40% 小テスト:30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

- 資料の読み合わせやグループワークが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- 欠席の際は、必ず指導教官に連絡をいれること
- 指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- 受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある

旅行産業演習 2 (A)

Travel industry seminar 2(A)

訪日インバウンド向け旅行商品「サンライズツアー」企画造成

風間 欣人 (KAZAMA YOSHIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA397

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

コロナ前を上回る勢いで成長を続けている訪日インバウンド事業の現場で起きている実態・課題に触れ、実務を通じ、課題解決の方策や取り組み方を自ら考えることで、卒業後のそれぞれの現場で役立つ「環境変化に対応できる実践的なものの見方や考え方及び社会人としての必須のスキル」を身につける。

This course is meticulously designed to offer a comprehensive insight into the evolving landscape and the multifaceted challenges of Japan's inbound tourism sector, currently witnessing growth that surpasses pre-pandemic levels.

By thinking about how to s

授業の内容 / Course Contents

訪日インバウンドは、需要がコロナ前を完全に上回り、我が国の観光が取り組むべき最重要テーマとなっている。当演習では、「訪日インバウンド向け旅行商品企画」を取り上げ、企画・造成・販促の実務に実際に取り組み、旅行商品としてマーケットに販売できるレベルを目指す。特にポストコロナを意識した「安心・安全」「オーバーツーリズム対策」及び「サステナビリティ」という観点からの企画開発がポイントとなる。

訪日・在日外国人向け着地型パッケージツアー「SUNRISE TOURS（以下サンライズツアー）」の新しいコースをJTBグ

Inbound tourism to Japan has completely surpassed its pre-COVID levels, becoming the most important theme for our country's tourism sector to address. In this course, we will delve into 'Inbound Travel Product Planning', actively participating in product planning, development, and sales plan. Our goal is to reach a proficiency where travel products are not only conceptualized but also market-ready. A pivotal aspect of this course will be the formulation and refinement of travel products with an emphasis on 'safety and security', effective 'overtourism management', and 'sustainability'. These considerations are particularly crucial in the evolving landscape of the post-COVID era.

Under the guidance of the planning manager and staff of JTB Global Marketing & Travel (JTB GMT), participants will work on product planning, development, and sales plan creation for a new course of SUNRISE TOURS, an optional tour, for inbound travelers and foreigners living in Japan. If the new courses planned and developed here are judged to have reached a certain level, they will be sold as actual products through overseas travel agencies and JTB GMT's sales website. In addition, participants will learn practical and essential skills as businesspersons, such as teamwork and presentation skills.

On Sunday May 26, fieldwork will be conducted in cooperation with the company (one-day Sunrise Tour course: Fuji-Hakone Tour).

In addition, in July, we will conduct a fieldwork experience for nighttime economy content aimed at inbound tourists visiting Japan, which will be a day trip in the Tokyo.

Attendance at the fieldwork is strongly recommended.

Students are required to take the fall semester course "Travel Industry Seminar 2 (B)" consecutively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義：ガイダンス、自己紹介、グループ分け、訪日インバウンドの基礎知識
- 2回：講義：サンライズツアーの概要
- 3回：講義：サンライズツアーの商品企画造成に当たってのアドバイス
- 4回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 5回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 6回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 7回：講義：フィールドワークの振り返り及びオーバーツーリズム対策、サステナビリティを意識した商品作り
- 8回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 9回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 10回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 11回：中間発表：サンライズツアーの商品企画造成案発表とレビュー
- 12回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 13回：グループ討議：サンライズツアーの商品企画造成
- 14回：最終発表：サンライズツアーの商品企画造成案発表とレビュー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワポ等）の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表 : グループ発表 :○ ディスカッション・ディベート :
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :○
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

旅行産業演習 2 (B)

Travel industry seminar 2(B)

訪日インバウンド・ショッピングツーリズムの提言策定

風間 欣人 (KAZAMA YOSHIHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA398

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

新型コロナウイルスから回復ステージにある観光及び旅行の現場で起きている実態・課題に触れ、実務を通じ、課題解決の方策や取り組み方を自ら考えることで、卒業後のそれぞれの現場で役立つ「環境変化に対応できる実践的なものの見方や考え方や社会人としての必須のスキル」を身につける。

This course offers a hands-on learning experience, particularly tailored to meet the distinct challenges faced by the tourism and travel industry in its post-COVID-19 recovery phase.

By thinking about how to solve these challenges and how to tackle them

授業の内容 / Course Contents

我が国の観光の現状において取り組むべき重要なテーマは数多くあるが、春学期の演習に引き続き最重要テーマである「訪日インバウンド」を取り上げ、グループ討議を通じ検討する。

テーマに関する基礎的な知識や具体的な事例を紹介する「講義」、講義を踏まえ少人数グループでディスカッションを行う「グループ討議」、グループ毎に検討した結果の「発表・講評（発表に対し現場のプロによる講評を行う）」という3つのステップを1セットとして授業展開する。検討テーマとしては、訪日インバウンドにおい

て日本を体験できる最大のコンテンツである「

Although there are many important issues that need to be tackled regarding the current situation of tourism in Japan, in this course, as a continuation of the topic in the spring semester, we will focus on the most critical issue: "Inbound tourism to Japan" through group discussions.

The course consists of three steps conducted as one set: "Lecture" that introduces basic knowledge and specific examples for the topic, "Group Discussion" to discuss the lecture topics in small groups, and "Presentation and Review".

As specific topics for investigation, we plan to focus on 'Shopping', the most important activity for foreign tourists to experience Japan, and intend to create a proposal for 'Inbound Shopping Tourism in Japan'. Rather than just a case study of past examples, participants will work on an actual case in real time to create a business plan that connects tourism/travel and solutions to social issues, then present it to the companies and organizations affiliated with the Japan Shopping Tourism Organization.

Through these activities, participants will acquire not only planning and proposal skills, but also practical and essential skills as businesspersons, such as teamwork and presentation skills.

The best group in the final presentation will have the opportunity to make a presentation at the Japan Shopping Tourism Organization seminar (date to be determined).

On Sunday October 6, fieldwork (one-day trip in Tokyo) will be conducted.

Attendance at the fieldwork is strongly recommended.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス及び訪日インバウンドマーケットと訪日インバウンド・ショッピングツーリズムの最新動向

2回：講義：訪日インバウンド・ショッピングの現状と課題

3回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

4回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

5回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

6回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

7回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

8回：中間発表：訪日インバウンド・ショッピングツーリズムの提言案発表とレビュー

9回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

10回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

11回：壁打ち：提言案の整理

12回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

13回：グループ討議：訪日インバウンド・ショッピングの提言案

14回：最終発表：訪日インバウンド・ショッピングツーリズムの提言案発表とレビュー

※最優秀班はジャパンショッピングツーリズム協会のセミナーにて発表予定（日程未定）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○

上記いずれも用いない予定　：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に随時指示・紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合　:100%　出席・活動状況とグループ討議や発表での主体性・貢献度:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

宿泊産業演習 2 (A)

Lodging Industry Seminar 2(A)

ホテル経営の失敗事例や課題解決手法の学習、および、ケースに基づく経営改善策の立案

Study on failure cases of hotel management and methods to overcome challenges, as well as management turnaround planning based on actual cases.

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA399

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. ホテル経営に興味を持つ学部生を対象として、日本におけるホテル経営環境、経営課題、欧米流の経営手法を学ぶ
2. 学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける

1.This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and focuses on hotel management environment in Japan, management issues, and management methods adopted by international hotel operators.

2.Participants are expected

授業の内容 / Course Contents

レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、および業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講

話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営の実学を学ぶ

This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker invitation with Q&A session to learn real business issues of lodging business.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーションと自己紹介
- 2回：失敗に学ぶとはどういうことか
- 3回：ケース 1:吉野家、ヒルトンホテル in 1930
- 4回：ケース 2
- 5回：ケース 3
- 6回：ケース 4
- 7回：ゲストスピーカー1
- 8回：ケース 5
- 9回：ケース 6
- 10回：ケース 7
- 11回：ケース 8
- 12回：ケース 9
- 13回：ゲストスピーカー2
- 14回：まとめ、最終課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 質疑応答:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ゼミ学習の効果をあげるために、受講生人数を10名程度に制限する予定である
- 資料の読み合わせ、プレゼンテーション、グループワークなどが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- 指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- 受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある

宿泊産業演習 2 (B)

Lodging Industry Seminar 2(B)

ホテル経営の失敗事例や課題解決手法の学習、および、ケースに基づく経営改善策の立案

Study on failure cases of hotel management and methods to overcome challenges, as well as management turnaround planning based on actual cases.

沢柳 知彦 (SAWAYANAGI TOMOHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA400

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ホテル経営に興味を持つ学部生を対象として、日本におけるホテル経営環境、経営課題、欧米流の経営手法を学ぶ
 - 学部生のうちから MBA 的フレームワークに触れることで、単に業務をこなすだけではない、経営学視点を身に付ける
- 1.This course is designed for undergraduate students who are interested in hotel management, and focuses on hotel management environment in Japan, management issues, and management methods adopted by international hotel operators.
- 2.Participants are expected

授業の内容 / Course Contents

レクチャー、グループワーク、プレゼンテーション、および業界のプレイヤーを招いてのゲストスピーカー講

話と質疑応答を織り交ぜ、宿泊事業経営の実学を学ぶ

This course consists of lectures, group works, presentations, and guest speaker invitation with Q&A session to learn real business issues of lodging business.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ケース 1 0
- 2回：ケース 1 1
- 3回：ケース 1 2
- 4回：ケース 1 3
- 5回：ケース 1 4
- 6回：ゲストスピーカー 3
- 7回：フィージビリティスタディ 1
- 8回：フィージビリティスタディ 2
- 9回：ゲストスピーカー 4
- 10回：グループワーク 1
- 11回：グループワーク 2
- 12回：グループワーク 3
- 13回：プレゼンテーション
- 14回：まとめ、最終課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行なわれる

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 質疑応答:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

沢柳知彦 もてなしだけではもう食えない オータパブリケーションズ 2021 9784903721910 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ゼミ学習の効果をあげるために、受講生人数を10名程度に制限する予定である
- 資料の読み合わせ、プレゼンテーション、グループワークなどが多いため、毎回出席し、発言することが期待されている
- 指導教員に指示された課題を調べるため、スマートフォンもしくはノートパソコンの持参が推奨される
- 受講生の理解進捗度に応じ、授業計画の順番は前後もしくは変更されることがある

宿泊ビジネスプロジェクト 1 (A)

Lodging business project1(A)

ホテル業界の構造、宿泊ビジネスの実際を実践的に学ぶ

近藤 寛和 (KONDO HIROKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA405

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ（プロフェッショナルホテルビジネスマン）にとって必要な要素を考えます（旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます）。知識（ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など）とスキル（PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など）と考え方（ロジカルシンキング、ビジネス思考）を会得します。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット（思考と議論と活動）、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけでなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体における

ホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションはPCをフル活用し

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory (Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge will not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：自己紹介プレゼンテーション会
- 3回：ホテル業界入門講座①
- 4回：ホテル業界入門講座②
- 5回：ホテル業界入門講座③
- 6回：ホテル業界入門講座④
- 7回：ゲストスピーカー①
- 8回：ホテル業界入門講座⑤
- 9回：ホテル業界入門講座⑥
- 10回：ゲストスピーカー②
- 11回：フィールドワーク①
- 12回：グループディスカッション①
- 13回：ホテル業界入門講座⑦
- 14回：確認テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、ホテルのポータルサイト運営など

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 確認テスト:30% 出欠及び活動内容:70%

テキスト / Textbooks

近藤寛和 惚れるホテルを創る 愛されるホテリアたち オータパブリケーションズ 2021 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業計画は前後すること、変更することがあります。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

宿泊ビジネスプロジェクト1 (B)

Lodging business project1(B)

ホテル業界の構造、宿泊ビジネスの実践を実践的に学ぶ

近藤 寛和 (KONDO HIROKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA406

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS2200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ（プロフェッショナルホテルビジネスマン）にとって必要な要素を考えます（旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます）。知識（ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など）とスキル（PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など）と考え方（ロジカルシンキング、ビジネス思考）を会得します。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット（思考と議論と活動）、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけでなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体における

ホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションはPCをフル活用し

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory (Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge will not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ホテル業界入門講座⑧
- 2回：ホテル業界入門講座⑨
- 3回：ホテル業界入門講座⑩
- 4回：ゲストスピーカー③
- 5回：ホテル業界入門講座⑪
- 6回：ホテル業界入門講座⑫
- 7回：ホテルのマーケティング論
- 8回：ホテルの競争戦略論
- 9回：連載「とんがりホテル」オリエンテーション①
- 10回：連載「とんがりホテル」オリエンテーション②
- 11回：取材先選定ミーティング①
- 12回：取材先選定ミーティング②
- 13回：ホテルのポータルサイト運営ミーティング①
- 14回：ホテルのポータルサイト運営ミーティング②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、ホテルポータルサイト運営など

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 確認テスト：20% 出欠及び活動内容：70% 最終レポート割合：10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業計画は前後すること、変更することがあります。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

宿泊ビジネスプロジェクト2 (A)

Lodging business project2(A)

ホテル業界の構造、宿泊ビジネスの実際を実践的に学ぶ

近藤 寛和 (KONDO HIROKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA407

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ（プロフェッショナルホテルビジネスマン）にとって必要な要素を考えます（旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます）。知識（ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など）とスキル（PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など）と考え方（ロジカルシンキング、ビジネス思考）を会得します。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット（思考と議論と活動）、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけでなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体における

ホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションはPCをフル活用し

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge with not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：とんがりホテル 取材レポート
- 3回：講義「宿泊業界事情」
- 4回：ゲストスピーカー①
- 5回：宿泊関連プロジェクト ミーティング①
- 6回：とんがりホテル 取材レポート
- 7回：宿泊関連プロジェクト ミーティング②
- 8回：宿泊関連プロジェクト ミーティング③
- 9回：「ホテルのポータルサイト」運営①
- 10回：「ホテルのポータルサイト」運営②
- 11回：とんがりホテル 取材レポート
- 12回：宿泊関連プロジェクト ミーティング④
- 13回：とんがりホテル 取材レポート
- 14回：ゲストスピーカー②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、大学生ホテル運営など

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 確認テスト：20% 出欠及び活動内容：70% 最終レポート割合：10%

テキスト / Textbooks

近藤寛和 惚れるホテルを創愛されるホテリエたち オータパブリケーションズ 2021 9784903721903 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業計画は前後すること、変更することがあります。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

宿泊ビジネスプロジェクト2（B）

Lodging business project2(B)

ホテル業界の構造、宿泊ビジネスの実際を実践的に学ぶ

近藤 寛和（KONDO HIROKAZU）

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3200

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

ホテルビジネスに興味を持つ学生を対象に、ホテル業界の概要や内側の仕組み、ホテルエ（プロフェッショナルホテルビジネスマン）にとって必要な要素を考えます（旅館もホテルの一つのカテゴリーと捉えます）。知識（ホテル業界の概要、用語、企業、ブランド、ビジネス構造など）とスキル（PC、コミュニケーション、プレゼンテーション、文章など）と考え方（ロジカルシンキング、ビジネス思考）を会得します。

Aimed at students interested in the hotel business, providing an overview of the hotel industry and its internal structure, as well as necessary elements for the hotelier (professional hotel businessman) to consider. [Ryokan inns and hotels covered as one

授業の内容 / Course Contents

本演習は、①ホテル業界入門講座のレクチャー、②グループワーク、③プレゼンテーション、④フィールドワーク、⑤ゲストスピーカーとの交流という5つを繰り返して行ないます。つまり、インプット、スループット（思考と議論と活動）、アウトプット、コミュニケーションを何度もこなすことで知識を増やすだけでなく、スキルを伸ばし、本質から物事を考える癖をつけます。ビジネスとして宿泊業を捉え、観光産業全体における

ホテル・旅館事業の存在意義や価値を考えます。授業や事務連絡、プレゼンテーション、コミュニケーションはPCをフル活用し

This seminar will follow a format repeating these 5 interactions: 1. Hotel industry introductory (Lecture) 2. Group work 3. Presentation 4. Fieldwork 5. Interaction with guest speaker. That is, knowledge will not only increase through repetition of the inputs and throughputs (thoughts, discussions and activities), and communication output, but students will hone skills to understand the true nature of things. We will consider the accommodation industry as a business, examining the significance and value of existence of hotels and ryokan businesses throughout the tourism industry. Classes and office communications, and presentations are to make full use of PCs. In the fieldwork, we will be inviting an number of interesting guest speakers from the hotels we actually visit, including businessmen active on the frontline of the hotel industry, such as the manager and general managers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ホテル業界の就職・採用について①
- 2回：ホテル業界の就職・採用について②
- 3回：とんがりホテル 取材レポート
- 4回：チームプロジェクト「自分たちが考える『とんがりホテル』企画」①
- 5回：ゲストスピーカー
- 6回：チームプロジェクト「自分たちが考える『とんがりホテル』企画」②
- 7回：とんがりホテル 取材レポート
- 8回：チームプロジェクト「自分たちが考える『とんがりホテル』企画」③
- 9回：ゲストスピーカー
- 10回：チームプロジェクト「自分たちが考える『とんがりホテル』企画」④
- 11回：とんがりホテル 取材レポート
- 12回：チームプロジェクト「自分たちが考える『とんがりホテル』企画」⑤
- 13回：チームプロジェクト「自分たちが考える『とんがりホテル』企画」 発表会
- 14回：最終講義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ホテル見学、ホテル取材、ホテルのポータルサイト運営など

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 確認テスト：20% 出欠及び活動内容：70% 最終レポート割合：10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業計画は前後すること、変更することがあります。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

観光インターンシップ

Internship in Tourism

西川 亮／野原 克仁 (NISHIKAWA RYO/ NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA417
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 通年
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3100
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光インターンシップは、観光ビジネスや地域づくりの現場で実践的に学ぶプログラムです。旅行・ホテル・交通（航空・鉄道等）など、観光ビジネスを担う企業での就業体験や、全国各地の地域づくりの現場で様々な取り組みを体験し、観光を支える企業や地域の“現場力”を肌で感じることを大きなねらいとしています。

This Internship is a program to learn the practical, on-site tourism business and community activity. Through work experience in companies related to tourism, such as travel agency, hotels, transportation (airline, railway etc.), and seeing various effort

授業の内容 / Course Contents

観光インターンシップは、3年次の夏休みに行われる企業や地域での実習を中心として、事前の準備学習、事後のふりかえりと成果のまとめからなっています。春学期は、企業・業界研究や地域研究、社会人として身につけておくべきマナーや心構えの修得など、十分に準備をした上で夏休みの実習に臨みます。実習を終えた秋学期には、それぞれの体験をふりかえり、成果をまとめ、課題を共有していきます。こうしたプロセスを通じて、2年間観光学部で学んだことを実践の場に照らし合わせ、一層深めるとともに、自らのキャリア形成について考えながら、社会

This internship program consists of preliminary study program, retrospective review and summary of results, focusing on practical training in companies and regions during the 3rd year summer vacation period. The spring semester class prepares students for practical training during the summer vacation, following on from company and industry research, and area studies, learning the manners and attitudes that should be acquired entering the business person. In Fall semester, we will review each student's experience, summarize the results, and share issues with your classmates. Through such a process, we will highlight what was learned in College of Tourism over two years in practice, while deepening consideration on one's own career path, and identify issues to be studied from now on entering the society.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

(インターンシップの心構え、授業の進め方など)

2回：実習に向けた指導 (1)

3回：実習に向けた指導 (2)

4回：実習に向けた指導 (3)

5回：実習に向けた指導 (4)

6回：実習に向けた指導 (5)

7回：実習に向けた指導 (6)

8回：実習に向けた指導 (7)

9回：実習 1

10回：実習 2

11回：実習 3

12回：実習 4

13回：実習 5

14回：実習 6

15回：実習 7

16回：実習 8

17回：実習 9

18回：実習 10

19回：実習 11

20回：実習 12

21回：実習 13

22回：実習 14

23回：実習振り返り

24回：成果報告書指導 (1)

25回：成果報告書指導 (2)

26回：成果報告会リハーサル

27回：成果報告会

28回：成果報告書指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート :
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に対する意欲・参加態度、発表内容など:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

授業開始前に履修者の選考（書類審査・面接）を行います。

4月はじめのガイダンスで説明を行いますので、希望者は必ず参加してください。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

経団連インターンシップ

Keidanren Internship

西山 健介／佐藤 正弥／斎藤 明／松村 公明 (NISHIYAMA KENSUKE/ SATO MASAYA/SAITO AKIRA/ MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA418
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） オンライン1回程度
校地： 新座
学期： 通年
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3100
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 一般社団法人日本経済団体連合会寄付講座

授業の目標 / Course Objectives

観光産業及び関連事業分野で活躍する人材の育成を念頭に、学内での事前研修の後、企業での実務研修を行い、受講者の実社会への理解とキャリアに関する意識を深めることを目標とする。

With the development of human resources active in the tourism and related business fields in mind, after their university training, students will perform practical work experience in companies, in order to deepen their understanding of the real world and

授業の内容 / Course Contents

春学期は学内事前研修として実習の内容・意義のみならず、会社の歴史から現状までを企業派遣講師より直接学び、幅広い理解の下で実習志望先を決定する。実習を終えた秋学期においては報告会での発表やレポート作成を通じて本課程の成果を整理し、知識・経験の定着を図る。

During the spring semester, students will learn directly from company staff as guest lecturers, from the company's history to the current situation, as well as the contents and significance of practical training, so students can understand a broad selection of training opportunities. In the fall semester when the training is

finished, students will collect the results in a presentation and report, with the aim of gaining knowledge and experience.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習受入企業講義 その1
- 3回：実習受入企業講義 その2
- 4回：実習受入企業講義 その3
- 5回：実習受入企業講義 その4
- 6回：実習受入企業講義 その5
- 7回：実習受入企業講義 その6
- 8回：実習受入企業講義 その7
- 9回：実習受入企業講義 その8
- 10回：実習受入企業講義 その9
- 11回：実習受入企業講義 その10
- 12回：マナー研修
- 13回：受講者実習前クラス発表 その1
- 14回：受講者実習前クラス発表 その2
- 15回：実習1
- 16回：実習2
- 17回：実習3
- 18回：実習4
- 19回：実習5
- 20回：実習6
- 21回：実習7
- 22回：実習8
- 23回：受講者実習後クラス発表
- 24回：実習報告リハーサル その1
- 25回：実習報告リハーサル その2
- 26回：実習報告リハーサル その3
- 27回：実習報告反省会
- 28回：報告書執筆要領説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業ごとのレポート、実習報告書、実習先からの評価、実習後の発表、出席状況等を対象とする:100%

テキスト/Textbooks

野田健太郎他 観光産業のグレート・リセット 中央経済社 2022 9784502443817 3034 ○

野田健太郎 戦略的リスクマネジメントで会社を強くする 中央経済社 2017 9784502217616 3034 ○

参考文献 / Readings

その他/ Others

- (1) 4月はじめのガイダンスにおいて説明会を行うので、希望者は必ず参加すること
- (2) 自分自身で、積極的に考え、行動し、大きな成長と成果を獲得していくこと
- (3) オンライン実施回は春学期1回程度を予定している

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

グローバル・スタディ・プログラム 1

Global Study Program 1

異文化社会での言語と文化研修

舩谷 鋭／ハサン E. (MASUTANI SATOSHI/ HASAN EID-UL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA500

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 国内での事前授業、事後報告と夏休み現地渡航研修

校地： 新座

学期： 通年

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1003

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

GSP1 では、夏季休業中に学部協定校に短期滞在し、現地言語の基礎に触れるとともに、講義やフィールドワークによって異文化社会・文化を生活体験の中で学ぶ。協定校の学生との協働によって、同世代の海外学生と交流し、コミュニケーション能力の向上を図る。

Students will participate in international exchange based on inter-departmental agreement that lasts about ten days. They will learn the basics of the language, society and culture of the destination through lectures as well as living in cross-cultural en

授業の内容 / Course Contents

本年度はマラヤ大学（マレー・インドネシア語）、ベトナム国家大学ハノイ人文・社会科学大学（ベトナム語）の2コースを実施する。各コースとも研修プログラムは語学研修と現地社会・文化についての講義、実習、協定校学生との交流などで構成される。

This year, two courses will be offered: Malay-Indonesian (University of Malaya) and Vietnamese (Vietnam National University, Hanoi University of Humanities and Social Sciences). Each course consists of language

training, lectures and practical training on society and culture, study tours, field research and exchange events with students from the partner universities.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：事前研修 1
- 2 回：事前研修 2
- 3 回：事前研修 3
- 4 回：事前研修 4
- 5 回：事前研修 5
- 6 回：事前研修 6
- 7 回：事前研修 7
- 8 回：事前研修 8
- 9 回：事前研修 9
- 10 回：現地研修 1
- 11 回：現地研修 2
- 12 回：現地研修 3
- 13 回：現地研修 4
- 14 回：現地研修 5
- 15 回：現地研修 6
- 16 回：現地研修 7
- 17 回：現地研修 8
- 18 回：現地研修 9
- 19 回：現地研修 10
- 20 回：事後研修 1
- 21 回：事後研修 2
- 22 回：事後研修 3
- 23 回：事後研修 4
- 24 回：報告会準備
- 25 回：報告会準備
- 26 回：報告会
- 27 回：報告書準備
- 28 回：報告書準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

渡航先の言語、社会、経済、政治、歴史、文化状況について関心を持ち、自主的に学習する姿勢が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 国内研修への参加状況:30% 現地研修への参加状況:30%
合 :40%

最終レポート割

テキスト/ Textbooks

鳥居高ら マレーシアを知るための 58 章 明石書店 2023 9784750356396 ○

岩井美佐紀ら 現代ベトナムを知るための 63 章【第 3 版】 明石書店 2023 9784750355290 ○

上記はそれぞれコースごとのテキストで、主に事前研修で用いる。

参考文献 / Readings

コースごとに事前研修で指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

立教大学の代表として、協定校学生・教員と積極的にコミュニケーションを図る姿勢が求められる。

その他/ Others

適宜授業支援システムなどでガイダンス資料を提示するので、確認すること。

協定校での研修期間は引率教員が同行しないため、履修者は大学の代表として自主性と責任を持った行動が求められることに留意してほしい。また、本科目は履修に関して、いくつかの条件があるので、必要事項を記載した要項を確認し、履修条件を理解、了承しておくこと。

なお、感染症等の状況によって、現地研修がオンライン開講に変更されることがある。

I n t r o T o u r 1

Introduction to Tourism 1

Introductory seminar for studying tourism

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA501

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光の基礎を英語で学習する。

This course aims to provide students a basic understanding of tourism and skills to do research in English.

授業の内容 / Course Contents

コースの前半は、観光の基礎概念とコンセプトについて英語で学習する。後半では、観光研究に必要な英語資料の検索、収集、分析ができるように訓練する。

This first half of the course discusses the basic terms and concepts of tourism in English to prepare students to complete the second half of the course which requires students to analyze information from various sources for tourism research in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Definitions of terms of Tourism

3 回： Basic Concepts of Tourism Studies (Quiz1)

- 4回：Basic Concepts of Travel (Quiz2)
 5回：Basic Concepts of Travel Behavior (Quiz3)
 6回：Basic Concepts of Tourism Business (Quiz4)
 7回：Review of the Basic Concepts of Tourism
 8回：Reading newspaper and magazine articles (Quiz5)
 9回：Reading book chapters (Quiz6)
 10回：Reading statistics and reports (Quiz7)
 11回：Reading novels and essays on Travel (Quiz8)
 12回：Reading textbooks (Quiz9)
 13回：How to read academic journal articles on tourism in English (Quiz10)
 14回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for a quiz every class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz (5点×10回) :50% 授業内参加 (Participation) :20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

観光庁 HP: <http://www.mlit.go.jp/kankocho/en/index.html>

JTB 総合研究所: <http://www.tourism.jp/en/>

UNWTO: <http://www2.unwto.org>

JNTO: <http://www.jnto.go.jp/eng/>

The Japan Times: <http://www.japantimes.co.jp/life/travel/>

Online Database of University library

IntroTour 2

Introduction to Tourism 2

Introduction to Tourism

徐 翰林 (XU HANLIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA502

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生はコース修了時に以下の能力を身につけていることが期待されます：

- ①観光システムの基本的な概念と用語を英語で理解し説明する。英語での効果的なコミュニケーション能力、特に学術的な文脈でのスピーキング。
- ②業界分析力: 観光業界の構造、経済的ドライバー、および市場動向の理解。
- ③観光研究の様々な参考文献を読み、議論を通じて批判的思考を養う。また、調査研究の設計、実施、分析、および報告の能力。

Upon completion of this course, the student will be able to

- ①Understand and explain the basic concept and terms of the tourism system in English
- ②Discuss the challenges and opportunities of the current tourism industry
- ③Develop critical thinking through r

授業の内容 / Course Contents

このコースは、英語の文脈でグローバルな視点を求め、観光学の基礎的理解を深めたい学生を対象として設計

されています。コースでは、現在の観光業界の課題と機会の紹介についてカバーしています。学生は、観光研究の異なる参考文献を読み、議論を通じて批判的思考能力を開発し、実践していきます。

This course is designed for students who are pursuing a fundamental understanding of tourism studies and seeking a global view under English contexts. The course covers the introduction of challenges and opportunities of the current tourism industry. The student will develop and practice critical thinking ability through reading and discussion on the different tourism study's references.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction

The first class serves as an introduction to the course, providing students with an overview of the basic concepts and frameworks of tourism studies. It aims to set the foundation for understanding the tourism system, its components, and its

2回：Careers in Tourism

The class would explore different sectors such as travel agencies, hotels, resorts, event planning, airlines, and cruise lines, among others. Students would learn about the roles and responsibilities associated with different positions,

3回：Emerging Trends in the Hospitality and Tourism Industries I

Students need to prepare a presentation by focusing on the latest developments that are shaping the future of the tourism and hospitality sector.

4回：Emerging Trends in the Hospitality and Tourism Industries II

The class would focus on understanding and analyzing new developments, their impact on businesses and destinations, and how industry professionals can adapt to these changes.

5回：Discussion and Presentation: News Articles

Based on the class "Emerging Trends in the Hospitality and Tourism Industries," this class is an interactive session focused on the analysis and presentation of current news and developments within tourism industry

6回：Discussion and Presentation: Magazine Articles

This class would be an educational session focusing on the critical examination and presentation of magazine articles related to the hospitality and tourism industries.

7回：Discussion and Presentation: Website Reference I

This class is designed to help students develop their research, critical thinking, and presentation skills by using online resources.

8回：Discussion and Presentation: Website Reference II

Key to this class would be teaching students how to evaluate the reliability and authority of web sources, distinguishing between credible information and misleading or biased content.

9回：Discussion and Presentation: Statistics

Instruction on where to find relevant statistical data, how to assess its reliability, and best practices for using data ethically and responsibly would be covered.

10回：Discussion and Presentation: Reports by Tourism Organizations

This class would focus on the use and interpretation of statistical data within the hospitality and tourism industries, such as occupancy rates, visitor numbers, seasonality patterns, revenue m

11回：Discussion and Presentation: Textbook

This class focuses on in-depth engagement with the content of a textbook chosen for its relevance to the

hospitality and tourism industries. This class aims to deepen students' understanding of industry concepts, the

12 回：Discussion and Presentation: Academic Journal Articles on Tourism in English I

This class would be an academic course aimed at improving students' comprehension and critical engagement with scholarly literature in the field of tourism. In this class, stud

13 回：Discussion and Presentation: Academic Journal Articles on Tourism in English II

This class would emphasize analyzing the articles' strengths and weaknesses, research methods, argumentation, and contributions to the field of tourism.

14 回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1. Article Selection: Students would be tasked with selecting corresponding articles in the hospitality and tourism sectors.

2. Analytical Reading: This course would involve reading corresponding articles with a critical eye, understanding the main argument

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% English presentation:50% In-class Participation (English):50%

テキスト / Textbooks

Will be introduced during the course

参考文献 / Readings

Will be introduced during the course

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

NO

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoom

TS1 (Business)

Tourism Study 1 (Business)

Understanding businesses in tourism

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA505

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

関連する様々な資料を使用して、ツーリズム・ビジネスを理解する。

This course aims to provide students with the understanding of businesses in tourism by reading various references on tourism business.

授業の内容 / Course Contents

ツーリズム・ビジネスに関連する多様な英語の情報源を使用しながら、英語でツーリズム・ビジネスに関するリサーチができるように学習する。

Through reading various information sources regarding tourism business, students will become able to understand how to do research on tourism business in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Definitions of terms and basic concepts of business in tourism

3 回： Travel business

- 4回：Accommodation
 5回：Food and Beverage
 6回：Meetings Industry
 7回：Transportation
 8回：How to use online databases to search references on tourism businesses in English
 9回：Reading newspaper articles on tourism business
 10回：Reading magazine articles on tourism business
 11回：Reading reports on tourism business by various organizations
 12回：Reading textbooks on tourism business
 13回：Reading journal articles on tourism business
 14回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for a quiz every class.

It is preferable to have completed "Introduction to Tourism 1" before taking this class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz (5点×10回) :50% 授業内参加 (Participation) :20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

Information resources will be introduced during the course.

TS2 (Society)

Tourism Study 2 (Society)

Tourism and (Local) Community

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA506

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students with an understanding of different aspects of the concepts of local community and sustainability, and the relationships between them, in relation to tourism development. At the end of the course, students will be able

授業の内容 / Course Contents

The course introduces students with different perspectives and cases of tourism and local community research in various national and international contexts. Students will explore the impacts of tourism on local communities and vice versa, from a variety of perspectives including sociology, by asking in what ways tourism can coexist with local communities and contribute to the sustainable community development.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich

the learning experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: nature and scope of the course
- 2 回：Tourism resources, local community and sustainability 1
- 3 回：Tourism resources, local community and sustainability 2
- 4 回：Short film screening & guidance for reflection papers
- 5 回：Tourism and community development: community-based tourism 1
- 6 回：Tourism and community development: community-based tourism 2
- 7 回：Farming community and tourism 1
- 8 回：Farming community and tourism 2
- 9 回：Mountain community and tourism 1
- 10 回：Mountain community and tourism 2
- 11 回：Coastal community and tourism
- 12 回：Urban community and tourism; guidance for final presentation
- 13 回：Students' presentation session 1
- 14 回：Students' presentation session 2; summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussion

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework:40% Individual reflection papers (2 times):30% Individual/group presentation:30%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

Current Trends in T1

Current Trends in Tourism 1

Current Trends in Global Tourism and Leadership

ペク, キジュン (BACK KIJOON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA507
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM3201
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The course offers an in-depth examination of factors that contribute to successful leadership practice in the global tourism industry. In order to proactively deal with global issues, it is critical to understand the internal and external environments.

Th

授業の内容 / Course Contents

Topics include monitoring global issues, identifying the best practices, understanding the leadership roles, and developing strategies. The course structure is formed as follows:

- Guest lectures – Global tourism/hospitality leaders are invited to class
- Environment Scanning – Five primary assignments of environmental scanning to tap five different areas of the external environment
- Discussion – Students are required to participate in discussions actively for the entire semester

- Project – Group or Individual project (depending on the class size) will develop the students' ability to handle the current issues

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：April 12 Introduction & Environmental Scanning
Dr. Ki-Joon Back
Univ of Houston
- 2 回：April 19 Global Hotel Trends
Prof. Tucker Jones
Univ of Houston
- 3 回：April 26 Data Analytics in the Hospitality and Tourism Industry
Dr. Minwoo Lee
Univ of Houston
- 4 回：May 10 Global Restaurant Trends
Dr. Pearl Lin
Hong Kong Polytech Univ.
- 5 回：May 17 Innovation and Technology in the Tourism Market
Dr. Hyekyung Park
Florida State Univ
- 6 回：May 24 Corporate Social Responsibilities/ESG
Dr. Tiffany Legendre
University of Houston
- 7 回：May 31 Global Strategic Management
Dr. Jaewook Kim
Univ of Houston
- 8 回：June 7 Consumer Behavior Trends
Dr. Minjung Shin
Univ of Houston
- 9 回：June 14 Luxury Branding Strategies
Dr. Jungkun Park
Hanyang Univ
- 10 回：June 21 Global Hospitality Leadership
Dr. Ki-Joon Back
Univ of Houston
- 11 回：June 28 Global Casino Industry
Dr. Ki-Joon Back
Univ of Houston
- 12 回：July 5 Emotional Labor and Emotional Intelligence
Dr. Michael Ok
Temple Univ
- 13 回：July 12 Convention and Meeting Management

Dr. Jinsoon Lee
 Hong Kong Poly U
 14 回：July 19 Review
 Dr. Ki-Joon Back
 Univ of Houston

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to develop their discussion questions for each class. There will be some reading requirements outside of the class period.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Discussion Question Assignment:30% Final Project:40% Attendance and Participation:30%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

Various Websites including Google Scholar(<https://scholar.google.com/>),

wall street journal (<https://www.wsj.com/>),

Tripadvisor (<https://www.tripadvisor.com/>);

Hotel online (<https://www.hotel-online.com/>), etc.

Online DataBase Library

Recommended Text

•

注意事項 (検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

Current Trends in T2

Current Trends in Tourism 2

ソ, クァンリム (SEO KWANGLIM)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA508
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM3201
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The purpose of this course is to build students' ability to examine contemporary issues and topics that are influencing the travel, tourism, and hospitality industry. Students will collect pertinent articles and information from newspapers, magazines, aca

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to help students examine and create solutions to the chosen current issues and/or case studies in the travel, tourism, and hospitality industry. Students are required to review related readings each week and participate in discussions or seminars on current issues. The actual class period is a time to debate the issues, ask questions, and learn additional information pertaining to that week's topic. The success of this class relies on the quality of students' preparation and participation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Tourism and socio-cultural impacts
- 3 回：Development and management of current and new tourism and hospitality organizations in global contexts

- 4回：Strategic resource management and development issues
 5回：Innovation and entrepreneurship issues
 6回：Corporate social responsibility (CSR)/Environmental, social, and governance (ESG) issues
 7回：The legal environment and health and safety issues
 8回：Managing workforce diversity across and within cultures
 9回：The role of technology advancement implications
 10回：Destination development and management in global contexts
 11回：Risk management and tourism
 12回：Research presentations
 13回：Research presentations
 14回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Discussion topics are assigned before every class and students are required to prepare a short presentation to share their thoughts and ideas during class. Students should conduct research to identify key points, discuss implications and significance, and

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class presentation:40% Class participation:30% Term paper:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項 (検索結果画面)

2020年度以降入学者対象

観光特論（R T）

Special Lecture on Tourism(Responsible Tourism)

ファム, H. (PHAM HONG LONG)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA509
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2201
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide a framework for understanding the concept of sustainability in tourism and what “being responsible” means for tourists and all other stakeholders in tourism.

Upon successful completion of the course, students will be able to:

•

授業の内容 / Course Contents

The course examines the way to develop tourism for local communities in a sustainable manner, especially those in developing countries. The module also investigates different kinds of tourism impact, especially focusing on economic, socio-cultural and environmental impacts, and explores the ways to enhance positive impacts of tourism and mitigate negative impacts of tourism in order to conserve cultural and natural tourism resources in local communities for the future generations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

2 回：Assignment 1

Concepts/theory of sustainability

3回：Assignment 2

Historical development: sustainability, environmentalism and conservationism

4回：Assignment 3

Tourism industry & stakeholders

5回：Assignment 4

Topics related to Lectures

6回：Assignment 5

Topics related to Lectures

7回：Assignment 6

Socio-cultural and environmental issues in tourism

8回：Assignment 7

From sustainability to responsibility

9回：Assignment 8

Measuring & assessing sustainability

10回：Assignment 9

Globalisation & responsible tourism

11回：Assignment 10

Localisation & responsible tourism

12回：Assignment 11

Topics related to Lectures

13回：Assignment 12

Topics related to Lectures

14回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read PPT slides and other materials before the class. After each class, seminar topic will be provided, and students are required to work on it.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分:111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignments:40% Final Report:40% Participation:20%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- Good command of English
- Good attitude for the lectures
- Eager, adaptable & creative to learn new knowledge.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- Laptop or desktop
- Stable internet line or wifi

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

グローバル・スタディ・プログラム 2

Global Study Program 2

Field Study in University of Houston

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA511

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1003

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

米国・ヒューストン大学のグローバルホスピタリティ学部で 10 日間専門講義の受講とフィールドトリップを通して、留学体験をする。

Students will experience 10-day study program at University of Houston in Texas, U.S.A.

Attending classes and field trips will provide real life experience of studying abroad.

授業の内容 / Course Contents

- 1) 米国・ヒューストン大学のグローバルホスピタリティ学部で 10 日間専門講義を受ける。
- 2) ホテルとレストランほか、ヒューストン所在の観光施設を見学する。
- 3) 秋学期中は、事前学習を行う。

1) About 10-day study program in University of Houston.

Attending classes in the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership.

2) Participating field trips organized by professors and student of the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership.

3) During Fall semester, students will prepare for attending classes and field trips.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
 2 回：Understanding classes and education system of the Conrad N. Hilton College of Global Hospitality Leadership.
 3 回：Preparing Self Introduction 1-PPT
 4 回：Preparing Self Introduction 2-Presentation
 5 回：Preparing Rikkyo's Introduction 1-PPT
 6 回：Preparing Rikkyo's Introduction 2-Presentation
 7 回：How to search information on tourism study in English
 8 回：Reading textbooks on Tourism in English
 9 回：Reading newspapers on Tourism in English
 10 回：Review, feedback, and Q&A 1
 11 回：Reading academic materials on Tourism in English
 12 回：Review, feedback, and Q&A 2
 13 回：Final Review
 14 回：Introduction before departure

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to work in groups at least 3 hours a week.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class Participation:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading Materials will be introduced in classes.

観光特論 (T S E)

Special Lecture on Tourism(Tourism Studies in Europe)

Theories and cases from tourism studies and tourism geographies in Europe

マルチーニ (MARTINI ANNACLAUDIA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA512

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

The objective of the course is to introduce students to the spatial and cultural phenomena that influence tourism, with a focus on the main critical paradigms and trends of tourism studies within Europe. We will look into the role of tourism in shaping ur

授業の内容 / Course Contents

The course offers an introduction to critical tourism studies in Europe. During the course, the students will be introduced to the main concepts and theories present in critical tourism studies (a critique to sustainability and development, decoloniality, emotional geographies and tourism, climate change and tourism, biopolitics and tourism, dark tourism, and so on). After a general overview, the students will be introduced to a variety of case studies from Italy and other European countries, which function as points of connection between theory and practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introductory lecture - Description of the course and of the evaluation, introduction to Tourism Studies in

Europe: from tourism studies to critical tourism studies.

2回：Tourism and sustainability: from development, to sustainability, to degrowth. Theory with examples from case studies in Europe.

3回：Tourism and decoloniality. Theory with examples from case studies in Europe.

4回：Dark tourism and dissonant heritage: touring places of death and disaster. (1) Disaster tourism in Europe and Japan: a comparison of cases.

5回：Dark tourism and dissonant heritage: touring places of death and disaster. (2) Dissonant heritage in the European context.

6回：Cultural tourism in Europe and the H2020 RurAllure

7回：Pilgrimages tourism in Italy

8回：Tourism and climate change in Europe

9回：Islands, tourism and climate change

10回：Tourism and biopolitics in Europe

11回：Mountain tourism and internal areas in Italy

12回：Tourism and emotions: meaning-making in the tourist experience.

13回：The Discourse around tourism in European Academia: postcolonial, feminist, nonhuman

14回：Concluding lecture. Review.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Outside of class time students will be asked to read brief texts (from academic articles, newspapers, or other) that introduce the topic of the lecture.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, and academic articles will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Readings will be given before each class.

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

TS3 (Destination)

Tourism Study 3 (Destination)

Business Statistics

徐 翰林 (XU HANLIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA517

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2201

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースを修了すると、学生は以下の能力を身につけることができます。

①観光概念と目的地マーケティング要素の理解と説明：

学生は、観光業界における基本的な概念や用語を理解し、それらを明確に説明できるようになります。

②DCOVA フレームワークの理解：

DCOVA フレームワークとは、観光業界におけるデータの収集、整理、分析、視覚化、アクション（Data, Collection, Organization, Visualization, and Action）のプロセスを指します。このフレームワークを理解する

Upon completion of this course, the student will be able to

①Understand and explain basic tourism concepts and destination marketing elements.

②Understand the DCOVA framework

③Able to apply statistics to solve business problems

授業の内容 / Course Contents

観光業は世界経済の基盤であり、多様なセクターに影響を及ぼす重要な産業です。このコースでは、観光の基

本統計を学ぶことにより、業界の健全性とダイナミズムを測る訪問者数、支出パターン、市場シェアなどの指標について理解を深めます。DCOVA フレームワークを核とし、データの収集、整理、視覚化、行動への応用を通じて、体系的な意思決定を促します。実践的なプロジェクトで分析力を養い、業界の意思決定を支援する能力を身に付けます。

The tourism industry is a foundation of the global economy and a significant industry that impacts a variety of sectors. In this course, by learning fundamental tourism statistics, student will deepen student understanding of industry health and dynamism through indicators such as visitor numbers, spending patterns, and market share. At the core of the course is the DCOVA framework, which promotes systematic decision-making through the collection, organization, visualization, and application of data. Through practical projects, student will cultivate analytical skills and develop the ability to support decision-making within the industry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Important Things to Learn First
- 2 回：Defining and Collecting Data
- 3 回：Organizing and Visualizing Variables
- 4 回：Numerical Descriptive Measures
- 5 回：The Normal Distribution
- 6 回：Sampling Distributions
- 7 回：Confidence Interval Estimation
- 8 回：Fundamentals of Hypothesis Testing: One-Sample Tests
- 9 回：Two-Sample Tests and One-Way ANOVA
- 10 回：t-Test
- 11 回：Journal article Reading and Discussion (Quantitative)
- 12 回：Student Project
- 13 回：Student Project
- 14 回：Student Project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1.Preparation Activities:

Study basic statistical terms and concepts in advance to gain a preliminary understanding of the topics to be discussed.

Read summaries or introductions to relevant chapters to build a foundation for class discussions.

Find real-

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-class Participation (English):60%

最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

Reading materials will be distributed in class

参考文献 / Readings

Reading materials will be distributed in class

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Excel

TS4 (Culture)

Tourism Study 4 (Culture)

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA518
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2201
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course aims to provide students with an understanding of the relationship between tourism and culture. Students will explore the impacts of tourism on culture and vice versa, from a variety of perspectives including anthropology and cultural studies.

授業の内容 / Course Contents

The course introduces students with key concepts and cases in relation to the cultural study of tourism, paying special attention on specific types of tourism and their relations with culture. At the end of the course, students will develop a good understanding of the impacts of tourism on culture and vice versa.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own society/community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: nature and scope of the course
- 2 回：Conceptual issues 1: host and guest
- 3 回：Conceptual issues 2: authenticity
- 4 回：Conceptual issues 3: tourist gaze
- 5 回：Short film screening & guidance for reflection papers
- 6 回：Heritage as a tourism resource
- 7 回：Local culture as a tourism resource
- 8 回：Popular culture as a tourism resource
- 9 回：Material culture of tourism: souvenirs
- 10 回：Representations of tourism 1: photographs, travel guidebooks
- 11 回：Representations of tourism 2: official tourism campaigns (promotional videos)
- 12 回：Representations of tourism 3: social media; guidance for final presentation.
- 13 回：Students' presentation session 1
- 14 回：Students' presentation session 2; summary.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussion

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework:40% Individual reflection papers (2 times):30% Individual/group presentation:30%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

観光デザイン論

Tourist Design

日本を広く世界からの目線で俯瞰し、世界に向けた今後の観光産業発展へのヒントを探る。

マーク 伊東 (ITO MARK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA602

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目

2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ在住 25 年、キャリア 40 年以上の現役ホテルインテリアデザイナーの経験から観光産業全般のあらゆるデザインを国際的な視点から議論し解説する。同時に、日本の文化と世界の文化を比較しながら「何故？」を学ぶ

From the experience of an active hotel interior designer who has lived in the United States for 25 years and has a career of more than 40 years, he discusses and explains all designs of the tourism industry from an international perspective. Learn "why?"

授業の内容 / Course Contents

日本では観光ビジネス全般が中流主義で占められ、均一化されたサービスや観光商品が中心になっているように感じるが、世界では更に幅広い観光プロダクトが提供されている。

昨今のホテル開発ブーム、特に宿泊特化や簡易宿泊施設が爆発的に増えた。それは何故かという疑問を議論し解説する。

日本の観光ビジネス（観光産業）は外貨を日本国内で稼ぐという意味で大きな輸出産業であり、将来の日本の基幹産業になるという事を改めて理解し、世界レベルで幅広い観光プロダクトを開発するための発想とは何かを模索し議論する。

そして、観光産

In Japan, the tourism business as a whole is dominated by middle-class principles, and it seems that uniform services and tourism products are at the center, but the world offers a wider range of tourism products.

The recent boom in hotel development, especially accommodation oriented and simple accommodation facilities, has exploded. Discuss and explain the question of why it is.

At the same time, Japan's tourism business (tourism industry) is a large export industry in the sense that it earns foreign currency in Japan, and once again understands that it will become Japan's core industry in the future and develops a wide range of tourism products at the world level. Explore and discuss what the idea is for. It was.

We also understand that tourism is a very broad industry, especially in rural areas, which is locally rooted, that is, an industry with great potential in the future that can create an economy.

In addition, while comparing the Japanese tourism industry and the overseas tourism industry widely, we will take a bird's-eye view of the Japanese industry from the perspective of "Japan in the world" and discuss it for the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション・概論

講師のホテルデザイナーとしての経験や作品を紹介し、ホテルデザインについて理解する。

そして、観光デザインとは？そして観光産業でデザインの果たす役割を議論する。

デザインとは建築やインテリアのみでなく、広く文化に関わっていることを学ぶ為の準備。

Orientation / Introduction

Introduce the instructor's experience and works as a hotel designer and understand hotel des

2 回：観光（旅行）はいつ始まるか、そして何を求めてゲストは旅に出るか。観光に関わるデザインとはどういふものがあるのかを議論する。ホテル（宿泊施設）は文化であるということを学ぶ。

ゲストは何を期待しているかを議論する。

旅に出るときの期待とは何か、そしてそれらを「デザインというツール」を使って「ホスピタリティー」という商品を提供することの概念を学ぶ。

When does tourism (travel) begin, and what do guests want to go on a journey? Di

3 回：デザインという観点から観光と文化、そしてグレードセグメンテーションについて。

ゲストの文化（地域と宗教）エリア・グループ構成・家族構成・生活レベル・目的・ライフスタイル・学歴などで、ホスピタリティー産業はどのような「商品」を提供しているかを学ぶ。

Tourism and culture from a design perspective, and grade segmentation.

Learn what kind of "products" the hospitality industry offe

4 回：ソーシャルクラスとホテルクラス、そして滞在型ホテルとトランジエントタイプの短期型、都市型とリゾートなど施設とデザインの多様性を解説する。ゲストの多様性を理解し、観光プロダクトの開発のヒントになるよう議論する。

ライフスタイルホテルの出現。

すなわち、価格帯の高低のみならず、生活スタイルに合わせた観光が出現し、同時に宿泊施設も多様化して来ていることを学ぶ。ソーシャルクラスとライフスタイルが如何に密接に関わっているかを理解する。

Explain the variety of facilities and

5回：ホームアウェイfromホームの概念。そして Workshop 説明

Home Away From Home の概念。ライフスタイルをシームレスに保ちつつ旅行をすることの意味と商品内容をケーススタディーによって解説する。

Home away from the concept of home. And Workshop explanation

Home Away From Home concept. A case study will explain the meaning and product content

6回：ホテルが提供する各種のサービスの種類とそれに伴うデザインとグレード表現

Accommodation / F&B / Banquet / Relaxation / Sports & Outdoor など。

ホテル施設の中、そして周辺でのアクティビティーなどをスタディーする。

同時に、将来大きく観光産業に関わるであろう「自動運転」「AI」「MaaS」「シェアリングエコノミー」などをスタディーする。

Types of various services provided by the hotel and the

7回：Workshop 説明

Workshop 課題（世界の1か所を考察候補と設定する）をクラスで共有し、そこから得られた情報やヒント、学びをクラスで議論し理解することを目的に行う Workshop。

各自自由に旅行先を選び、それを題材にウェブ上で情報収集の Workshop を行う。

候補地別にグループ分けしたうえで各グループがその旅行先の現状を考察したうえで、将来いかに観光産業を活性化出来るかの可能性を探り、提案する。

目的は、日本の個々の観光ビジネスを如何にすれば広く世界に認知させることが出来るのかを

8回：Workshop 共同作業日

9回：Workshop Presentation and discussion 発表及び議論

10回：Workshop Presentation and discussion 発表及び議論

11回：インテリアデザイン、建築デザインと環境デザイン

インテリアデザインの役割とその内容を解説する。

建築デザインでは、建築史、そして日本のホテルの歴史を解説する。

Interior design, architectural design and environmental design

Explain the role of interior design and its contents.

In Architectural Design, we will explain the history of a

12回：LEED & WELL (Leadership in Energy and Environmental Design) SDG's、バリアフリーデザインとアメリカの ADA (Americans Disabilities Act)を通し、環境デザインの役割とその内容を解説する。そして、観光産業の中にどのような社会的貢献が組み込まれてきているかを解説する。

Through LEED & WELL (Leadership in Energy and Environmental Design) SDG's, barr

13回：観光産業に関わる「デザイン」及び「レスポンスブル・ツーリズム」全般を学ぶ。

ウェブデザイン、パンフレット、ロゴマーク、広告、ユニフォーム、サイン、メニュー等無数のデザインが総合的に観光産業や宿泊施設を構成していることも学ぶ。

Learn about "design" and "responsive tourism" related to the tourism industry in general. It was

You will also learn that innumerable design

14回：まとめ

Wrapping up and summarizing

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート :
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

世界の観光産業関連ビジネスの研究及び海外の WEB サイトの研究。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項（検索結果画面）**

2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 / 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

観光感性論

Sensuous analysis of tourism

観光計画の心理学的・行動論的視点の涵養

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA603
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS3000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

観光者・サービス提供者の行動・心理を理解するうえで、また観光者の立場からみた観光地づくりを進めるうえで理解しておくべき心理学的・行動論的な見方を事例に即して学ぶことを通して、現代社会における観光現象の役割や意義を理解するための視点を習得し、そのための感性を養う。

By understanding the behavior and psychology of tourists and service providers, as well as studying the psychological and behavioral perspectives we should heed in promoting the destination planning from the standpoint of tourists, students will gain per

授業の内容 / Course Contents

担当者による「観光行動論」の内容をふまえ、よりソフト面での計画論的な視点について、観光現象を理解するための感性の役割と重要性にふれつつ講述する予定である。

講義は講義資料と視覚教材を使用しつつ進める。講義中に質問したり、リアクションペーパーの作成・提出を求めることがある。

Based on what the instructor covered in “Human Behavior in Tourism”, we plan to examine the role and

importance of sensibility for the understanding of sightseeing phenomena, from the perspective of planning theory".

Lectures will be given using lecture materials and visual course materials. During class, students may be asked questions or may be asked to write and submit reaction papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光とアメニティ 1
- 3回：観光とアメニティ 2
- 4回：視覚特性と景観体験 1
- 5回：視覚特性と景観体験 2
- 6回：観光における空間認知
- 7回：自然観光の効果 1
- 8回：自然観光の効果 2
- 9回：五感を刺激する観光 1
- 10回：五感を刺激する観光 2
- 11回：「歩く観光」について 1
- 12回：「歩く観光」について 2
- 13回：観光における「感動」の分析
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

とくに使用せず，毎時間講義資料を配布する。

参考文献 / Readings

橋本俊哉 観光回遊論 風間書房 1997

テーマごとの参考文献は講義資料にその都度記載する。

観光リスクマネジメント

Tourist Risk Management

小池 修司 (KOIKE SHUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA604
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光産業において発生しうる法令違反等のリスクにどう対応するべきか、事例演習を通じて考察する。

We will examine how to respond to risks such as legal violations that may occur in the tourism industry, using case studies.

授業の内容 / Course Contents

各回テーマとなる法令等について講義した上で、これに関連する事例を用いた演習（小テスト）を行う。また、演習でまとめた各自の考えを発表する機会を各回に設ける。

Lectures will be on the topics that constitute the laws and regulations etc., with seminars conducted using related case studies (small tests). In addition, seminars will provide the opportunity for students to present thoughts they have summarized.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義ガイダンス, リスクマネジメントとは何か
- 2 回：個人情報保護法
- 3 回：消費者契約法

- 4回：不当景品類及び不当表示防止法
 5回：クレーム・カスタマーハラスメントへの対応
 6回：企業不祥事への対応（1）～不祥事発生時の対応のあり方～
 7回：企業不祥事への対応（2）～従業員の不祥事～
 8回：反社会的勢力への対応
 9回：宿泊契約（1）～寄託物の取扱い～
 10回：宿泊契約（2）～ホテルの安全配慮義務～
 11回：旅行契約（1）～旅行業者の手配義務～
 12回：旅行契約（2）～旅行業者の安全確保義務～
 13回：ビジネスモデルと公的規制
 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発言及び複数回の小テスト：60% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義レジュメ及び資料の配布、各回の小テスト提出のために Canvas LMS を使用する。

GIS 演習

GIS Practice

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA607
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS1000
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地図作成の基礎と GIS（地理情報システム）の操作方法を習得し、観光統計や観光対象の立地、観光行動などの分析を行えるようになる。

Students will learn the basic knowledge of mapping as well as how to operate GIS (geographical information system), and students will be able to analyze tourism statistics, location of tourism attractions, tourist behaviors.

授業の内容 / Course Contents

コンピューターとインターネットの発達した現代社会において、GIS は社会のあらゆる現象に活用されるようになった。観光も例外ではなく、企業のマーケティングや自治体の政策立案・まちづくりなどで用いられている。本授業では Arc GIS を使用し、GIS の基礎的操作と地図表現を学習する。また、GIS を活用した観光統計、観光対象、観光行動の地図化の手順を習得するとともに、分析結果をまとめた授業課題を作成する。授業の後半では習得した技術を活用し、最終課題を各自作成する。

With the development of computers and the Internet in our modern society, GIS has come to be used in every kind of social phenomena. Tourism is no exception, and GIS is used in corporate marketing and municipal policy drafting, urban planning, etc. In this course, we will use Arc GIS as we learn basic GIS operation and map

expression. In addition, we will learn procedures for the mapping of tourism statistics, tourism attractions, and tourist behavior using the GIS. We will create a class project summarizing the results of these analyses. In the latter half of the course, students will apply the techniques they have learned to create their own final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：GIS と地理空間情報の概要
- 2 回：地理空間情報の取得と地図化
- 3 回：地図表現
- 4 回：データ処理
- 5 回：観光統計の地図化
- 6 回：空間検索と属性検索
- 7 回：観光統計分析
- 8 回：観光対象の分布図の作成
- 9 回：フィーチャーの作成
- 10 回：バッファ
- 11 回：観光対象の立地分析
- 12 回：観光行動の地図化
- 13 回：最終課題作成 1
- 14 回：最終課題作成 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学習した内容を必ず復習する。毎回、課題を課すため、十分な学習時間を確保すること。遅刻と欠席は極力避けること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題（複数回）:60% 最終課題:40%

テキスト / Textbooks

資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項（検索結果画面）

人数制限科目（25名）

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

堀木 美告 (HORIKI MITSUGU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA611
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープについて、その概念について理解することに始まり、それらの価値の評価の考え方、さらにはその保全・活用のあり方に関して、基礎的な知識を得るとともに研究の課題や方法について学ぶ。

Through understanding concepts related to landscapes in tourist and other regions, students will gain basic knowledge about approaches to evaluating their value, as well as their conservation and utilization. At the same time, students will study research

授業の内容 / Course Contents

観光地を風景や景観およびランドスケープという観点から捉える視点を持って、風景や景観論に関連する基本的な文献を講読し、風景・景観の評価や保全に関する基礎的な知識を得るとともに、議論を通してその理解を深めさらなる課題について考察する。

Students will develop a perspective to understand tourist sites from the point of view of landscape, read basic literature related to the theory of landscape, and gain basic knowledge relating to their evaluation and conservation. At the same time, students will deepen their understanding through discussion and consider

further issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：自己紹介（私の好きな風景・観光地）（1）
- 3回：自己紹介（私の好きな風景・観光地）（2）
- 4回：自己紹介（私の好きな風景・観光地）（3）
- 5回：自己紹介（私の好きな風景・観光地）（4）
- 6回：文献講読と議論（1）
- 7回：文献講読と議論（2）
- 8回：文献講読と議論（3）
- 9回：文献講読と議論（4）
- 10回：文献講読と議論（5）
- 11回：文献講読と議論（6）
- 12回：文献講読と議論（7）
- 13回：文献講読と議論（8）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

小野 良平 (ONO RYOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA612
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

身近な観光地を対象に、観光地の地域資源を風景や景観およびランドスケープなどの観点から調査し評価するための方法について学ぶ。

Using familiar tourist sites as a target, students will learn survey and evaluation methods for the local resources of tourist sites, from the perspective of landscapes.

授業の内容 / Course Contents

観光地をはじめとする地域を風景・景観・ランドスケープという観点からとらえて評価する方法について概要を紹介する。その上で参加者はグループに分かれて東京とその近郊の範囲内で観光地とみなされる地域・地区を一か所選び、景観を中心とした地域資源評価のための調査計画を立て、調査を実施し、その結果をまとめて発表する。

Beginning with tourist sites, I will introduce an outline of methods for evaluating regions from the point of view of landscape. In addition, each group of participants will select one area or district in Tokyo and the surrounding area that is a tourist site, make a survey plan for evaluating the local resources with a focus on landscapes, carry out their plan, and present the results.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：観光地景観資源調査の考え方（1）
- 3回：観光地景観資源調査の考え方（2）
- 4回：実地調査計画（1）
- 5回：実地調査計画（2）
- 6回：実地調査計画（3）
- 7回：実地調査中間報告（1）
- 8回：実地調査中間報告（2）
- 9回：実地調査中間報告（3）
- 10回：実地調査最終報告（1）
- 11回：実地調査最終報告（2）
- 12回：実地調査最終報告（3）
- 13回：実地調査最終報告（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜紹介する。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA613
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地や地域の課題発見ならびに解決策の提案のための視点について学ぶとともに、現状の把握ならびに分析の方法を習得する。

Students will uncover issues in tourist sites and areas, learn perspectives for proposed solutions, and study the current situation and analysis methods.

授業の内容 / Course Contents

関連文献や既往研究の講読により基礎的な知識やスキルの習得を行う。また、地域の魅力を発見し、それらをもとに高めるための取り組みについて対象地を訪れて調査を実施するとともに、文献調査と合わせて課題発見のための基礎的な項目の把握や調査方法についての理解を深める。

なお、参加者には主体的に討議に参加することを求める。

Through readings of related literature and past research, students will gain basic knowledge and skills. In addition, students will discover the appeal of an area, implement field surveys and literature surveys of their target area regarding initiatives to increase that appeal, and deepen their understanding of the basic items for identifying issues and survey methods.

Note that participants will be required to participate subjectively in discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：事例の提示とディスカッション
- 3回：観光地の成立・発展に関する文献の講読1
- 4回：観光地の成立・発展に関する文献の講読2
- 5回：観光地の成立・発展に関する文献の講読3
- 6回：観光地の成立・発展に関する文献の講読4
- 7回：論文紹介1
- 8回：論文紹介2
- 9回：論文紹介3
- 10回：論文紹介4
- 11回：学外演習に向けての準備1
- 12回：学外演習に向けての準備2
- 13回：成果取りまとめ，発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配付された資料には必ず事前に目を通して授業に臨むこと。また、各自・グループの作業成果を発表する際には、入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% セミ中の発表，討論への参加状況，およびレポートを総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習中に適宜紹介する。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA614
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地や地域の課題発見ならびに解決策の提案のための視点について学ぶとともに、現状の把握ならびに分析の方法を習得する。

Students will uncover issues in tourist sites and areas, learn perspectives for proposed solutions, and study the current situation and analysis methods.

授業の内容 / Course Contents

関連文献や既往研究の講読により基礎的な知識やスキルの習得を行う。また、地域の魅力を発見し、それらをもとに高めるための取り組みについて対象地を訪れて調査を実施するとともに、文献調査と合わせて課題発見のための基礎的な項目の把握や調査方法についての理解を深める。

なお、参加者には主体的に討議に参加することを求める。

Through readings of related literature and past research, students will gain basic knowledge and skills. In addition, students will discover the appeal of an area, implement field surveys and literature surveys of their target area regarding initiatives to increase that appeal, and deepen their understanding of the basic items for identifying issues and survey methods.

Note that participants will be required to participate subjectively in discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：学外演習の振り返り，成果取りまとめ1
- 3回：学外演習の振り返り，成果取りまとめ2
- 4回：学外演習の振り返り，成果取りまとめ3
- 5回：地域調査の方法に関する文献の講読1
- 6回：地域調査の方法に関する文献の講読2
- 7回：地域調査の方法に関する文献の講読3
- 8回：観光地の魅力の発見と成立に関する調査1
- 9回：観光地の魅力の発見と成立に関する調査2
- 10回：観光地の魅力の発見と成立に関する調査3
- 11回：観光地の魅力の発見と成立に関する調査4
- 12回：成果取りまとめ，発表1
- 13回：成果取りまとめ，発表2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配付された資料には必ず事前に目を通して授業に臨むこと。また、各自・グループの作業成果を発表する際には、入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% セミ中の発表，討論への参加状況，およびレポートを総合的に評価：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習中に適宜紹介する。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA615
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

2年の春学期では、まずマーケティングの考え方・進め方をしっかりと学びます。テキストの学習のほか、課題ごとに各自がレポートをまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとに全員でディスカッションを行い

ます。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりの現場を訪ねたり、ビジネスの最前線で活躍されている方をお招き
The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ①（テキストの学習とディスカッション）
- 2回：課題レポートの発表とディスカッション①（マーケティングとは）
- 3回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ②（テキストの学習とディスカッション）
- 4回：課題レポートの発表とディスカッション②（製品差別化）
- 5回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ③（テキストの学習とディスカッション）
- 6回：課題レポートの発表とディスカッション③（市場細分化）
- 7回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ④（テキストの学習とディスカッション）
- 8回：課題レポートの発表とディスカッション④（製品ライフサイクル）
- 9回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑤（テキストの学習とディスカッション）
- 10回：課題レポートの発表とディスカッション⑤（ブランド）
- 11回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑥（テキストの学習とディスカッション）
- 12回：課題レポートの発表とディスカッション⑥（サービス・マーケティング）
- 13回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑦（テキストの学習とディスカッション）
- 14回：課題レポートの発表とディスカッション⑦（マーケティングの現代的課題）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習（ゼミナール）は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。

普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲・参加態度、発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

嶋 正・東 徹編著 『現代マーケティングの基礎知識 [改訂版]』 創成社 2017年 ○

参考文献 / Readings

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA616
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM2003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

2年の秋学期では、「ヒット商品の研究」がテーマです。各自が担当するヒット商品について調べ、ヒットした背景や企業の戦略などについて考察し、それをレポートにまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとに

全員でディスカッションを行います。

通常の授業のほか、観光振興や地域づくりの現場を訪ねたり、ビジネスの最

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ①（テキストの学習とディスカッション）
- 2回：課題レポートの発表とディスカッション①（ヒット商品の研究1）
- 3回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ②（テキストの学習とディスカッション）
- 4回：課題レポートの発表とディスカッション②（ヒット商品の研究2）
- 5回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ③（テキストの学習とディスカッション）
- 6回：課題レポートの発表とディスカッション③（ヒット商品の研究3）
- 7回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ④（テキストの学習とディスカッション）
- 8回：課題レポートの発表とディスカッション④（ヒット商品の研究4）
- 9回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑤（テキストの学習とディスカッション）
- 10回：課題レポートの発表とディスカッション⑤（ヒット商品の研究5）
- 11回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑥（テキストの学習とディスカッション）
- 12回：課題レポートの発表とディスカッション⑥（ヒット商品の研究6）
- 13回：マーケティングの基本的な考え方・進め方を学ぶ⑦（テキストの学習とディスカッション）
- 14回：課題レポートの発表とディスカッション⑦（ヒット商品の研究7）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習（ゼミナール）は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。

普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲・参加態度、発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

嶋 正・東 徹編著 『現代マーケティングの基礎知識 [改訂版]』 創成社 2017年 ○

参考文献 / Readings

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA617
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グループワークの進め方やプレゼンテーションのスキルとともに、観光経営学の基礎的な考え方を理解する。
In addition to group work methods and presentation skills, students will understand the basic approach of tourism management.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスプランをつくりあげるグループワークを通して、経営学の基礎的な考え方を理解するとともに、観光分野におけるイノベーションの課題を学ぶ。

Through group work to complete a business plan, students will understand the basic concepts of business management and learn about issues of innovation in the tourism field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：観光というビジネス
- 2 回：観光経営学の基礎：市場をつくり出す企業活動
- 3 回：ビジネスプランニングの基礎：事業計画書の意味
- 4 回：観光経営学の基礎：価値形成のマネジメント

- 5回：ビジネスプランニングの基礎：ビジネスコンセプトの作り方
 6回：観光経営学の基礎：価値実現のマネジメント
 7回：ビジネスプランニングの基礎：プロダクトとイノベーション
 8回：観光経営学の基礎：事業組織のマネジメント
 9回：ビジネスプランニングの基礎：ニーズとウォンツ
 10回：観光経営学の基礎：市場のメカニズム
 11回：ビジネスプランニングの基礎：資金計画と利益計画1
 12回：観光経営学の基礎：消費者行動の論理
 13回：ビジネスプランニングの基礎：資金計画と利益計画2
 14回：観光経営学の基礎：競争構造の理解

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

簿記論の基礎について知識が不足している学生は、各自で学修すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み：100%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

石井淳蔵/嶋口充輝/栗木契/余田拓郎 ゼミナール マーケティング入門 日本経済新聞出版社 2013

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA618
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グループワークの進め方やプレゼンテーションのスキルとともに、観光経営学の基礎的な考え方を理解する。
In addition to group work methods and presentation skills, students will understand the basic approach of tourism management.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスプランをつくりあげるグループワークを通して、経営学の基礎的な考え方を理解するとともに、観光分野におけるイノベーションの課題を学ぶ。

Through group work to complete a business plan, students will understand the basic concepts of business management and learn about issues of innovation in the tourism field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ビジネスプランニングの基礎：ビジネスの価値
- 2 回：観光経営学の基礎：取引関係の理解
- 3 回：ビジネスプランニングの基礎：中間報告 1
- 4 回：観光経営学の基礎：プロセスとしての競争

- 5回：ビジネスプランニングの基礎：ビジネスの収支計算
 6回：観光経営学の基礎：産業のライフサイクル
 7回：ビジネスプランニングの基礎：中間報告2
 8回：観光経営学の基礎：流通システムのマネジメント
 9回：ビジネスプランニングの基礎：事業計画書とプレゼンテーション1
 10回：観光経営学の基礎：顧客関係のマネジメント
 11回：ビジネスプランニングの基礎：事業計画とプレゼンテーション2
 12回：観光経営学の基礎：ブランドのマネジメント
 13回：ビジネスプランニングの基礎：最終報告
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワー等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習について、授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション:50% 出席・授業への取り組み:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA621
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光における地理学の重要性を体系的かつ包括的な方法で学習する。特に、都市観光に重点を置き、都市観光の意義を考える。

Students will learn the importance of geography in tourism through systematic and comprehensive methods. A special emphasis will be placed on urban tourism, and we will think about the significance of urban tourism.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、学生による都市観光に関する論文紹介を中心とする。この過程で、文献の読み方、レジュメのまとめ方、口頭発表やディスカッションの仕方等をはじめ、基本的なアカデミック・スキルを習得する。この授業は演習形式であり、学生が主体的にディスカッションに参加することを求める。

This class will focus on the introduction of academic papers related to urban tourism by students. Through this process, students will gain basic academic skills, such as how to read literature, how to summarize items in an outline, oral presentation and discussion skills, etc. This class is given in seminar style, and students will be required to participate subjectively in discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：GIS 実習 1
 3回：GIS 実習 2
 4回：GIS 実習 3
 5回：論文紹介 1
 6回：論文紹介 2
 7回：論文紹介 3
 8回：論文紹介 4
 9回：論文紹介 5
 10回：論文紹介 6
 11回：論文紹介 7
 12回：論文紹介 8
 13回：海外調査準備 1
 14回：海外調査準備 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「都市観光論」を履修すること。発表者、共同発表者、サポーター、質問者等の役割分担を決める。役割に応じた準備を行なうこと。詳細は初回授業オリエンテーション時に説明する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容と質問内容:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

クリストファー・ロー アーバン・ツーリズム 近代文芸社 1997 4773358270 -

参考文献 / Readings**その他 / Others**

Canvas LMS を利用する

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

都市観光と観光地域の構造

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA622

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光における地理学の重要性を体系的かつ包括的な方法で学習する。特に、都市観光に重点を置き、都市観光の意義を考える。

Students will learn the importance of geography in tourism through systematic and comprehensive methods. A special emphasis will be placed on urban tourism, and we will think about the significance of urban tourism.

授業の内容 / Course Contents

都市観光について現地調査を準備して実施する。その後、現地調査の成果をまとめて発表し、最終報告を作成する。

Students will prepare and implement a field survey about urban tourism. Afterwards, students will summarize and present the results of the field survey, and create a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：報告構想 1

2 回：報告構想 2

- 3回：報告構想3
 4回：報告作成準備・ゼミ合宿反省会
 5回：報告発表1
 6回：報告発表2
 7回：報告発表3
 8回：報告発表4
 9回：報告発表5
 10回：報告発表6
 11回：報告作成
 12回：報告仮提出
 13回：報告作成
 14回：報告提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加と発表・質問内容:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA623
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光者の立場から観光現象を理解することを目的とし、主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理について学習する。また、3年次以降に展開される演習に必要とされる知識および基礎的なスキルを習得する。

観光学科の教育課程編成方針に掲げる「観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材」になるため、観光レクリエーション場面における基礎的な知識・スキルを身につける。

With the goal of understanding tourism phenomena from the tourist's perspective, we will study human behavior and psychology mainly in tourism and recreational settings. Students will also learn knowledge and basic skills necessary for third year seminar

授業の内容 / Course Contents

観光行動・心理の調査研究に参考となる幅広い領域の文献の講読を行う。参加者には、毎時間の課題に加え、定期的な発表を義務づけ、討議の時間を設ける。フィールドワークや合宿その他の活動は、原則として橋本ゼミナール他学年の演習参加者と合同で行う。

We will read a wide range of literature and materials that reference survey research on tourism behavior and psychology, and conduct fieldwork. In addition to the topics for each class, students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion. I plan to hold activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, and as a rule, these activities will be conducted jointly with participants in other years in Hashimoto Seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション，春学期の発表割当
- 2回：プレゼンテーション
- 3回：文献講読，討議
- 4回：文献講読，討議
- 5回：文献講読，討議
- 6回：文献講読，討議
- 7回：文献講読，討議
- 8回：文献講読，討議
- 9回：文献講読，討議
- 10回：文献講読，討議
- 11回：文献講読，討議
- 12回：文献講読，討議
- 13回：文献講読，討議
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストを必ず事前に読んで理解し，オリエンテーションにおいて指定された形式に沿って課題を提出すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容・提出物:80% フィールドワーク・調査等への参加状況:20%

テキスト / Textbooks

中西 進 日本人の忘れもの2 ウェッジ文庫 2008 ○
前田勇編著 新現代観光総論(第3版) 学文社 2019 -

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

その他 / Others

積極的・自主的な行動，集団の一員として「規律」を守ることが必須である。その他詳細は講義第1回のオリエンテーション時に説明するので，必ず出席すること。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA624
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光者の立場から観光現象を理解することを目的とし、主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理について学習する。また、3年次以降に展開される演習に必要とされる知識および基礎的なスキルを習得する。

観光学科の教育課程編成方針に掲げる「観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材」になるため、観光レクリエーション場面における基礎的な知識・スキルを身につける。

With the goal of understanding tourism phenomena from the tourist's perspective, we will study human behavior and psychology mainly in tourism and recreational settings. Students will also learn knowledge and basic skills necessary for third year seminar

授業の内容 / Course Contents

観光行動・心理の調査研究に参考となる幅広い領域の文献・資料の講読や、フィールドワークを行う。参加者には毎時間の課題と定期的な発表を義務づけ、討議の時間を設ける。フィールドワークや合宿その他の活動は、原則として担当者による他学年の演習参加者と合同で行う。

授業内ではテキスト(A)を題材としたスピーチを行うとともに、前半はテキスト(B)を輪読し、後半は夏休みの課題やテキスト(C)によるグループ研究の成果を個別に発表する。

We will read a wide range of literature and materials that reference survey research on tourism behavior and psychology, and conduct fieldwork. Along with the topics for each class, students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion. Activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, as a rule, will be conducted jointly with participants of the instructor's seminars in other years.

In class, speeches will be given on the themes in text (A), text (B) will be read in turns in the first half, and in the latter half, individual presentations will be given on summer break topics and the results of group research based on text (C).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：スピーチ，文献講読
- 3回：スピーチ，文献講読，グループ研究
- 4回：スピーチ，文献講読，グループ研究
- 5回：スピーチ，文献講読，グループ研究
- 6回：スピーチ，文献講読，グループ研究
- 7回：スピーチ，文献講読
- 8回：スピーチ，個人研究発表
- 9回：スピーチ，個人研究発表
- 10回：スピーチ，個人研究発表
- 11回：スピーチ，個人研究発表
- 12回：スピーチ，グループ研究
- 13回：スピーチ，グループ研究
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストを必ず事前に読んで理解し、オリエンテーションにおいて指定された形式に沿って課題を提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容・提出物:70% 調査等への参加状況:30%

テキスト / Textbooks

- (A)前田勇 編著 新現代観光総論(第3版) 学文社 2019 -
- (B)宮内泰介・上田昌文 実践 自分で調べる技術 岩波書店 2020 ○
- (C)本田弘之他 街の公共サインを点検する 大修館書店 2017 ○

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

その他/ Others

積極的・自主的な行動，集団の一員として「規律」を守ることが必須である。その他詳細は講義第1回のオリエンテーション時に説明するので，必ず出席すること。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

松山 将之 (MATSUYAMA MASAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA625
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現実のデータに基づいて判断する能力を修得すること。基礎的な企業データに関する知識を身につける。春学期は業界全体の分析を中心に行う。

Students will acquire the ability to make decisions based on current data. Students will acquire basic knowledge regarding corporate data. The spring semester will focus on conducting an analysis of the industry as a whole.

授業の内容 / Course Contents

観光産業をはじめさまざまな産業・企業について、現実のデータに基づいて比較・分析を行う。関連する教材の輪読や希望する産業を共同研究し発表する。

Students will conduct comparisons and analysis based on current data regarding various industries and companies, including the tourism industry. Related course materials will be read in turn, and students will conduct joint research and a presentation on an industry of their choice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：大まかなテーマの設定

- 3回：テーマに関する資料の収集
 4回：発表事例の吟味
 5回：予備発表
 6回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 7回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 8回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 9回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 10回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 11回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 12回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 13回：さまざまな討論
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジメなどの準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容によって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 9784887305648

伊藤邦雄 新・企業価値評価 日本経済新聞出版社 2014 9784532134501

その他 / Others

- ・工場等の現場を視察する授業も含まれる。
- ・急遽、担当者変更が生じたため、シラバスの内容が一部変更になる可能性がある。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

開示報告書から学ぶ企業と業種

松山 将之 (MATSUYAMA MASAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA626

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 統合報告書などの開示媒体を利用して企業並びに業種について学ぶ。
- ・ 特定の社会課題についての最新の動向を踏まえ、それらが企業活動に及ぼす影響について学ぶ。
- ・ The first objective of this course is to learn about companies and industries using disclosure media such as integrated reports.
- ・ The second objective of this course is to learn about the latest trends in specific social issues and their impact on corpo

授業の内容 / Course Contents

- (1)、特定の社会的課題をテーマに基本的な知識について習得する。
- (2)、それらの社会的課題が企業にどのように影響を及ぼしているのかについて事例を通じて理解する。
- (3)、(1)(2)の内容を踏まえ、グループ（個人）でテーマを決めて調査、分析を行い、その進捗を報告し、クラス全体でディスカッションをおこなう。
- (4)、最終的な成果として、グループ発表をおこなう。

This course is divided into four stages: (1) to (4).

(1) In the first stage, students will acquire basic knowledge of specific social issues.

(2) In the second stage, students will understand how various social issues affect companies through case studies.

(3) In the third step, students will be divided into groups. After discussion among them, they will decide on a topic and conduct research and analysis. The progress of the research will be reported and discussed by the whole class.

(4) The final result will be a group presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：今年度取り扱う社会的課題についての説明と演習全体のながれの説明

2回：社会的課題についての座学①

3回：社会的課題についての座学②

4回：社会的課題についての座学の内容を踏まえたワーク①

5回：社会的課題についての座学③

6回：社会的課題についての座学の内容を踏まえたワーク②

7回：グループワークにおけるテーマの設定①

8回：グループワークにおけるテーマの設定②

9回：各グループにおける進捗状況の発表①

10回：各グループにおける進捗状況の発表②

11回：各グループにおける進捗状況の発表③

12回：各グループにおける進捗状況の発表④

13回：グループワークの最終報告①

14回：グループワークの最終報告②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・与えられたテーマについてのディスカッションのための予習
- ・グループディスカッションのための準備

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義全体への貢献:30% グループワーク最終報告に至るまでの貢献:30% グループワーク最終報告の内容:40%

グループワークの報告内容が不芳、若しくは講義期間内に終わらなければ、最終レポートを課する場合もある。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

研究の基礎を学習する

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA627

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Hospitality をテーマに研究の基礎を学ぶ。また、自ら考え行動する力と、共同学習を通して一緒に学ぶ姿勢と技術を習得する。

Students will learn the basics of research on the theme of hospitality. Students will also gain the ability to think and act independently, and through joint study students will gain the attitude and skills to learn together.

授業の内容 / Course Contents

観光研究に使用する文献について学習する。研究の基礎や技術を身につける。グループワークやゼミ運営において、自主的な活動を訓練する。

Students will study literature used in tourism research. Students will learn the basics and skills of research.

Students will practice working autonomously through group work and conducting seminars.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

2 回：文献についてーレポートの書き方

- 3回：情報検索方法－講習会
 4回：グループワーク1－調査方法
 5回：グループワーク2－調査方法
 6回：グループワーク3－調査方法
 7回：グループ別調査結果発表
 8回：グループワーク4－調査合宿の事前調査
 9回：グループワーク5－調査合宿の事前調査
 10回：グループワーク6－調査合宿の事前調査
 11回：調査計画の確定
 12回：夏の合宿調査の準備1
 13回：夏の合宿調査の準備2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

新聞を読む習慣を身につけること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の発言, 質問:30% グループ発表:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

大学図書館の資料やデータベースを使用する

参考文献 / Readings

適宜授業中に紹介する

その他 / Others

適宜授業中に紹介する

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

研究の基礎を学習する

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA628

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Hospitality をテーマに研究の基礎を学ぶ。また、自ら考え行動する力と共同学習を通して一緒に学ぶ姿勢と技術を習得する。

Students will learn the basics of research on the theme of hospitality. Students will also gain the ability to think and act independently, and through joint study students will gain the attitude and skills to learn together.

授業の内容 / Course Contents

観光研究に使用する文献について学習する。研究の基礎や技術を身につける。グループワークやゼミ運営において、自主的な活動を訓練する。

Students will study literature used in tourism research. Students will learn the basics and skills of research.

Students will practice working autonomously through group work and conducting seminars.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

2 回：夏合宿の調査結果の整理 1

- 3回：夏合宿の調査結果の整理 2
 4回：グループ別調査結果の中間発表 1
 5回：報告書の作成 1
 6回：報告書の作成 2
 7回：報告書ドラフト確認
 8回：グループ別調査結果の中間発表 2
 9回：報告書の作成 3
 10回：報告書の作成 4
 11回：グループ別調査結果の最終発表
 12回：報告書製本の準備
 13回：まとめ
 14回：報告書の発送作業

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

新聞を読む習慣を身につけること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の発言, 質問:30% グループ発表:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

大学図書館の資料やデータベースを使用する

参考文献 / Readings

適宜授業中に紹介する

その他 / Others

適宜授業中に紹介する

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

空間の把握と理解

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA629

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光に供せられる建物や空間について考察するための感覚的な技法を習得することを目的に演習を行う。

Exercises are conducted to learn techniques for considering facilities and spaces offered for sightseeing.

授業の内容 / Course Contents

2年の夏までに建築物や広場などについて空間スケールの把握方法と、建物や空間のスケッチ作画法、図面の描き方、そして模型制作の基礎を学び、空間を立体的に把握する能力を身につける。春学期の間に東京近郊の施設や空間を訪れ実際にその場に置くことを通じて空間を体験する機会をもうけます。

In the spring semester, students will learn how to understand the spatial scale of buildings and open spaces, and the basics of sketch drawing and perspective drawing and model making. Students will have the opportunity to experience the space by visiting facilities and spaces near Tokyo and actually existing them there. After the field work students have to draw sketch and make model of the "places" that students actually visit.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：本演習についてのオリエンテーションとメンバーの自己紹介

- 2回：人体寸法
 3回：作図と製図の基礎
 4回：自室空間の平面図描画1
 5回：自室空間の平面図描画2
 6回：自室空間のパース描画1
 7回：自室空間のパース描画2
 8回：自室模型制作1
 9回：自室模型制作2
 10回：新座キャンパス内スケッチ1
 11回：新座キャンパス内スケッチ2
 12回：東京国立博物館見学
 13回：上野公園内の空間についてのビジュアルプレゼンテーション
 14回：好きな建築サーベイと紹介プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

定規を使って直線の引き方の練習、カッターを使って安全に紙を切る練習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み：50% 課題（複数回）：50%

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜プリントを配付します。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、責任感、探究心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

定規、カッターボード、カッター、接着剤等工作用具

その他 / Others

カッター用の定規と三角定規、小型カッター、カッティングマットなどを各自用意しておくこと。くれぐれも怪我をしないように注意してキレイに仕上げてください。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

施設・空間の理解と分析

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA630

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光に供せられる施設や空間について考察することを目的とした演習を行う。

The purpose of this exercise is to consider the facilities and spaces available for tourism.

授業の内容 / Course Contents

秋学期には、夏休みに訪れた「場」について図面や模型を作成し、実体験できる空間がどのように情報化されて形になるのかを考察してもらいます。この経験を通じて、図面から実際の空間をイメージできる能力を高めます。さらに、3年生で訪れる調査地や調査対象についての選定と下調べを行います。

In autumn term, students will draw the sketches and make models of the "places" that they visit in summer.

Through this work, students will improve the ability to grasp the actual space from the drawings. In addition, students decide the field study sites and survey spots to visit in third grade.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：夏期休暇中の空間体験の報告

2 回：調査対象地の地理的特性、文化的特徴

- 3回：調査対象の建築的特性
 4回：調査旅行計画の検討
 5回：共用データの確認と役割分担
 6回：調査旅行冊子の作成
 7回：調査旅行の報告と反省
 8回：調査空間の紹介1
 9回：調査空間の紹介2
 10回：調査空間の紹介3
 11回：調査手順の改善検討
 12回：次年度調査対象地の検討1、報告書の作成
 13回：次年度調査対象地の検討2、報告書の作成
 14回：報告書の発表・評価と次年度計画

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習で学んだ知識と手法を使って、実際に目にする平面図から空間を把握したり、自ら訪れた空間を合理的に図化する練習を繰り返し、身につけること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み:50% 課題 (複数回) :50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、分析力、プレゼンテーション力、責任感、探究心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

定規やカッター、カッターボードなど工作道具

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

経済学の視点から環境問題と観光を学ぶ

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA631

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境問題や観光活動と経済の関わりについて、経済学の視点から学ぶことを目的とする。経済学の基礎的な知識を身につけ、それをもとに環境問題や観光活動を分析し観光産業の役割を理解する。さらに、基礎的知識の習得と並行し、フィールドワーク等も行なう。

This course aims to learn about the relationship between environmental issues and tourism activities and the economy from an economic perspective. Students will acquire basic knowledge of economics and use it to analyze environmental issues and tourism ac

授業の内容 / Course Contents

この講義では環境問題や観光活動と経済学の研究に参考となる幅広い領域の文献・資料の講読、および体験型学習を行う。テキストや資料を読み、定期的な発表を行ない、学生自身が取り上げた議題についてディスカッションする。フィールドワークや合宿やその他の活動は、学生同士で話し合い活動内容を決める。

This course will involve reading a wide range of literature and materials on environmental issues and tourism activities and economics, as well as experiential learning. Students will read texts and materials, give periodic

presentations, and discuss their topics. Fieldwork, camps, and other activities will be decided by discussion among students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：演習内容の決定、春学期の発表割当
- 2 回：文献の講読、ディスカッション
- 3 回：文献の講読、ディスカッション
- 4 回：文献の講読、ディスカッション
- 5 回：文献の講読、ディスカッション
- 6 回：文献の講読、ディスカッション
- 7 回：文献の講読、ディスカッション
- 8 回：文献の講読、ディスカッション
- 9 回：文献の講読、ディスカッション
- 10 回：文献の講読、ディスカッション
- 11 回：文献の講読、ディスカッション
- 12 回：文献の講読、ディスカッション
- 13 回：文献の講読、ディスカッション
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員がテキストを必ず事前に読み、不明点は明らかにしておくこと。
発表担当者は、担当箇所の PPT を作成し発表に備えておくこと。
演習時間に出された質問、指摘を踏まえ復習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:80% フィールドワーク・調査等への参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に演習に参加し、自身で何が問題か深く掘り下げる探求心と、観光や経済のみならず幅広い分野に興味を持つ高い知的好奇心を持つことが求められる。さらに、習得した知識を応用し自身の発表の際にアウトプットとして活用できること、最適かつ効率的なソリューションについてオリジナリティに溢れたアイデアを考え出せることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の中で紹介する資料等について、「Canvas LMS」を使用する予定である。

その他 / Others

ゼミを進めるにあたっての他詳細は、第1回目のオリエンテーション時に説明するため、必ず出席すること。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

観光を軸とする地域と環境の関わり

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA632

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域固有資源を観光資源と活用している地域は多く、地域発展のためには経済学を活用しその価値を正確に把握していることが重要である。例えば、世界自然遺産（知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島）などはその代表例であり、自然資源の価値を世界的に認めつつも観光資源として大いに地域経済に貢献している。そこで、経済学を用いて観光資源の価値を把握するために、観光資源となりうる自然環境の価値を推計するための基礎理論を学ぶ。さらに、学生の関心がある環境保全と観光の問題を抱える地域を選定し、実地調査を行なう。その成果を、全国大会で

As many regions make good use of area-specific resources such as tourism resources, it is important to understand the value of local development using economics. The world's natural heritage is a typical example, and the designated area, that is, Shiretok

授業の内容 / Course Contents

経済学において地域とは何か、資源とは何か、環境とは何かについてその定義から詳細に学ぶ。そして、これらを理解した上で、観光と環境の関わりについて学び、地域の発展に観光が環境という視点からどのように貢

献できるのかについて理解を深める。そのためにも、経済学の知識をベースに多角的な視点から観光を分析する視座を養う。また、フィールド調査を実施し、実際に現地で起きている環境問題と観光の関わりを理解する。

We will study the definition of regions, resources, and environment in detail from an economic perspective. Furthermore, students learn about how tourism and the natural environment can contribute to regional economies in terms of local development. An analytical point of view through economics will be provided in this class. Students will also conduct field research to understand the relationship between environmental issues and tourism occurring on the ground.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：演習の進め方、発表の割当て
- 2回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 3回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 4回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 5回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 6回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 7回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 8回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 9回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 10回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 11回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 12回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 13回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は、必ずPPTで担当箇所を発表するための準備をしてくること。

演習の中で出された質問、意見、コメントに対応するため、復習も兼ねて次回までにその準備をしてくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容およびディスカッションの質:70% 参加態度（コメントや質問の質）:30%

テキスト / Textbooks

八木信一、関耕平 地域から考える環境と経済 -- アクティブな環境経済学入門 有斐閣ストゥディア 2019

参考文献 / Readings

適宜、ゼミ内で紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ゼミ生全員で一つの目標を設定し、その解決策について互いに議論をしより良い解決策を全員で導き出す能力を要する。その際、相手の意見を尊重しつつも自身の意見もきちんと主張し、侃々諤々の議論の中から一つの解に辿り着くプロセスを参加者全員で楽しめること。

その他/ Others

第1回目のゼミで、進め方および発表割当を決めるので必ず参加すること。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA633

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

都市計画及び地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりに関する文献（論文、図書、行政レポート等）を精読し、都市計画とまちづくりの基礎的な考え方を学ぶ。そのうえで、実際に具体的な地域を対象に、現地で地域住民の方に接し、まちづくりのあり方を考える。

Students will learn basic knowledge regarding urban planning, historical environmental conservation, and machizukuri. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical

areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献精読・まちづくりの実践（1）
- 2 回：文献精読・まちづくりの実践（2）
- 3 回：文献精読・まちづくりの実践（3）
- 4 回：文献精読・まちづくりの実践（4）
- 5 回：文献精読・まちづくりの実践（5）
- 6 回：文献精読・まちづくりの実践（6）
- 7 回：文献精読・まちづくりの実践（7）
- 8 回：文献精読・まちづくりの実践（8）
- 9 回：文献精読・まちづくりの実践（9）
- 10 回：文献精読・まちづくりの実践（10）
- 11 回：文献精読・まちづくりの実践（11）
- 12 回：文献精読・まちづくりの実践（12）
- 13 回：文献精読・まちづくりの実践（13）
- 14 回：文献精読・まちづくりの実践（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。

また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題：100%

毎回授業後3日以内に授業で学んだことについて小レポートを毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA634

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

都市計画及び地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりに関する文献（論文、図書、行政レポート等）を精読し、都市計画とまちづくりの基礎的な考え方を学ぶ。そのうえで、実際に具体的な地域を対象に、現地で地域住民の方に接し、まちづくりのあり方を考える。

Students will learn basic knowledge regarding urban planning, historical environmental conservation, and machizukuri. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical

areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献精読・まちづくりの実践 (15)
- 2 回：文献精読・まちづくりの実践 (16)
- 3 回：文献精読・まちづくりの実践 (17)
- 4 回：文献精読・まちづくりの実践 (18)
- 5 回：文献精読・まちづくりの実践 (19)
- 6 回：文献精読・まちづくりの実践 (20)
- 7 回：文献精読・まちづくりの実践 (21)
- 8 回：文献精読・まちづくりの実践 (22)
- 9 回：文献精読・まちづくりの実践 (23)
- 10 回：文献精読・まちづくりの実践 (24)
- 11 回：文献精読・まちづくりの実践 (25)
- 12 回：文献精読・まちづくりの実践 (26)
- 13 回：文献精読・まちづくりの実践 (27)
- 14 回：文献精読・まちづくりの実践 (28)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。

また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題：100%

毎回授業後3日以内に授業で学んだことについて小レポートを毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA637
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM2003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点と方法に関する基礎的知識を身につける。とくに、観光が地域社会や私たちの日常生活をいかに動的に変化させているのかについて、観光や移動を通じて生まれる新たな文化やコミュニケーションのあり方に注目する。

- (1) To acquire a basic knowledge of the perspectives and methods of the sociology of tourism.
- (2) The course will discuss how tourism is dynamically changing local communities and our daily lives, focusing on new cultures and forms of communication that e

授業の内容 / Course Contents

社会学や文化人類学に関する文献の講読を行い、観光社会学の基礎的知識および視点を習得する。また、文献講読を通じて、文献の精読・発表・議論の方法などに関するアカデミックスキルを身につける。さらに、フィールドワークを行い授業で身につけた視点をを用いて地域の調査・分析に取り組む。

- (1) Students will acquire basic knowledge and perspectives on the sociology of tourism by reading literature on sociology and cultural anthropology.
- (2) Through literature reading, students will acquire academic skills in reading, presenting, and discussing the

literature.

(3) Students will conduct fieldwork to research and analyze the local community using the perspectives acquired in the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読の方法・アカデミックスキルの確認
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：文献講読
- 8回：文献講読
- 9回：フィールドワークの事前学習
- 10回：フィールドワーク
- 11回：文献講読
- 12回：文献講読
- 13回：文献講読
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には各自で文献を読み、発表の準備を行う。

授業後には発表内容の振り返りや授業で取り上げたテーマに関するさらなる分析をまとめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（文献講読、発言の内容、提出物）：70% 期末レポート：30%

テキスト / Textbooks

神田孝治ほか 『移動時代のツーリズム—動きゆく観光学』 ナカニシヤ出版 2023 9784779517686 ○

参考文献 / Readings

須藤廣ほか 『よくわかる観光コミュニケーション論』 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA638
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光や移動現象を通して現代社会を考察するための社会学的な視点と方法を身につける。

Acquire sociological perspectives and methods to examine contemporary society from the point of tourism and mobility.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論を通じて、社会学に関する理解を深める。座学に加えてフィールドワークを行い、授業で身につけた視点をを用いて現代社会の諸現象に関する分析に取り組む。

- (1) Students will deepen their understanding of sociology through literature reading and discussion.
- (2) In addition to classroom lectures, fieldwork will be conducted to analyze various phenomena in contemporary society using the perspectives acquired in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス・夏季課題の発表
- 2 回：夏季課題の発表
- 3 回：文献講読

- 4回：文献講読
 5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：フィールドワークの事前学習
 8回：フィールドワーク
 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には各自で文献を読み、発表の準備を行う。

授業後には発表内容の振り返りや授業で取り上げたテーマに関するさらなる分析をまとめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（文献講読・発言の内容・提出物）：70% 期末レポート：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 須藤廣ほか 『よくわかる観光コミュニケーション論』 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874
 安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

気候変動による地域の特産品への損失の経済的価値

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA641

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生が目標を定め、研究と分析を進めていくことを第一とする。例えば、地域の特産品に気候変動がどれほど悪影響を及ぼしているかについて、実地調査を行ない、データ収集を実施する。収集したデータを用い、地域の特産品が失われることの経済価値を推計し、その結果を全国大会で発表する。

もしテーマが定まらない場合は、次の内容で進める。地域固有資源を観光資源と活用している地域は多く、地域発展のためには経済学を活用しその価値を正確に把握していることが重要である。そこで、世界遺産の価値に焦点を絞り、経済学を用いた観光資源としての

Students must decide on a research theme they want to be clear about. For example, conduct a field survey and collect data on how climate change negatively impacts local specialty products. The economic value of the loss of local specialty products will b

授業の内容 / Course Contents

近年は気候変動問題が深刻化しており、その影響が観光にどのように影響を与えるのか考察することが重要である。そこで、観光と環境の関わりについて学び、地域の発展に観光が環境という視点からどのように貢献で

きるのかについて理解を深める。特に、地域の特産品への影響について、経済モデルによる推計や、生産者の転作などの意思決定過程を分析する方法を学ぶ。また、対象となる地域で実地調査を行ない、データ分析を行なう。

It is significant for us to consider the impact of climate change on tourism because the aggravation of climate conditions results from inadequate human activities. In particular, the course will focus on estimating the impact on local specialties using economic models and the analysis of the decision-making process of producers, such as shifting crops. In addition, field surveys will be conducted in the target areas, and data will be analyzed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：演習の進め方、発表担当の割当て
- 2回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 3回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 4回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 5回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 6回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 7回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 8回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 9回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 10回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 11回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 12回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 13回：文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は、必ずPPTで担当箇所を発表するための準備をしてくること。

演習の中で出された質問、意見、コメントに対応するため、復習も兼ねて次回までにその準備をしてくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容の質、質疑への受け答え：80% 参加態度（コメント、質問）：20%

テキスト / Textbooks

栗山浩一 世界遺産の経済学 勁草書房 2000 -

参考文献 / Readings

演習の中で適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

データ分析を実施するため、R、Python、STATAといった統計ソフトを活用できる能力を必要とする。

その他/ Others

第1回目のゼミで、進め方および発表割当を決めるので必ず参加すること。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

研究成果の取りまとめと全国大会への出場

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA642

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生の研究発表大会への出場を目指し、研究テーマを設定し調査手法の設計、調査・分析を自ら行なえるようになる。また、これらの成果をパワーポイントにまとめ、オーディエンスの関心を引くのみならず、研究成果の社会的重要性をアピールできるプレゼンテーションを行なえるようになることを目標とする。

The main purpose of this class is to attend and make a presentation at a research competition. To achieve that goal, students will be able to decide on research questions clearly and conduct a questionnaire survey. The goal is for students to be able to p

授業の内容 / Course Contents

学生同士で議論し、文献の読み合わせを行ない、設定したテーマについて研究のアプローチ方法を明確にする。さらに、必要な統計分析手法についての勉強を進め、全国大会で研究発表できるよう準備を進める。演習の中で複数回の発表練習を経た上で、全国大会で研究発表を行う。

Students will discuss the research theme and conduct their survey. Furthermore, students will have to study the methods of statistical analysis and prepare for a presentation at a research competition. Moreover, the practice

of a research presentation will be conducted multiple times in this class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究課題の設定 1
- 2 回：研究課題の設定 2
- 3 回：研究手法の検討と進め方 1
- 4 回：研究手法の検討と進め方 2
- 5 回：研究手法の検討と進め方 3
- 6 回：研究手法の検討と進め方 4
- 7 回：進捗報告 1
- 8 回：進捗報告 2
- 9 回：進捗報告 3
- 10 回：研究大会への参加
- 11 回：反省点と改善点の洗い出し 1
- 12 回：反省点と改善点の洗い出し 2
- 13 回：反省点と改善点の洗い出し 3
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習の時間は1週間の成果の報告と捉え、研究課題の設定や進め方、分析手法の検討などについて各自が時間を割いてしっかり準備しておく必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加・発言:30% 課題・発表:30% 研究大会での発表:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜授業で指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

実証研究の結果について多角的な視点から評価し、どのような政策的インプリケーションを主張できるか深く考察しオリジナリティのある結論を導き出す創造力を必要とする。

その他 / Others

各自が主体性を持ち、研究大会での発表を目指し進めていくこと。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

松山 将之 (MATSUYAMA MASAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA643
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現実のデータに基づいて判断する能力を修得すること。基礎的な企業データ、財務データに関する知識を身につけ、業界の動向を予測する。春学期は業界全体の分析を中心に行う。

Students will acquire the ability to make decisions based on current data. Students will acquire basic knowledge regarding corporate data and finance data, and predict industry trends. The spring semester will focus on conducting an analysis of the industry.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな産業・企業について、現実のデータに基づいて数量的に比較・分析を行う。関連する教材の輪読や希望する産業を共同研究し発表する。

Students will conduct quantitative comparisons and analysis based on current data regarding various industries and companies. Related course materials will be read in turn, and students will conduct joint research and a presentation on an industry of their choice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：大まかなテーマの設定
 3回：テーマに関する資料の収集
 4回：発表事例の吟味
 5回：予備発表
 6回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 7回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 8回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 9回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 10回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 11回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 12回：各グループの発表及び内容についてディスカッションを行い発表内容について検討する。
 13回：さまざまな討論
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジメなどの準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・報告内容によって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門—起業家マインドの醸成に向けて 大学教育出版 2004 9784887305648

伊藤邦雄 新・企業価値評価 日本経済新聞出版社 2014 9784532134501

その他 / Others

- ・工場等の現場を視察する授業も含まれる。
- ・急遽、担当者変更が生じたため、シラバスの内容が一部変更になる可能性がある。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

開示報告書から学ぶ企業と業種

松山 将之 (MATSUYAMA MASAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA644

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 統合報告書などの開示媒体を利用して企業並びに業種について学ぶ。
- ・ 特定の社会課題についての最新の動向を踏まえ、それらが企業活動に及ぼす影響について学ぶ。
- ・ The first objective of this course is to learn about companies and industries using disclosure media such as integrated reports.
- ・ The second objective of this course is to learn about the latest trends in specific social issues and their impact on corpor

授業の内容 / Course Contents

- (1)、特定の社会的課題をテーマについて基本的な知識について習得する。
- (2)、それらの社会的課題が企業にどのように影響を及ぼしているのかについて事例を通じて理解する。
- (3)、(1)(2)の内容を踏まえ、グループ（個人）でテーマを決めて調査、分析を行い、その進捗を報告し、クラス全体でディスカッションをおこなう。

(4)、最終的な成果として、グループ発表をおこなう。

This course is divided into four stages: (1) to (4).

- (1) In the first stage, students will acquire basic knowledge of specific social issues.
- (2) In the second stage, students will understand how various social issues affect companies through case studies.
- (3) In the third step, students will be divided into groups. After discussion among them, they will decide on a topic and conduct research and analysis. The progress of the research will be reported and discussed by the whole class.
- (4) The final result will be a group presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：今年度取り扱う社会的課題についての説明と演習全体のながれの説明
- 2回：社会的課題についての座学①
- 3回：社会的課題についての座学②
- 4回：社会的課題についての座学の内容を踏まえたワーク①
- 5回：社会的課題についての座学③
- 6回：社会的課題についての座学の内容を踏まえたワーク②
- 7回：グループワークにおけるテーマの設定①
- 8回：グループワークにおけるテーマの設定②
- 9回：各グループにおける進捗状況の発表①
- 10回：各グループにおける進捗状況の発表②
- 11回：各グループにおける進捗状況の発表③
- 12回：各グループにおける進捗状況の発表④
- 13回：グループワークの最終報告①
- 14回：グループワークの最終報告②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・与えられたテーマについてのディスカッションのための予習
- ・グループディスカッションのための準備

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義全体への貢献:30% グループワーク最終報告に至るまでの貢献:30% グループワーク最終報告の内容:40%

グループワークの報告内容が不芳、若しくは講義期間内に終わらなければ、最終レポートを課する場合もある。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA645
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

3年の演習では、2年で学んだマーケティングの基本的な考え方を、観光・サービス・地域振興等、具体的な課題・分野に応用してみましょう。問題意識を共有する仲間と一緒にグループ研究を行います。ゼミ生の希望

するテーマをもとに4～5グループを編成し、研究を進めていきます。

これまでの例：「日本の航空ビジネスの現状

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：グループ研究の発表とディスカッション①
- 2回：グループ研究の発表とディスカッション②
- 3回：グループ研究の発表とディスカッション③
- 4回：グループ研究の発表とディスカッション④
- 5回：グループ研究の発表とディスカッション⑤
- 6回：ゲスト講演会①（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 7回：グループ研究の発表とディスカッション⑥
- 8回：グループ研究の発表とディスカッション⑦
- 9回：グループ研究の発表とディスカッション⑧
- 10回：グループ研究の発表とディスカッション⑨
- 11回：グループ研究の発表とディスカッション⑩
- 12回：ゲスト講演会②（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 13回：グループ研究の発表とディスカッション⑪
- 14回：グループ研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習（ゼミナール）は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。

普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲、参加態度、発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA646
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

3年の演習では、2年で学んだマーケティングの基本的な考え方を、観光・サービス・地域振興等、具体的な課題・分野に応用してみましょう。問題意識を共有する仲間と一緒にグループ研究を行います。ゼミ生の希望

するテーマをもとに4～5グループを編成し、研究を進めていきます。

これまでの例：「日本の航空ビジネスの現状

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：グループ研究の発表とディスカッション①
- 2回：グループ研究の発表とディスカッション②
- 3回：グループ研究の発表とディスカッション③
- 4回：グループ研究の発表とディスカッション④
- 5回：グループ研究の発表とディスカッション⑤
- 6回：ゲスト講演会①（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 7回：グループ研究の発表とディスカッション⑥
- 8回：グループ研究の発表とディスカッション⑦
- 9回：グループ研究の発表とディスカッション⑧
- 10回：グループ研究の発表とディスカッション⑨
- 11回：グループ研究の発表とディスカッション⑩
- 12回：ゲスト講演会②（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 13回：グループ研究の発表とディスカッション⑪
- 14回：グループ研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習（ゼミナール）は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。

普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲、参加態度、発表の内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA647
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光産業を主として「ビジネス」の視点から捉えた場合の課題と将来性について考察するとともに、観光産業をひとつのシステムとして理解する。

We will mainly consider the issues and future prospects of the tourism industry from the business perspective, while understanding the tourism industry as a single system.

授業の内容 / Course Contents

経営学を理論的枠組みとしながら、観光・ホスピタリティ産業の特徴を分析する。そのうえで、観光・ホスピタリティ分野におけるイノベーションの必要性と課題について検討する。具体的には新規のビジネスを「ビジネスプラン」として提案し、作成したビジネスプランは、学外を含む報告会等で発表を行なう。

Using business management as a theoretical framework, we will analyze the characteristics of the tourism and hospitality industries. In addition, we will investigate the necessity and issues of innovation in the tourism and hospitality fields. Specifically, students will propose a new business through creation of a business plan, and will present the business plan they create at a report conference including members from outside of the university.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：観光におけるイノベーション
- 2回：ポーターの戦略論
- 3回：リソース・ベースド・ビュー
- 4回：情報の経済学
- 5回：エージェンシー理論
- 6回：取引費用理論
- 7回：ゲーム理論
- 8回：リアル・オプション理論
- 9回：ビジネスプラン中間報告 1
- 10回：経済学ディシプリンの経営学
- 11回：マクロ心理学ディシプリンの経営学
- 12回：ビジネスプラン：資金計画と利益計画 1
- 13回：ビジネスプラン：資金計画と利益計画 2
- 14回：ビジネスプラン中間報告 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み：100%

テキスト / Textbooks

入山章栄 世界標準の経営理論 ダイアモンド社 2019 9784478109571 -

新雅史 なぜ減びるのかなぜ減びるのか 光文社新書 2022 9784334036850 ○

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

エリック・フォン・ヒッペル 民主化するイノベーションの時代 サイコムインターナショナル 2005

小川 進 ユーザーイノベーション：消費者から始まるものづくりの未来 東洋経済新報社 2013

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA648
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM3003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

観光産業を主として「ビジネス」の視点から捉えた場合の課題と将来性について考察するとともに、観光産業をひとつのシステムとして理解する。

We will mainly consider the issues and future prospects of the tourism industry from the business perspective, while understanding the tourism industry as a single system.

授業の内容 / Course Contents

経営学を理論的枠組みとしながら、観光・ホスピタリティ産業の特徴を分析する。そのうえで、観光・ホスピタリティ分野におけるイノベーションの必要性と課題について検討する。具体的には新規のビジネスを「ビジネスプラン」として提案し、作成したビジネスプランは、学外を含む報告会等で発表を行なう。

Using business management as a theoretical framework, we will analyze the characteristics of the tourism and hospitality industries. In addition, we will investigate the necessity and issues of innovation in the tourism and hospitality fields. Specifically, students will propose a new business through creation of a business plan, and will present the business plan they create at a report conference including members from outside of the university.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：組織の知識創造理論
- 2回：ダイナミックケイパビリティ理論
- 3回：マイクロ心理学ディシプリンの経営理論
- 4回：社会学ディシプリンの経営理論
- 5回：エンベデッドネス理論
- 6回：グラノベッターの理論
- 7回：ストラクチャル・ホール理論
- 8回：戦略とイノベーション
- 9回：ビジネスプラン中間報告
- 10回：ビジネスプランの収支計算
- 11回：報告書の作成とプレゼンテーション1
- 12回：報告書の作成とプレゼンテーション2
- 13回：報告書の作成とプレゼンテーション3
- 14回：ビジネスプラン最終報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習について、授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み:50% 最終報告:50%

テキスト / Textbooks

入山章栄 世界標準の経営理論 ダイアモンド社 2019 9784478109571 -

参考文献 / Readings

エリック・フォン・ヒッペル 民主化するイノベーションの時代 サイコムインターナショナル 2005

小川 進 ユーザーイノベーション：消費者から始まるものづくりの未来 東洋経済新報社 2013

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA649
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光と政治の関係をテーマとしている。到達目標は、各自の考えを第三者に説明できるように、客観的資料を用いて論理的に説明できるようになることである。

The theme of this seminar is the relationship between tourism and politics. The goal is to be able to explain logically using objective materials so that they can explain their ideas.

授業の内容 / Course Contents

文献講読とディスカッションを行う。各自の関心事項について考察する技術を身に着けることが演習（3年）Aの趣旨である。

Each time, everyone reads literature and has discussions. The purpose of Seminar (3rd year) A is to acquire the technology to consider each person's interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：文献講読、ディスカッション
- 3 回：文献講読、ディスカッション

- 4回：文献講読、ディスカッション
 5回：文献講読、ディスカッション
 6回：文献講読、ディスカッション
 7回：文献講読、ディスカッション
 8回：文献講読、ディスカッション
 9回：文献講読、ディスカッション
 10回：文献講読、ディスカッション
 11回：文献講読、ディスカッション
 12回：文献講読、ディスカッション
 13回：文献講読、ディスカッション
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で取り上げた文献を復習すること。

関心のある文献を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表への参加・議論への参加・提出物等を総合的に評価:80% 調査・フィールドワーク参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA650
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光と政治の関係をテーマとしている。到達目標は、各自の考えを第三者に説明できるように、客観的資料を用いて論理的に説明できるようになることである。

The theme of this seminar is the relationship between tourism and politics. The goal is to be able to explain logically using objective materials so that they can explain their ideas.

授業の内容 / Course Contents

文献講読、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。国内外の観光と政治との関係について知識を身に着けることが演習（3年）Bの趣旨である。

Each time, everyone reads literature and has discussions and presentation. The purpose of Seminar (3rd year) B is to acquire knowledge about the relationship between domestic and foreign tourism and politics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
- 3回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション

- 4回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 5回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 6回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 7回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 8回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 9回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 10回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 11回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 12回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 13回：文献講読、ディスカッション、プレゼンテーション
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた文献を復習すること。

関心のある文献を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表への参加・議論への参加・提出物等を総合的に評価:80% 調査・フィールドワーク参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

都市観光と観光地域の構造

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA651

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、都市観光と観光地の分布と立地、観光資源と市場、観光客流動などを組み合わせて、空間的結合体としての観光地域の構造を明らかにする。

In this seminar, we will combine the distribution and location of urban tourism and tourist sites, tourism resources and markets, and the flow of tourists, etc. to unravel the structure of tourist areas as spatial compositions.

授業の内容 / Course Contents

各自がテーマを設定し、一日巡検を実施する。また、時期を選んで、フィールドワーク（国内調査）を実施する。場所については、学生と相談して決定する。フィールドワークでは、授業を通じて身に付けた知識と方法を実践する。

Each student will be assigned a theme and take a one-day research tour. Students will also choose a time to conduct fieldwork (domestic survey). Places will be decided in consultation with the student. Fieldwork will be the practical application of the knowledge and methods learned during class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のオリエンテーション
 2回：一日巡検準備 1
 3回：一日巡検準備 1
 4回：パソコン実習：文献検索方法
 5回：パソコン実習：文献検索方法
 6回：調査準備：現地調査テーマ発表①
 7回：調査準備：現地調査テーマ発表②
 8回：調査準備：現地調査テーマ発表③
 9回：調査準備：現地調査テーマ発表④
 10回：調査準備：現地調査進捗報告①
 11回：調査準備：現地調査進捗報告②
 12回：調査準備：現地調査進捗報告③
 13回：進路懇談会
 14回：調査準備：現地調査進捗報告④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席・取り組み:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

Canvas LMS を利用する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

都市観光と観光地域の構造

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA652

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、都市観光と観光地の分布と立地、観光資源と市場、観光客流動などを組み合わせて、空間的結合体としての観光地域の構造を明らかにする。

In this seminar, we will combine the distribution and location of urban tourism and tourist sites, tourism resources and markets, and the flow of tourists, etc. to unravel the structure of tourist areas as spatial compositions.

授業の内容 / Course Contents

各自がテーマを設定し、GIS などを用いて分析を行う。また、時期を選んで、フィールドワーク（国内調査）を実施する。場所については、学生と相談して決定する。フィールドワークでは、授業を通じて身に付けた知識と方法を実践する。

Each student will be assigned a theme and analyze it using GIS, etc. Students will also choose a time to conduct fieldwork (domestic survey). Places will be decided in consultation with the student. Fieldwork will be the practical application of the knowledge and methods learned during class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：調査発表①
- 3回：調査発表②
- 4回：調査発表③
- 5回：調査発表④
- 6回：調査発表⑤
- 7回：ゼミ履修面接準備
- 8回：調査発表⑥
- 9回：調査発表⑦
- 10回：調査報告作成①
- 11回：調査報告作成②
- 12回：ゼミ履修選考
- 13回：調査報告仮提出
- 14回：調査報告提出・卒業論文構想

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席・取り組み:70% 報告:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

Canvas LMS を利用する

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA653
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理の視点から観光現象を理解し、それらの知見を観光レクリエーション計画やサービス提供場面での対応等に应用するための専門的な知識、観光調査を進めるうえで必要とされる調査技法を習得する。

Students will understand the phenomenon of tourism from the perspective of human behavior and psychology mainly in the tourism recreation setting, and will learn specialized knowledge and survey methods that are necessary for tourism research in order to

授業の内容 / Course Contents

上記の専門領域の文献・資料の講読ならびにフィールドワークを通じ、観光調査の具体的な方法を習得する。参加者には毎時間の課題と定期的な発表を義務づけ、参加者相互による討議の時間を設ける。

授業以外にもフィールドワークや合宿その他の活動を行う予定であり、これらの活動は原則として担当者による他学年の演習参加者と合同で行う。

Students will learn specific methods for tourism research by reading specialized literature and materials in the above areas and conducting fieldwork. In addition to the topics for each class, students will be assigned regular

presentations and time will be given for discussion.

I plan to hold activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, and as a rule, these activities will be conducted jointly with participants of the instructor's seminars in other years.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：プレゼンテーション
- 3回：輪読，文献講読と討議
- 4回：輪読，文献講読と討議
- 5回：輪読，文献講読と討議
- 6回：輪読，文献講読と討議
- 7回：輪読，文献講読と討議
- 8回：輪読，文献講読と討議，ゼミ合宿調査計画1
- 9回：輪読，文献講読と討議
- 10回：輪読，文献講読と討議
- 11回：輪読，文献講読と討議，ゼミ合宿調査計画2
- 12回：輪読，文献講読と討議
- 13回：輪読，文献講読と討議
- 14回：総括，ゼミ合宿調査計画3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストを必ず事前に読み，指定された形式に沿って課題を提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況・発表内容：70% 調査等への参加状況：30%

テキスト / Textbooks

國田圭作 「行動デザイン」の教科書 すばる社 2016 ○

平本一雄・末繁雄一 都市感覚を鍛える観察学入門 晶文社 2023 ○

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA654
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

主に観光レクリエーション場面における人間の行動や心理の視点から観光現象を理解し、そうした知見を観光レクリエーション計画やサービス提供場面の対応等に应用するための専門的な知識、観光調査を進めるうえで必要とされる調査技法を習得する。

Students will understand the phenomenon of tourism from the perspective of human behavior and psychology mainly in the tourism recreation setting, and will learn specialized knowledge and survey methods that are necessary for tourism research in order to

授業の内容 / Course Contents

上記の専門領域の文献・資料の講読ならびにフィールドワークを通じて、観光調査の具体的な方法を習得する。参加者には定期的な発表を義務づけ、参加者相互による討議の時間を設ける。授業以外にもフィールドワークや合宿その他の活動を行う予定であり、これらの活動は原則として担当者による他学年の演習参加者と合同で行う。

授業ではテキストを題材としたスピーチを分担して行うとともに、前半は各自の関心に沿った自由研究の計画を発表して個別に調査を進め、後半はその研究成果を報告する。これと並行して、ゼミ合宿の調査分析作業

を行う。

Students will learn specific methods for tourism research by reading specialized literature and materials in the above areas and conducting fieldwork. Students will be assigned regular presentations and time will be given for discussion. I plan to hold activities such as fieldwork, camp, etc. outside of class, and as a rule, these activities will be conducted jointly with participants of the instructor's seminars in other years.

In this class, students will give speeches on themes assigned from the textbook, and in the first half of the course, students will present a plan for an individual research project based on their interests and proceed with the research individually. In the latter half of the course, students will report on the results of their research. At the same time, students will conduct survey analysis work for the seminar camp.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：課題提出，発表割当
- 2回：スピーチ，個人研究発表
- 3回：スピーチ，個人研究発表
- 4回：スピーチ，個人研究発表
- 5回：スピーチ，ゼミ合宿調査分析経過報告
- 6回：スピーチ，個人研究発表
- 7回：スピーチ，個人研究発表
- 8回：スピーチ，個人研究発表
- 9回：スピーチ，ゼミ合宿調査分析経過報告
- 10回：スピーチ，個人研究発表
- 11回：スピーチ，個人研究発表
- 12回：スピーチ，個人研究発表
- 13回：スピーチ，ゼミ合宿成果報告
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

定期的な発表の機会を活かすために，ゼミ合宿の調査分析と，個人研究テーマに沿った文献研究，調査の実施，結果の分析を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況・発表内容：70% 調査等への参加状況：30%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

堀木 美告 (HORIKI MITSUGU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA655
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次に続き、観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、基礎および発展的な研究の課題や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn basic and advanced research issues and methods relating to the evaluation and conservation/utilization of regional landscapes in tourist and other areas.

授業の内容 / Course Contents

風景・景観・ランドスケープの保全に関する制度および調査分析の手法について概要を習得し、これに関連する文献を広範に講読・議論し理解を深める。合わせて自然風景地を対象とした調査計画を考える。

Students will learn an outline of legal systems for landscape conservation and survey analysis methods for landscapes, and students will read widely from the related literature and hold discussions to deepen their understanding. In addition, students will think of a plan for a survey of a natural landscape area.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：風景保全の諸制度と観光（自然風景地編）（1）

- 3回：風景保全の諸制度と観光（自然風景地編）（2）
 4回：風景保全の諸制度と観光（自然風景地編）（3）
 5回：風景保全の諸制度と観光（自然風景地編）（4）
 6回：風景保全の諸制度と観光（文化財編）（1）
 7回：風景保全の諸制度と観光（文化財編）（2）
 8回：風景保全の諸制度と観光（文化財編）（3）
 9回：風景保全の諸制度と観光（文化財編）（4）
 10回：自然風景地の調査分析の手法（1）
 11回：自然風景地の調査分析の手法（2）
 12回：自然風景地実地調査の計画（1）
 13回：自然風景地実地調査の計画（2）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

小野 良平 (ONO RYOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA656
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

2 年次に続き、観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、基礎および発展的な研究の課題や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn basic and advanced research issues and methods relating to the evaluation and conservation/utilization of regional landscapes in tourist and other areas.

授業の内容 / Course Contents

固有の地域を対象に、景観の観点から、観光活用にかかわる提案をグループ作業で行い、その結果をとりまとめてプレゼンテーションし議論を行う。これを踏まえて参加者の個別研究テーマを具体化していくために、参加者各自の関心に沿って関連する文献を広範に講読・議論し理解を深める。

Students will conduct a proposal work on tourism activation program at a specific region from the aspect of landscape, as group work with presentations and discussions. Based on these works, in order to narrow down individual research themes, participants will read widely from the literature related to their interests and deepen their understanding through discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：観光活用提案の中間報告（1）
- 3回：観光活用提案の中間報告（2）
- 4回：観光活用提案の中間報告（3）
- 5回：観光活用提案発表（1）
- 6回：観光活用提案発表（2）
- 7回：観光活用提案発表（3）
- 8回：文献講読と議論
- 9回：文献講読と議論
- 10回：文献講読と議論
- 11回：文献講読と議論
- 12回：文献講読と議論
- 13回：文献講読と議論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド*（パワポ*等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:		
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

ホテルの運営と実務

～ホテル世界の現状動向～

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA657

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、ホテルの実務知識をふまえ、ホテル運営に必要なスキル向上や関連問題に応用できる力を習得することを目標とする。

This course aims to develop knowledge and the ability to apply it to related problems, based on the practical knowledge of hotel operations.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、既にマーケティングの基礎知識を学び、身につけている受講生を対象として、ホテルビジネス運営やホスピタリティサービスに関わるテーマについて問題提起を行い、文献研究、現地調査を実施する。それに基づいて各受講生が研究レポートを発表し、ディスカッションを行う形で進めていく。

This course is for students who have learned and acquired the fundamental knowledge of marketing.

In this course, the issues concerning the current hotel operations and hospitality services, and each student will present a research report based on the issues and all students will carry out discussions based on the report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：研究テーマの確認
 3回：ホテル業界の現状と動向について文献研究
 4回：観光現場における Hospitality に関する調査 1
 現役ホテル宿泊課責任者への聞き取り
 5回：ホテル料飲の現状と動向について文献研究
 6回：観光現場における Hospitality に関する調査 2
 現役ホテル料飲課責任者への聞き取り
 7回：ホテル宴会の現状と動向について文献研究
 8回：観光現場における Hospitality に関する調査 3
 現役ホテル宴会課責任者への聞き取り
 9回：ホテルマーケティングの現状と動向について文献研究
 10回：観光現場における Hospitality に関する調査 4
 現役ホテルマーケティング課責任者への聞き取り
 11回：報告書作成 1
 12回：報告書作成 2
 13回：報告の完成と発表
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題に必要な文献収集や分析、現地調査に必要な時間を確保すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回授業への参加度:60% 授業内課題:40%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA658
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

研究テーマを個人やグループで学生自身が選択し、文献研究、現地調査を実施して報告書をまとめる。

Research topics will be chosen by students themselves or by groups, and students will conduct literature research and a field survey, and summarize the results into a report.

授業の内容 / Course Contents

自身で設定した研究テーマについて、研究方法論を始め、研究プロセスを学習する。

Students will learn the research process, beginning with research methodology, based on their individually chosen research topic.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

2 回：研究テーマの確認

3 回：文献研究 1

4 回：文献研究 2

5 回：文献研究 3

- 6回：文献研究 4
- 7回：研究方法論 1
- 8回：研究方法論 2
- 9回：研究方法論 3
- 10回：結果分析 1
- 11回：結果分析 2
- 12回：研究結果発表 1
- 13回：研究結果発表 2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題に必要な文献収集や分析、現地調査に必要な時間を確保すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回授業への参加度:60% 授業内課題:40%

テキスト / Textbooks

大学図書館の資料やデータベースを使用する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

授業中に適宜紹介する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

観光資源化した建物や空間の研究

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA659

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光対象となっている建物や空間について建築学の視点から考察し、観光対象を多面的に捉え、総合的に評価することが可能となることを目指し演習を行う。

The purpose of this exercise is to get the general view point by considering the facilities and spaces available for tourism.

授業の内容 / Course Contents

具体的な建物を観光の対象にするための課題や問題点について考察を行う。現代建築の基礎となった近代建築の基本構成を理解した上で研究対象を選定する。建物の外観やインテリア、外部環境の実態を詳細に記録するとともに観光対象としての捉えられ方についても記録し、観光対象化の実態について考察する。

Students will make field survey on traditional architecture which are interesting for tourists. After confirming the basic composition of Japanese modern architecture, students will select survey subjects. We record the actual situation of the interior and the external environment in detail, record the actual situation of various perceptions, and consider the relationship with the surrounding environment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：聖公会教会建築相互の関係性を鑑み、日本の近代建築への影響を考察する
- 2回：観光対象となっている日本近代建築の特徴と整理
- 3回：現地調査によって見出される特徴、共通点についての考察
- 4回：調査対象建築物の抽出
- 5回：調査エリアの検討
- 6回：調査対象エリアの歴史的特性
- 7回：調査対象エリアの文化的特性
- 8回：調査対象建築の特徴と見どころ、共通点
- 9回：観光対象としての魅力と建築物としての見どころの相違
- 10回：日本の近代建築の中での位置づけ
- 11回：建築家の特徴とつながり
- 12回：都内の近代建築プレ調査
- 13回：聞き取り調査シートの構成確認と作成
- 14回：調査旅行計画の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

調査地に関してあらゆる観点から情報を入手し事前学習しておくこと。調査対象を生活の場としておられる方々に決して不愉快な想いをさせることがないように気遣い、自分の行動に責任を持って行動すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み:50% 課題（複数回）:50%

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜プリントを配付する。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜相応しい参考文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、探究心

その他 / Others

片手間に授業に参加するのではなく、演習への参加を優先して学習に取り組めるようにすること。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

観光資源化している建物や広場の調査研究

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA660

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光に供せられる施設や空間について考察することを目的とした演習を行う。

The purpose of this exercise is to consider the facilities and spaces available for tourism.

授業の内容 / Course Contents

史実の舞台となった歴史的建造物のみならず建物自体のデザインが個性的であるが故に観光対象となる建築物が存在する。建において提供されるサービスを楽しむために人々が訪れる観光施設とは建設目的が異なっているにも拘らず観光対象とされ、現実的には観光資源となっている。生活空間が観光地化される場合の課題とそこに暮らす人々にとって許容できる計画の進め方について巡礼地など具体事例を元に議論を行い理解を深める。

In the field survey, students record the appearance and interior of the building in detail, also record the actual state of architectures appreciation performed by the user, and consider the relationship with surrounding buildings. In addition to the religious implications of the pilgrimage, we will also discuss the non-religious significance of the pilgrimage, make a multifaceted analysis based on those records, and prepare a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：現地調査の総括
- 2回：建物・インテリアのディテールを図面化
- 3回：建物やインテリアのカラーコーディネーション
- 4回：周辺建築との関係性についての考察
- 5回：観光対象となる建築の特徴の整理と分類
- 6回：演出技法についての考察
- 7回：生活の中における建築の役割についての考察
- 8回：建築デザインから見た建築の演出技法
- 9回：関東対象となる建築のデザインとしつらえ
- 10回：観光対象としての建築の特性
- 11回：観光と建築
- 12回：報告書の作成1
- 13回：報告書の作成2
- 14回：報告書の完成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習を通じて学んだ知識と手法を用いて、実際に目にする平面図から空間を把握したり、自ら訪れた空間を合理的に図化する練習を繰り返し、身につけた上で、建築や都市を見渡し客観的にその評価が行えるようにすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み:50% 課題（複数回）:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

協調性、リーダーシップ、分析力、プレゼンテーション力、責任感、探究心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

定規、カッター、カッターボードなど工作道具

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA661
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM3003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

2 年次に引き続き、観光地や地域の課題解決のための方策立案の視点や方法について学ぶ。

As a continuation of second year, students will learn perspectives and methods for proposing solutions to tourism and regional issues.

授業の内容 / Course Contents

観光地や地域の魅力の発掘ならびに顕在化し、誘客に結びつけていくための手法について学ぶとともに、観光計画に関する研究論文の講読を通じて、論文作成の方法について学ぶ。

Students will discover and actualize the appeal of a tourist site or region and learn methods for linking this to drawing in customers, while reading research papers on tourism planning and learning the method for writing research papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：観光地づくりに関する近年の研究動向の分析 1
- 3 回：観光地づくりに関する近年の研究動向の分析 2

- 4回：観光地づくりに関する近年の研究動向の分析 3
 5回：観光地づくりに関する近年の研究動向の分析 4
 6回：観光地づくりの課題発見に関する調査 1
 (対象地の選定)
 7回：観光地づくりの課題発見に関する調査 2
 (調査計画の検討)
 8回：観光地づくりの課題発見に関する調査 3
 (調査項目の確認)
 9回：観光地づくりの課題発見に関する調査 4
 (現地調査の実施)
 10回：観光地づくりの課題発見に関する調査 5
 (現地調査の実施)
 11回：観光地づくりの課題発見に関する調査 6
 (成果のとりまとめ)
 12回：観光地づくりの課題発見に関する調査 7
 (成果のとりまとめ)
 13回：観光地づくりの課題発見に関する調査 8
 (成果のとりまとめ)
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

調査の実施にあたっては、自ら行程管理を行い、計画的に進めること。また、各自・グループの作業成果を発表する際には、入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミ中の発表、討論への参加状況、およびレポートを総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習中に適宜紹介する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA662
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM3003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

2 年次に引き続き、観光地や地域の課題解決のための方策立案の視点や方法について学ぶ。
As a continuation of second year, students will learn perspectives and methods for proposing solutions to tourism and regional issues.

授業の内容 / Course Contents

観光地や地域の魅力の発掘ならびに顕在化し、誘客に結びつけていくための手法について学ぶとともに、観光計画に関する研究論文の講読を通じて、論文作成の方法について学ぶ。
Students will discover and actualize the appeal of a tourist site or region and learn methods for linking this to drawing in customers, while reading research papers on tourism planning and learning the method for writing research papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：研究テーマの検討 1
- 3 回：研究テーマの検討 2

- 4回：学外演習に向けての準備1
 5回：学外演習に向けての準備2
 6回：学外演習に向けての準備3
 7回：学外演習の振り返り、成果取りまとめ1
 8回：学外演習の成果取りまとめ2
 9回：学外演習の成果取りまとめ3
 10回：論文テーマの設定1
 11回：論文テーマの設定2
 12回：論文テーマの設定3
 13回：論文テーマの設定4
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

調査の実施にあたっては、自ら行程管理を行い、計画的に進めること。また、各自・グループの作業成果を発表する際には、入念な準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゼミ中の発表、討論への参加状況、およびレポートを総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習中に適宜紹介する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA663
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

実際に具体的な地域を対象に、現地で地域住民の方に接し、まちづくりのあり方を考える。

Students will learn basic knowledge regarding urban planning, historical environmental conservation, and machizukuri. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications, the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it

for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文献精読・まちづくりの実践（1）
- 2回：文献精読・まちづくりの実践（2）
- 3回：文献精読・まちづくりの実践（3）
- 4回：文献精読・まちづくりの実践（4）
- 5回：文献精読・まちづくりの実践（5）
- 6回：文献精読・まちづくりの実践（6）
- 7回：文献精読・まちづくりの実践（7）
- 8回：文献精読・まちづくりの実践（8）
- 9回：文献精読・まちづくりの実践（9）
- 10回：文献精読・まちづくりの実践（10）
- 11回：文献精読・まちづくりの実践（11）
- 12回：文献精読・まちづくりの実践（12）
- 13回：文献精読・まちづくりの実践（13）
- 14回：文献精読・まちづくりの実践（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。

また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題:100%

毎回授業後3日以内に授業で学んだことについて小レポートを毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

地域固有の歴史・文化・自然を活かしたまちづくりを学ぶ

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA664

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

具体的な地域を対象に独自の問いを立て、自ら調査・分析を行い、論文として執筆できるようになる。また、文献だけでなく実際の地域から学ぶ姿勢を大事にする。

Students will pose unique questions about specific areas, conduct their own research and analysis, and improve their academic writing. In addition to literature, we will value the stance of learning from the actual area.

授業の内容 / Course Contents

都市的な空間を対象に、その地域が持つ歴史、地域の空間変容、用途の変容、都市計画の歴史、町並み保全と観光活用のための制度・政策や仕組み、町並み保全や観光まちづくりに関わる市民活動などの観点から調査・研究し、歴史的町並みにおける観光の課題やそれを解決するための方法を考える。

また、適宜週末を使って関東近郊の歴史的町並みを訪問し、調査をするほか、夏季休暇中には地方都市の歴史的街並みの調査と学会参加を予定している。

With the target of large urban areas and hot spring areas with historical buildings, and urban spaces in historical areas, we will think about the history of the area, spatial modifications of the area, modification of applications,

the history of urban planning, preservation of the townscape and systems, policies, and mechanisms for using it for tourism, preservation of the townscape and survey/research from the perspective of citizen's activities, etc. regarding tourism urban planning, issues related to tourism in historical townscapes, and methods for solving them.

In addition, on suitable weekends, we will visit historical townscapes of the Kanto region and conduct surveys. During summer vacation, we plan to do group surveys of historical townscapes in the Hokuriku region and participate in an academic conference.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献精読・まちづくりの実践 (15)
- 2 回：文献精読・まちづくりの実践 (16)
- 3 回：文献精読・まちづくりの実践 (17)
- 4 回：文献精読・まちづくりの実践 (18)
- 5 回：文献精読・まちづくりの実践 (19)
- 6 回：文献精読・まちづくりの実践 (20)
- 7 回：文献精読・まちづくりの実践 (21)
- 8 回：文献精読・まちづくりの実践 (22)
- 9 回：文献精読・まちづくりの実践 (23)
- 10 回：文献精読・まちづくりの実践 (24)
- 11 回：文献精読・まちづくりの実践 (25)
- 12 回：文献精読・まちづくりの実践 (26)
- 13 回：文献精読・まちづくりの実践 (27)
- 14 回：文献精読・まちづくりの実践 (28)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

多くの論文や文献を読むだけでなく、まちづくりの現場を積極的に尋ねてほしい。

また、授業以外にオンライン上での議論も求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度・リアクションペーパー・提出課題:100%

毎回授業後3日以内に授業で学んだことについて小レポート（400文字程度）を毎回オンライン上で提出してもらう

テキスト / Textbooks

適宜案内する

参考文献 / Readings

適宜案内する

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA667
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点と方法に関する理解を深める。

Deepen understanding of the perspectives and methods of sociology of tourism.

授業の内容 / Course Contents

社会学や文化人類学の文献講読や、古典的議論の読解を通じて、現代社会の移動現象を分析するための知識を深める。座学に加えてフィールドワークを行い、授業で身につけた視点を用いて地域や観光現象に関する調査・分析に取り組む。

授業後半には個人もしくはグループごとに研究テーマを定め、発表・議論の場を設けて研究計画を作成する。

(1) Students will deepen their knowledge to analyze 'Mobilities' phenomena in contemporary society through literature readings in sociology and cultural anthropology, as well as reading classical discussions.

(2) In addition to classroom lectures, fieldwork will be conducted, and students will engage in research and analysis on regional and tourism phenomena using the perspectives acquired in class.

(3) In the latter half of the class, each individual or group will define a research theme and prepare a research plan with opportunities for presentation and discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読の方法・アカデミックスキルの確認
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：フィールドワークの事前学習
- 8回：フィールドワーク
- 9回：文献講読
- 10回：文献講読
- 11回：文献講読
- 12回：研究計画の作成・発表
- 13回：研究計画の作成・発表
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前には各自で文献を読み、発表の準備を行う。

授業後には発表内容の振り返りや授業で取り上げたテーマに関するさらなる分析をまとめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（文献講読、発言の内容、提出物）：60% 期末レポート：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

市野澤潤平 『基本概念から学ぶ観光人類学』 ナカニシヤ出版 2022 9784779514333

須藤廣ほか 『よくわかる観光コミュニケーション論』 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA668
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

講義や演習で身につけた知識にもとづき、自ら問いを立て、現代社会の観光・移動現象を分析する力を身につける。

Based on the knowledge acquired through lectures and exercises, students will acquire the ability to ask their own questions and analyze tourism and mobility phenomena in contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

個人もしくはグループごとに自ら関心や疑問を持つテーマに関して研究に取り組む。各自の進捗状況の発表や内容に関する議論を通じて、分析や議論の内容を推敲する。研究成果のアウトプットとして、報告書の執筆や研究成果の報告会を行う。

Work individually or in groups on a topic of personal interest or question.

(1) Students will present their progress and discuss the contents of their research in order to refine their analyses and discussions.

(2) As outputs of their research, they will write reports and hold debriefing sessions on the results of their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：研究計画の確認
 3回：進捗状況の報告・研究指導（研究テーマの確定）
 4回：進捗状況の報告・研究指導（研究テーマの確定）
 5回：進捗状況の報告・研究指導（関連する文献や情報・資料の整理）
 6回：進捗状況の報告・研究指導（関連する文献や情報・資料の整理）
 7回：進捗状況の報告・研究指導（関連する文献や情報・資料の整理）
 8回：進捗状況の報告・研究指導（調査の実施・データの整理）
 9回：進捗状況の報告・研究指導（調査の実施・データの整理）
 10回：進捗状況の報告・研究指導（調査の実施・データの整理）
 11回：進捗状況の報告・研究指導（分析および議論・報告書執筆）
 12回：進捗状況の報告・研究指導（分析および議論・報告書執筆）
 13回：進捗状況の報告・研究指導（分析および議論・報告書執筆）
 14回：研究成果の発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内での指導・コメントを踏まえ、主体的に研究を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（研究活動への取り組み、発表内容、提出物）：70% 報告書の内容：30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

須藤廣ほか 『よくわかる観光コミュニケーション論』 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己ほか 『よくわかる観光社会学』 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

松山 将之 (MATSUYAMA MASAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA701
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆を目標に専門的な知見を高めることを目指す。

The aim is to increase specialist knowledge for graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

本研究では、実際の企業情報を多角的な観点から分析することに重点を置きつつ、各自の研究課題と研究計画に基づいて報告を行い全員で討論を行う。卒業研究指導 A では、下記の 1～14 の全体を念頭に置きながら、主としてテーマ設定の意義、明確化に重点を置く。

In this study, we will focus on analyzing actual corporate information from a multi-faceted perspective, make a report based on each research topic and research plan, and will discuss it with all of the participants. In Seminar on Graduation Research A, keeping items 1 to 14 below in mind, students will focus on the significance of setting and clarification of their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：大まかなテーマの設定

2 回：テーマに関する資料の収集

- 3回：研究事例の吟味
 4回：予備調査（予備研究）の実施
 5回：研究テーマ・意義の確定
 6回：先行研究の収集と再検討
 7回：研究仮説の構築、仮説構築に向けてポイントを確認
 8回：方法論の明確化
 9回：データ収集方法について検討
 10回：データの分析方法について検討
 11回：仮説の検証方法について検討
 12回：論文のドラフト執筆
 13回：さまざまな討論
 14回：内容の深化と文章推敲

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

野田健太郎 事業継続計画による企業分析 中央経済社 2013年 9784502083204

野田健太郎 ベンチャー育成論入門 大学教育出版 2004年 4887305648

その他 / Others

- ・急遽、担当者変更が生じたため、シラバスの内容が一部変更になる可能性がある。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

企業のサステナビリティをテーマとした論文作成

松山 将之 (MATSUYAMA MASAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA702

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

企業のサステナビリティをテーマとした論文にするための考え方や情報収集の方法を学ぶ

Students learn how to think and gather information to write a paper on the topic of corporate sustainability.

授業の内容 / Course Contents

論文作成のための3つを主に習得するために、毎回、ディスカッション、進捗報告をおこなう。

- 論文作成のためのテーマ設定と背景知識の習得
- リサーチクエッションの理解とそこに至るまでの思考の整理
- 文献レビューの方法と論文構成についての理解

Students will be required to discuss and report on their progress in each session in order to master the three main aspects of writing a thesis.

- Setting a theme and acquiring background knowledge for writing a research paper
- Understanding research queries and organizing thoughts leading up to them
- Understanding the method of literature review and structure of the paper

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマについての意見交換①
 2回：テーマについての意見交換②
 3回：リサーチクエッションについて考える①
 4回：リサーチクエッションについて考える②
 5回：リサーチクエッションについて考える③
 文献レビューについての説明
 6回：文献レビュー①
 7回：文献レビュー②
 8回：文献レビュー③
 9回：論文の構成について①
 10回：論文の構成について②
 11回：中間レビュー
 12回：執筆内容についての意見交換①
 13回：執筆内容についての意見交換②
 14回：執筆内容のついで意見交換③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・文献レビュー
- ・執筆

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 論文作成についての取組み姿勢:30% 論文の内容:40% 論文の進捗状況:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

卒業研究指導では、各自がテーマを設定し、研究を進めていきます。

授業では、研究経過をレポートにまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを進め

ます。これまで観光学部で学んできた経験を活かし、身につけた知識やスキルを活用して、卒業研究に取り組んでみましょう。社会に巣立っていくに当たり

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：課題研究の発表とディスカッション①
- 2回：課題研究の発表とディスカッション②
- 3回：課題研究の発表とディスカッション③
- 4回：課題研究の発表とディスカッション④
- 5回：課題研究の発表とディスカッション⑤
- 6回：ゲスト講演会①（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 7回：課題研究の発表とディスカッション⑥
- 8回：課題研究の発表とディスカッション⑦
- 9回：課題研究の発表とディスカッション⑧
- 10回：課題研究の発表とディスカッション⑨
- 11回：課題研究の発表とディスカッション⑩
- 12回：ゲスト講演会②（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 13回：課題研究の発表とディスカッション⑪
- 14回：課題研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習（ゼミナール）は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。

普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲、参加態度、発表内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

観光・サービス・地域振興のマーケティング
～集客と満足の仕組みづくり～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA704
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この演習では身近なケースに隠された“売れる仕組み”“買ってもらえる仕掛け”を読み解きながら、“マーケティング・マインド”，つまりマーケティング的なものの見方・考え方を養っていきます。

In this seminar, we will comprehend familiar cases for the “hidden mechanisms” and “buying triggers” while fostering a “marketing mind,” or in other words, a way of looking at and thinking about various issues from a marketing perspective.

授業の内容 / Course Contents

この演習の研究テーマは、「観光・サービス・地域振興のマーケティング」です。マーケティングの考え方・進め方を学びながら、それを“地域を元気にする仕組みづくり”や“集客と満足の仕組みづくり”に応用していきます。

卒業研究では、各自がテーマを設定し、研究を進めていきます。

研究経過をレポートにまとめてプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションを進めます。これ

まで観光学部で学んできた経験を活かし、身につけた知識やスキルを活用して、「卒業論文」をまとめてみましょう。社会に巣立っていくに当たり、これまでの

The research theme of this seminar is “Marketing for Tourism, Service, and Community Revitalization.” While learning the basic concept, approach and method of marketing, we will apply them to creating mechanisms to revitalize a community and creating mechanisms to attract and satisfy customers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：課題研究の発表とディスカッション①
- 2回：課題研究の発表とディスカッション②
- 3回：課題研究の発表とディスカッション③
- 4回：課題研究の発表とディスカッション④
- 5回：課題研究の発表とディスカッション⑤
- 6回：ゲスト講演会①（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 7回：課題研究の発表とディスカッション⑥
- 8回：課題研究の発表とディスカッション⑦
- 9回：課題研究の発表とディスカッション⑧
- 10回：課題研究の発表とディスカッション⑨
- 11回：課題研究の発表とディスカッション⑩
- 12回：ゲスト講演会②（地域振興やビジネスの現場で活躍されている方をお招きして講演会を行います）
- 13回：課題研究の発表とディスカッション⑪
- 14回：課題研究の発表とディスカッション⑫

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習（ゼミナール）は、受講生が自ら問題意識を持って課題に取り組み、研究発表とディスカッションを行います。実りあるディスカッションとなるよう、発表の準備を入念に行うのはもちろんのこと、参加者全員に積極的な発言が求められます。

普段から社会やビジネスの現実に関心を持ち、情報収集を心がけましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における意欲、参加態度、発表内容など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA705
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光経営学を中心とした観光学の分野において、卒業研究を行う。

Students will conduct graduation research project in the field of tourism science, with a focus on tourism management.

授業の内容 / Course Contents

観光ビジネス・ホスピタリティビジネスの分野を中心に、近年の研究動向を整理・分類する。具体的な研究論文を題材に、研究における理論的フレームワークの設定や概念規定、および仮説設定とその検証方法について学ぶ。

With a focus on the fields of tourism business and hospitality business, students will organize and classify recent research trends. Using specific research papers as their themes, students will learn about setting a theoretical framework for research and concept definitions, as well as hypothetical settings and how to verify them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究分野としての観光学

2 回：研究にとっての論文の意味

- 3回：アカデミズムとジャーナリズム
 4回：観光学と経営学
 5回：図書館とデータベース
 6回：先行研究の調査1
 7回：先行研究の調査2
 8回：先行研究の調査3
 9回：研究のフレームワークと理論1
 10回：研究のフレームワークと理論2
 11回：データの価値とサンプリング
 12回：1次データと2次データ
 13回：先行研究の調査と選別の基準
 14回：仮説の設定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

川崎 剛 社会科学系のための「優秀論文」作成術 勁草書房 2010 -

参考文献 / Readings

新堀 聡 評価される博士・修士卒業論文の書き方考え方 同文館出版 2002

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

庄司 貴行 (SHOJI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA706
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光経営学を中心とする観光学の分野において、卒業研究を行う。

Students will conduct graduation research project in the field of tourism science, with a focus on tourism management.

授業の内容 / Course Contents

観光ビジネス・ホスピタリティビジネスの分野を中心に、近年の研究動向を整理・分類する。具体的な研究論文を題材に、研究における理論的フレームワークの設定や概念規定、および仮説設定とその検証方法について学ぶ。

With a focus on the fields of tourism business and hospitality business, students will organize and classify recent research trends. Using specific research papers as their themes, students will learn about setting a theoretical framework for research and concept definitions, as well as hypothetical settings and how to verify them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：観光経営学の現在

2 回：観光経営学の研究分野 1

- 3回：観光経営学の研究分野2
 4回：観光経営学の研究分野3
 5回：観光経営学の研究分野4
 6回：観光経営学の新領域1
 7回：観光経営学の新領域2
 8回：観光経営学の新領域3
 9回：観光経営学の新領域4
 10回：先行研究の整理1
 11回：先行研究の整理2
 12回：先行研究の整理3
 13回：学生プレゼンテーション
 14回：学生プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習について、授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席、報告内容などによって総合的に評価する:100%

テキスト / Textbooks

川崎 剛 社会科学系のための「優秀論文」作成術 勁草書房 2010 -

参考文献 / Readings

授業において指示する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

堀木 美告 (HORIKI MITSUGU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA707
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、卒業論文執筆のための課題の設定や調査の方法等について学ぶ。

Students will learn methods of research and establishing topics for graduation thesis writing related to evaluation, conservation and utilization of regional landscapes, scenery, sightseeing spots and such locations.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までに学んだ調査研究の方法等について、自身のテーマに即して具体的に検討し、議論も踏まえながら研究を進める。その成果を卒業論文としてまとめる。

Students will use the survey research methods they learned up to third year to investigate in line with their own research topic, and proceed with their research based on our discussion. Students will summarize these results in their graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：研究テーマの検討（1）

- 3回：研究テーマの検討（2）
 4回：研究テーマの検討（3）
 5回：研究テーマの検討（4）
 6回：研究経過報告と議論（1）
 7回：研究経過報告と議論（2）
 8回：研究経過報告と議論（3）
 9回：研究経過報告と議論（4）
 10回：研究経過報告と議論（5）
 11回：研究経過報告と議論（6）
 12回：研究経過報告と議論（7）
 13回：研究経過報告と議論（8）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

小野 良平 (ONO RYOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA708
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地を始めとする地域の風景・景観・ランドスケープの価値評価や保全・活用のあり方に関する、独自の研究のための方法等について学び実践し、卒業論文を執筆する。

Students will learn methods for their independent research and write graduation thesis related to evaluation, conservation and utilization of regional landscapes, scenery, sightseeing spots and such locations.

授業の内容 / Course Contents

これまでに学んだ調査研究の方法等について、自身のテーマに即して具体的に検討し、議論も踏まえながら調査を実施する。その結果について分析・考察を進め、卒業論文としてまとめ発表するための作法・技術についても学ぶ。

Students will use the survey research methods they learned up to now to investigate in line with their own research topic, and conduct their research based on our discussion. Continuing our investigation and analysis of the results, students will study methods and techniques for compiling and presenting their graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：中間報告会（1）

- 2回：中間報告会（2）
 3回：中間報告会（3）
 4回：研究経過報告と議論（1）
 5回：研究経過報告と議論（2）
 6回：研究経過報告と議論（3）
 7回：研究経過報告と議論（4）
 8回：研究経過報告と議論（5）
 9回：研究経過報告と議論（6）
 10回：研究経過報告と議論（7）
 11回：研究経過報告と議論（8）
 12回：最終発表会（1）
 13回：最終発表会（2）
 14回：最終発表会（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜紹介する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

都市観光と観光地域の構造

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA709
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

都市観光と観光地域の構造について、各自の関心を持つテーマを決定し、フィールドワークを通じて、今まで学習した知識を実践的な研究に活用することである。

Students will choose a theme based on their interests with regard to urban tourism and the structure of tourist sites, and through fieldwork, students will use the knowledge they have already studied for practical research.

授業の内容 / Course Contents

定期的な発表を通じて指導する。研究の進め方、論文の作成に関しては、それぞれの進み具合に応じて個別に指導を行う。論文作成においての文献の講読、パソコン・ソフトの運用を学習する。文章のみならず、空間的に物事を考え、地図で表現する能力を育成・強化する。

Guidance will be provided through these regular presentations. Individual instruction will be given regarding how to proceed with research and academic paper writing, depending on their progress. Students will learn how to read the literature for paper writing, and how to make use of computers and software. Students will develop and strengthen their ability not only to write, but also to think about things spatially and express them in maps.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：レポート作成法：Word 作業
 3回：レポート作成法：モデル図
 4回：テーマ報告①
 5回：テーマ報告②
 6回：テーマ報告③
 7回：テーマ報告④
 8回：テーマ報告⑤
 9回：調査報告①
 10回：調査報告②
 11回：調査報告③
 12回：調査報告④
 13回：進路懇談会
 14回：調査報告⑤

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席・取り組み:40% 報告:60%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

Canvas LMS を利用する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

杜 国慶 (DU GUOQING)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA710
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

都市観光と観光地域の構造について、各自の関心を持つテーマを決定し、フィールドワークを通じて、今まで学習した知識を実践的な研究に活用することである。

Students will choose a theme based on their interests with regard to urban tourism and the structure of tourist sites, and through fieldwork, students will use the knowledge they have already studied for practical research.

授業の内容 / Course Contents

定期的な発表を通じて指導する。研究の進め方、論文の作成に関しては、それぞれの進み具合に応じて個別に指導を行う。論文作成においての文献の講読、パソコン・ソフトの運用を学習する。文章のみならず、空間的に物事を考え、地図で表現する能力を育成・強化する。

Guidance will be provided through these regular presentations. Individual instruction will be given regarding how to proceed with research and academic paper writing, depending on their progress. Students will learn how to read the literature for paper writing, and how to make use of computers and software. Students will develop and strengthen their ability not only to write, but also to think about things spatially and express them in maps.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：調査発表1
 3回：調査発表2
 4回：調査発表3
 5回：調査発表4
 6回：調査発表5
 7回：研究報告1
 8回：研究報告2
 9回：研究報告3
 10回：研究報告4
 11回：卒業研究作成・ゼミ履修選考面接
 12回：報告準備
 13回：プレゼンテーション準備1
 14回：プレゼンテーション準備2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席・取り組み:40% 報告:60%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS を利用する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

相澤 孝文 (AIZAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA711
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光行動・心理を中心とする研究領域の研究テーマを自ら設定し、それに関連する文献研究を進めるとともに、調査データを組織的・計画的に収集し、分析するための一連の知的生産のための手法を習得する。

Student will set a theme for individual research based on Human Behavior in Tourism and psychology, learn how to systematically collect, organize and analyze related data.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までに演習や講義を通じて学んだ知識や調査方法を駆使し、個々人の問題意識に沿った研究テーマを設定して卒業論文の準備のための個人研究に取り組む。授業内で定期的に発表を義務づけるほか、必要に応じて個別指導を行う。

A graduation thesis is required for this seminar as “the totality of student life”. Making full use of the knowledge and research methods learned in seminars and lectures up to Year 3, students will tackle individual research, establishing research themes in line with awareness of each issue. In addition to requiring regular presentations in class, students collect and analyze survey data obtained individually outside class hours. Individualized guidance will be provided as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマの設定
- 2回：研究テーマの設定
- 3回：研究テーマの設定
- 4回：先行研究の整理
- 5回：先行研究の整理
- 6回：先行研究の整理
- 7回：調査計画の設定
- 8回：調査計画の設定
- 9回：調査計画の設定
- 10回：予備調査の実施
- 11回：予備調査の実施
- 12回：予備調査の実施
- 13回：調査計画の再検討
- 14回：調査計画の再検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って参考文献を研究し、調査計画をたてた上で現地調査を行い、データの分析を進めることで次の発表に向けて準備を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況・授業への取り組み:60% 発表内容:40%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

研究テーマに応じて個別に紹介する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

橋本 俊哉 (HASHIMOTO TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA712
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光行動・心理を中心とする研究分野のテーマを自ら設定し、関連するデータを組織的・計画的に収集・分析し、それをわかりやすく表現する方法を習得する。

Student will set a theme for individual research based on Human Behavior in Tourism and psychology, acquiring methods of organizing related data, systematically collecting and analyzing, and how to express clearly.

授業の内容 / Course Contents

4 年次春学期までに学んだ知識と調査方法を駆使し、個々人の問題意識に沿った研究テーマを設定して個別に調査データの収集・データの分析を行い、卒業論文の執筆に取り組む。授業内で定期的に発表を義務づけるほか、必要に応じて個別指導を行う。

A graduation thesis is required for this seminar as “the totality of student life”. Making full use of the knowledge and research methods learned in seminars and lectures up to the spring semester of Year 4, students will the process of writing a graduation paper, establishing research themes in line with awareness of each issue. In addition to requiring regular presentations in class, students collect and analyze survey data obtained individually outside class hours. Individualized guidance will be provided as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究経過の報告
- 2回：本調査の実施
- 3回：本調査の実施
- 4回：本調査の実施
- 5回：調査データの分析
- 6回：調査データの分析
- 7回：調査データの分析
- 8回：論文執筆の方法
- 9回：論文執筆の方法
- 10回：論文執筆の方法
- 11回：論文執筆の方法
- 12回：プレゼンテーションの方法
- 13回：プレゼンテーションの方法
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。本調査で収集するデータはプライバシーの侵害に留意し、妥当性を検討したうえで分析を進め、わかりやすく表現できているかを確認しつつ次回の報告資料としてまとめること。疑問点は必要に応じて個別指導を行うので、その際に問い合わせること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況・授業への取り組み:60% 発表内容:40%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

研究テーマに応じて個別に紹介する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA713
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM4003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光と政治の関係をテーマとしている。到達目標は、各自の考えを第三者に説明できるように、客観的資料を用いて論理的に説明できることになることである。

The theme of this seminar is the relationship between tourism and politics. The goal is to be able to explain logically using objective materials so that they can explain their ideas.

授業の内容 / Course Contents

3年次までに身に付けてきた調べる技術や、考察する技術、知識を用いて、個々人の関心に沿った研究テーマを設定する。卒業論文の執筆を目指して、個人研究に取り組む。ゼミでのプレゼンテーション報告を行う。

Participants will use the research techniques, consideration techniques, and knowledge they have acquired by the third year to set research themes that are relevant to each individual's interests. Participants will engage in individual research with the aim of writing their graduation thesis. Participants will report their presentations at the seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

- 2回：研究テーマの設定
 3回：研究テーマの設定
 4回：研究テーマの設定
 5回：先行研究の調査
 6回：先行研究の調査
 7回：先行研究の調査
 8回：調査計画の立案
 9回：調査計画の立案
 10回：調査計画の立案
 11回：予備調査の実施
 12回：予備調査の実施
 13回：調査計画の修正
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた文献を復習すること。

関心のある文献を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表への参加・議論への参加・提出物等を総合的に評価:80% 調査・フィールドワーク参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

宮崎 友里 (MIYAZAKI YURI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA714
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習は観光と政治の関係をテーマとしている。到達目標は、各自の考えを第三者に説明できるように、客観的資料を用いて論理的に説明できることになることである。

The theme of this seminar is the relationship between tourism and politics. The goal is to be able to explain logically using objective materials so that they can explain their ideas.

授業の内容 / Course Contents

参加者は3年次までに身に付けてきた調べる技術や、考察技術、知識を用いて、個々人の関心に沿った個人研究に取り組む。参加者には定期的な報告が求められる。

Participants will engage in individual research using the research techniques, consideration techniques, and knowledge they have acquired by the third year. Participants are required to report regularly.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査報告
- 2 回：調査報告
- 3 回：調査報告

- 4回：論文執筆の進捗報告
 5回：論文執筆の進捗報告
 6回：論文執筆の進捗報告
 7回：論文執筆の進捗報告
 8回：論文執筆の進捗報告
 9回：論文執筆の進捗報告
 10回：論文執筆の進捗報告
 11回：プレゼンテーション準備
 12回：プレゼンテーション準備
 13回：プレゼンテーション準備
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関心のある文献を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加と貢献（各回に参加するための事前準備と、ディスカッションへの積極的な参加）：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

卒業論文作成に向けて研究する

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA715

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文作成に向けて研究を行う。

Students will conduct research for graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文のテーマ作成、調査方法、執筆について指導する。

Guidance will be provided on devising a graduation thesis theme, survey methods, and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：卒業論文について & 研究倫理について

2 回：文献検索について

3 回：テーマの選定について

4 回：研究背景について 1

5 回：研究背景について 2

- 6回：先行研究のレビュー 1
 7回：先行研究のレビュー 2
 8回：調査方法 1
 9回：調査方法 2
 10回：卒論テーマの発表
 11回：調査計画 1 & 個別指導
 12回：調査計画 2 & 個別指導
 13回：調査計画 3 & 個別指導
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク :○
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

平日は、毎日 1 時間の卒業研究を行うように時間管理をすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業研究の構想発表:40% 毎回の進捗状況確認:40% 期末発表:20%

テキスト / Textbooks

特に指定なし

参考文献 / Readings

国語辞典を使用すること。

その他 / Others

各自の研究に関連する資料をすべて収集する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

卒業論文を完成する

韓 志昊 (HAN JIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA716

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を完成する。

Students will complete graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆を中心に指導する。

Guidance will be provided on graduation thesis writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：卒業研究の進行状況を確認する

2 回：データ収集と分析の指導 1

3 回：データ収集と分析の指導 2

4 回：卒業論文の体裁を確認

5 回：卒業論文の執筆に関して個別指導

6 回：剽窃の確認 1

- 7回：研究背景と先行研究の作成を指導
 8回：研究方法と結果の作成を指導
 9回：卒業論文のドラフト版提出と指導
 10回：剽窃の確認2
 11回：卒業論文最終確認
 12回：卒業発表資料作成ーレジюме
 13回：卒業発表資料作成ースライド
 14回：卒業発表の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎日1時間は必ず卒業論文の執筆に設定すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 進行状況の発表:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

建築、まち、空間、デザイン系卒業研究

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA717

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて多角的な視点からアドバイスを行うことにより、観光研究に関する専門知識を深めるとともに、卒業論文の執筆がスムーズに進められるようにする。

With advice provided from a variety of perspectives for the completion of your graduation thesis, students will deepen their expertise in tourism research while aiding smooth graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆に必要とされる専門知識や調査技術を学びつつ、完成に向けて作業を進めていくための指導を適宜行う。具体的には、研究テーマの選定、調査計画の立案、調査対象の選定、調査・分析方法の検討、さらにはその研究成果を理解してもらうために必要なプレゼンテーション能力等である。

While learning the specialized knowledge and techniques required for graduation thesis writing, appropriate instruction will be provided to support the progression to completion. Specifically, establishing research topics and designing surveys, methods of survey analysis, as well as acquiring presentation skills to communicate the

contents effectively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：研究テーマの検討 1
- 3 回：研究テーマの検討 2
- 4 回：研究テーマの検討 3
- 5 回：研究テーマに合った文献研究 1
- 6 回：研究テーマに合った文献研究 2
- 7 回：研究テーマに合った文献研究 3
- 8 回：調査計画の立案 1
- 9 回：調査計画の立案 2
- 10 回：調査計画の立案 3
- 11 回：予備（プレ）調査の実施 1
- 12 回：予備（プレ）調査の実施 2
- 13 回：予備調査の結果検討と、本調査向けの調査項目、調査対象の再検討
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各自の卒業研究への取り組みと発表:100%

テキスト / Textbooks

とくに使用しない。

参考文献 / Readings

各自のテーマに応じて個別に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

協調性、リーダーシップ、探究心、忍耐力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

定規やカッター、カッターボードなど工作道具

その他 / Others

次の週の演習時に、1mm でも 2mm でも前に進んでいけば良いので、常に前に進めたいという気持ちで演習に取り組んでください。後退することがあっても、最終的に前に進めていけば良いので、弛まぬ努力が必要です。自ら決めたことをやり遂げることで得られる達成感を来春味わえるように力を尽くしてください。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

建築、まち、空間、デザイン系研究

毛谷村 英治 (KEYAMURA EIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA718

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて多角的な視点からアドバイスを行うことにより、観光研究に関する専門知識を深めるとともに、卒業論文の執筆がスムーズに進められるようにする。

With advice provided from a variety of perspectives for the completion of student's graduation thesis, students will deepen their expertise in tourism research while aiding smooth graduation thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆に必要なとされる専門知識や技術を学びつつ、完成に向けて準備を進めていくための指導を適宜行う。具体的には、研究テーマの設定、調査計画の設定、調査・分析方法、さらにはその内容を理解してもらうために必要なプレゼンテーション能力等である。

While learning the specialized knowledge and techniques required for graduation thesis writing, appropriate instruction will be provided to support the progression to completion. Specifically, establishing research topics and designing surveys, methods of survey analysis, as well as acquiring presentation skills to communicate the contents effectively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：本調査の実施1
- 2回：本調査の実施2
- 3回：本調査の実施3
- 4回：調査結果の分析と考察1
- 5回：調査結果の分析と考察2
- 6回：調査結果の分析と考察3
- 7回：論文執筆と構成・内容等の指導1
- 8回：論文執筆と構成・内容等の指導2
- 9回：論文執筆と構成・内容等の指導3
- 10回：論文執筆と構成・内容等の指導4
- 11回：報告準備1
- 12回：報告準備2
- 13回：プレゼンテーション準備1
- 14回：プレゼンテーション準備2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 提出された卒業論文の本体ならびに卒業論文報告会における報告ならびに質疑応答を対象に行う：100%

テキスト / Textbooks

特に使用しない

参考文献 / Readings

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

目標（卒論提出）に向かって弛まぬ努力を積み重ねる意思と最後まで諦めない精神力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

各自の研究テーマに応じて準備してください

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA719
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見，解決策提案のための調査・研究手法を身につけるとともに，論文の作成技法を理解する。

Students will learn the methods of writing academic papers, while acquiring research and survey methodologies, so that they can identify issues in creating sustainable tourist areas, and propose solutions.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までの成果を踏まえて，持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見，解決策提案のための調査・研究を個々に設定，実施する。

原則として，1 ヶ月に 1 回程度は途中経過を報告し，意見交換ならびに研究指導を行う。調査・研究の成果は「卒業論文」として取りまとめる。

Based on work up to Year 3, students will choose and conduct individual research and surveys in order to identify issues in creating sustainable tourism areas, and proposing solutions.

In principle, about once a month, students will report progress, exchange opinions, while instructors will provide guidance on research. The results of surveys and research will be compiled as the “graduation thesis”.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：論文作成に向けた個別指導 1
 3回：論文作成に向けた個別指導 2
 4回：論文作成に向けた個別指導 3
 5回：論文作成に向けた個別指導 4
 6回：論文作成に向けた個別指導 5
 7回：中間報告会 1
 8回：論文作成に向けた個別指導 6
 9回：論文作成に向けた個別指導 7
 10回：論文作成に向けた個別指導 8
 11回：論文作成に向けた個別指導 9
 12回：論文作成に向けた個別指導 10
 13回：中間報告会 2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自らの発表の際には事前に入念な準備を行うとともに、授業中に指摘されたこと、議論した内容は必ず次の発表までに反映すること。また他の学生が指摘されていることも自らに当てはめて考えることによって、毎授業同じような指摘が繰り返されないように注意すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% セミ中の発表、討論への参加状況を総合的に評価：100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

研究の遂行、論文執筆に必要なため、word、excelの基本的な操作は身につけておいてください。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

羽生 冬佳 (HANYU FUYUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA720
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見，解決策提案のための調査・研究手法を身につけるとともに，論文の作成技法を理解する。

Students will learn the methods of writing academic papers, while acquiring research and survey methodologies, so that they can identify issues in creating sustainable tourist areas, and propose solutions.

授業の内容 / Course Contents

3 年次までの成果を踏まえて，持続的な観光地域づくりに結びつくための課題発見，解決策提案のための調査・研究を個々に設定，実施する。

原則として，1 ヶ月に 1 回程度は途中経過を報告し，意見交換ならびに研究指導を行う。調査・研究の成果は「卒業論文」として取りまとめる。

Based on work up to Year 3, students will choose and conduct individual research and surveys in order to identify issues in creating sustainable tourism areas, and proposing solutions.

In principle, about once a month, students will report progress, exchange opinions, while instructors will provide guidance on research. The results of surveys and research will be compiled as the “graduation thesis”.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：論文執筆に向けた個別指導 1
- 3回：論文執筆に向けた個別指導 2
- 4回：論文執筆に向けた個別指導 3
- 5回：論文執筆に向けた個別指導 4
- 6回：中間報告会
- 7回：論文執筆に向けた個別指導 5
- 8回：論文執筆に向けた個別指導 6
- 9回：論文執筆に向けた個別指導 7
- 10回：論文執筆に向けた個別指導 8
- 11回：最終発表に向けた個別指導 1
- 12回：最終発表に向けた個別指導 2
- 13回：最終発表会
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自らの発表の際には事前に入念な準備を行うとともに、授業中に指摘されたこと、議論した内容は必ず次の発表までに反映すること。また他の学生が指摘されていることも自らに当てはめて考えることによって、毎授業同じような指摘が繰り返されないように注意すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% セミ中の発表、討論への参加状況を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

研究の遂行、論文執筆に必要なため、word、excelの基本的な操作は身につけておいてください。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

環境問題と観光活動について経済学の視点から研究する

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA721

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆に必要とされる、リサーチクエスションの設定や調査、統計分析の方法等について学ぶ。さらに、研究発表の練習も行ない、プレゼンテーション能力を高める。

Students will learn how to establish a research question and statistical analysis methods for their graduation thesis. In addition, students will practice their research presentations to improve their presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

これまで学んできた研究の方法について、興味関心のあるテーマに即し検討を進める。最終成果を卒業論文としてまとめるために、必要とされる基礎知識、応用力、論文執筆能力などを養う。中間報告会において指摘された事項を改善し、研究をブラッシュアップさせる。

Students will examine the research methods they have learned so far, focusing on a topic of their interest. In order to edit the final result as a graduation thesis, students will develop the basic knowledge, application skills, and thesis-writing ability required. At the mid-term report meeting, identify areas for improvement and refine the research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：進め方の検討
- 2回：中間報告会1
- 3回：中間報告会2
- 4回：中間報告会3
- 5回：中間報告会4
- 6回：中間報告会5
- 7回：進捗報告とディスカッション1
- 8回：進捗報告とディスカッション2
- 9回：進捗報告とディスカッション3
- 10回：進捗報告とディスカッション4
- 11回：進捗報告とディスカッション5
- 12回：進捗報告とディスカッション6
- 13回：最終報告会
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自、どのようなリサーチクエスチョンを設定し、経済的な分析へとつなげるのか十分な時間をかけた予習、および復習が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

研究課題を設定し、その解決策に至るまで適切にアプローチする能力を必要とする。特に、探求心、知的好奇心に加え、分析力や応用力を駆使した高い自己解決力が必要である。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

環境問題と観光活動について経済学の視点から研究する

野原 克仁 (NOHARA KATSUHITO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA722

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境問題および観光問題を経済学の視点から分析する研究テーマを自ら設定し、関連するデータを収集・分析し、それをわかりやすく表現する方法を習得する。

Students will set their own research themes to analyze environmental and tourism issues from an economic perspective, collect and analyze relevant data, and learn how to express them in an easy-to-understand manner.

授業の内容 / Course Contents

これまで学んできた研究の方法について、興味関心のあるテーマに即し検討を進める。最終成果を卒業論文としてまとめるために、必要とされる基礎知識、応用力、論文執筆能力などを養う。中間報告会において、改善点を見つけより洗練された研究へと仕上げる。

Students will examine the research methods they have learned so far, focusing on a topic of their interest. In order to compile the final result as a graduation thesis, students will develop the basic knowledge, application skills, and thesis-writing ability required. In the mid-term debriefing, students will identify areas for improvement and refine their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：中間報告会（1）
- 2回：中間報告会（2）
- 3回：中間報告会（3）
- 4回：研究経過報告と議論（1）
- 5回：研究経過報告と議論（2）
- 6回：研究経過報告と議論（3）
- 7回：研究経過報告と議論（4）
- 8回：研究経過報告と議論（5）
- 9回：研究経過報告と議論（6）
- 10回：研究経過報告と議論（7）
- 11回：研究経過報告と議論（8）
- 12回：最終発表会（1）
- 13回：最終発表会（2）
- 14回：最終発表会（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のための十分な準備と議論への積極的参加・発言が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加状況、およびレポート等を総合的に評価:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

必要に応じて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

研究力は当然のこと、研究の結果を分かりやすく発信する高いプレゼンテーション能力も必要となる。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

卒業論文を執筆する

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA723

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、大学での学びの集大成として卒業論文の執筆に向けた指導を行う。

This course aims to provide students with instructions on graduation thesis writing for completion of their university study.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文執筆に向けて、興味あるキーワード、テーマの絞り込み、先行研究の収集と読み込み、先行研究を踏まえた自己の研究における問題意識を、個々の発表と全員によるディスカッションを通じてブラッシュアップしていく。研究テーマは各自の興味にあわせて指導する。

As preparation for writing the graduation thesis, students brush up their awareness of issues covered by their individual research by searching keywords, narrowing themes, reading relevant previous research, and making a presentation to the other students for discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究とはなにか、論文とは何かを学ぶ

- 2回：研究テーマの設定・既往研究の把握（1）
 3回：研究テーマの設定・既往研究の把握（2）
 4回：研究テーマの設定・既往研究の把握（3）
 5回：研究テーマの設定・既往研究の把握（4）
 6回：研究テーマの設定・既往研究の把握（5）
 7回：調査計画の検討（1）
 8回：調査計画の検討（2）
 9回：調査計画の検討（3）
 10回：予備調査の実施（1）
 11回：予備調査の実施（2）
 12回：予備調査の実施（3）
 13回：予備調査結果の共有・ディスカッション（1）
 14回：予備調査結果の共有・ディスカッション（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎日、論文や論考を読む習慣をつけてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席と複数回のレポート:100%

テキスト / Textbooks

適宜紹介する

参考文献 / Readings

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

卒業論文を執筆する

西川 亮 (NISHIKAWA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA724
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、大学での学びの集大成として卒業論文を執筆する。また、最終発表に向けて、要旨作成とプレゼンテーション技術をブラッシュアップする。

This course aims to provide students with instructions on graduation thesis writing for completion of their university study. Furthermore, students develop their project abstract and presentation skills for the final presentation.

授業の内容 / Course Contents

春学期から夏にかけて行った調査（文献調査、現地調査）結果の分析・考察を行い、論文の全体像を取りまとめる。毎週、進捗を発表し、それに対するディスカッションを行いながら、卒業論文を完成させる。論文提出後は、要旨作成、最終発表等に関して授業時間内に指導する。

Students decide the chapter structure of their thesis by analyzing results of existing research, including literature reviews and field research, that they have collected from the spring to the summer semester. In addition, each chapter is presented in order, with discussion to follow, until completion of the graduation thesis. After

submission of the thesis, students are instructed about writing an abstract and making the final presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査結果の報告・議論（1）
- 2 回：調査結果の報告・議論（2）
- 3 回：調査結果の報告・議論（3）
- 4 回：調査結果の報告・議論（4）
- 5 回：調査結果の報告・議論（5）
- 6 回：調査結果の報告・議論（6）
- 7 回：調査結果の報告・議論（7）
- 8 回：調査結果の報告・議論（8）
- 9 回：調査結果の報告・議論（9）
- 10 回：調査結果の報告・議論（10）
- 11 回：調査結果の報告・議論（11）
- 12 回：要旨作成と最終発表に向けた準備（1）
- 13 回：要旨作成と最終発表に向けた準備（2）
- 14 回：最終発表のリハーサル

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎日、論文や論考を読む習慣をつけてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文及び最終発表:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA727
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまで獲得した知識や経験を活かし、その集大成として、観光や移動に関連する卒業論文の執筆に取り組む。

We will use the knowledge and experience he has acquired to write his graduation thesis related to tourism and mobility.

授業の内容 / Course Contents

教員や学生同士のディスカッションを通じて自身の問題関心を明確化し、卒業論文のテーマを定める。関連する先行研究の整理を踏まえ、調査計画を作成・実行する。

自らの問題関心の把握、テーマに関連する情報や資料の探索・整理、調査計画の作成、調査の実施、データの整理・検討、論理的な議論の検討、論文執筆など一連の論文執筆作業に取り組むことで、ひとつのプロジェクトを自ら計画・運営するために必要な学術的・社会的スキルを身につける。

(1) Clarify one's own issues and interests through discussions among faculty members and students, and define a theme for the graduation thesis. Create and implement a research plan based on the organization of relevant previous research.

(2) By engaging in a series of dissertation writing tasks, such as identifying one's own problem interests, searching for and organizing information and materials related to the theme, creating a research plan, conducting research, organizing and examining data, examining logical arguments, and writing a dissertation, students will acquire the academic and social skills necessary to plan and manage a project by themselves.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究計画の作成
- 3回：研究テーマの検討
- 4回：研究テーマの検討
- 5回：研究テーマの検討
- 6回：関連する文献や情報・資料の整理
- 7回：関連する文献や情報・資料の整理
- 8回：関連する文献や情報・資料の整理
- 9回：関連する文献や情報・資料の整理
- 10回：関連する文献や情報・資料の整理
- 11回：関連する文献や情報・資料の整理
- 12回：調査計画の作成・検討
- 13回：調査計画の作成・検討
- 14回：調査計画の作成・検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備をして参加すること。発表後は授業内での指導・コメントを踏まえ、主体的に研究を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（研究活動への取り組み、提出物）：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA728
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データの整理・検討や理論的考察を行う能力を身につける。論理的な文章を構成し、論文を完成させる。
Acquire the ability to organize and examine data and conduct theoretical discussions. Compose logical sentences and complete the thesis.

授業の内容 / Course Contents

研究計画にもとづいて調査やデータの分析、理論の検討を行う。教員との議論、学生同士のピアレビュー等を踏まえて卒業論文を執筆する。

自らの問題関心の把握、テーマに関連する情報や資料の探索・整理、調査計画の作成、調査の実施、データの整理・検討、論理的な議論の検討、論文執筆など一連の論文執筆作業に取り組むことで、ひとつのプロジェクトを自ら計画・運営するために必要な学術的・社会的スキルを身につける。

(1) Conduct research, analyze data, and examine theories based on the research plan. Write a graduation thesis based on discussions with faculty members and peer review among students.

(2) By engaging in a series of dissertation writing tasks, such as identifying one's own problem interests, searching for and organizing information and materials related to the theme, creating a research plan, conducting

research, organizing and examining data, examining logical arguments, and writing a dissertation, students will acquire the academic and social skills necessary to plan and manage a project by themselves.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：論文執筆計画の確認
- 3回：調査結果の整理・検討
- 4回：調査結果の整理・検討
- 5回：調査結果の整理・検討
- 6回：論文執筆と進捗状況の報告
- 7回：論文執筆と進捗状況の報告
- 8回：論文執筆と進捗状況の報告
- 9回：論文執筆と進捗状況の報告
- 10回：論文執筆と進捗状況の報告
- 11回：論文執筆と進捗状況の報告
- 12回：論文執筆と進捗状況の報告
- 13回：報告会の準備
- 14回：報告会の準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内での指導・コメントを踏まえ、主体的に論文執筆を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（研究活動への取り組み、提出物）：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文学

Literature

19 世紀フランスの芸術を学ぶ

岡部 杏子 (OKABE KYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA801
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

19 世紀フランス文学を取り上げ、絵画や彫刻がテーマとされている作品を読解し、言語芸術と造形芸術の相関関係を読み解く力を養います。

Highlighting 19th-century French literature, students will develop the ability to understand the correlation between linguistic art and plastic art forms through reading literary works on paintings and sculptures.

授業の内容 / Course Contents

本講義は2つのパートからなります。前半（第2回から第6回）では、詩において絵画や彫刻がどのように表現されているのかを「美」をキーワードに読み解いてゆきます。後半（第7回から第14回）では、小説において絵画や彫刻がストーリーのなかでどのように機能しているのか、また登場人物が芸術家の場合、いかなる芸術観を抱いているのかを考察します。

This lecture is in two parts. In the first half (sessions 2-6), we will examine “beauty” as a keyword to understand how paintings and sculptures are expressed in poetry. In the second half, (sessions 7-14) we will examine how

paintings and sculptures appearing in novels work in the story, and in instances where artists appear, we will consider what kind of perspectives on art the characters have.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、イントロダクションー19世紀フランスの文化と社会
- 2回：19世紀フランス詩における自然と都市
- 3回：ヴィクトル・ユゴーが描く「幻想」ー『ライン河紀行』を手がかりに
- 4回：シャルル・ボードレールが描く「都市」ー『悪の華』と『パリの憂愁』
- 5回：アルチュール・ランボーが描く「風景」ー『初期詩篇』
- 6回：テオフィル・ゴージェ、テオドール・ド・バンヴィルが刻む「古代の美」
- 7回：19世紀フランス小説における自然と都市
- 8回：プロスペール・メリメ「イールのヴィーナス」ー土地と伝承 [1]
- 9回：オノレ・ド・バルザック『サラジーン』[1]ーパリのブルジョワ空間
- 10回：オノレ・ド・バルザック『サラジーン』[2]ー芸術の都ローマ
- 11回：ジョルジュ・サンド『おばあさまの物語』ー土地と伝承 [2]
- 12回：エミール・ゾラ『制作』[1]ープロヴァンスへの郷愁
- 13回：エミール・ゾラ『制作』[2]ー芸術家にとってのパリ
- 14回：まとめと総括：文学における美を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 予習：授業時に配布するテキストを読み、要点をまとめておくこと。
- 復習：授業時に配布するプリントをまとめて、一冊のノートを作ること。
- レポート試験の準備を学期中から行い、参考文献についての情報を収集すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

- レポート試験 :60%
- 平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 出席・授業への取り組み:20%
- 2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可とします。私語厳禁です。

テキスト / Textbooks

授業資料は教員が用意します。映像資料なども適宜活用します。

参考文献 / Readings

初回授業時に参考文献一覧を配布するほか、授業内でも適宜指示します。

文献の探し方、レポートの書き方も授業内に適宜指示します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

大学生活のうちに文学作品、美術作品に対する知識を得たい、より多くの作品に触れたいという意欲や希望がある。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

配布資料は Canvas LMS からダウンロードしてもらいます。

その他/ Others

質問や相談は授業後に受け付けます。

哲学

Philosophy

観光倫理学入門

加藤 喜市 (KATO KIICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA802

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2012 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

（1）哲学史・倫理思想史上のさまざまな学説・考え方に触れることで、「哲学」・「倫理学」という学問に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。（2）課題に取り組むことを通して、哲学的／倫理的な思考の方法と学術的な文章の書き方を身につける。

(1) Touching on the various theories and ideas in the history of philosophy and ethical thought, students will deepen their basic knowledge in the disciplines of "philosophy" and "ethics".

(2) Students will acquire philosophical / ethical thinking methods

授業の内容 / Course Contents

今年度は「哲学」の中の「倫理学」、とりわけ「観光倫理学」に焦点を当てて講義を行ないます。

まず前半は、哲学・倫理学という学問にはじめて触れる学生を主な対象として、古代から現代に至る哲学史・倫理思想史における主要なテキストを紹介していきます。ソクラテス、カント、ニーチェなど、おそらくみなさんも聞いたことのある有名な哲学者たちが登場します。

後半のテーマは「観光倫理学」です。観光倫理学の代表的な理論をいくつか紹介した後、「生命医療倫理」「環

境倫理」「ビジネス倫理」などの応用倫理学について、観光という視点から

This year, we will conduct lectures focusing on "Ethics" within the field of "Philosophy," particularly emphasizing "Tourism Ethics."

In the first half, the primary audience will be students encountering the study of philosophy and ethics for the first time. We will introduce significant texts from the history of philosophy and ethical thought, spanning from ancient times to the present. Famous philosophers such as Socrates, Kant, Nietzsche, and others, likely familiar to many of you, will be featured.

The second half will delve into the theme of "Tourism Ethics." After introducing several prominent theories in tourism ethics, we will examine applied ethics, such as "Biomedical ethics," "Environmental Ethics," and "Business Ethics," from the perspective of tourism.

Due to the lecturer's interests, references to subcultures such as anime, manga, games, music, and more will be frequent in the lectures. The aim is to spark an interest in philosophy and ethics through these cultural references.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：哲学・倫理学への導入
- 2 回：倫理思想史 (1)：古代ギリシア哲学 (プラトン・アリストテレス)
- 3 回：倫理思想史 (2)：ユダヤ・キリスト教思想 (旧／新約聖書・トマス)
- 4 回：倫理思想史 (3)：義務論 (カント)
- 5 回：倫理思想史 (4)：功利主義 (ベンサム・ミル・シンガー)
- 6 回：倫理思想史 (5)：徳倫理学 (マッキンタイア・ハーストハウス)
- 7 回：倫理思想史 (6)：実存主義 (ニーチェ・ハイデガー・レヴィナス)
- 8 回：倫理思想史 (7)：日本哲学 (三木清・和辻哲郎)
- 9 回：観光倫理学 (1)：観光倫理学の理論 1 (フェンネルとマッカーネル)
- 10 回：観光倫理学 (2)：観光倫理学の理論 2 (徳倫理的／正義論的アプローチ)
- 11 回：観光倫理学 (3)：観光と生命・医療倫理 (医療ツーリズム)
- 12 回：観光倫理学 (4)：観光と環境倫理 (エコツーリズム)
- 13 回：観光倫理学 (5)：観光とビジネス倫理 (観光産業の倫理的課題)
- 14 回：全体のまとめと授業内試験

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には予習よりも復習に重点を置かれると良いでしょう。プリントの見直し、参考文献を調べるなど、各自で復習してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎授業へのコメント (リアクションペーパー) :20% 授業内の課題:20%

出席およびコメントの提出が10回に満たない方には、単位を差し上げることができません。

テキスト/ Textbooks

テキスト（教科書）は指定しません。毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献 / Readings

池松辰男 『西洋倫理思想の考え方』 山川出版 2022 9784634640979

神崎宣次・佐藤静・寺本剛編 3ステップシリーズ『倫理学』 昭和堂 2023 9784812222188

Fennell, D. Tourism Ethics (Aspects of Tourism) second edition Channel View Books 2017
9781845416355

その他/ Others

- ・静かに集中して講義を聞くことができない方は、受講をご遠慮ください（私語厳禁）。
- ・学生の希望を取り入れて、講義内容を多少変更する可能性があります。

注意事項（検索結果画面）

2012年度～2018年度1年次入学者対象

人類学

Anthropology

文化と生きる：現代文化人類学入門

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA803

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代文化人類学の基礎・問題意識に触れるための入門的な講義です。

Introductory lectures on the fundamentals and issues of contemporary cultural-anthropology.

授業の内容 / Course Contents

文化とは、私たちが日々をどのように生きるべきかに関わる指針でもありますが、私たちがどのように生きることができるのかに関わる可能性でもあります。この授業では、人々が文化に埋め込まれて生きているように見える側面ばかりではなくて、文化を意識的に選んだり操作したり表現したりする側面にも注目しながら、文化と共に生きる姿について考えたいと思います。

Culture is both a guide to how we should live our days, but also a possibility of how we can live. In this class, we think about the way people live together with culture, focusing not only on the aspects of people who seem to be embedded and living in culture, but also on the aspects of consciously selecting, manipulating, and expressing culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：【たべる】食の文化人類学
- 2回：【きる・みせる】装いの文化人類学
- 3回：【すまう】住まいの文化人類学
- 4回：【とる・たがやす・かう】生業活動（採集狩猟・農耕・牧畜）の文化人類学
- 5回：【つたえる】言語の文化人類学
- 6回：【むすぶ】恋愛・婚姻・親族の文化人類学
- 7回：【かわす】経済・政治の文化人類学
- 8回：【おもう・しる】神話の文化人類学
- 9回：【いわう・おそれる、やむ・いやす】儀礼・呪術・医療の文化人類学
- 10回：【そだつ・まなぶ】教育の文化人類学
- 11回：【つくる】モノ・芸術の文化人類学
- 12回：【フィールドワークする】文化人類学という生き方（その1：他者との出会いやつながりとは？）
- 13回：【フィールドワークの先】文化人類学という生き方（その2：民族誌的情報発信とは？、その功罪とは？）
- 14回：学期末試験へ向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワポ等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業では、できるだけ豊富な事例に言及します。それら事例の1つ1つは、人が文化と共に生きる柔軟かつ多様な姿について想像するための入り口として、履修生の皆さんそれぞれの解釈や理解へとひらかれています。授業では皆さんの質問や発言を期待・歓迎しますので、意欲的な参加をして下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

授業で資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業で資料を配布します。

美学

Aesthetics

「民藝」という美学～地域にひそむ新たな価値の発見～

鞍田 崇 (KURATA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA804

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域や日々の暮らしの中に「生き生きとした」魅力や「ワクワクする」可能性を発見する、「自分ならではの」視点の獲得を目指します。そうした視点の獲得が、旧来の価値観にとらわれず、これからの社会のあり方を考える上でも重要であることを理解し、受講生の皆さんがみずからの生き方・働き方を熟考する機会となることがこの授業の目標です。

We aim to acquire a 'unique' perspective to discover some 'lively' charms and 'exciting' possibilities in your local areas and daily life. We hope that this will be an opportunity for the students to understand that acquiring such a perspective is importa

授業の内容 / Course Contents

いまなぜ地域や日常に注目するのか――。受講者ひとりひとりが、自分なりの答えを探るのがこの科目のねらい。授業では、大きく変化しつつある社会状況を念頭に置きつつ、与えられたレールの上をスマートに生きることよりも、ぎこちなくも一つ一つの人や物との出会いを自分たちの感性で創造していくすべを探っていきます。手がかりとされるのは、哲学とデザイン、そうして「民藝」です。

Why are we paying attention to the locality and daily life now? The aim of this course is for each student to search for their own answers to this question. In class, while keeping in mind the drastically changing social situation, rather than living smartly on the given rails, we encourage students to use their own sensibilities to create encounters with people and things one by one, even if awkwardly. The clues are philosophy, design, and 'Mingei'(folk crafts).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：CODE & NOISE : 小さなノイズに耳を傾けること
- 2 回：OUR AGE 2020'S : 2020 年代に始まったこと
- 3 回：DESIGN + PHILOSOPHY : 人間的な、あまりに人間的な
- 4 回：WHERE AM <I>? : さまよえる「私」
- 5 回：+ HUMANITIES : 不完全な ひと、不完全な わたし
- 6 回：INTIMACY : 世界は不思議に満ちている
- 7 回：ECOLOGY 3.0 : ポスト工業化社会を超えて
- 8 回：SIGN OF 3.0 : ソーシャル・ローカル・エコデザイン
- 9 回：VALUE CHANGE : ライフスタイルブームと「ハングリーであれ、馬鹿であれ」
- 10 回：DEEP NORMAL : 情緒的価値 (たとえば、「晴れと水と、咲いていく」)
- 11 回：DESIGNER NO NAME : 工芸とデザインの境目
- 12 回：TOWARDS ALTERNATIVES : 肯定のみされる平凡、偉大な平凡
- 13 回：BACK TO WHERE NOW? : いとおしさをデザインする
- 14 回：FLUID DIRECTION : 「雑木林的」空間へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料も適宜使用します。学期中 2 回ほど簡単なレポート課題を出しますので、授業内容の理解を深めるためにも取り組むようにしてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート (計 2 回) :60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

鞍田崇 『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』 明治大学出版会 2015 年
9784906811137 ○

参考文献 / Readings

- 鞍田崇 『〈民藝〉のレッスン つたなさの技法』 フィルムアート社 2012 年 9784845911837
柳宗悦 『民藝とは何か』 講談社 2006 年 9784061597792
岡本太郎 『沖縄文化論 忘れられた日本』 中央公論新社 1996 年 9784122026209
高木正勝 『こといづ』 木楽舎 2018 年 9784863241299
カル・フリン 『人間がいなくなった後の自然』 草思社 2023 年 9784794226471

フィリップ・フォレスト 『洪水』 河出書房新社 2020年 9784309208053

ジャネット・ウィンターソン 『灯台守の話』 白水社 2011年 9784560071755

その他/ Others

鞍田崇 / Takashi Kurata

<http://takashikurata.com/>

民法

Civil Law

民法／日常生活に関する法を学ぶ

薬師丸 正二郎<薬師丸 正二郎> (YAKUSHIMARU SHOJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA805

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちの生活に最も身近な市民生活に関する基本法である「民法」を学ぶ。

法律を学ぶのが初めての学生にも対応できるように授業を進める。

We will study "Civil Law" regarding its fundamental aspects in our lives.

Recommended for students who are new to law.

授業の内容 / Course Contents

1 民法は私人相互間の法律関係を規律する基本法である。卒業後、観光業界に進むか否かに関わらず、契約に関するルールを理解しておくことは、社会に出る上で重要なことである。講義は、まったく法律を学んだことのない学生でも理解できるように、具体例を交えながら分かり易いように進める。

2 民法は、公務員試験をはじめ、各種資格試験にも多数出題される重要な科目である。そこで、講義では、各種試験を受験する学生にも対応できるように進める（初回時に受講生と相談しながら進め方を確定する）。

1 The Civil Law is a basic law that governs the legal relationship between individuals. After graduation, it will be important to understand the rules concerning contracts, even if not entering a career in the tourism industry, and

is essential for working in society. Lectures will be easy to understand with concrete examples, so that even students who have never studied law can follow.

2 The Civil Law is an important subject that can be found in a large number of qualification exams, such of public officials exams. So in this course, students will advance to be able to handle all types of exams (determining how to proceed while consulting with students).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス，法とは何か
- 2 回：民法の全体像①
- 3 回：民法の全体像②，契約の主体
- 4 回：意思表示，代理①
- 5 回：代理②，時効
- 6 回：物権法に関する基礎知識（不動産物権変動，占有，即時取得など）
- 7 回：担保物権に関する基礎知識（抵当権など）
- 8 回：債権総論に関する基礎知識①
- 9 回：債権総論に関する基礎知識②
- 10 回：契約総論に関する基礎知識
- 11 回：契約に関する基礎知識（売買契約などを中心に）
- 12 回：契約に関する基礎知識（賃貸借契約を中心に）
- 13 回：不法行為に関する基礎知識
- 14 回：家族法（親族法・相続法）に関する基礎知識

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 毎回，予習が必要な場合は，テキストの該当頁を指定する。
- 初めて民法を学ぶ学生は，講義の復習の際，テキストの該当ページを読んで理解を深めること。講義の進め方の詳細は，初回に指示をする。
- 公務員試験に興味関心のある者は，相談して下さい。公務員試験向けの勉強方法などを別途，伝えるとともに，適宜講義で試験関係の情報に触れるようにする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:15% 出席及び授業参加態度:15%

講義では，毎回『オリエンテーション民法 第2版』を使用する。その他，適宜，板書やレジュメを配布する。

テキスト / Textbooks

松久三四彦他 オリエンテーション民法 第2版 有斐閣 2022 9784641138919 ○

参考文献 / Readings

佐伯仁志他 ポケット六法（令和6年版） 有斐閣 2024 9784641009240

潮見佳男 民法（全）第3版 有斐閣 2022 9784641138858

道垣内 弘人 リーガルベイス民法入門 第5版 日本経済新聞出版社 2024 9784296118397

平野裕之 コア・テキスト 民法[エッセンシャル版] 新世社 2021 9784883843329

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

好奇心、主体性

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料参照、課題提出に必要な情報機器（PC やタブレット等）、

その他/ Others

- 六法については公務員試験等各種試験を受験する者は判例付六法を購入することが望ましい。
- 公務員試験、その他の資格試験を志す人は、過去問題を入手し、毎回復習時に該当箇所を解くことを薦める。なお、勉強の仕方については、2023年度向けに大学で行ったガイダンス（【2022年度】公務員試験を目指す人に「直前期の過ごし方（効率的な勉強の仕方）」が動画でアップされているので、参照されたい。

<https://youtu.be/OCMAF7RHTmw>

生涯学習支援論 1

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 1

社会問題教育の視点に立ち、「学習者」に着目して生涯学習を考え、実践してみる

堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA806

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、生涯学習支援を受ける「学習者」側に焦点を当てて、多様な学習者の抱える問題を相対化して認識できる力を養うこと、しょうがい者や外国人、女性、性的マイノリティらによる諸活動（社会運動・教育／学習活動）の成立と展開の原理を学ぶことを目的として授業をすすめます。

学習者の多様な特性と参加型学習・ファシリテーション技法を意識しながら、生涯学習に関わる諸理論を説明できるようになることを目標とします。

In this class, we will focus on the "learners" who receive lifelong learning support, and develop the ability to relativize and recognize the problems of various learners. Classes are recommended for the purpose of learning the principles of establishment

授業の内容 / Course Contents

多様な学習者の抱える問題を反省的にとらえる契機を確保し、人間形成と差別問題一般について省察的な意見をもてるような交流を行うこと、人権獲得のための諸活動の変遷を系統的に説明し諸活動の展開を解説すること、人種・民族、ジェンダーなどの差別問題と社会教育施設のあり方、人間形成と差別をめぐる国際的な動向

などの現代的諸課題について具体的ケースを示しながら検討することを授業の概要とします。

The outline of this class is as follows. Allows you to think about the problems faced by different learners. We will systematically explain the transition of various activities for the acquisition of human rights, and explain the development of various activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「学習」とはなにか ①教育・教化・学習の違いとは
- 3回：「学習」とはなにか ②生涯にわたる人間の発達と学び
- 4回：「学習」とはなにか ③「社会問題教育」とはなにか
- 5回：グループディスカッション ①自分の教育／学習経験から考えよう
- 6回：社会問題教育と学習者の立場性 ①批判的教育学とはなにか
- 7回：社会問題教育と学習者の立場性 ②パウロフレイレと『被抑圧者の教育学』
- 8回：社会問題教育と学習者の立場性 ③フェミニズムペダゴジーの歴史的意義
- 9回：社会問題教育と学習者の立場性 ④「特権」とは何か？
- 10回：グループディスカッション ②あなたにとっての「社会問題」は？
- 11回：一生涯にわたる学習権の保障 ①「子どもの権利条約」とはなにか
- 12回：一生涯にわたる学習権の保障 ②「子どもの権利条約」への解題を見つけよう
- 13回：一生涯にわたる学習権の保障 ③「子どもの権利条約」への解題を共有しよう
- 14回：まとめ（論点の整理と内容補充）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の予習は特段に必要なはありません。ただし、授業時に集中して課題に取り組むこと（個人ワーク・グループディスカッションなど）を強く希望します。受講者と授業担当で学びの場はつくられると考えておりますので、共に学び合いながら不安も解消して進めていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:60% 最終レポート割合 :40%

リアクションペーパーは毎授業 400～600 字以上記入いただき、そちらの内容をもって出席を確認いたします（Canvas LMS を通して提出いただく予定です）。

最終レポートに関しては、これまでの年度では、書籍の精読レポートや授業内容にかかわる学習イベントへの参加レポート、「子どもの権利条約」に関する課題など（8000 字程度）を課してまいりました。本年度に関しては、受講者の学習ニーズ、学習深度などを加味して、授業中終盤で提示する予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『『日本に性教育はなかった』と言う前に』 柏書房 2023 4760155295 ○

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所 2022 4871686809 ○

テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。また、このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

高橋哲哉 『犠牲のシステム 福島・沖縄』 集英社 2012

好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007

渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう?(中学生の質問箱)』 平凡社 2018

石田仁 『はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで』 ナツメ社 2019

ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』 エトセトラブックス 2020

ベル・フックス 『ベル・フックスの「フェミニズム理論」一周辺から中心へ』 あけび書房 2017

子どもの権利・教育・文化全国センター 『20改訂ポケット版子どもの権利ノート』 子どもの権利・教育・文化全国センター 2020

授業内で随時参考文献は紹介しますので、メモを取ってください。

その他/ Others

※本授業は、「生涯学習支援論2」(2024年度秋学期)と関連した内容となっています。そのため、併せて受講することを希望します。また、受講者の学習度合い・関心事項を勘案しながらシラバス内容を再考する場合がありますので、併せてご承知おきください。

※この授業では「社会教育は、社会問題教育である」という立場に立ち、現代社会における「差別」問題とそれら乗り越えるための教育的営みについて考えていきます。その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思いますので、積極的にグループディスカッション

注意事項 (検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

生涯学習支援論 2

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 2

社会問題教育の視点に立ち、「教育者・学習支援者」に着目して生涯学習を考え、実践してみる

堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA807
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、生涯学習支援に関わる「教育者」・「学習支援者」側に焦点を当て、多様な学習者に対して効果的な学習支援アプローチを選択する力を養うことを目的とします。

学習者の多様な特性と参加型学習・ファシリテーション技法を意識しながら、地域の課題解決や地域の活性化につながる学習プログラムを作成できるようになることを目標とします。

This class focuses on the "educators" and "learning supporters" who are involved in lifelong learning support, and aims to develop the ability to select effective learning support approaches for diverse learners. The goal is to be able to create learning p

授業の内容 / Course Contents

学習支援アプローチの変遷やアプローチ自体のメリット／デメリットを系統的に説明してそれら諸活動を解説すること、人種・民族、ジェンダーなどの差別と社会教育施設のあり方、人間形成と差別をめぐる国際的な動向などの現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討すること、そして実際に授業で学んだ学習支援アプローチをもとにケーススタディを行うということを授業の概要とします。

The outline of this class is as follows. We will systematically explain the transition of the learning support approach and the advantages / disadvantages of the approach itself, and explain these activities. Discrimination against race / ethnicity, gender, and social education facilities, and contemporary issues such as international trends in human development and discrimination will be examined by showing concrete cases. Conduct a case study based on the learning support approach that you actually learned in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：社会的排除と教育のありかた
- 3回：クィアにひらかれた教育実践へ ①「クィア理論」とは何か？
- 4回：クィアにひらかれた教育実践へ ②重要な3つの概念—特権・マイクロアグレッション・インターセクショナリティ
- 5回：クィアにひらかれた教育実践へ ③日本におけるクィアペダゴジーの歴史
- 6回：クィアにひらかれた教育実践へ ④マイノリティへの支援の前に、マジョリティの変革を
- 7回：クィアにひらかれた教育実践へ ⑤具体的な実践例に学ぶ
- 8回：カリキュラム開発と教材・教具の理解 ①教育方法についての整理・検討
- 9回：カリキュラム開発と教材・教具の理解 ②教材作成ならびに発表準備
- 10回：カリキュラム開発と教材・教具の理解 ③グループ・個人作成の教材発表ならびに検討（1）
- 11回：カリキュラム開発と教材・教具の理解 ④グループ・個人作成の教材発表ならびに検討（2）
- 12回：カリキュラム開発と教材・教具の理解 ⑤グループ・個人作成の教材発表ならびに検討（3）
- 13回：カリキュラム開発と教材・教具の理解 ⑥グループ・個人作成の教材発表ならびに検討（4）
- 14回：まとめ（論点の整理と内容補充）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の予習は特段に必要なありません。本授業は、「生涯学習支援論1」を受講していることを前提に授業を行います。また、カリキュラム開発と教材・教具の理解の単元に関しては、授業内で組んだグループ（あるいは個人）で教材を作成していただき、発表してもらいます。そのため、授業時に集中して課題に取り組むこと（個人ワーク・グループディスカッションなど）を受講生には強く希望します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループワーク・発表など含む課題:60% リアクションペーパー:40%

リアクションペーパーは毎授業400～600字以上記入いただき、そちらの内容をもって出席を確認いたします（Canvas LMSを通して提出いただく予定です）。これまでの年度では、授業中終盤にグループに分かれて「社会問題教育」に関わる教材研究・作成に取り組んでいただきました。本年度に関しては、受講者の学習ニーズ、学習深度などを加味して、授業序中盤で提示する予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所

2022 4871686809 ○

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295 -
テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。また、このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

ベル・フックス 『ベル・フックスの「フェミニズム理論」一周辺から中心へ』 あけび書房 2017
好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007
渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう? (中学生の質問箱)』 平凡社 2018
石田仁 『はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで』 ナツメ社 2019
パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学』 亜紀書房 2018
ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』 エトセトラブックス 2020
デラルド・ウィン・スー 『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション——人種、ジェンダー、性的指向:マイノリティに向けられる無意識の差別』 明石書店 2020
授業内で随時参考文献は紹介します。各々メモを取ってください。

その他 / Others

※本授業は、「生涯学習支援論1」(2024年度春学期)の授業内容を踏まえて進めます。受講者の学習度合い・関心事項を勘案しながらシラバス内容を再考する場合がありますので、併せてご承知おきください。

※この授業では「社会教育は、社会問題教育である」という立場に立ち、現代社会における「差別」問題とそれらを乗り越えるための教育的営みについて考えていきます。その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思いますので、積極的にグループディスカッションや個人ワークを方法として用います。グループデ

注意事項 (検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

社会教育経営論 1

Adult and Community Education Management 1

社会教育経営の基礎

米澤 朋英 (YONEZAWA TOMOHIDE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA808
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的として、社会教育行政と地域活性化，社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成，社会教育施設の経営戦略等を修得することを目的とする。

このような多様な領域と連携は、新たに生まれた「社会教育士」の活躍が期待されている領域であることを学生が理解していただき授業に臨んでもらい

This course aims to revitalize community and social education administration and to deliver the knowledge and skills required to link learning outcomes to joint community and school problem solving activities. Students will also learn social education adm

授業の内容 / Course Contents

- ①社会教育行政とは何か、地域活性化との関係
- ②行政施策の基盤である「計画」の構造

③地域実態の分析と学習課題の把握

④戦略的な立場からの広報

等を柱に授業を展開していく。

なお、社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型による学習を適宜行う。(受講者数に応じて展開方法は変更することがある)

将来、NPO 法人を運営するのも良いと思う。ただ、運営の基本がわからなければ、独立は難しい。基本は、行政のあり方を理解する必要がある。卒業後の進路として民間企業よりも

The course will incorporate the following points:

① What is social education administration and how is it related to regional revitalization?

② The structure of the "plan" that forms the basis of administrative measures

③ Regional situation analysis and grasp of learning issues

④ Broad strategic public relations

Since social education is a practical initiative, participatory learning will be encouraged through activities such as workshops and group discussions. (The deployment method may change depending on the number of participants.)

While it is commendable to desire to operate an NPO in the future, a grasp of the basics of management is pivotal to independence. Essentially, students must understand how government works. Learners seeking positions as civil servants or teachers instead of being employed in private organizations after graduation are encouraged to take this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

(本授業の目的と講義計画の説明等)

2 回：社会教育士、社会教育主事の仕事

地方自治体の仕組みと社会教育

3 回：社会教育の基礎

(1) 学校教育と社会教育と生涯学習 (生涯教育)

4 回：社会教育の基礎

(2) 社会教育の指導方法・教育理論

5 回：社会教育の基礎

(3) 社会教育の指導方法・学習理論

6 回：社会教育の基礎

(4) 社会教育の指導方法 【映像資料 1】

7 回：社会教育行政の経営戦略

(1) 社会教育計画の意義と構造

8 回：社会教育行政の経営戦略

(2) 「経営」を考える

9 回：社会教育行政の経営戦略

(3) 社会教育計画の策定

10 回：社会教育行政の経営戦略

(4) 社会教育の評価 1 学習者に対する評価

11 回：社会教育行政の経営戦略

(5) 社会教育の評価 2 事業の評価

12 回：広報戦略

社会教育とメディア 【映像資料 2】

13 回：広報戦略

メディアと情報伝達

14 回：総括と最終課題の出題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の内容に関連した課題の提出が必須。1 時間から 4 時間程度の課題。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題、リアクションペーパー、アンケート等：60%

最終レポート割合：40%

※全ての回で課題を出題する。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

社会教育施設、生涯学習施設、民間教育機関にて利用または指導経験、または、ボランティア活動での参加の経験を有していること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具（必要ならば、タブレット、PC の持ち込みは可能）。

その他 / Others

- ※ 課題を毎回出題する。最低 12 回の課題の提出が必須。
- ※ 提出期限を過ぎた提出物については、正規の点数の 20% として採点する。
- ※ 全て対面で講義を実施する予定。
- ※ 対面の為、講義全体のオンライン配信は原則的に行わない。
- ※ 14 回中、遅刻の無い出席が最低 12 回必要。就職活動、部活動等の活動も講義に参加していないので欠席として処理する。
- ※ 講義開始前までに着席していること。出席確認は講義開始とともに実施する。
- ※ 講義開始後 20 分を経過してからの講義の参加は、受講し課題を提出することができるが、欠席

注意事項（検索結果画面）

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

社会教育経営論 2

Adult and Community Education Management 2

社会教育経営の応用

米澤 朋英 (YONEZAWA TOMOHIDE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA809
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的として、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等を修得することを目的とする。

このような多様な領域と連携は、新たに生まれた「社会教育士」の活躍が期待されている領域であることを学生が理解していただき授業に臨んでもらい

This course aims to revitalize community and social education administration and to deliver the knowledge and skills required to link learning outcomes to joint community and school problem solving activities. Students will also learn social education adm

授業の内容 / Course Contents

- ①地域人材に求められる力とは何か、社会教育でどのように育むか
- ②学習成果としての地域ネットワーク形成

- ③地域と学校の協働を柱とした地域ネットワーク形成
- ④社会教育施設経営の様々な形態・仕組み
- ⑤事業経費を生み出す仕組み

等を柱に授業を展開していく。

なお、社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型による学習を適宜行う。(受講者数に応じて展開方法は変更することがある)

将来、NPO 法人を運営するのも良いと思う。ただ、運営の基本がわからなければ、独立は難

This course highlights the following ideas:

- ① What authority is needed to foster local human resources and how they can be nurtured through social education
- ② Regional network formation as a learning outcome
- ③ Formation of regional networks centered on the cooperation between the region and its schools
- ④ Different forms and management mechanisms in social education facilities
- ⑤ A system generating operational funds for NPOs

Since social education is a practical initiative, participatory learning will be encouraged through activities such as workshops and group discussions. (The deployment method may change depending on the number of participants.)

While it is commendable to desire to operate an NPO in the future, a grasp of the basics of management is pivotal to independence. Essentially, students must understand how government works. Learners seeking positions as civil servants or teachers instead of being employed in private organizations after graduation are encouraged to take this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

(本授業の目的と講義計画の説明等)

2 回：社会教育における地域人材

(1) 社会教育と地域の人材

3 回：社会教育における地域人材

(2) コーディネーターの役割

4 回：社会教育における地域の取り組み事例

(3) 実践事例から学ぶ

5 回：コミュニティにおける学習支援の事例

(1) 学習支援と学ぶことの意義

6 回：コミュニティにおける学習支援の事例

(2) 学習支援と事例

7 回：地域ネットワークの形成

(1) 連携・協働の歴史と考え方

8 回：地域ネットワークの形成

(2) 学校教育と社会教育の連携

9 回：地域ネットワークの形成

(3) 学校教育と社会教育の協働

10 回：社会教育施設の経営

- (1) 社会教育施設経営と法人化
11 回：社会教育施設の経営
(2) 指定管理者制度
12 回：社会教育施設の経営
(3) 社会教育事業と資金調達
13 回：社会教育と ICT
教育と AI、学校では評価されない能力
14 回：総括と最終課題の出題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の内容に関連した課題の提出が必須。1 時間から 4 時間程度の課題。

自主的に開講期間内に様々な社会教育施設、生涯学習施設を訪問し経営や運営の工夫を観察してこよう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題、リアクションペーパー、アンケート等：60%

最終レポート割合：40%

※全ての回で課題を出題する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会教育施設、生涯学習施設、民間教育機関にて指導経験・利用経験、または、ボランティア活動での指導、指導補助の経験を有する学生。または、同等の経験を有する学生。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具（必要ならば、タブレット、PC の持ち込みは可能）。

その他 / Others

- ※ 課題を毎回出題する。最低 12 回の課題の提出が必須。
- ※ 提出期限を過ぎた提出物については、正規の点数の 20% として採点する。
- ※ 全て対面で講義を実施する予定。
- ※ グループワーク等の座学以外の授業を行う。
- ※ 対面の為、講義全体のオンライン配信は原則的に行わない。
- ※ 14 回中、遅刻の無い出席が最低 12 回必要。就職活動、部活動等の活動も講義に参加していないので欠席として処理する。
- ※ 講義開始前までに着席していること。出席確認は講義開始とともに実施する。
- ※ 講義開始後 20 分を経過してからの講義の参

注意事項（検索結果画面）

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

法学 1

Law 1

日本国憲法

小野 義典 (ONO YOSHINORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA811
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 全て対面で行う予定です。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

(1) 授業の目的

この授業の目標は、日本国憲法の本質を理解することにあります。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定しています。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら授業を進め、これらの事柄を学生諸君が理解することにあります。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えています。

(2) 修得できる力

日本国憲法に関する体系的な知識の習得と理解（知識・理解）

(3) 授業の到達目標

学習・教育の到達目標は、まず、日本

(1) Purpose of class

The purpose of this lecture is to understand the essence of the Japanese Constitutional Law. Students will learn the necessary essence of the Constitution. Specifically, the aim is for the class to progress explaining the various

con

授業の内容 / Course Contents

この授業の概要は、第一に、憲法の史的展開（憲法史・立法過程を含む制定経緯など）、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にあります。

なお、授業に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛けます。

The class overview is, firstly, the historical development of the constitution (constitutional history, history of enactment, including the legislative process etc.), secondly, we examine Japanese Constitutional Law focusing on its three major principles: sovereignty of the people, pacifism, and respect for basic human rights, and thirdly, we will consider what influence the Japanese Constitutional Law has had on Japanese society in reality.

In addition, in the course of classes, tutors will keep language simple and maintain interactive dialogues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：法学1を学ぶーオリエンテーション（開講に当たっての説明、講義概観）とイントロダクション（講義導入）

受講する学生が、講義を受講する際の注意事項等や、憲法を学ぶ際の重点を理解することができる。

2回：憲法史

受講する学生が、日本国憲法が制定されるまでの経緯を理解し、また、憲法概念が生じた欧米の思想を説明することができる。

3回：日本国憲法上論・前文、憲法の分類

受講する学生が、上論、前文についての法規範性、裁判規範性などを理解し、大日本帝国憲法との比較を説明することができる。

受講する学生が、憲法の主な分類を理解することができる。

4回：天皇

受講する学生が、国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、天皇に関する憲法上の諸規定を説明することができる。

5回：平和主義

受講する学生が、「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論を説明することができる。

6回：基本的人権（1）人権総論・国民の権利義務

受講する学生が、人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を説明することができる。

7回：基本的人権（2）包括的人権・新しい人権・平等権

受講する学生が、幸福追求権と新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また平等権について、学説や判例を交えて理解することができる。

8回：基本的人権（3）自由権：精神的自由権

受講する学生が、人権の中でも、歴史のある自由権について、学説や判例を通じて理解することができる。

9回：基本的人権（4）自由権：経済的自由権・身体的自由権

受講する学生が、経済的自由権の「二重の基準論」や、公権力からの不当な身体的拘束を制限する身体的自由権について理解することができる。

10回：基本的人権（5）社会権・受益権・参政権

受講する学生が、生存権を中心とした社会権を、判例や学説を通じて理解し、また、受益権や参政権などを

理解することができる。

11 回：三権分立

受講する学生が、統治の機能である、司法（特に裁判所）・立法（特に国会）・行政（特に内閣）のしくみを理解することができる。

12 回：選挙・政党

受講する学生が、民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解することができる。

13 回：財政・地方自治

受講する学生が、国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解することができる。

14 回：憲法保障

受講する学生が、最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係を理解することができる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前の準備は、特にありません。法学の初学者であることを前提にして、授業を進めます。なお、授業を受講後は、よく復習をして下さい。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済（政治分野）」の知識が必要になることが多分にあります。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して下さい。

授業では、教員の作成したオリジナルのレジюмеを配布します。このレジюмеに従って、黑板への要点板書、及

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

筆記試験で行います。（定期試験 100%）成績評価は、期末の筆記試験の点数で評価を行います。点数配分は、期末の筆記試験 100 点を満点とするものです。期末の筆記試験の未受験者に、教員は、成績評価を行うことが出来ません（追試験を除く）。期末の筆記試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意して下さい。また、授業への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがあります（但し、あくまでも、評価は筆記試験で行います）。評価方法の詳細を、第 1 回目の授業の際に述べるので、必ず出席し

テキスト / Textbooks

野畑健太郎・東裕編 『憲法学事始〔第二版〕』 一学舎 2017 9784904027172 ○

参考文献 / Readings

※参考文献を、講義中に幾つか推薦します。

※当該科目関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましいです。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にありません。法学初学者を対象としていますので、前提となる知識等も、中等教育までで培ったもので差

支えありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません。但し、Canvas LMS からレジユメをダウンロード出来るようにしておいて下さい。

その他/ Others

<http://www.facebook.com/?ref=logo#!/verfassungsrecht>

注意事項（検索結果画面）

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

法学 2

Law 2

法と法学の本質に迫ります（国際法を含む）

小野 義典 (ONO YOSHINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA812

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 全て対面で行う予定です。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

(1) 授業の目的

この授業の目標は、法や法学の本質を理解することにあります。法や法学の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定しています。具体的には、法学の様々な分野の概説を行い、それぞれの法的諸問題、判例、学説などを交えながら授業を進め、これらの事柄を学生諸君が理解することにあります。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えています。

(2) 修得できる力

法や法学に関する体系的な知識の習得と理解（知識・理解）

(3) 授業の到達目標

学習・教

(1) Purpose of class

The aim of this class is to understand the essence of law and legislature. Students will learn the necessary elements for understanding the essence of law and legislature. Specifically, class will progress outlining the

various field

授業の内容 / Course Contents

法は、実は身近な存在です（授業の中で詳細に触れます）。さらに、法学は、刑法や民法、商法などの法律学を学習するための入門段階として必要不可欠な科目です。この授業は、このような法や法学が、実社会に対して、どのような影響を与えているのかを、受講する学生の皆さんが理解することにあります。

授業の進め方については、下記にある「授業計画」に沿って進むので、各自で参照して下さい。本授業に於いては、公法（憲法や刑法、行政法など）、私法（民法や商法など）、社会法（労働法や社会保障法など）といった国内法に加え、国際法

The law is in fact familiar to us (details explored in class). Furthermore, this subject is an essential part of the introductory stage for studying criminal, civil and commercial law. This class is for students to understand the kind of influence law and legislation has in the real world.

The class will progress in according to the following “Class Plan”, and so please refer to this: In this class, as well as examining domestic laws such as public law (constitutional, penal and administrative law etc.), we will deepen our understanding of the whole of law, also outlining private law and social law (Labor Law, Social Security Law etc.) in addition to international law.

In addition, in the course of classes, tutors will keep language simple and maintain interactive dialogues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：法学 2 を学ぶ—オリエンテーション（説明・概観）とイントロダクション（導入）

受講する学生は、授業を受講する際の注意事項等や、法学を学ぶ際の重点を理解することができる。

2 回：国家と法—国家とは何か・法とは何か

受講する学生は、国家とは何か、ということが理解することができる。

3 回：実定法—法の存在形式

受講する学生は、法の分類や、法の存在形式について説明することができる。

4 回：裁判制度—紛争と裁判

受講する学生は、民事裁判や刑事裁判に関して、その違いや内容について説明することができる。

5 回：夫婦・子どもと法—家族とは何か

受講する学生は、家族法について理解することができる。

6 回：自己決定権—基本的人権の保障

受講する学生は、自己決定について理解することができる。

7 回：生命倫理と法—医療技術の進展と社会

受講する学生は、現在進行形で発展を遂げる科学技術に呼応した法のありかたについて説明することができる。

8 回：刑法—犯罪と刑罰

受講する学生は、罪刑法定主義や、犯罪の構成要件該当性、違法性、責任などを説明することができる。

9 回：社会保障—法による保障制度

受講する学生は、福祉国家と社会保障について理解することができる。

10 回：労働と法・消費者と法—労働者、消費者の保護

受講する学生は、労働法や消費者保護について理解することができる。

11 回：行政法—身近な行政法と行政作用

受講する学生は、行政に関する法について理解することができる。

12 回：環境と法—環境問題と法規制

受講する学生は、環境法の歴史的背景や、現在の環境法制について説明することができる。

13 回：国際社会と法（1）－国際社会を規律する法：国際法

受講する学生は、国際社会がどのような社会かを理解することができる。

14 回：国際社会と法（2）－国際組織

受講する学生は、国際連合や欧州連合などの国際機関について理解することができる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前の準備は、特にありません。法学の初学者であることを前提にして、授業を進めます。なお、授業を受講後は、よく復習をして下さい。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済（政治分野）」の知識が必要になることが多分にあります。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して下さい。

授業に際しては、教員の作成したオリジナルのレジюмеを配布します。このレジюмеに従って、黒板への要点板

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

筆記試験で行います。（定期試験 100%） 成績評価は、期末の筆記試験の点数で評価を行います。点数配分は、期末の筆記試験 100 点を満点とするものです。期末の筆記試験の未受験者に、教員は、成績評価を行うことが出来ません（追試験を除く）。期末の筆記試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意して下さい。また、授業への参加態度、あるいは、レポートや課題をはじめとする提出物も成績評価に加味することがあります（但し、あくまでも、評価は筆記試験で行います）。評価方法の詳細を、第 1 回目の授業の際に述べるので、必ず出席し

テキスト / Textbooks

小川富之ほか編 『ロードマップ法学』 一学舎 2016 9784904027158 ○

参考文献 / Readings

※参考文献を、講義中に幾つか推薦します。

※当該科目関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましいです。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にありません。法学の初学者を対象としていますので、中等教育までで培った知識等で差支えありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません。但し、Canvas LMS からレジюмеをダウンロード出来るようにしておいて下さい。

その他 / Others

<http://www.facebook.com/?ref=logo#!/verfassungsrecht>

注意事項（検索結果画面）

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

政治学

Political Science

政治学の基礎を学ぶ

田頭 慎一郎 (DENDO SHINICHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA813
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

政治学の基礎を学び、それを考察することにより、現在の政治についての理解を深めることを目標とします。

The aim of this lecture is to gain a better understanding of current politics by learning and considering the basics of political science.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、現代政治を理解するために必要な政治学の基礎を概観します。その上で、政治学的概念の生きた事例として、日本の歴史や政治を手がかりとして扱うこともあります。

In this lecture, we will review the basics of political science to understand current politics. In addition, Japanese history and politics are good case studies, so I will refer to them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：政治とはどのようなものか
- 2 回：政治的態度と政治的無関心
- 3 回：政治権力

- 4回：議院内閣制と大統領制
 5回：各国の政治制度と選挙制度
 6回：政治過程
 7回：政治意識と投票行動
 8回：大衆社会とエリート
 9回：政治体制
 10回：民主主義の思想史
 11回：自由主義の思想史
 12回：近代日本の思想：福澤諭吉から考える
 13回：国際政治（1）：国際政治における理論
 14回：国際政治（2）：国際政治における制度

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義前に講義資料をLMS（学習管理システム）を通して配布するので目を通しておくこと。講義での板書等、メモしたことを復習しておくこと。また日々のニュースなどにもふれておくと理解がしやすくなります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

久米郁男ほか 政治学 補訂版 有斐閣 2011

増田正ほか 政治学入門 一藝社 2020

川崎修ほか 現代政治理論 新版 有斐閣 2012

適宜、授業内で紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

政治学の基本事項を学んでもいくことになるので、人名、著作名、キーワードなどを覚えてもらう必要があります。講義に出て、その後に復習できる意欲があると良いです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

LMSに資料をアップロードするので、これらを利用できる環境があること。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

経済学

Economics

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA814
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化する国際経済についてその現状と諸課題を読み解くことを目標とする。

The aim is to read and understand the current situation and issues in the globalizing international economy.

授業の内容 / Course Contents

経済がグローバル化している昨今、国際経済への理解を深めることは非常に重要になっている。そこで、本講義では、主に貿易と投資を中心に、国際経済学の基礎的理論、実態、制度的枠組み、諸課題について考察し、グローバル化する経済の理解を深めたい。

Now that the world is globalizing, it is very important to deepen our understanding of the international economy. Therefore, we will examine the basic theory of international economics, the actual situation, institutional frameworks, and various issues, focusing mainly on trade and investment, deepening our understanding of the globalizing economy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：経済のグローバル化とは？

- 3回：貿易の理論①
- 4回：貿易の理論②
- 5回：貿易政策
- 6回：貿易システム
- 7回：地域統合
- 8回：直接投資と多国籍企業①
- 9回：直接投資と多国籍企業②
- 10回：グローバル経済との進展と課題①
- 11回：グローバル経済との進展と課題②
- 12回：グローバル経済との進展と課題③
- 13回：グローバル経済との進展と課題④
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 複数回の小テスト・リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

毎回配布する資料に沿って講義を進める。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

経営学

Business Management

内海 雅路 (UTSUMI MASANORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA815
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

経営学の基礎を学習し、広くその全体像を理解して頂く。経営学は普段の生活にも関りが深く、より身近に感じられるような授業を目指す。

Learning fundamental of Business Management to understand big picture of it. Business Management is deeply related to everyday life, and we aim to provide students with a more familiar experience with business Management.

授業の内容 / Course Contents

本学経営学部のテキストを用い、経営学で学ぶべき基礎を網羅的に講義する。テキストに沿ったパワーポイント資料にて講義を進める。加えて、実際のケースを用いた解説や、実務家ゲストの招聘により企業活動を多面的に捉えられるような内容とする。履修者人数の多寡、ゲストスピーカーの日程調整等により、形態・スケジュールは柔軟に変更する。

Using textbooks from our university's College of Business Management, will provide comprehensive lectures on the basics that should be learned in business administration. Proceed with the lecture using PowerPoint materials that follow the text. In addition, the content will be designed to provide a multifaceted perspective on corporate

activities through explanations using actual cases and inviting guests from practical backgrounds. The format and schedule will be changed flexibly depending on the number of students taking the course, the schedule of guest speakers, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction
- 2回：企業経営の基礎
- 3回：企業経営の基礎
- 4回：企業経営の基礎
- 5回：企業の基本的な活動
- 6回：企業の基本的な活動
- 7回：企業の基本的な活動
- 8回：企業の基本的な活動
- 9回：企業の活動を方向づけ、成長させる諸活動
- 10回：企業の活動を方向づけ、成長させる諸活動
- 11回：企業の活動を方向づけ、成長させる諸活動
- 12回：企業とガバナンス
- 13回：企業とガバナンス
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	<input type="radio"/>	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを中心とした予習・復習をするのが望ましい。また、ケーススタディは最新のニュースなどのトピックスを用いることがあるため、日本経済新聞など、経営学に関わる情報収集を行うことにより、授業理解が深まる。特に別途必要な場合は授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内に指示したリアクションペーパー（毎回 / 全14回分）等の提出物:60%

最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

立教大学経営学部 『経営学入門』 新世社 2023 9784883843664 ○

参考文献 / Readings

社会学 1

Sociology 1

「社会」と「社会学」のイメージを捉える

入江 公康 (IRIE KIMIYASU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA816
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

「社会」を把握しうる包括的な見方を学びます。「社会学」というもののイメージを捉えます。

（なお、「社会学 1」「社会学 2」と蓄積的に講義を進めるため、双方の受講を望みます）

Acquiring a comprehensive view of society. Grasping the image of sociology.

(In addition, it is preferable that "Sociology 1" and "Sociology 2" are taken in order so that lectures can advance progressively.

授業の内容 / Course Contents

社会学の基本的な概念や思考方法を紹介しながら、現代社会を把握する視点を獲得します。「社会」は今あるものが昔からずっとそうだったわけではなく、そこには歴史が存在しています。そうした「社会」の歴史、すなわち変化や変動を踏まえ、現代社会を考察していきます。社会の「あたりまえ」の価値観を疑う視点を身につけます。

While introducing the basic concepts and thinking methods of sociology, we will gain perspectives to grasp contemporary society. "Society" has not always been as it is now, and a history exists. We will consider modern

society based on such changes in "society".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近代ということ、社会ということ——「社会学」のはじまり
- 3回：「古典」、そして社会学的方法とは？
- 4回：戦後の産業と社会 1 高／低成長
- 5回：戦後の産業と社会 2 脱産業化
- 6回：「社会」の戦後史
- 7回：「都市」——都市と都市的なもの
- 8回：「都市」——ニューアーバンソシオロジー
- 9回：カルチュラル・スタディーズ——現代社会のなかの「文化」
- 10回：カルチュラル・スタディーズ——「逸脱行動」のとらえかた
- 11回：ジェンダー——「らしさ」のつくられ方
- 12回：「家族」のつくられ方——フェミニズムの視点から
- 13回：「公害」の社会史 1
- 14回：「公害」の社会史 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講後、テキストおよびノートの読み返し、および講義中紹介された文献の探索を心掛けてほしいと思います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度・授業内リアクションペーパーなど:50%

適宜、講義時にリアクションペーパーを課し、出席票として扱うなどします。

テキスト / Textbooks

入江公康 『増補版 現代社会用語集』 新評論 2021 97847948118820030 ○

参考文献 / Readings

入江公康 『眠られぬ労働者たち』 青土社 2008 9784791763979

参考文献は講義のなかで適宜紹介します。上記は私の著書ですので参考文献として紹介しておきます。

その他 / Others

映像資料を適宜使用します。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

社会学 2

Sociology 2

現代社会を捉える眼をもつ／社会学的思考の源にせまる

入江 公康 (IRIE KIMIYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA817

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

現代社会を捉えるうえで、どのような社会学・社会思想・社会哲学的視角が必要なのかをつかみとってもらいます。

（なお、「社会学 1」を踏まえて講義を進めるので、本講義「社会学 2」は「社会学 1」をあらかじめ受講していることが望ましいです）

In order to grasp modern society, we will examine what kind of sociology, social thought, and social philosophical perspectives are needed.

(Note, it is preferred for students to take “Sociology 1” in advance of “Sociology 2, as the lectures progress built on the first course.)

授業の内容 / Course Contents

「現代社会」ということを多角的に捉えるべく、わりと新しい社会学、社会哲学の視点や方法論などを駆使しつつ講義を進めます。

その際、社会の中の政治、社会運動、社会のダイナミズム、社会の中の価値の多様性、社会構造とその変化などに留意しながら「現代社会」を読み解いていきます。

とくに、「主体」「力」「抵抗」「権力」「暴力」といった点に着目し、それらを社会・哲学的な抽象にまでさかのぼって把握することに努めます。

Lectures will progress, providing the opportunity to grasp “modern society” from the various angles necessary, using relatively new sociology and socio-philosophical methodologies. We will read and understand “contemporary society” in consideration of politics, social movements, dynamism, diversity of values, social structures, and their changes in society. In particular, we will focus on points such as “violence” and “power”, attempting to trace back to so-called abstract social philosophy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：グローバル／ポストグローバル社会 1
- 3回：グローバル／ポストグローバル社会 2
- 4回：消費の〈帝国〉——二分される社会
- 5回：「政治」の「始まり」と社会哲学——「政治」を社会のなかから／において考える 1
- 6回：「政治」の「始まり」と社会哲学——「政治」を社会のなかから／において考える 2
- 7回：「戦争」と社会——ビオスとゾーエー
- 8回：「暴力」と社会——「犠牲」ということ
- 9回：「生活史」から考える社会
- 10回：〈ファシズム〉と大衆社会、権威主義の体制
- 11回：優生思想——社会ダーヴィニズム、社会進化論
- 12回：ユートピアと社会——社会というものの構想、構想力
- 13回：ユートピアと社会——自由と平等
- 14回：アートと社会の関係について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講後、テキストおよびノートの読み返し、および講義中紹介した文献の探索などを心がけてほしいと思います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内リアクションペーパー:50%

授業内リアクションペーパーの提出をもって出欠とする。

テキスト / Textbooks

入江公康 『増補版 現代社会用語集』 新評論 2021 97847948118820030 ○

参考文献 / Readings

入江公康 『眠られぬ労働者たち』 青土社 2008 9784791763979

講義内で参考文献を適宜紹介します。上記は私の著書ですので参考文献に挙げておきます。

その他 / Others

視聴覚資料を多用します。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

心理学 1

Psychology 1

自己と他者を理解し、関わり方を考える

近藤 育代 (KONDO IKUYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA818

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

人間は社会的動物であると言われます。私たちは、身近なところでは家族、友人、そして学校や会社の人間関係など、様々な集団・組織において他者と接しています。では、他者とより良く関わるために、どのような視点で人を理解すればよいのでしょうか。この授業では、「発達」「社会」「臨床」の心理学的な知見を紹介し、人間を客観的に理解する能力を養うことを目標とします。

Humans are said to be social animals. We interact with others in various groups and organizations, such as family, friends, in school and in company relationships. And so, in order to get along with others better, which perspectives help us to understand

授業の内容 / Course Contents

心理学は、人の行動とその背後にある心理過程を理解することを目指す学問です。本講義では、その中でも、人の発達のプロセス（対人関係や人格形成、認知の発達など）、他者や集団との関わりに影響する要因、そして、対人援助のアプローチについて取り上げながら、他者をどのように理解し、関わるかについて、学んでいきます。

Psychology is the study that aims to understand human behavior and the psychological processes behind it. In these lectures, we will discuss human developmental processes (interpersonal relationships, personality formation, cognitive development etc.), factors affecting relationships with others and groups, as well as approaches to interpersonal support, and study how to understand and relate to others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：発達の規定因
- 3回：愛着による発達
- 4回：人格発達のプロセス
- 5回：認知発達のプロセス
- 6回：自己認識の形成
- 7回：他者認知の仕方
- 8回：対人関係のあり方とコミュニケーション
- 9回：集団における同調と服従
- 10回：リーダーシップのあり方
- 11回：精神分析による心理援助の考え方
- 12回：クライエント中心療法による心理援助の考え方
- 13回：行動療法による心理援助の考え方
- 14回：認知行動療法による心理援助の考え方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容について復習し、理解の不足している箇所がないか確認してください。疑問点があれば次回の授業時まで質問できるようにまとめておいてください。また、授業の中で紹介した理論や課題について、日常生活ではどのような場面に適用することができるか自分なりに考え、問題意識をもって授業に臨めるようにしてください。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% 授業後の小テスト(14回程度) :50%
 2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としません。

テキスト/ Textbooks

テキストの指定はありません。必要な資料については授業中にプリントを配布します。

参考文献 / Readings

- 鈴木直人(監修) 『心理学概論 第2版』 ナカニシヤ出版 2020 10 477950830413 9784779508301
 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) 『心理学 第5版補訂版』 東京大学出版会 2020 10
 413012117013 9784130121170
 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子(編) 『テキスト現代心理学入門』 川島書店 2009 10

4761008512 13 9784761008512

その他/ Others

授業はパワーポイントを使用した講義形式で行います。また、毎回授業時に小テストを実施し、次回授業開始時にフィードバックを行います。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

心理学 2

Psychology 2

白石 智子 (SHIRAISHI SATOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA819
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

「人となり」や「心理的問題の理解と支援」について、心理学の基礎的な知識を身につけ、それらを生活の中で実践的に活かすことを目標とする。

The aim is to acquire basic knowledge of psychology, such as personality and understanding and supporting psychological problems, so that these can be of practical use in daily life.

授業の内容 / Course Contents

「人となり」といえるパーソナリティを、心理学ではどのように捉えているのか、その諸理論について様々な心理学分野の知見に触れながら学ぶ。そして、パーソナリティの発達の諸相、パーソナリティの偏りについての理解を深める。続いて、身近な心理的問題について、その理解と支援を臨床心理学の知見から学ぶ。

Learn psychology's view of the personality, that is, "who and how a person is", through the various theories in a variety of fields of psychology. As well as deepening understanding of the various aspects of personality development, and personality bias. In addition, you'll study about familiar psychological problems, together with understanding and support from the findings of clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：何を学ぶか？
- 2回：パーソナリティの捉え方1：類型論
- 3回：パーソナリティの捉え方2：特性論
- 4回：状況の影響
- 5回：遺伝と環境
- 6回：パーソナリティの測定
- 7回：精神分析理論からみたパーソナリティ
- 8回：学習理論からみたパーソナリティ
- 9回：人間性心理学からみたパーソナリティ
- 10回：パーソナリティの発達
- 11回：パーソナリティの偏り
- 12回：メンタルヘルスの理解
- 13回：メンタルヘルスの支援
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

復習：毎回の授業で学んだ内容について振り返りを行い、自分の関心事や他の授業での学びとも関連づけながら理解を深めておくこと。

その他の授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

2回目以降の講義については、レジュメを配布する。また、必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中、適時紹介する。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義を中心とする。

注意事項 (検索結果画面)

2016年度～2018年度1年次入学者対象

地理学 1

Geography 1

日本列島の生き立ちと自然環境を学ぶ

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA820
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と、そこで生活する人々との関わりを理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the relationship between the natural environment of the Japanese Islands, including topography, hydrology, and climate, and the people who live there.

授業の内容 / Course Contents

日本列島を取り巻く自然環境と人間の相互作用について、地球規模から地域レベルまでの空間スケールを交えて講義する。パワーポイントや Google Earth などを用い、ビジュアルな授業を行う。また、理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う。参加者と資料から読み取れる地理学的な事象についての議論も取り入れる。

The lecture will focus on the interaction between humans and the natural environment surrounding the Japanese archipelago, using spatial scales from the global to the regional level. Visual lectures will be given using PowerPoint and Google Earth. Some work will be done using maps to deepen understanding. Discussions with participants on geographic events that can be read from the materials will be included.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：本授業のねらい
- 2回：地図の塗り絵をしてみよう
- 3回：地図の塗り絵から読み取る暮らしの歴史
- 4回：土地の成り立ちと人びとの暮らし
- 5回：ダイダラボッチの足跡
- 6回：東京激坂物語
- 7回：日本はどこでも火山と地震が多いのか
- 8回：7000 万年後にハワイは日本にぶつかる？
- 9回：2 万年前の東京湾は川だった
- 10回：ら：「雷と空風 義理人情」
- 11回：本日、関ヶ原付近の雪により新幹線が遅延しています
- 12回：106 時間 21 分遅れの急行列車←日本の最高記録だそうです
- 13回：なんで今日も西高東低なの？
- 14回：四季って本当に四季なんだろうか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:30% 課題提出:20%

中間テストは授業支援システムを用いて実施する。

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する。プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

色鉛筆 (10 色程度) や定規 (15cm 程度)

その他 / Others

作業に必要な器材 (色鉛筆や定規など) については、授業支援システム上で指示を出す。

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

地理学 2

Geography 2

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA821
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

地図に関する歴史を紹介し、地図を使った様々な分析手法について学ぶ。

Introduce the history of maps and learn about various analytical methods using maps.

授業の内容 / Course Contents

講義に加えて、地図を使った作業を行う。

In addition to the lecture, work with the map

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス：地理情報科学とはなにか
- 2 回：地理的世界の表現法：紙の地図とデジタルマップ
- 3 回：日本における地図の歴史：最古の日本地図『行基図』1
- 4 回：日本における地図の歴史：最古の日本地図『行基図』2
- 5 回：日本における地図の歴史：江戸時代の地図 1
- 6 回：日本における地図の歴史：江戸時代の地図 2
- 7 回：日本における地図の歴史：伊能忠敬の日本地図

- 8 回：地理的データの取得方法：地図上の計測
 9 回：見えないものを地図にする：コロプレスマップの作成
 10 回：小学校区は適切か：ボロノイ分割による空間分割
 11 回：お客は何人見込めるか：面積按分による人口推定
 12 回：クリニックの多い場所はどこか：格子法による点パターン分析
 13 回：小学校とクリニックに関係はあるのか：平均最短距離法による点パターン分析
 14 回：混ざっている？混ざっていない？：Join 統計量による空間的自己相関

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 提出物:30% 授業への貢献度:20%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する。プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆 (10 色程度) や定規 (15cm 程度)

その他 / Others

作業に必要な器材 (色鉛筆や定規など) については、授業支援システム上で指示を出す。

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

日本史 1

Japanese History 1

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA822
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

幕末・維新时期からアジア・太平洋戦争に至るまでの日本近代史の流れについて、政治外交史の視座と民衆史の視座から概観し、歴史学的手法による日本社会の展開と特質を理解する知識を身につける。とはいえ、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

We will equip you with the knowledge to understand the development and characteristics of Japanese society through historical methods, providing an overview of the modern history of Japan, from the end of the Edo period up until the Asia-Pacific War, from

授業の内容 / Course Contents

本講義では、幕末・維新时期から維新改革をめぐる近代国家形成の動き、帝国憲法発布から憲政の常道に至る帝国憲法体制の成立に至る動き、対外戦争による植民地帝国の形成など、様々な「成立と展開」の過程を追うことで、複合的な歴史の流れをおっていく。日本近代史像は天皇制国家または国民国家と捉えることが出来るが、本講義では近代史を「国民化」と「臣民化」のせめぎあいという枠組みで考える。授業の流れや学生の関心によって授業計画内容の変更もありうる。

.In this lecture, we will follow the flow of a complex history by following various "establishment and development" processes such as the movement of the formation of a modern state for restoration reform from the end of the Tokugawa shogunate and the Restoration period, the movement from the promulgation of the Imperial Constitution to the establishment of the imperial constitution system from the ordinary road of constitutional government, and the formation of a colonial empire by foreign war. The image of modern Japanese history can be regarded as a tenno-based state(Emperor system nation) or a nation-state, but in this lecture, modern history is considered in the framework of "nationalization" and "subjectification". There may be changes in the content of the class plan depending on the flow of the class and the interest of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス。「歴史の見方・考え方」について考える
- 2 回：近代社会の特徴について考える
- 3 回：日本近代史の史学史的振り返りと日本型国民国家について
- 4 回：幕末維新期の諸相
- 5 回：国境から近代を考える
- 6 回：大日本帝国憲法の成立
- 7 回：日清・日露戦争と日本社会の変容
- 8 回：近代社会と軍隊
- 9 回：大衆化の進展
- 10 回：植民地社会を考える
- 11 回：大正デモクラシーの崩壊-1930年代の日本社会
- 12 回：日本における福祉国家の形成
- 13 回：日中戦争からアジア・太平洋戦争に至る動き
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】 配信される資料をもとに内容確認などをする。

【復習】 授業受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% レポート:35% 到達確認テスト:35%

テキスト / Textbooks

特になし（授業時に文献リストを配布）

参考文献 / Readings

- 三谷太一郎 日本の近代とは何であったのか 岩波書店 2017年 9784004316503
 坂野潤治 日本の近代史 筑摩書房 2012年 97844800664283
 成田龍一 近現代日本史と歴史学 中央公論新社 2012年 9784121021502

牧原憲夫編 <私>にとっての国民国家論 日本経済評論社 2003年 4818815055

松沢裕作 日本近代社会史 有斐閣 2022年 9784641174757

山内昌之・細谷雄一編 日本近現代史講義 中央公論新社 2019年 9784121025548

大門正克・安田常雄・天野正子 近代社会を生きる 吉川弘文館 2003年 4642079238

該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修する／しないは別にして、日本史2の文献にも目を通してほしい。

その他/ Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目と思われているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢（自己内対話）もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

日本史 2

Japanese History 2

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA823
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

アジア・太平洋戦争以降の日本現代史につき、政治外交史の視座と社会史の視座を通して概観する。日本現代史の枠組みを押さえつつ、東アジア現代史の特徴も加味しながら、日本現代史の理解を深めていく。

日本史 1 と同じく、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

This course provides an overview of Japan's contemporary history since the Asia-Pacific War from the perspectives of political and diplomatic history and social history. While grasping the framework of Japan's contemporary history, we will deepen our unde

授業の内容 / Course Contents

本講義では、大日本帝国時代の日本の近現代史について、帝国の崩壊過程、すなわち、中国大陸への膨張政策を契機に列強との協調関係を崩壊させ、アジア太平洋戦争へと突入し、敗戦に至る 1930 年代から 40 年代の動向及び戦後社会の展開を確認していく。現代史を総力戦体制の遺産の問題として考える。また、現代史を「滅私奉公」と「個人の人権の尊重」のせめぎあいという枠組みで考えてみる。その他、授業では戦争遺跡や戦争観の問題も扱う。授業の流れや学生の関心によって授業計画の内容の変更もありうる。

In this lecture, regarding the modern history of Japan during the Empire of Japan, we will confirm the collapse process of the empire, that is, the expansion policy to mainland China, the cooperative relationship with the great powers, the entry into the Asia-Pacific War, and the trends in the 1930s to the 1940s and the development of postwar society. The society after the war that the present age history deals with is thought as a problem of the inheritance of the all-out war system. Moreover, the present age history is thought by the frame of "Compelling self-sacrifice" and "Respect for individual human rights". In addition, the problem of the war ruins and the war outlook is treated in the class. The content of the class plan may be changed depending on the flow of the class and the interest of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（講義内容、成績評価など）及び歴史の見方・考え方
- 2 回：近代史の枠組みの再確認及び満州事変以降の展開
- 3 回：戦時下の植民地社会
- 4 回：総力戦体制化の社会
- 5 回：占領と日本国憲法の制定
- 6 回：戦後東アジア社会の形成
- 7 回：戦前と戦後の日本社会—持続と変容—
- 8 回：冷戦社会論—アメリカ統治下の沖縄を事例に
- 9 回：高度成長の時代
- 10 回：「豊かな」暮らしと「公害」列島
- 11 回：戦跡と戦争観をめぐる問題
- 12 回：ジェンダーの現代史
- 13 回：地域の現代史
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】 配信される資料をもとに内容確認などをする。

【復習】 授業受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% レポート:35% 到達確認テスト:35%

問題行動が目立つと減点という措置もありうる。

テキスト / Textbooks

とくに指定せず、講義時に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

- 大門正克 戦争と戦後を生きる（全集日本の歴史15） 小学館 2009年 9784096221150
 五百旗頭薫ほか 戦後日本の歴史認識 東京大学出版会 2017年 9784130230728

福間良明 「戦跡」の戦後史 岩波書店 2015年 9784000291729

丸川哲史 冷戦文化論 論創社 2020年 9784846019389

山崎雅弘 歴史戦と思想戦 集英社 2019年 9784087210781

山之内靖 総力戦体制 筑摩書房 2015年 9784480096494

大門正克・安田常雄・天野正子 戦後経験を生きる 吉川弘文館 2003年 4642079246

該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修していなくても、日本史1の文献にも目を通してほしい。

その他/ Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目と思われているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢（自己内対話）もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

外国史 1

World History 1

三王 昌代 (SAN-O MASAYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA824
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

世界を広く眺め、諸地域は互いに関連しあいながらつくられてきていることに着目し、説明できる。
Broadening outlooks on the world, and recognizing that its regions are interconnected.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、世界の諸地域・諸民族の歴史や文化などについて、様々な繋がりが見られる具体的な事例を文字資料・写真・映像資料を交えながら紹介していきます。

In this lecture, we will introduce concrete examples showing these various connections between the histories and cultures of the regions and ethnic groups of the world, using textual sources, photographs and video materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：世界の見方考え方
- 2 回：世界遺産から見る歴史・地理
- 3 回：感染症の歴史とこれから
- 4 回：漢字圏の広がり
- 5 回：仏教の成立と伝播

- 6回：仏教の受容と展開
 7回：世界のおもな宗教
 8回：13世紀ころのアジアとヨーロッパのつながり
 9回：15世紀ころのアジアとヨーロッパのつながり
 10回：インド洋海域世界
 11回：東南アジアの多様性
 12回：世界遺産を見てみよう：アジア
 13回：世界の先住民族
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

[復習]

授業中に取ったメモを整理し、授業資料とともにファイリングしてみましょう。

配布した授業資料をもとに講義の振り返ってみてください。

授業中に紹介したものやご自身が興味や関心をもった内容などについて関連する本や論文を読んだり、インターネットなどを用いて調べたりして、さらに理解を深め、毎時後の提出物や期末レポートに生かしていただければと存じます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー等授業内に指示した提出物:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に参考文献を紹介いたします。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料などを適宜活用します。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

外国史 2

World History 2

イギリス帝国史

鹿野 美枝 (SHIKANO MIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA825

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

近代以降のイギリス帝国の歴史を通じて、イギリス近代史および帝国史の基礎知識を学ぶ。イギリス帝国を中心とした講義内容から、現代日本に生きるうえで歴史学的知見の意義を考える。

非常に多様な帝国を扱うが、詳細な個別の事例だけにとらわれず、細部とともに全体像も把握できるようにする。

Through the history of the British Empire since the modern era, we will study basic knowledge of modern British and imperial history. The content of this lecture is focused on the British Empire, with consideration of the significance of historical findings.

授業の内容 / Course Contents

主に近世以降のイギリス帝国について講義形式で学ぶ。イギリス帝国を知るために、必要に応じてイギリス本国の歴史や古代・中近世まで遡って解説することもある。イギリス近現代史を軸に、主要な植民地などを具体的に取り上げ、帝国の多様性や多層性などを学ぶ。また、政治・社会・経済など多角的にアプローチしてゆく。

Learning is mainly in the form of lectures on the British Empire since early modern period. In order to understand the British Empire, it may sometimes be necessary to return to the history of Britain in ancient times, as well as to the middle-ages. Centering on the modern and contemporary history of Britain, examining examples of major colonies, we will study the diverse and multifaceted nature of empire. In addition, we will approach politics, society and economics from multiple angles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：イギリス史を学ぶ
- 2 回：海外貿易の発展と帝国の起源
- 3 回：帝国の形成とイギリス近代国家の歩み
- 4 回：ブリテン諸島①スコットランド
- 5 回：ブリテン諸島②アイルランド
- 6 回：北米植民地①西インドと 13 植民地
- 7 回：北米植民地②カナダ
- 8 回：白人移住植民地
- 9 回：インド植民地
- 10 回：インド帝国とアジア
- 11 回：大西洋貿易と消費社会
- 12 回：アフリカ植民地
- 13 回：帝国の文化、芸術
- 14 回：コモンウェルス、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

世界史などの基礎知識については、授業内で適宜紹介する概説書や辞書・事典類等を用いて確認すること。授業内で、個別テーマに関する参考文献を紹介するので、関心のあるトピックについて各自深く学んでほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート（リアクションペーパー）:40%

2/3 以上の出席をしていない場合には単位修得不可。コメントシートは、自身の考えや意見を表現できているかを評価する。

テキスト / Textbooks

教科書は使用せず、毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考文献 / Readings

川北稔、木畑洋一編 『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスのあゆみ』 有斐閣 2000 4641121052

その他、参考文献は授業内で適宜紹介する。

その他 / Others

受講生の関心や授業の進行状況により授業計画は若干調整することもある。

レジュメないし PowerPoint スライド表示を用いた講義となるが、適宜板書を用いることもある。これらの資料の配布およびコメントシートの回収は CanvasLMS を使用する。

注意事項（検索結果画面）

2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

地誌学

Regional Geography

亀井 啓一郎 (KAMEI KEIICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA826
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

地理学的・地誌学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」や「地誌」の知識や教養を身に付けることを目的とする。また、地図を正しく読むことができるようになり、地域のことを正しく理解できるような素養を身に付ける。

The purpose of this course is to acquire knowledge and education of Geography and Regional Geography as general knowledge, and to learn how to think geographically. Students will also be able to understand maps accurately and have an accurate understandin

授業の内容 / Course Contents

この授業は日本の地誌をテーマとする。授業ではまず地理学と地誌学の関係性、地域の見方について講義する。続いて日本の領土・領海、さまざまな日本の地方区分、関東地方と首都圏、江戸・東京の行政区画の変遷、埼玉県の成立に関する講義を行う。

This course will focus on the Regional Geography of Japan. We will first give a lecture on the relationship between Geography and Regional Geography, and how to understand regions. Next, lectures will be given on

the territory of Japan, various regional divisions of Japan, the Kanto region and the Tokyo metropolitan area, and Edo / Tokyo.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス
- 2回：地理学と地誌学（地誌学的な見方とは）
- 3回：日本の位置と領域（領土・領海・領空）
- 4回：日本の地方区分（1）現在の地方区分
- 5回：日本の地方区分（2）昔の地方区分
- 6回：日本の地方区分（3）日本の東西南北
- 7回：日本の地方区分（4）道州制とは
- 8回：関東地方と関東平野（1）首都圏の広がり
- 9回：関東地方と関東平野（2）関東地方の発達と形成
- 10回：関東地方と関東平野（3）関東平野の自然環境
- 11回：江戸から東京へ（行政区画の変遷）
- 12回：首都・東京（首都としての東京都）
- 13回：埼玉県とさいたま市（埼玉県の成立とその中心地）
- 14回：授業のまとめ、補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に新聞やニュースなどにより、地域の出来事に関心を払って欲しい。知らない地名や聞いたことの無い地名があった場合には、地図帳で確認すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する

参考文献 / Readings

正井泰夫・片柳勉 東京圏の環境と生活 二宮書店 2000 9784817601766

正井泰夫 江戸・東京の地図と景観 古今書院 2000 9784772210515

菅野峰明・佐野充・谷内達 編 日本の地誌5（首都圏I） 朝倉書店 2009 9784254167658

その他 / Others

当然のことながら、授業中の私語や私事は禁止である。

授業の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。

地図帳を持参すること（二宮書店もしくは帝国書院が望ましい）。

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

生涯学習概論 1

Introduction to Lifelong Education 1

佐藤 晃子 (SATO AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA827

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

- ・生涯学習をめぐる理念や歴史、理論、制度などの基礎的な事項について理解する。
- ・受講生が、自らの日常生活に引きつけて生涯学習・社会教育について理解する。
- ・上記を踏まえ、社会教育・生涯学習の概念及び現代社会における社会教育・生涯学習の役割を考察する。
- ・ To discuss the principle, history, theory, and system related to lifelong learning and to be able to understand those basic matters.
- ・ Students will be able to associate and understand lifelong learning and social education into their daily lives.
- ・ Based

授業の内容 / Course Contents

生涯学習の理念や歴史、理論、制度など生涯学習をめぐる基礎的な事項を概括するとともに、人々の多様な教育・学習活動やそれを支える施設、団体などについて具体的な事例を用いて講義を行う。また、受講生自身が生涯学習・社会教育の事例について調査研究し、その発表を行う。

During the course, we will explain basic matters related to the principle, history, theory, and system of lifelong learning. Also, lectures will be given using specific examples of people's diverse educational and learning

activities, and the facilities and organizations that support them. In addition, the students will be required to research cases of lifelong learning and social education, and present their reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

※授業の目標、授業計画、授業の進め方、評価方法、課題等について説明を行う。履修希望者は、一回目の授業に必ず出席すること。

2回：生涯学習とは何か？

3回：生涯学習の理念と歴史

4回：生涯学習の学習論

5回：生涯学習と社会教育

6回：社会教育・生涯学習の施設と職員①

7回：社会教育・生涯学習の施設と職員②

8回：子ども・若者の社会教育・学校外教育

9回：社会教育・生涯学習と学校

10回：教育の保障・補償と社会教育・生涯学習

11回：高齢者と社会教育・生涯学習

12回：事例研究発表（グループ発表）①

13回：事例研究発表（グループ発表）②

14回：事例研究発表（グループ発表）③／春学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題（リアクションペーパー等）:30% グループ発表:30% 最終レポート:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

教科書は指定しないが、毎回資料を配布またはシステム上にアップする。

参考文献 / Readings

授業内に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・グループ発表があるため、異なる学年や学科の受講生とも協働して取り組むことができる／取り組もうとする姿勢が求められる。

・秋学期「生涯学習概論2」を受講予定の場合、本科目を受講していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

・毎回PCまたはタブレットを持参すること。（参考資料の確認、リアクションペーパーの提出などに使用する

る)

注意事項（検索結果画面）

2016年度～2018年度1年次入学者対象

生涯学習概論 2

Introduction to Lifelong Education 2

佐藤 晃子 (SATO AKIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA828
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016 年度～2018 年度 1 年次入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

- ・各ライフステージや社会的に置かれている立場によって生じる学習課題について、その社会的背景も含め理解する。
- ・人々の多様な教育・学習活動の諸相について、多角的に理解する。
- ・上記を踏まえた上で、現代社会における生涯学習・社会教育の意義や課題、可能性について考察する。
- ・ To understand the learning needs, including their social background, that arise from each life stage and social roles.
- ・ To understand various aspects of people's diverse educational and learning activities from various angles.
- ・ Based on the above, we wil

授業の内容 / Course Contents

生涯学習概論 1 での基礎的な学習を踏まえ、生涯学習について実践的な観点から検討を行う。現代においては、各ライフステージや社会的に置かれている立場によって、様々な学習課題が生じる。その社会的背景について解説した上で、課題解決を目指した教育・学習活動の実際について、具体的な事例を用いて講義を行う。本講義では主に、「子ども」「若者」「子育て」に関する課題を取り扱う。また、受講生自身が関心ある社会的課

題について、生涯学習・社会教育の視点から調査研究を行い、中間発表及びレポート作成を行う。

Based on the basic learning in Introduction to Lifelong Education I, we will examine lifelong learning from a practical point of view. In modern society, various learning needs arise depending on each life stage and social role. Lectures will be given using specific examples of actual educational/learning activities aimed at problem solving, and in addition, explanation of its social background will be given. This course mainly deals with issues related to "children", "youth", and "child-rearing". Also, students will be required to conduct research on social issues that the students themselves are interested in from the perspective of lifelong learning and social education, and make a mid-term presentation and report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

※授業の目標、授業計画、授業の進め方、評価方法、課題等について説明を行う。履修希望者は、一回目の授業に必ず出席すること。

2回：現代的課題と社会教育・生涯学習

3回：子どもの「貧困」と社会教育・生涯学習の課題・実践

4回：現代社会の子育ての困難と社会教育・生涯学習の課題

5回：子育ての共同／子育てに関わる社会教育・生涯学習の実践

6回：子ども・若者の変容と社会教育・生涯学習の課題

7回：子ども・若者の変容と社会教育・生涯学習の実践

8回：子どもの今をめぐる議論：グループでの文献検討①

9回：若者の今をめぐる議論：グループでの文献検討②

10回：子育ての今をめぐる議論：グループでの文献検討③

11回：研究中間発表①

12回：研究中間発表②

13回：研究中間発表③

14回：個人研究レポート（最終レポート）の共有／秋学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題（リアクションペーパー等）:30% 中間発表:30% 最終レポート:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位習得不可。

テキスト / Textbooks

教科書は指定しないが、毎回資料を配布またはシステム上にアップする。

参考文献 / Readings

授業内に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

・個人研究の実施が授業の中心を占めるので、研究テーマの設定からフィールドワークの実施も含めた研究の実施について、興味関心を持って、主体的に進められることが求められる。

・本科目を受講する前に、「生涯学習概論 1」を受講していることが望ましい。

「生涯学習概論 1」を受講していなくても本科目を受講することは可能であるが、1 で学習する基礎的事項を理解しているものとして授業を進める。したがって、1 を未受講の場合には、生涯学習や社会教育に関する教科書的な文献を最低 1~2 冊は読んだ上で受講してほしい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

・毎回 PC またはタブレットを持参すること。(参考資料の確認、リアクションペーパーの提出などに使用する)

注意事項 (検索結果画面)

2016 年度~2018 年度 1 年次入学者対象

自然地理学

Physical Geography

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA837
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地球環境と人間活動を理解するために、自然地理学の重要な思考法と基礎知識を身につけることを目標とする。

The goal of this course is to provide students with important thinking and basic knowledge of physical geography in order to understand the global environment and human activities.

授業の内容 / Course Contents

地球環境と人間活動の相互作用に関する話題を紹介する授業を通して自然地理学の基礎的な知識を身につけると共に、我々が生活している地球について考える場とする。とくに身近な自然現象や歴史的な事柄を自然地理学に絡め、環境と人間活動に関する新しい視点を持てるようにする。

This course provides an opportunity to acquire basic knowledge of physical geography and to think about the Earth on which we live by introducing topics related to the interaction between the global environment and human activities. This course is designed to provide students with a new perspective on the environment and human activities by relating familiar natural phenomena and historical events to physical geography.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：自然地理学の考え方
- 2回：クラシックホテルと火山
- 3回：日本は噴火で滅んだことがある
- 4回：池袋と志木の間で富士山に登れる
- 5回：コロッセオはコンクリートで作られている
- 6回：京都には洪水になると浮かぶ橋がある
- 7回：イスラエルにもスキー場がある
- 8回：アブラハムはなぜハランを通過してカナンへ行ったのか
- 9回：エルサレムには2700年前に作られた水道トンネルがある
- 10回：オレンジとナツメヤシとチーズバーガー
- 11回：地球温暖化は人間活動が原因か？
- 12回：7万4千年前、人類は滅びる寸前だった
- 13回：ハンニバルの象つかい
- 14回：赤ずきんちゃんと雪女

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 課題の提出状況:40%

テキスト/Textbooks

適宜プリントを配付する。プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする。

参考文献 / Readings

作業に必要な器材(色鉛筆や定規など)については、授業支援システム上で指示を出す。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆(10色程度)や定規(15cm程度)

地理学 1

Geography 1

日本列島の生き立ちと自然環境を学ぶ

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA840
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRC1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

日本列島における地形・水文・気候といった自然環境と、そこで生活する人々との関わりを理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand the relationship between the natural environment of the Japanese Islands, including topography, hydrology, and climate, and the people who live there.

授業の内容 / Course Contents

日本列島を取り巻く自然環境と人間の相互作用について、地球規模から地域レベルまでの空間スケールを交えて講義する。パワーポイントや Google Earth などを用い、ビジュアルな授業を行う。また、理解を深めるために一部地図を用いた作業も行う。参加者と資料から読み取れる地理学的な事象についての議論も取り入れる。

The lecture will focus on the interaction between humans and the natural environment surrounding the Japanese archipelago, using spatial scales from the global to the regional level. Visual lectures will be given using PowerPoint and Google Earth. Some work will be done using maps to deepen understanding. Discussions with participants on geographic events that can be read from the materials will be included.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：本授業のねらい
- 2回：地図の塗り絵をしてみよう
- 3回：地図の塗り絵から読み取る暮らしの歴史
- 4回：土地の成り立ちと人びとの暮らし
- 5回：ダイダラボッチの足跡
- 6回：東京激坂物語
- 7回：日本はどこでも火山と地震が多いのか
- 8回：7000 万年後にハワイは日本にぶつかる？
- 9回：2 万年前の東京湾は川だった
- 10回：ら：「雷と空風 義理人情」
- 11回：本日、関ヶ原付近の雪により新幹線が遅延しています
- 12回：106 時間 21 分遅れの急行列車←日本の最高記録だそうです
- 13回：なんで今日も西高東低なの？
- 14回：四季って本当に四季なんだろうか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 中間テスト:30% 課題提出:20%

中間テストは授業支援システムを用いて実施する。

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する。プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

色鉛筆 (10 色程度) や定規 (15cm 程度)

その他 / Others

作業に必要な器材 (色鉛筆や定規など) については、授業支援システム上で指示を出す。

注意事項 (検索結果画面)

2019 年度以降入学者対象

地理学 2

Geography 2

中山 大地 (NAKAYAMA DAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA841
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

地図に関する歴史を紹介し、地図を使った様々な分析手法について学ぶ。

Introduce the history of maps and learn about various analytical methods using maps.

授業の内容 / Course Contents

講義に加えて、地図を使った作業を行う。

In addition to the lecture, work with the map

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス：地理情報科学とはなにか
- 2 回：地理的世界の表現法：紙の地図とデジタルマップ
- 3 回：日本における地図の歴史：最古の日本地図『行基図』1
- 4 回：日本における地図の歴史：最古の日本地図『行基図』2
- 5 回：日本における地図の歴史：江戸時代の地図 1
- 6 回：日本における地図の歴史：江戸時代の地図 2
- 7 回：日本における地図の歴史：伊能忠敬の日本地図

- 8回：地理的データの取得方法：地図上の計測
 9回：見えないものを地図にする：コロプレスマップの作成
 10回：小学校区は適切か：ボロノイ分割による空間分割
 11回：お客は何人見込めるか：面積按分による人口推定
 12回：クリニックの多い場所はどこか：格子法による点パターン分析
 13回：小学校とクリニックに関係はあるのか：平均最短距離法による点パターン分析
 14回：混ざっている？混ざっていない？：Join 統計量による空間的自己相関

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示するキーワードについて、事前に調べてくること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 提出物:30% 授業への貢献度:20%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配付する。プリントは授業支援システムからダウンロードできるようにする。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

色鉛筆 (10色程度) や定規 (15cm 程度)

その他 / Others

作業に必要な器材 (色鉛筆や定規など) については、授業支援システム上で指示を出す。

注意事項 (検索結果画面)

2019年度以降入学者対象

日本史 1

Japanese History 1

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA842
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

幕末・維新时期からアジア・太平洋戦争に至るまでの日本近代史の流れについて、政治外交史の視座と民衆史の視座から概観し、歴史学的手法による日本社会の展開と特質を理解する知識を身につける。とはいえ、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

We will equip you with the knowledge to understand the development and characteristics of Japanese society through historical methods, providing an overview of the modern history of Japan, from the end of the Edo period up until the Asia-Pacific War, from

授業の内容 / Course Contents

本講義では、幕末・維新时期から維新改革をめぐる近代国家形成の動き、帝国憲法発布から憲政の常道に至る帝国憲法体制の成立に至る動き、対外戦争による植民地帝国の形成など、様々な「成立と展開」の過程を追うことで、複合的な歴史の流れをおっていく。日本近代史像は天皇制国家または国民国家と捉えることが出来るが、本講義では近代史を「国民化」と「臣民化」のせめぎあいという枠組みで考える。授業の流れや学生の関心によって授業計画内容の変更もありうる。

.In this lecture, we will follow the flow of a complex history by following various "establishment and development" processes such as the movement of the formation of a modern state for restoration reform from the end of the Tokugawa shogunate and the Restoration period, the movement from the promulgation of the Imperial Constitution to the establishment of the imperial constitution system from the ordinary road of constitutional government, and the formation of a colonial empire by foreign war. The image of modern Japanese history can be regarded as a tenno-based state(Emperor system nation) or a nation-state, but in this lecture, modern history is considered in the framework of "nationalization" and "subjectification". There may be changes in the content of the class plan depending on the flow of the class and the interest of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス。「歴史の見方・考え方」について考える
- 2 回：近代社会の特徴について考える
- 3 回：日本近代史の史学史的振り返りと日本型国民国家について
- 4 回：幕末維新期の諸相
- 5 回：国境から近代を考える
- 6 回：大日本帝国憲法の成立
- 7 回：日清・日露戦争と日本社会の変容
- 8 回：近代社会と軍隊
- 9 回：大衆化の進展
- 10 回：植民地社会を考える
- 11 回：大正デモクラシーの崩壊-1930年代の日本社会
- 12 回：日本における福祉国家の形成
- 13 回：日中戦争からアジア・太平洋戦争に至る動き
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】 配信される資料をもとに内容確認などをする。

【復習】 授業受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% レポート:35% 到達確認テスト:35%

テキスト / Textbooks

特になし（授業時に文献リストを配布）

参考文献 / Readings

三谷太一郎 日本の近代とは何であったのか 岩波書店 2017年 9784004316503

坂野潤治 日本の近代史 筑摩書房 2012年 97844800664283

成田龍一 近現代日本史と歴史学 中央公論新社 2012年 9784121021502

牧原憲夫編 <私>にとっての国民国家論 日本経済評論社 2003年 4818815055

松沢裕作 日本近代社会史 有斐閣 2022年 9784641174757

山内昌之・細谷雄一編 日本近現代史講義 中央公論新社 2019年 9784121025548

大門正克・安田常雄・天野正子 近代社会を生きる 吉川弘文館 2003年 4642079238

該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修する／しないは別にして、日本史2の文献にも目を通してほしい。

その他/ Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目と思われているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢（自己内対話）もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者対象

日本史 2

Japanese History 2

高江洲 昌哉 (TAKAESU MASAYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA843
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRC1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

アジア・太平洋戦争以降の日本現代史につき、政治外交史の視座と社会史の視座を通して概観する。日本現代史の枠組みを押さえつつ、東アジア現代史の特徴も加味しながら、日本現代史の理解を深めていく。

日本史 1 と同じく、単なる事項の時系列的暗記ではなく、「歴史と対話をしながら現状認識を豊かにする」という歴史的思考方法を身につけるようにする。

This course provides an overview of Japan's contemporary history since the Asia-Pacific War from the perspectives of political and diplomatic history and social history. While grasping the framework of Japan's contemporary history, we will deepen our unde

授業の内容 / Course Contents

本講義では、大日本帝国時代の日本の近現代史について、帝国の崩壊過程、すなわち、中国大陸への膨張政策を契機に列強との協調関係を崩壊させ、アジア太平洋戦争へと突入し、敗戦に至る 1930 年代から 40 年代の動向及び戦後社会の展開を確認していく。現代史を総力戦体制の遺産の問題として考える。また、現代史を「滅私奉公」と「個人の人権の尊重」のせめぎあいという枠組みで考えてみる。その他、授業では戦争遺跡や戦争観の問題も扱う。授業の流れや学生の関心によって授業計画の内容の変更もありうる。

In this lecture, regarding the modern history of Japan during the Empire of Japan, we will confirm the collapse process of the empire, that is, the expansion policy to mainland China, the cooperative relationship with the great powers, the entry into the Asia-Pacific War, and the trends in the 1930s to the 1940s and the development of postwar society. The society after the war that the present age history deals with is thought as a problem of the inheritance of the all-out war system. Moreover, the present age history is thought by the frame of "Compelling self-sacrifice" and "Respect for individual human rights". In addition, the problem of the war ruins and the war outlook is treated in the class. The content of the class plan may be changed depending on the flow of the class and the interest of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（講義内容、成績評価など）及び歴史の見方・考え方
- 2 回：近代史の枠組みの再確認及び満州事変以降の展開
- 3 回：戦時下の植民地社会
- 4 回：総力戦体制化の社会
- 5 回：占領と日本国憲法の制定
- 6 回：戦後東アジア社会の形成
- 7 回：戦前と戦後の日本社会—持続と変容—
- 8 回：冷戦社会論—アメリカ統治下の沖縄を事例に
- 9 回：高度成長の時代
- 10 回：「豊かな」暮らしと「公害」列島
- 11 回：戦跡と戦争観をめぐる問題
- 12 回：ジェンダーの現代史
- 13 回：地域の現代史
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】 配信される資料をもとに内容確認などをする。

【復習】 授業受けて興味を持った点/知らなかった点を中心に調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示した課題:30% レポート:35% 到達確認テスト:35%

問題行動が目立つと減点という措置もありうる。

テキスト / Textbooks

とくに指定せず、講義時に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

- 大門正克 戦争と戦後を生きる（全集日本の歴史15） 小学館 2009年 9784096221150
 五百旗頭薫ほか 戦後日本の歴史認識 東京大学出版会 2017年 9784130230728

福間良明 「戦跡」の戦後史 岩波書店 2015年 9784000291729

丸川哲史 冷戦文化論 論創社 2020年 9784846019389

山崎雅弘 歴史戦と思想戦 集英社 2019年 9784087210781

山之内靖 総力戦体制 筑摩書房 2015年 9784480096494

大門正克・安田常雄・天野正子 戦後経験を生きる 吉川弘文館 2003年 4642079246

該当する時期を扱った歴史書を含め、歴史学を考える文献も挙げているので、履修していなくても、日本史1の文献にも目を通してほしい。

その他/ Others

板書を中心にした授業である。資料の配布や課題のやり取りは Canvas LMS を使用する予定である。歴史は暗記科目と思われているが、歴史を通して「正解のない問いを考える」姿勢を身に着けることを考えている。よって、積極的な発言も歓迎だが、授業を通して、真摯に内省する姿勢（自己内対話）もアクティブラーニングの一種と考えているので、こうした姿勢を養う気持ちをもって授業に臨んでほしい。

課題回答への講評をおこなう。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者対象

外国史 1

World History 1

三王 昌代 (SAN-O MASAYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA844
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

世界を広く眺め、諸地域は互いに関連しあいながらつくられてきていることに着目し、説明できる。

Broadening outlooks on the world, and recognizing that its regions are interconnected.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、世界の諸地域・諸民族の歴史や文化などについて、様々な繋がりが見られる具体的な事例を文字資料・写真・映像資料を交えながら紹介していきます。

In this lecture, we will introduce concrete examples showing these various connections between the histories and cultures of the regions and ethnic groups of the world, using textual sources, photographs and video materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：世界の見方考え方
- 2 回：世界遺産から見る歴史・地理
- 3 回：感染症の歴史とこれから
- 4 回：漢字圏の広がり
- 5 回：仏教の成立と伝播

- 6回：仏教の受容と展開
 7回：世界のおもな宗教
 8回：13世紀ころのアジアとヨーロッパのつながり
 9回：15世紀ころのアジアとヨーロッパのつながり
 10回：インド洋海域世界
 11回：東南アジアの多様性
 12回：世界遺産を見てみよう：アジア
 13回：世界の先住民族
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

[復習]

授業中に取ったメモを整理し、授業資料とともにファイリングしてみましょう。

配布した授業資料をもとに講義の振り返ってみてください。

授業中に紹介したものやご自身が興味や関心をもった内容などについて関連する本や論文を読んだり、インターネットなどを用いて調べたりして、さらに理解を深め、毎時後の提出物や期末レポートに生かしていただければと存じます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー等授業内に指示した提出物:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に参考文献を紹介いたします。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料などを適宜活用します。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者対象

外国史 2

World History 2

イギリス帝国史

鹿野 美枝 (SHIKANO MIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA845

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

近代以降のイギリス帝国の歴史を通じて、イギリス近代史および帝国史の基礎知識を学ぶ。イギリス帝国を中心とした講義内容から、現代日本に生きるうえで歴史学的知見の意義を考える。

非常に多様な帝国を扱うが、詳細な個別の事例だけにとらわれず、細部とともに全体像も把握できるようにする。

Through the history of the British Empire since the modern era, we will study basic knowledge of modern British and imperial history. The content of this lecture is focused on the British Empire, with consideration of the significance of historical findings.

授業の内容 / Course Contents

主に近世以降のイギリス帝国について講義形式で学ぶ。イギリス帝国を知るために、必要に応じてイギリス本国の歴史や古代・中近世まで遡って解説することもある。イギリス近現代史を軸に、主要な植民地などを具体的に取り上げ、帝国の多様性や多層性などを学ぶ。また、政治・社会・経済など多角的にアプローチしてゆく。

Learning is mainly in the form of lectures on the British Empire since early modern period. In order to understand the British Empire, it may sometimes be necessary to return to the history of Britain in ancient times, as well as to the middle-ages. Centering on the modern and contemporary history of Britain, examining examples of major colonies, we will study the diverse and multifaceted nature of empire. In addition, we will approach politics, society and economics from multiple angles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：イギリス史を学ぶ
- 2 回：海外貿易の発展と帝国の起源
- 3 回：帝国の形成とイギリス近代国家の歩み
- 4 回：ブリテン諸島①スコットランド
- 5 回：ブリテン諸島②アイルランド
- 6 回：北米植民地①西インドと 13 植民地
- 7 回：北米植民地②カナダ
- 8 回：白人移住植民地
- 9 回：インド植民地
- 10 回：インド帝国とアジア
- 11 回：大西洋貿易と消費社会
- 12 回：アフリカ植民地
- 13 回：帝国の文化、芸術
- 14 回：コモンウェルス、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

世界史などの基礎知識については、授業内で適宜紹介する概説書や辞書・事典類等を用いて確認すること。授業内で、個別テーマに関する参考文献を紹介するので、関心のあるトピックについて各自深く学んでほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート（リアクションペーパー）:40%

2/3 以上の出席をしていない場合には単位修得不可。コメントシートは、自身の考えや意見を表現できているかを評価する。

テキスト / Textbooks

教科書は使用せず、毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考文献 / Readings

川北稔、木畑洋一編 『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスのあゆみ』 有斐閣 2000 4641121052

その他、参考文献は授業内で適宜紹介する。

その他 / Others

受講生の関心や授業の進行状況により授業計画は若干調整することもある。

レジュメないし PowerPoint スライド表示を用いた講義となるが、適宜板書を用いることもある。これらの資料の配布およびコメントシートの回収は CanvasLMS を使用する。

注意事項（検索結果画面）

2019 年度以降入学者対象

地誌学

Regional Geography

亀井 啓一郎 (KAMEI KEIICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA846
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

地理学的・地誌学的な見方・考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」や「地誌」の知識や教養を身に付けることを目的とする。また、地図を正しく読むことができるようになり、地域のことを正しく理解できるような素養を身に付ける。

The purpose of this course is to acquire knowledge and education of Geography and Regional Geography as general knowledge, and to learn how to think geographically. Students will also be able to understand maps accurately and have an accurate understandin

授業の内容 / Course Contents

この授業は日本の地誌をテーマとする。授業ではまず地理学と地誌学の関係性、地域の見方について講義する。続いて日本の領土・領海、さまざまな日本の地方区分、関東地方と首都圏、江戸・東京の行政区画の変遷、埼玉県の成立に関する講義を行う。

This course will focus on the Regional Geography of Japan. We will first give a lecture on the relationship between Geography and Regional Geography, and how to understand regions. Next, lectures will be given on

the territory of Japan, various regional divisions of Japan, the Kanto region and the Tokyo metropolitan area, and Edo / Tokyo.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス
- 2回：地理学と地誌学（地誌学的な見方とは）
- 3回：日本の位置と領域（領土・領海・領空）
- 4回：日本の地方区分（1）現在の地方区分
- 5回：日本の地方区分（2）昔の地方区分
- 6回：日本の地方区分（3）日本の東西南北
- 7回：日本の地方区分（4）道州制とは
- 8回：関東地方と関東平野（1）首都圏の広がり
- 9回：関東地方と関東平野（2）関東地方の発達と形成
- 10回：関東地方と関東平野（3）関東平野の自然環境
- 11回：江戸から東京へ（行政区画の変遷）
- 12回：首都・東京（首都としての東京都）
- 13回：埼玉県とさいたま市（埼玉県の成立とその中心地）
- 14回：授業のまとめ、補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に新聞やニュースなどにより、地域の出来事に関心を払って欲しい。知らない地名や聞いたことの無い地名があった場合には、地図帳で確認すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する

参考文献 / Readings

正井泰夫・片柳勉 東京圏の環境と生活 二宮書店 2000 9784817601766

正井泰夫 江戸・東京の地図と景観 古今書院 2000 9784772210515

菅野峰明・佐野充・谷内達 編 日本の地誌5（首都圏I） 朝倉書店 2009 9784254167658

その他 / Others

当然のことながら、授業中の私語や私事は禁止である。

授業の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。

地図帳を持参すること（二宮書店もしくは帝国書院が望ましい）。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者対象

哲学

Philosophy

観光倫理学入門

加藤 喜市 (KATO KIICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA847
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRC1200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

（1）哲学史・倫理思想史の上のさまざまな学説・考え方に触れることで、「哲学」・「倫理学」という学問に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。（2）課題に取り組むことを通して、哲学的／倫理的な思考の方法と学術的な文章の書き方を身につける。

(1) Touching on the various theories and ideas in the history of philosophy and ethical thought, students will deepen their basic knowledge in the disciplines of "philosophy" and "ethics".

(2) Students will acquire philosophical / ethical thinking methods

授業の内容 / Course Contents

今年度は「哲学」の中の「倫理学」、とりわけ「観光倫理学」に焦点を当てて講義を行ないます。

まず前半は、哲学・倫理学という学問にはじめて触れる学生を主な対象として、古代から現代に至る哲学史・倫理思想史における主要なテキストを紹介していきます。ソクラテス、カント、ニーチェなど、おそらくみなさんも聞いたことのある有名な哲学者たちが登場します。

後半のテーマは「観光倫理学」です。観光倫理学の代表的な理論をいくつか紹介した後、「生命医療倫理」「環

境倫理」「ビジネス倫理」などの応用倫理学について、観光という視点から

This year, we will conduct lectures focusing on "Ethics" within the field of "Philosophy," particularly emphasizing "Tourism Ethics."

In the first half, the primary audience will be students encountering the study of philosophy and ethics for the first time. We will introduce significant texts from the history of philosophy and ethical thought, spanning from ancient times to the present. Famous philosophers such as Socrates, Kant, Nietzsche, and others, likely familiar to many of you, will be featured.

The second half will delve into the theme of "Tourism Ethics." After introducing several prominent theories in tourism ethics, we will examine applied ethics, such as "Biomedical ethics," "Environmental Ethics," and "Business Ethics," from the perspective of tourism.

Due to the lecturer's interests, references to subcultures such as anime, manga, games, music, and more will be frequent in the lectures. The aim is to spark an interest in philosophy and ethics through these cultural references.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：哲学・倫理学への導入
- 2 回：倫理思想史 (1)：古代ギリシア哲学 (プラトン・アリストテレス)
- 3 回：倫理思想史 (2)：ユダヤ・キリスト教思想 (旧／新約聖書・トマス)
- 4 回：倫理思想史 (3)：義務論 (カント)
- 5 回：倫理思想史 (4)：功利主義 (ベンサム・ミル・シンガー)
- 6 回：倫理思想史 (5)：徳倫理学 (マッキンタイア・ハーストハウス)
- 7 回：倫理思想史 (6)：実存主義 (ニーチェ・ハイデガー・レヴィナス)
- 8 回：倫理思想史 (7)：日本哲学 (三木清・和辻哲郎)
- 9 回：観光倫理学 (1)：観光倫理学の理論 1 (フェンネルとマッカーネル)
- 10 回：観光倫理学 (2)：観光倫理学の理論 2 (徳倫理的／正義論的アプローチ)
- 11 回：観光倫理学 (3)：観光と生命・医療倫理 (医療ツーリズム)
- 12 回：観光倫理学 (4)：観光と環境倫理 (エコツーリズム)
- 13 回：観光倫理学 (5)：観光とビジネス倫理 (観光産業の倫理的課題)
- 14 回：全体のまとめと授業内試験

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

基本的には予習よりも復習に重点を置かれると良いでしょう。プリントの見直し、参考文献を調べるなど、各自で復習してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎授業へのコメント (リアクションペーパー) :20% 授業内の課題:20%

出席およびコメントの提出が10回に満たない方には、単位を差し上げることができません。

テキスト/ Textbooks

テキスト（教科書）は指定しません。毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献 / Readings

池松辰男 『西洋倫理思想の考え方』 山川出版 2022 9784634640979

神崎宣次・佐藤静・寺本剛編 3ステップシリーズ『倫理学』 昭和堂 2023 9784812222188

Fennell, D. Tourism Ethics (Aspects of Tourism) second edition Channel View Books 2017
9781845416355

その他/ Others

- ・静かに集中して講義を聞くことができない方は、受講をご遠慮ください（私語厳禁）。
- ・学生の希望を取り入れて、講義内容を多少変更する可能性があります。

注意事項（検索結果画面）

2019年度以降入学者対象

観光ビジネス概論

Introduction to Tourism Business

観光ビジネス各業界の OB・OG から「観光の現場」を学ぶ

関口 伸一 (SEKIGUCHI SHINICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA901
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	立教観光クラブ寄付講座

授業の目標 / Course Objectives

日本の観光産業の現状や課題と今後の方向性について、現場で活躍するゲストスピーカーの方々から学ぶことを通して、観光産業の職業の多様性と、そこで働くことの意義について理解する。

By studying the current situation and issues of Japan's tourism industries, and future direction from guest speakers active in the field, we will understand the variety of occupations within tourism, and the significance of working there.

授業の内容 / Course Contents

授業は講義とディスカッションを組み合わせで行う。講義は毎時間観光関連産業で活躍する校友（立教観光クラブ所属）をゲストスピーカーとして招き、現場の最新動向及びゲスト自身の実務や、観光業界で働くことに対する考えや学生へのメッセージなどに関する講義を受けたのちに質疑の時間をとる。ディスカッションは講義内容に関係したテーマを設定して行う。

The class combines lectures and discussions. In this lecture, a guest speaker alumni (affiliated with Rikkyo

Tourism Club) active in the tourism industry will be invited to introduce the latest trends in the field and in their work, as well as thoughts on working in the tourism industry, advice to students etc. with a Q&A to follow. Discussions will be conducted on themes determined by the lecture content.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光ビジネスの基礎（ロジカルシンキング/マーケティング/ホスピタリティ）
- 3回：宿泊業1（ホテル）
- 4回：宿泊業2（旅館）
- 5回：宿泊業3（リゾート）
- 6回：交通業1（鉄道）
- 7回：交通業2（航空）
- 8回：旅行業1（カウンターセールス）
- 9回：旅行業2（メディアセールス）
- 10回：旅行業3（アウトセールス）
- 11回：観光関連事業1（インバウンド促進）
- 12回：観光関連事業2（ガイドブック・観光情報）
- 13回：これからの観光産業
- 14回：観光ビジネスに関するディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃より観光産業の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。またディスカッションの回に際しては、それまでの講義内容を確認し復習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況:50% 毎時間の課題レポート:50%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず、講義時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

適宜講義資料に付記する。

その他 / Others

観光産業への進路を考えている学生さんへのサポートとなることを願って、講義を進めていきます。

観光ビジネスプロジェクト A

Project Planning Practice in Tourism A

ビジネスプラン作成を通じて経営学を学び、ビジネスの基本とコンサルティング能力、社会人基礎力、実践力を身につけ、即戦力ビジネスパーソンを目指す。

那須 一貴 (NASU KAZUTAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA902
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS3100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

授業の目標 / Course Objectives

観光産業における企画力、マネジメント力を備えた即戦力ビジネスパーソンを育成するために、新規事業プランの立案を通じてビジネス現場で求められる基礎的能力を養成することを目標とする。

With the aim of developing battle-ready business people, cultivating the basic skills necessary for business, gaining the planning and management capabilities used in the tourism industry through the creation of new business plans.

授業の内容 / Course Contents

本講義は観光ビジネスプロジェクト B とセットで履修する必要がある。

観光産業に関する新規事業計画の立案を通じて、サービスデザイン手法・マーケティング・経営戦略・財務会計の基礎を学習する。本講義では新規事業計画策定のうち、外部環境分析から事業構想の構築までを行う。講義内でも中間発表会やグループワークを適宜行い、プレゼンテーション能力の育成とプロジェクトの進捗管理

を実施する。1チーム5～6人で編成されるプロジェクトチームでのグループ演習を中心に行う。春学期に1回、土曜日を使ってゲストスピーカーに対して新規事業構

This course should be taken in conjunction with Project Planning Practice in Tourism B.

Students will learn the basics of marketing, management strategy and financial accounting through the design of new business plans for the tourism industry. In this lecture, in the formulation of new business plans, business concepts will be analyzed from the external environment. During class, intermediate presentations and group work will take place as appropriate, to foster presentation skills and manage project progress. Project teams of 5 to 6 students will focus on group seminars. At the end of the spring semester, we plan to hold a presentation on the new business concept with a guest speaker.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、問題解決技法：ビジネス的発想方法の基礎
- 2回：事業計画策定手法、サービスデザインについて、外部環境分析、企業分析、解決すべき課題の明確化
- 3回：演習（1）：外部環境分析、企業分析、解決すべき課題の明確化
- 4回：演習（2）：外部環境分析、企業分析、解決すべき課題の明確化
- 5回：プレゼンテーションとディスカッション：外部環境分析、企業分析、解決すべき課題
- 6回：マーケティングの基礎、課題解決に向けた体験のデザイン方法とバリュープロポジションマップの作成
- 7回：演習：ターゲットとなるペルソナの策定
- 8回：プレゼンテーションとディスカッション：ターゲットとなるペルソナについて
- 9回：演習（1）：バリュープロポジションマップの策定 その1
- 10回：演習（2）：バリュープロポジションマップの策定 その2
- 11回：プレゼンテーションとディスカッション：バリュープロポジションマップについて
- 12回：演習：新規事業、新規サービスプランの整理
- 13回：中間報告に向けたプレゼンテーションの準備
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進捗をペースメーカーとして、各チームで授業時間外にグループワークを実施して事業プランを作成することとなる。グループワークに対するアドバイスについては、個別に授業内で行っていくが、受講生の要望に応じて担当教員がグループワークに参加することもできる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ビジネスプラン案の内容：40% 講義への参加態度：20% 最終レポート割合：40%

期末に受講生から自己評価ペーパーを提出していただきます。自己評価ペーパーには授業以外の時間での取り組み状況について記入していただきます。

テキスト / Textbooks

特に用いない。

参考文献 / Readings

那須一貴 ビジネス入門 [改訂版] 創成社 2024 9784794426222

武山政直 サービスデザインの教科書 NTT 出版 2020 9784757123656

廣田章光・布施匡章他 DX時代のサービスデザイン 丸善出版 2021 9784621306055

これまでマーケティングや経営について学んでいない受講生は、「ビジネス入門 改訂版」を読んでおくこと。サービスデザインに関する文献は、グループワークをする際に内容を確認しながらおこなうと、より一層理解を深めることができる。

その他 / Others

本講義は演習型講義です。そのため授業への遅刻や無断欠席、履修の途中辞退は他のメンバーに迷惑がかかりますので許されません。観光ビジネスプロジェクト A の履修者は、原則として観光ビジネスプロジェクト B へ自動登録されます。学期中の土曜日に 1 回、協力企業に対するプレゼンテーションをおこないます。ただし、これは土曜日開催なので成績評価には含まれません。

新規事業プラン作りは大変ですが、これをやり遂げると達成感とともにコミュニケーションスキルや責任感、プレゼンテーション能力など社会人に求められる基礎力について、自

注意事項 (検索結果画面)

人数制限科目 (24 名) /2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 /2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

観光ビジネスプロジェクト B

Project Planning Practice in Tourism B

ビジネスプラン作成を通じて経営学を学び、社会人基礎力と実践力を身につけ、即戦力ビジネスパーソンを目指す。

那須 一貴 (NASU KAZUTAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HA903
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRS3100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

授業の目標 / Course Objectives

観光産業における企画力、マネジメント力を備えた即戦力ビジネスパーソンを育成するために、新規事業プランの立案を通じてビジネス現場で求められる基礎的能力を養成することを目標とする。

With the aim of developing battle-ready business people, cultivating the basic skills necessary for business, gaining the planning and management capabilities used in the tourism industry through the creation of new business plans.

授業の内容 / Course Contents

本講義は観光ビジネスプロジェクト A とセットで履修する必要がある。本講義で観光ビジネスプロジェクト A で立案した新規事業構想に基づき、サービスデザインの考え方をを用いて財務会計、投資評価、資金調達計画を策定し、事業計画を完成させる。

観光産業に関する新規事業計画の立案を通じて、マーケティング・経営戦略・財務会計の基礎を学習する。1

チーム5～6人で編成されるプロジェクトチームでのグループ演習を中心に行う。講義期間中にゲストスピーカーに対する新規事業に関する報告会を実施する予定である（ただし、報告会は土曜日開催なの

This course should be taken in conjunction with Project Planning Practice in Tourism A. Based on the new business concept developed in Project Planning Practice in Tourism A, this lecture will cover financial accounting, investment evaluation, fund raising plans, and completing business plans.

Students will learn the basics of marketing, management strategy and financial accounting through the design of new business plans for the tourism industry. Project teams of 5 to 6 students will focus on group seminars.

During the lecture term, we plan to have students present twice in an interim and final reports on the new business plan to the guest speakers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：顧客体験とカスタマージャーニーマップ、ストーリーマッピングについて
- 2回：演習（1）：カスタマージャーニーマップとストーリーマッピングの作成 その1
- 3回：演習（2）：カスタマージャーニーマップとストーリーマッピングの作成 その2
- 4回：プレゼンテーションとディスカッション：カスタマージャーニーマップとストーリーマッピング
- 5回：サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 6回：演習（1）：サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 7回：演習（2）：サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 8回：演習（3）：サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 9回：プレゼンテーションとディスカッション：サービスシステム図、サービスブループリント、ステークホルダーマップについて
- 10回：売上計画、費用計画、投資計画の立案について
- 11回：演習（1）：売上計画、費用計画、投資計画の策定
- 12回：演習（2）：売上計画、費用計画、投資計画の策定
- 13回：演習（3）：事業計画発表会（最終プレゼンテーション）に向けた準備
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進捗をペースメーカーとして、各チームごとに授業時間外にグループワークをおこなって事業計画を完成させる必要がある。受講生の要望に応じて、授業時間外のグループワークに担当教員が参加することもできる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ビジネスプランの内容:40% 講義での発言、参加態度:20% 最終レポート割合:40%

期末に受講生に自己評価ペーパーを提出していただきます。自己評価ペーパーには、授業時間以外での取り組み状況について記入していただきます。

テキスト/Textbooks

財務会計については、オリジナルテキストを配布する。

参考文献 / Readings

那須一貴 ビジネス入門 [改訂版] 創成社 2024 9784794426222

武山政直 サービスデザインの教科書 NTT 出版 2020 9784757123656

廣田章光・布施匡章他 DX時代のサービスデザイン 丸善出版 2021 9784621306055

これまでマーケティングや経営について学んでいない受講生は、「ビジネス入門」を読んでおくこと。サービスデザインに関する文献は、グループワークをする際に内容を確認しながらおこなうと、より一層理解を深めることができる。

その他/ Others

本講義は演習型講義です。そのため講義への遅刻や無断欠席、履修の途中辞退は他のメンバーに迷惑がかかりますので許されません。観光ビジネスプロジェクト A の履修者は、原則として観光ビジネスプロジェクト B へ自動登録されます。学期中の土曜日に協力企業に対するプレゼンテーションをおこないます。報告会は土曜日開催なので成績評価には含まれません。

新規事業プラン作りは大変ですが、これをやり遂げると達成感とともにコミュニケーションスキルや責任感、プレゼンテーション能力など社会人に求められる基礎力について、自分自身の大きな成

注意事項 (検索結果画面)

2019 年度以前 観光学部入学者 学部共通科目 / 2020 年度以降 観光学部入学者 観光学科選択科目

交通産業特論

Special Lecture on Transportation Industry

エアラインビジネス/サービス特論

松山 豊浩 (MATSUYAMA TOYOHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA939

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 株式会社 ANA 総合研究所寄付講座

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、観光産業の一つである航空産業（エアラインビジネス/サービス）をグローバルな視点から取り上げ、ビジネスやサービスの全体像を学びます。またその過程で、社会全般で通用する一般的な企業マネジメントやビジネススキルのヒントの修得も目指します。

"In this course, as one of the tourism industries, the aviation industry (= airline business) will be focused on from a global perspective, studying the contents of its entire business.

Furthermore, through the process of the lectures, not limited to the

授業の内容 / Course Contents

この講義では、エアラインビジネスやサービスの実務、および、国際航空を中心に世界的に熾烈な競争下で生き残るために編み出された多様な戦略を学びます。航空会社に特有な、アライアンス/ネットワーク戦略、FFP/プラットフォーム戦略、商品/ブランド戦略、CS/CX 戦略、LCC 展開、近年の SDGs/地球環境対応など、ビジネス全般にも通ずるマネジメント戦略のヒントや実践的な知識等も学びます。

"In this course, the airline business practices, as well as various strategies and action plans adopted mainly in the

international air transport sector to survive the severe competition on a worldwide scale shall be studied. Included are strategies, particular to the airlines, concerning Alliances/Network, Revenue Management/Frequent Flyer Program (= FFP), Customer Satisfaction (= CS), products/brand, and in addition business strategies and practical skill, such as method to cope with SDGs (environmental countermeasures), which are also adaptable to general business other than the airline shall be lectured. "

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の目標と内容の確認、授業計画、評価方法、受講要領やルールに関する説明 など）
- 2回：航空交通の基本
- 3回：航空産業の特性
- 4回：エアラインの業務
- 5回：民間航空の歴史と発展
- 6回：規制緩和と航空自由化
- 7回：ネットワーク
- 8回：アライアンス
- 9回：FFP/顧客マーケティング
- 10回：ブランド/プロダクト&サービス
- 11回：CS とホスピタリティ
- 12回：LCC
- 13回：航空とツーリズム/航空貨物/航空安全
- 14回：レビュー（航空業界の最近の動向、エアラインビジネスの将来 など）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】各回の授業テーマを意識し、関心がある航空関連の記事・ニュース・TOPIC 等について事前に調べ、自身の考えやコメントをノートにまとめておくこと。

【復習】各回の授業受講後に自身でレビューと確認を行い、教材資料や説明等をもとに授業内容と新たに得られた知識についてノートにまとめ、理解を深めること。

【その他】上記の予習・復習の実践とともに、講義期間をとおして、日常から「航空」そのものや「航空」に関連する様々な話題や社会的な課題に興味を持ち、自ら積極的に見聞を広げるよう心掛けてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:20% リアクションペーパー もしくは 小テスト:20% 授業参画状況:20% 最終レポート割合 :40%

・出欠席確認および理解度確認のため、各回授業においてリアクションペーパーの提出もしくは小テストを行い、平常点に反映します。

・全授業回の 2/3（10回）以上の出席（確認済）を前提とする。

テキスト/ Textbooks

各回の授業に関する教材資料・参考 VTR 等は授業時に共有・配付・視聴し、適宜学修支援システムに掲載します。

参考文献 / Readings

(株)ANA 総合研究所 『航空産業入門 (第 2 版)』 東洋経済新報社 2017 9784492762356

(株)ANA 総合研究所 『エアラインオペレーション入門 (改訂新版)』 イカロス出版 2022
9784802211437

その他、必要に応じ授業において紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

航空全般に対する高い興味・関心、自ら調べ理解する力、将来に向けた創造力 ほか

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料掲載等で学修支援システムを利用するとともに、レポート課題等も実施しますので PC が必要となります。

その他/ Others

- ・授業時以外の教員との連絡や質問については、学修支援システム・メール等にて行うこととします。また、受講学生への連絡や周知事項については、適宜学修支援システムの機能・メール等を利用して行います。
- ・シラバス内容はあくまでも予定であり、授業の進捗や到達目標の状況等により変更する場合があります。

注意事項 (検索結果画面)

人数制限科目 (50 名)

観光 I T 戦略論

IT Strategy for Tourism

IT を活用して、観光分野の新しいビジネスを考える

角谷 恭一 (KADOYA KYOICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA943

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）金沢大学の履修生を交えたディスカッションをスムーズに行うため、全員オンラインの回を予定しています。具体的には【授業計画】に明示しました。なお、履修生の状況や授業の進捗状況を鑑みて、適宜変更する可能性があります。変更については、授業および「Canvas LMS」で周知します。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 株式会社 NTT データ寄附講座

授業の目標 / Course Objectives

観光による地域活性化が社会的な関心となる中、IT 分野のイノベーションをどのように結びつけることが可能なのか、最新の事例学習をしながら検討します。

With regional revitalization through tourism becoming a social concern, we will examine how this relates to innovations in the IT field, while investigating the latest case studies.

授業の内容 / Course Contents

NTT データで実際に使われている新規ビジネス創発メソッド「DCAP（ディーキャップ）」を使って、ビジネス創発の基本と本質を理解します。そして、その過程で、実際の企業活動（社会デザインによるビジネス創発）について理解を深めます。

具体的には、メソッドの解説を受けたうえで、個人やチームでワークを行うことで理解を深め、最終的にビ

ビジネスプランをまとめます。

世界の IT 活用事例や、先端的な IT の紹介セミナー、および寄付企業の施設見学も予定しています。

また、金沢大学との合同講義となっており、金沢大学からの履

Using new business incubation method "DCAP", actively used in NTT DATA, students will understand the basics and essence of business incubation.

In the process, they will deepen their understanding of actual corporate activities (especially business incubation by social design).

Specifically, after receiving an explanation of the method, individually and in team work, students will summarize their final business plan.

We also plan to use global IT use cases, seminars introducing advanced IT and facility tours of sponsoring company.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：講義計画の説明、「IT ビジネスの変遷と現在の潮流」について講義（対面）

2 回：「ロジカル思考とデザイン思考の二つのビジネスモデル構築手法」について講義（オンライン）

3 回：DCAP-ID ビジョン策定（オンライン）

4 回：DCAP-ID 課題、テーマの明確化（対面）

5 回：インプットセミナー：NTT DATA Technology Foresight（オンライン）

今後3年から10年の間に社会やビジネスに大きなインパクトをもたらす先進技術や社会動向を継続的に調査し、調査結果から導きだしたテクノロジーがもたらす将来変化を予見したトレンド情報

6 回：DCAP-ID アイデア発想（対面）

7 回：DCAP-ID アイデアプロトタイピング（オンライン）

8 回：DCAP-ID アイデアブラッシュアップ（オンライン）

9 回：DCAP-BMC ビジネスモデル検討#1（対面）

10 回：DCAP-BMC ビジネスモデル検討#2（対面）

11 回：DCAP-BMC ビジネスモデル検討#3（対面）

12 回：プレゼン資料作成#1（対面）

13 回：プレゼン資料作成#2（オンライン）

14 回：発表&講義のまとめと振り返り（対面）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。（補講も予定しています）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス討議への貢献度:20%

最終レポート割合 :40%最終テスト割

合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜、講義の中で配布します。

参考文献 / Readings

野口吉昭 ビジネスプラン策定シナリオ かんき出版 2001 9784761259549

Tom Kelly、Jonathan Littman 発想する会社！ー世界最高のデザインファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法 早川書房 2002 9784152084262

渡辺健介 世界一やさしい問題解決の授業 ダイヤモンド社 2007 9784478000496

津田久資 世界一わかりやすいロジカルシンキングの授業 KADOKAWA/中経出版 2012 9784046028044
ロジカル思考の基本的な学習は、自習して臨んでください。 上記、3、4 が平易で読みやすいです。

その他/ Others

- 1) 施設の見学は、土日などを使う可能性があります。
- 2) DCAP のベースになった、京都でのプロジェクトを紹介する3分ほどの動画です。
講義もこのような雰囲気になりたいと思います。 <https://www.youtube.com/watch?v=ZutzWPlzCa0>
- 3) NTT データのデザインブランド「Tangity」のメンバが、サービスデザインに関する考察や日々の活動について発信しています。参考にしてください。 <https://note.com/tangity/>
- 4) 誓約書について
履

都市型エンターテイメント論

Urban Entertainment

エンターテイメント産業の概観・アミューズメント施設の新規事業企画

下島 康史 (SHIMOJIMA YASUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA960
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： TRS3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 集中講義：2024年8月1日（木）・2日（金）・5日（月）・6日（火）・7日（水）
※1日（木）・2日（金）2～5限、5日（月）・6日（火）・7日（水）3～4限

授業の目標 / Course Objectives

- エンタテインメント・ビジネスの概念・概要について理解し、説明することができる。
 - エンタテインメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用を理解し、説明することができる。
 - アミューズメント施設の新規事業企画の概要を理解し、説明することができる。
- To be able to explain the concepts and outlines of the entertainment business.
 - To be able to explain the application of marketing principles in the entertainment business.
 - To be able to explain the outline of new business plans for amusement faci

授業の内容 / Course Contents

広義のエンタテインメント・ビジネスの概念について学習するとともに、当該ビジネスにおけるマーケティング原理の応用について、ケーススタディや各種ワークを通して学習する。

またとくに、エンタテインメント・ビジネスの中でも、アミューズメント施設の新規事業企画に焦点をあて、

情報収集や仮説構築を意識した学習に取り組む。

Students will learn about the concept of entertainment business, as well as the application of marketing principles in the entertainment business through various case studies.

Especially, we will focus on new business planning of amusement facilities and engage in learning with an awareness of information gathering and hypothesis building.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション エンターテイメント・ビジネスに関する概念定義
- 2回：エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用①
- 3回：エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用②
- 4回：エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用③
- 5回：エンターテイメント・ビジネスにおけるマーケティング原理の応用④
- 6回：小テスト①の実施と解説 アミューズメント施設の新規事業企画概説
- 7回：アミューズメント施設の新規事業企画（ワーク①）
- 8回：アミューズメント施設の新規事業企画（ワーク②）
- 9回：アミューズメント施設の新規事業企画（ワーク③）
- 10回：小テスト②の実施と解説 アミューズメント施設の新規事業企画総括①
- 11回：アミューズメント施設の新規事業企画総括②
- 12回：エンターテイメント・ビジネス ケーススタディ①
- 13回：エンターテイメント・ビジネス ケーススタディ②
- 14回：小テスト③の実施と解説 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は授業内で指示された予習/復習(各種ワークを含)を授業時間外に実施する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に指示した提出物:10% 小テスト①:30% 小テスト②:30% 小テスト③:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業時間中の課題作業、授業時間外の課題作業において PC が必要。

注意事項（検索結果画面）

集中講義

風土と観光

Socio-ecological system and tourism

小野 良平 (ONO RYOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HA970
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRS2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「風土」は地域の自然と文化を包括的にとらえる環境の概念の一つであるが、農業をはじめとして環境を資源とした産業がさまざまにある中で、この風土を直接資源とする産業が観光であるということができる。観光資源論および観光計画論の一環として、風土の特質を活かした持続的な観光のあり方について考える。

“Fudo (Socio-ecological cultural complex)” is one of the concepts of environment that comprehensively captures the nature and culture of a region, but while there are various industries that use the environment as a resource, such as agriculture - it can

授業の内容 / Course Contents

風土という概念およびそれを取り上げる意義について、環境に関わる諸概念との関係を踏まえながら考えた上で、風土と深くかかわる観光資源の例を何種類か取り上げてその特質を紹介する。また観光資源であるばかりでなく観光体験の基盤となる地域を支える風土の特質について、その保全にかかわる諸手段とともに考える。

We consider the concept of “Fudo (Socio-ecological cultural complex)”, and highlight its significance in relation to environmentally related concepts, while introducing several examples. We will also consider the characteristics of “Fudo” that support regions not only as tourism resources but as the foundation of the tourist experiences,

along with the methods involved in its conservation

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：風土とその関連概念
- 3回：日本の風土の特質
- 4回：風土と観光資源：温泉
- 5回：風土と観光資源：社寺・信仰空間
- 6回：風土と観光資源：名所
- 7回：風土と観光資源：祭礼・芸能
- 8回：風土の象徴化：庭園1
- 9回：風土の象徴化：庭園2
- 10回：風土の保全と観光：都市
- 11回：風土の保全と観光：農山漁村
- 12回：風土の保全と観光：自然地域
- 13回：風土の保全と観光：郊外と没風土性
- 14回：まとめ：風土産業としての観光

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

市民参加とまちづくり

Participatory Community Design

はじめてのまちづくり学 まちづくりの理論と手法を学ぶ

清野 隆 (SEINO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HA971

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRS3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、まちづくりの理論と方法と技術を学び、理解することである。具体的には、まちづくりの定義、まちの課題とまちづくりの意義、まちの社会的特性と環境的特性、まちづくりのプロセスを理解する。

また、あなたのまちの出来事、まちづくりの活動、まちづくりの最新動向に関心を払う態度、まちの現状を分析し、まちの課題、まちづくりの課題を発見する方法を身に付けることも本授業の目標とする。

本科目を通じて、まちづくりを学び、実践する上での基礎を身に付ける。

The purpose of this course is to learn and understand the theory and methods of community development. Specifically, understand the definition of community development, the social issues of community and community development and the significance of commu

授業の内容 / Course Contents

本授業では、まちづくりの理論、およびまちづくりの方法と技術について講義する。まず、まちづくりの定義、まちづくりが成立した背景、まちの課題について説明し、まちづくりの意義について明らかにする。次に、まちやまちづくりを理解するために、市民社会の多様性と参加と協働について説明する。また、環境的側

面に注目して、まちを調べる方法、まちの構成要素、成り立ち、環境づくりの計画・ルールについて説明する。その上で、まちづくりのプロセスを説明し、まちづくりを推進するための方法と技術を紹介する。最後に、まちづくりの歴史を紹介し

In this course, we will learn and understand the theory and methods of community development. First, we will learn the definition of community development, the social issues of community and the background of community development. And we will understand the significance of community development. Next, in order to understand community and community development, we will learn the diversity of community and participation and collaboration in community. In addition, focusing on the environmental aspects, we will learn and understand how to investigate the town, the components of the town, the process of town formation, and the plans and rules for creating environment. After that, we will learn the process of community development and the methods for promoting community development. Finally, after understanding the history of town development, we will consider the future prospects of community development.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション まちづくりとは
- 2回：まちの課題
- 3回：まちづくりへの第一歩
- 4回：まちで出会う市民
- 5回：まちの主体・組織
- 6回：まちづくりを担い、支える主体・組織
- 7回：まちの環境を発見する
- 8回：まちの環境の成り立ちを理解する
- 9回：まちの環境に関する計画・ルール
- 10回：まちづくりをはじめめるプロセス
- 11回：まちづくりを展開するアクション
- 12回：リノベーション時代のまちの居場所
- 13回：まちづくりの歴史と今後の展望
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマに沿った事前・事後学習を進めてください(各60分)。また、あなたのまちとそのまちづくりに関心を払い、調べてください。例えば、あなたのまちの特徴的な場所について、まちの課題、まちづくりにどのような人や組織が関わっているかなどを調べてください。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:16% 授業内で指示した提出物:24%

テキスト/Textbooks

山崎義人・清野隆・柏崎梢、野田満 はじめてのまちづくり学 学芸出版社 2021年（予定）

9784761527815 ○

講義は、教科書の内容に沿って展開する。また、教科書に記載された課題を講義内で取り組む予定である。

参考文献 / Readings

ランドルフ・T・ヘスター、土肥真人 まちづくりの方法と技術 コミュニティ・デザイン・プライマー
現代企画室 1997年 9784773897050

ランドルフ・T・ヘスター著 土肥真人訳 エコロジカル・デモクラシー まちづくりと生態的多様性をつなぐ
デザイン 鹿島出版会 2018年 9784306073425

その他/ Others

将来まちづくりに取り組んでみたいと考えている学生、ゼミなどで地域での調査活動やまちづくりに取り組んでいる学生の受講を期待しています。

観光地理学概論

Introduction to Geography of Tourism

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB001
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々な研究例を通して地理学の基本概念と研究方法を理解する。

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts and research methods of geography through various research examples.

授業の内容 / Course Contents

地域は自然環境や人間活動などが複雑に関連して成り立っている。本講義ではそうした関連性に着目して地域の成り立ちや仕組みを学ぶ。その際、地理学の様々な研究事例を取り上げることで、多様な視点やアプローチの方法、表現手法なども学ぶ。

Natural environments and human activities exist in a complex relationship within a region. In this course, students learn about the establishment and mechanisms of regions, focusing especially on that relationship. To do that, the course covers various research cases in geography, diverse perspectives, methods of approach, and techniques of expression, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：地域を科学する

- 2回：身近な地域の調査－（土地利用調査と定点観測）
 3回：スマートツーリズムと参与観察
 4回：生物多様性と環境保全
 5回：地域生態（里山における人と自然）
 6回：聞き取り調査とアンケート調査の実際
 7回：場所イメージ①（イメージの創られ方と調べ方）
 8回：場所イメージ②（ハワイイメージの国際比較：ゼミ合宿調査の紹介）
 9回：構築主義と地域
 10回：機能地域（集客圏と客層）の調べ方
 11回：文化伝播①（伝播とその調べ方）
 12回：文化伝播②（文化層序と観光）
 13回：文化圏（言葉と信仰の広がりとその調べ方）
 14回：文化景観（伝統的景観の創造）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は授業内で適宜指示された予習/復習を授業時間外に実施する。また、受講生は授業内で学ぶフィールドでの実践（調査方法）とその分析方法を用いて、授業時間外に現地調査を自ら実施し、学期末のレポートを作成する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%
 平常点割合 :40% 授業中に課す課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

観光人類学概論

Introduction to Anthropology of Tourism

文化人類学の視点と観光研究

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB002

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は次のとおりである。

- 1) 文化人類学のアプローチと分析枠組みを理解し、説明できるようになること。
- 2) 身近な観光現象を文化人類学の視点から分析し、説明できるようになること。

In this course, students will be able to:

- 1) understand and explain basic approach and framework of cultural anthropology.
- 2) analyze and explain tourism phenomena observed in everyday life from the perspective of cultural anthropology.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、文化人類学的なものの見方とアプローチを紹介し、それらを用いて観光現象を分析する。文化人類学的な観光研究（観光人類学）では、観光の政治、経済的な側面に加え、観光をとらえて文化が生成されるダイナミズムや、ホスト社会や旅行者にとっての観光の意味を考察する。

Throughout the course, students will learn basic approach of cultural anthropology and how to apply it to analyze

tourism. We will consider political, economic aspects of tourism, as well as dynamism of creating culture through tourism. It also focuses on the meaning of tourism for hosts and guests by applying the framework of the Anthropology of Tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：観光人類学の視点
- 2回：儀礼の過程：巡礼と観光
- 3回：未開と文明：植民地主義と観光
- 4回：ジェンダーとセクシュアリティ：観光と性
- 5回：伝統の創造：「楽園」の誕生
- 6回：文化の真正性：少数民族と観光
- 7回：文化の資源化：世界遺産と観光
- 8回：つくられる自然：エコと観光
- 9回：宗教と観光：観光の時代のイスラーム
- 10回：音声言語と手話言語：ユニバーサル・ツーリズム
- 11回：「近代化」を問いなおす：ダークツーリズム
- 12回：ボーダレス化する暮らし：ロングステイとライフスタイル移住
- 13回：アクター・ネットワーク理論：観光地を解剖する
- 14回：まとめと展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に課す問いに答えること。授業を踏まえた課題に回答すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 予習課題（授業前の問い）への回答:35% 授業への参加度:30% 授業後に提示する課題:35%

授業への参加は、授業中の質問に答えることで加点される。出席点ではない。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。各回の授業で参考文献を提示する。

参考文献 / Readings

市野澤潤平（編） 基本概念から学ぶ観光人類学 ナカニシヤ出版 2022 9784779514333

大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治（編） 観光学ガイドブック ナカニシヤ出版 2014
9784779508264

山下晋司（編） 観光文化学 新曜社 2007 9784788510807

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人類学的なアプローチでは、すぐに答えがでないテーマや問題に向き合うことができる知的な態度が求められる。「タイパ」「コスパ」とは真逆の姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は、Canvas LMS をとおして PDF ファイルで配布する。教室では配付しない。

各自で印刷して持参するか、PDF ファイルに書き込みができるタブレットや PC を持参すること。

その他/ Others

予習、復習や授業中に Google フォームや、その他のオンラインツールを用いて質問をしたり理解度をたずねる。質問やコメントについては、翌週にフィードバックする。また授業中に聴取した質問や意見をもとに、ディスカッションやペアワークなどを実施することもある。

観光社会学概論

Introduction to Sociology of Tourism

観光社会学入門

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB003
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光や文化について学ぶために必要な社会学の基礎的な概念や手法を習得する。

This course aims for students to learn the basic concepts and techniques of sociology required to study tourism and culture.

授業の内容 / Course Contents

文化、自己、ジェンダー、エスニシティ、メディア、都市、国家、グローバル化、移動などをキーワードに、社会学の観点から現代社会の諸問題について考察し、社会学的思考に親しむ。

With culture, self, gender, ethnicity, media, city, nation, globalization, and mobility, etc., as keywords, this course considers the various problems of modern society from a sociological viewpoint and familiarizes students with the sociological way of thinking.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：近代性とは何か

- 3回：近代社会・公共性・親密性
 4回：自己へのまなざし
 5回：お客様社会と感情労働
 6回：メディアがつなぐ社会
 7回：国民国家とナショナリズム
 8回：グローバリゼーションとローカルティ
 9回：アウシュヴィッツの普遍性
 10回：仕組みの見えない社会
 11回：ジェンダーとセクシュアリティ
 12回：文化の社会学／文化の政治学
 13回：仕組みの見えない社会を見るために
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーおよび課題の提出が授業毎にそれぞれ課される。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への参加度:40%

テキスト / Textbooks

長谷川公一他 社会学 有斐閣 2019 9784641053892 ○

参考文献 / Readings

アンソニー・ギデンズ 社会学 第5版 而立書房 2009 9784880593500

安村克己他 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料はすべて授業支援システムで共有します。ノートPCやタブレットで表示するか、事前に各自で印刷したうえで受講してください。教室での紙資料の配布はおこないません。

観光人文学概論

Introduction to Tourism Humanities

物語論を中心とした文学理論から見る世界の文学

橋本 陽介 (HASHIMOTO YOSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB004

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC1000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化の交流にかかわる事象を読み解く観光人文学理論として、リベラルヒューマニティ（批評理論）を学ぶ。今年度は、観光と親和性の高い物語論を中心とする。本講義は観光学部の交流文学系科目の中でも、大学の学び全体の基礎となる理論面の習得を目標とする。

This course is designed for students to learn liberal humanity (critical theory) as a theory of humanities of tourism for interpreting phenomena related to cultural exchange. This year's course will focus on narrative theory that has affinity with tourism

授業の内容 / Course Contents

批評理論はアカデミックな見方・考え方の基礎であり、大学の講義を理解するためのポイントである。多くの教員はこうした理論を踏まえて講義しており、動的で応用的な内容が断りなしに登場する観光研究において、話の組み立てを予測し、正しく理解するために欠かせないリテラシーである。

本講義では、批評理論のうち、物語論を中心とする。我々は現実を物語的に把握している。その性質とは何か。また、物語の観点から、世界の文化・歴史等について考える方法についても学ぶ。

Critical theory is the basis for academic perspectives and intellectual thought, a vital means to understand university courses. Many instructors base their courses on critical theory. Therefore, in tourism studies, in which dynamic and practical topics and ideas are often cited without explanation, critical theory is essential to anticipate the logic of the paradigm and develop a correct understanding of discussions.

Of all the various aspects of critical theory, this course will focus on narrative theory. We grasp reality as a narrative. What is the nature of such behavior? Students are also expected to learn ways to approach world culture and history, among other topics, from a narrative perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義の進め方・はじめに（何を論じるのか）
- 2回：1. 「物語」の形態学、「面白い展開」の法則
- 3回：2. 物語に流れる「時間」、叙述のスピードと文体
- 4回：3. 視点と語り手、登場人物の内と外
- 5回：4. 日本語の言語習慣、さまざまな語りの構造
- 6回：5. ノンフィクションは「物語」か
- 7回：6. 構造主義
- 8回：7. サイドとオリエンタリズム
- 9回：8. 作品分析
- 10回：9. 作品分析
- 11回：10. 作品分析
- 12回：11. 作品分析
- 13回：まとめー観光と物語論
- 14回：教場最終レポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの他、海外文学や映画を見ます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% コメントペーパー等:20% 教場最終レポート:20%

積極的な授業参加が求められる

テキスト / Textbooks

橋本陽介 物語論 基礎と応用 講談社/Kindle 等 2017 4062586509 ○

参考文献 / Readings

橋本陽介 ナラトロジー入門 水声社 4003720415

その他 / Others

授業の方法について、詳しくは初回の授業で案内する。ある程度、性的なもの（R12程度）を含む場合があります

対す。

観光文学概論

Introduction to Tourism Literature

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC1400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学研究の技法を観光研究にいかに応用すべきかを学ぶ。

The purpose of this course is for students to learn how to apply theories of literary study to analysis of tourism.

授業の内容 / Course Contents

文学研究の観点から見て興味深い観光学のトピックを取り上げ、関連する文学作品の読解する。

This course examines various topics of tourism study interesting from the perspective of literary research; students read literary works relevant to them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション——「旅」の時代（古代、中世）
- 2 回：グランドツアーに始まる——自然美の発見、遠近法から写真まで
- 3 回：リゾート文学 1（温泉保養地）
- 4 回：リゾート文学 2（海浜保養地）
- 5 回：ヴェルヌ『八十日間世界一周』に見る「旅行」の制度化 1——鉄道、ガイドブック、パスポート
- 6 回：ヴェルヌ『八十日間世界一周』に見る「旅行」の制度化 2——鉄道、ガイドブック、パスポート

- 7回：非日常としての推理小説1（ポオとコナン・ドイル）
 8回：非日常としての推理小説2（アガサ・クリスティ）
 9回：非日常としての推理小説3（日本の場合）
 10回：テーマパーク化する世界
 11回：楽園幻想
 12回：バックパッカーの哲学1（スティーヴンソンからチャトウィンまで）
 13回：バックパッカーの哲学2（日本の場合）
 14回：死者とのコミュニケーション——ダークツーリズム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ヴェルス『八十日間世界一周』（岩波文庫） ないしクリスティ『ナイルに死す』（ハヤカワ文庫）に目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% 出席・授業への取り組み:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

観光歴史学概論

Introduction to History of Tourism

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB006
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRC1000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部での学修において必要な基礎知識やものの見方を、観光の歴史的展開から学ぶ。

Through study of the historical development of events surrounding tourism, students will learn the basic knowledge and perspective required for study in the College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

観光の歴史的展開のなかでも、西洋および日本の事例を取り上げる。言及する時代は、観光の特性上、近世、近代、現代が中心となる。講義では単なる基礎知識だけでなく、歴史的展開の背景にある社会的要因や、複合性・地域横断性といった観光を理解する上での基本的な分析視角も身に付ける。あわせて、今日における観光のありようをよりよく理解するためには、歴史的連続性という見方もまた有効であることを学ぶ。以上の一連の内容を、年号暗記などに拘泥せず、歴史の「流れ」や社会の変動を意識しながら歴史的視点から整理する。

Within historical development of events surrounding tourism, this course examines cases in the West and in Japan. Periods of study are centered on characteristics of tourism in early modern, modern, and contemporary times. The course provides not only basic knowledge, but also basic analytical perspectives needed to understand

tourism, including social factors behind its historical development, complexity, regional transversality, etc. In addition, the course covers the effectiveness of historical continuity, in order to understand better the current state of tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：西洋近世1【グランドツアー】
- 3回：西洋近世2【グランドツアーの副産物】
- 4回：日本近世1【街道の整備】
- 5回：日本近世2【伊勢参り】
- 6回：日本近世3【現代との連続性】
- 7回：西洋近代1【トマス＝クック】
- 8回：西洋近代2【クックの取り組みと産業革命】
- 9回：西洋近代3【クック社と世界一周旅行】
- 10回：日本近代1【「開国」と遊歩】
- 11回：日本近代2【インバウンド誘致団体】
- 12回：西洋現代【マスツーリズムの時代】
- 13回：日本現代【バブル経済崩壊まで】
- 14回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

これまでに身につけた歴史に関する知識のうち、観光と関連が深いと思われる事柄について振り返っておく。講義で紹介する文献を積極的に読み進める。
観光と関連するニュースや出来事への関心を、日頃から高めておく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

单元ごとの参考文献リストを提示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光社会学 4（文化）

Sociology of Tourism 4 (Culture)

鈴木 涼太郎 (SUZUKI RYOTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB011
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、これまでの観光研究、とくに社会学的・人類学的な観光研究で蓄積されてきた理論的枠組みを紹介しながら、旅行会社を中心とした観光の現場における文化の生産と消費の動的な在り方を理解する視点を身につけることを目標とする。

The purpose of this course is to understand the dynamic relationship between tourism and culture through sociological and anthropological theories.

授業の内容 / Course Contents

講義では、まず観光商品の基本的な特徴を確認したうえで、旅行会社をはじめとした観光産業および観光地にかかわる具体的な事例を取り上げながら毎回異なるトピックについて考察する。学期中に 5～6 回、授業内、または授業後数日内を締切とする最大 1000 字程度のミニレポート課題を課す予定。課題は、解答用紙を授業内で配布する場合と LMS などを利用する場合がある。提出された課題について全体的な講評や解答例の提示は行うが、個別の解答に対する添削やコメントは行わない。

Each lecture will cover a different topic and discuss the dynamic relationship between tourism and culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：観光商品の特徴と文化
- 3回：文化の商品化とオーセンティシティ
- 4回：観光商品としての文化遺産
- 5回：文化のパッケージ化
- 6回：マクドナルド化する社会論とパッケージツアー
- 7回：ツアー企画における「知識の管理」と暗黙知
- 8回：職場旅行のルート化
- 9回：テーマ化された空間とハイブリッド消費
- 10回：パフォーマンス労働・感情労働とおもてなし文化
- 11回：舞台としての観光地
- 12回：パワースポット観光からみる旅行業の変容
- 13回：ツーリズムと生活
- 14回：「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

LMSに1時間程度で読了できる授業資料（レジュメ、関連する学術論文など）をアップするので履修者は事前事後学習に活用のこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題(複数回):60% 期末課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 鈴木涼太郎 観光という商品の生産 日本～ベトナム 旅行会社のエスノグラフィ 勉誠出版 2010
9784585230014
- 山口誠 須永和博 鈴木涼太郎 観光のレッスン～ツーリズムリテラシー入門 新曜社 2021
9784788517066

観光と文化7（産業）

Tourism and Culture 7 (Industry)

おみやげ文化論

鈴木 涼太郎 (SUZUKI RYOTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、観光みやげという身近な事例を通じて、観光産業が媒介するグローバルな人やモノの移動と文化をめぐる動的な関係について考えるための視野を身につけることを目標とする。

This course aims for students to develop perspectives for considering dynamic relationships between the global movement of people and goods, tourism, and culture through familiar examples such as souvenirs.

授業の内容 / Course Contents

現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供する観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。本科目では、観光みやげにかかわる諸産業を事例に挙げながら、観光を通じた人やモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて考察する。

Modern tourism's growth cannot be examined without considering developments in tourism industries that provide various mass tourist products. Citing examples of various industries involved in souvenirs, this course considers how people, spaces, and images are managed in relation to tourism products and how the movement of people and goods through tourism impacts consumption, transfer, and production of culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイドンス
- 2回：おみやげとは？
- 3回：名物の誕生と観光みやげの近代
- 4回：郷土玩具から民藝／民芸、雑貨へ
- 5回：観光みやげのものがたりとパフォーマンス
- 6回：ギフトとしての観光みやげ
- 7回：観光みやげとホンモノらしさ①
- 8回：観光みやげとホンモノらしさ②
- 9回：ギャグみやげの存在理由
- 10回：観光みやげのフォーマットとコレクション
- 11回：移動するおみやげと文化
- 12回：旅するマトリョーシカのルーツとルート
- 13回：ベトナム雑貨がつくる旅
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的に1時間程度で読了可能な授業関連資料・論文を事前に配布する。授業内での指示に従って、必要な事前準備や復習を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題（複数回）：60% 期末課題：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

鈴木涼太郎 観光という商品の生産—日本～ベトナム 旅行会社のエスノグラフィ 勉誠出版 2010
9784585230014

山口誠 須永和博 鈴木涼太郎 観光のLESSON—ツーリズムリテラシー入門 新曜社 2021
9784788517066

神田孝治ほか編 移動時代のツーリズム—動きゆく観光学 ナカニシヤ出版 2023 9784779517686
このほか授業内で適宜紹介する

その他 / Others

LMSに授業資料（レジュメ、関連する学術論文など）をアップするので履修者は事前事後学習に活用すること。学期中に6～7回、授業内または授業後数日以内を締切とする最大1000文字程度のミニレポート課題を課す予定。課題については全体的な講評や解答例の提示は行うが、個別の解答に対する添削やコメントは行わない。その他詳細についてはガイドンスで説明するため、必ず出席のこと。

観光人類学 7（開発援助）

Anthropology of Tourism 7 (Development Assistance)

開発と文化

内藤 順子 (NAITO JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB029

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

開発をめぐる諸問題について、その対象となる人びと・地域・国家などの社会・文化に焦点をあて、文化人類学的視点から考察し、現代世界の構造をとらえることを目標とする。

With the aim of understanding the structure of the modern world, this course examines issues of development with a focus on societies and cultures of the peoples, regions, and nations affected, considering them from a cultural anthropological perspective.

授業の内容 / Course Contents

本講義で扱う「開発」とは、「人の選択肢を広げる」という理念のもとで、国内外において実践される支援・援助活動をいう。そうした実践は、主として異なる社会文化的・経済的背景を持つ国家間や、異なる生活状況にある人間同士で実施されるため、多様な文化や価値観が会う現場ともなる。そこでは、他者や他者文化・社会（とくに開発が対象とする「貧困」）に対してどのような配慮や理解が必要となるのか。アジア、ラテンアメリカなどの具体的な開発援助・支援の例をあげながら検討・考察する。

The meaning of “development” as used in this course is the practice of giving support and assistance both

domestically and abroad, based on the principle of “expanding people's choices.” Since this practice mainly takes place between nations with different socio-cultural and economic backgrounds and between people of different lifestyle situations, it is also a meeting place for diverse cultures and values. In such cases, what consideration and understanding of other peoples and other cultures (especially impoverished places often targeted for development) are necessary? Students investigate and consider specific examples of development assistance and support in Asia, Latin America, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：なぜ開発と文化か
- 2 回：開発援助の仕組み
- 3 回：開発援助の具体の現場から：問題の所在
- 4 回：開発現場の文化摩擦（1）専門家と住民
- 5 回：開発現場の文化摩擦（2）援助国と被援助国
- 6 回：開発援助対象地域と人びとの現実：アジア
- 7 回：開発援助対象地域と人びとの現実：ラテンアメリカ
- 8 回：貧困と社会問題
- 9 回：「貧困」概念の再検討（1）
- 10 回：「貧困」概念の再検討（2）
- 11 回：現代世界の構造と開発
- 12 回：「ボトムアップ」はいかに可能か
- 13 回：被開発者あるいは他者の理解に近づくために
- 14 回：まとめ：開発あるいは他者にかかわるために必要な視点・構え・備え

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

世の中の動きに関心を持つこと。

講義で扱う・扱ったトピックについて自分で追究する姿勢を持つこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :90%

平常点割合 :10% リアクションペーパー:10%

毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に適宜指示します

基礎演習

Seminar (1st year)

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB031
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1000
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB032
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB033
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM1000
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB034

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1000

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB035
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB036
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB037
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：観光の現在
- 3 回：観光行動の対象と行動
- 4 回：観光行動の対象と行動
- 5 回：観光史
- 6 回：観光史
- 7 回：観光と資源
- 8 回：観光と資源
- 9 回：観光と文化
- 10 回：観光と文化
- 11 回：観光と経済
- 12 回：観光と経済
- 13 回：観光と地域社会
- 14 回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB038

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1000

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB039
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

基礎演習

Seminar (1st year)

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB040
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM1000
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

観光学部において主体的に学ぶこと、研究することの基礎を培う。

Students are expected to acquire knowledge and technique, which are the foundation of independent learning and research at College of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションなどを通して主体性を身に付け、学問の場面におけるコミュニケーション能力を高める。また、レポート作成を通じて学問的関心を明確化する。以上の作業を通して、必修科目「観光学概論」で学ぶ理論やキーワード、観光現象などに対する理解をより深める。同時に、クラス内でのコミュニケーションを通じて学生生活を円滑にスタートさせると共に、自身の将来設計を考え、観光学部での4年間の学びの目標を定める。

なお、授業の進め方や課題などは担当教員によって異なる。

Through presentations and discussions, students are expected to establish their independence and cultivate communication skills. They are expected to

clarify their academic interests by preparation of reports. Through these works, students are expected to acquire the theories and keywords learned in the required subject “Introduction to Tourism Studies” and deepen their understanding of tourism phenomena. The contents, procedures and tasks vary by class and the instructor in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：観光の現在
- 3回：観光行動の対象と行動
- 4回：観光行動の対象と行動
- 5回：観光史
- 6回：観光史
- 7回：観光と資源
- 8回：観光と資源
- 9回：観光と文化
- 10回：観光と文化
- 11回：観光と経済
- 12回：観光と経済
- 13回：観光と地域社会
- 14回：観光と地域社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて担当教員が指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席や貢献度，リアクションペーパーやレポート，課題の達成度などにより評価する：100%

テキスト / Textbooks

前田 勇編著 新現代観光総論 第3版 学文社 2019 9784762029172 ○

参考文献 / Readings

授業で指示する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光地理学 3 (リゾート地)

Geography of Tourism 3 (Resort Area)

呉羽 正昭 (KUREHA MASAACKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB063
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地理学における多様な地域モデルとその国内外の適用事例をリゾートを題材に学び、その手法や知見を応用する力を身につける。

From the theme of resorts, students in this course learn about various regional models in Geography of Tourism and examples of their application both domestically and overseas. Students also gain the ability to apply such techniques and information.

授業の内容 / Course Contents

様々なリゾートの形成や空間構造、観光客行動の空間的特性などに関する観光地理学の基本概念や事例研究を取り上げる。その際、分析方法などの実践的な手法も紹介することで、総合的な知識と思考力を身につける。

This course covers the basic concepts and case studies of Geography of Tourism relating to the formation and spatial structure of various resorts as tourist destinations, the spatial characteristics of tourist behavior, etc.

Through an introduction of practical techniques for analysis methods, etc., students gain general knowledge and the ability to think critically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：リゾートと観光地理学研究
- 3回：リゾートの進化モデル
- 4回：日本の温泉リゾート
- 5回：日本の避暑リゾート
- 6回：日本のリゾート開発
- 7回：日本のスキーリゾート：1970年代まで
- 8回：日本のスキーリゾート：1980年代以降
- 9回：ヨーロッパのリゾート展開
- 10回：ヨーロッパのリゾートと世界遺産
- 11回：アルプスのリゾート
- 12回：オーストリアのスキーリゾート
- 13回：オーストリアの夏季リゾート
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

下記参考文献および各回の授業で提示する参考文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

毎回のリアクションペーパーの内容 (40%) および筆記試験 (60%) で評価します。

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

- ダグラス・ピアス 現代観光地理学 明石書店 2001 475031384
 江口信清・藤巻正己 観光研究レファレンスデータベース ナカニシヤ出版 2011 4779505518
 菊地俊夫 文化ツーリズム学 朝倉書店 2016 4254166494
 呉羽正昭 スキーリゾートの発展プロセス: 日本とオーストリアの比較研究 二宮書店 2017 4817604239
 淡野明彦ほか 観光先進地ヨーロッパ: 観光計画・観光政策の実証分析 古今書院 2016 4772231803
 浮田典良 オーストリアの風景 ナカニシヤ出版 2015 4779509505
 矢ヶ崎典隆ほか グローバリゼーション 縮小する世界 朝倉書店 2018 4254168810

観光地理学 1（都市）

Geography of Tourism 1 (Urban Area)

Site and Situation にみる都市空間の旅、あるいは観光

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB064

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域と景観に着目し、人の移動と観光現象を空間的な視点から考察する能力を培う。

Focusing on regions and landscapes, students cultivate the ability to consider the movement of people and the phenomenon of tourism from a spatial perspective.

授業の内容 / Course Contents

国内外の地方都市をおもに取り上げて、その起源・成長と地域的性格がいかに観光地域の形成に結びついているのか、観光地理学の方法を用いて多様な空間スケールから考察する。授業の内容を手がかりに考察を深めるためには、机上における地図の読解や地形図の判読が欠かせない工程となる。

This course mainly examines regional cities both within and outside of Japan, including how their origins, growth, and regional characteristics are connected to formation of a tourist region. Using tourism geography methods, we will consider them from diverse spatial scales. Reading the tabletop maps and interpreting the topographical maps are essential processes for deepening your consideration of the points in the class content.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：観光地理学の視点と方法
- 2回：観光現象の空間スケール1
—地図の利用と読解—
- 3回：観光現象の空間スケール2
- 4回：観光と景観1
—自然と人間の共同作業—
- 5回：観光と景観2
- 6回：観光地化1
—空間分布と土地利用—
- 7回：観光地化2
- 8回：観光と地域1
—分布域と地域変化—
- 9回：観光と地域2
- 10回：観光地域の形成と変化1
—人の移動・流動と地域の形成—
- 11回：観光地域の形成と変化2
- 12回：観光の地域分化1
—Areal Differentiation—
- 13回：観光の地域分化2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

地理学の授業にとって、地図と地図帳は「辞書」である。というのも、授業で取り上げる地域や場所の地理的位置を理解しなければ、授業の内容をもとに自らの考察を深めることは難しいためである。そこで、履修者は教室で配付される地図とは別に、自身の地理的知識に応じた地図帳などを手元に用意して、教室の内外で辞書のように繰り返し参照すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :88%

平常点割合 :12% 授業内の課題・提出物:12%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

観光人類学 1（文化の表象）

Anthropology of Tourism 1 (Cultural Representation)

人類学博物館リトルワールドを解剖する

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB073

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学術的な人類学博物館であると同時に観光施設でもある「野外民族博物館リトルワールド」（愛知県犬山市）を解剖しよう。人類学とは何か、博物館とは何か、民族文化とはどのようなものとして表象されるのか、について実践的・自省的に考えることを目指した、演習・研修旅行型の授業です。

This course aims to consider the following: What is anthropology? What is a museum? In this course, which has a seminar/training format, students analyze the “Little World Museum of Man” (Inuyama City, Aichi Prefecture), an academic anthropological museum

授業の内容 / Course Contents

「ライティング・カルチャー」論（民族誌論）や「近代的な芸術・文化システム」論に関する導入的授業、リトルワールドの野外展示・本館展示・収蔵庫の見学（研修旅行）に加えて、リトルワールドに住居建築等が移築・復元されている世界各地の諸民族の中から履修学生各人が1つを選んで、民族誌的データの提示を含む発表を行います。<リトルワールド研修旅行は10月下旬～11月上旬の週末2日間を予定しています。授業の履修者は、このリトルワールド研修に参加できる学生とします><人類学研究あるいは博物館展示に強い関心を

持つ学生の履修を歓迎

After taking introductory courses and visiting Little World's outdoor exhibitions, main buildings, and repositories, each student selects one of the ethnic groups from around the world whose residential buildings, etc. have been relocated and restored at Little World and make a presentation including ethnographic data, while taking into account their own tour experiences.

Note: Visits to Little World will be scheduled for weekends (Saturday and Sunday) from late October to early November. Only students who can participate in this two-day workshop can enroll in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：リトルワールドの概要説明，発表の分担・順番や研修旅行日程についての相談・調整などを開始しますので，履修希望学生は必ず第1回授業から参加してください。第2回からの参加(履修)は困難です。
- 2 回：人類学博物館とは，民族誌的記述とは。授業計画の決定。
- 3 回：民族誌的データの発信とは，誰のため，何のために，どのように行われるのか。リトルワールド等での『北欧・トナカイ遊牧民の工芸』展(北欧閣僚評議会主催)，TBSの番組『世界遺産：サーミ人地域』，伊勢丹百貨店での『Christmas Journey 2014』のサーミ展など，授業担当者自身が人類学者として監修・協力してきた種々のサーミ文化の紹介・発信の試みを事例に。
- 4 回：リトルワールド研修旅行。10月下旬～11月上旬の週末2日間：土曜日(朝から夕方まで)・日曜日(朝から昼過ぎまで)を予定。
- 5 回：履修学生による発表と議論。
- 6 回：履修学生による発表と議論。
- 7 回：履修学生による発表と議論。
- 8 回：履修学生による発表と議論。
- 9 回：履修学生による発表と議論。
- 10 回：履修学生による発表と議論。
- 11 回：履修学生による発表と議論。
- 12 回：履修学生による発表と議論。
- 13 回：履修学生による発表と議論。
- 14 回：総括的議論。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

リトルワールド発行の雑誌『リトルワールド』『リトルワールド研究報告』や千里文化財団(国立民族学博物館)発行の雑誌『季刊民族学』など各種の資料を用意しますが，自分が担当して授業内発表をする地域・民族に関する民族誌的データの収集には自らも積極的に取り組んで下さい。リトルワールドのホームページや，授業担当者が執筆した以下の小エッセイ：観光学部雑誌『交流文化』06号中の「リトルワールドと人類学的営み」，16号中の「【見せたい】と【見たい】をつなぐ：博物館展示は誰のためにあるのか?」，同16号の「文化収

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:70% 出席・授業への取り組み:30%

テキスト / Textbooks

随時, 資料を紹介します。

参考文献 / Readings

吉田憲司 『文化の「発見」』 岩波書店 1999年

ジェイムズ・クリフォード 『文化の窮状』 人文書院 2003年

観光人類学 8 (生態)

Anthropology of Tourism 8 (Ecology)

自然をめぐる「観光」の環境人文学

宮内 洋平 (MIYAUCHI YOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB074

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境人文学とマルチスピーシーズ人類学のアプローチに基づきながら、「自然」をめぐる権力の諸相をアフリカ、イギリス、日本の具体的な事例から学ぶことで、自然を対象とする観光を批判的に捉え直し、エコロジカルな場所の構築に向けた視野を養うことを目標とします。

Based on Environmental Humanities and Multi-species Anthropology, students are required to understand power relations among "nature" through various cases in Japan, UK and Africa. This gives students the opportunity to critically rethink nature-targeted t

授業の内容 / Course Contents

「自然」は人間の思想や活動に基づいて社会的に構築されてきたものであり、生産され、表象され、展示され、消費されてきました。この授業ではイギリス、アフリカ、日本を対象に自然をめぐる「観光」がどのように形成されてきたのかを具体的な事例を通して学びます。近代以降の帝国支配や近代国家の形成に「自然」は大きな役割を果たしました。なかでも植物園、博物館、国立公園、博覧会などの自然を展示する文化・観光施設やイベントはナショナリズムに基づく自然景観を形成してきました。近年は少数民族が「主体的」に参加す

るエコツーリズムが推奨

"Nature" has socially created by human activities and thoughts and it has been produced, represented, exhibited and consumed. This course analyzes how nature-related tourist destinations have been created with reference to specific cases in Japan, UK and Africa. Nature played an important role in the colonization by the modern empire and the building of the modern nation states. Cultural and tourist facilities and events that showcase nature, such as botanical gardens, museums, national parks, and expositions, have shaped the natural landscape based on nationalism. In recent years, ecotourism in which indigenous peoples subjectively participate has been encouraged. In Japan, the value of Satoyama was discovered, and residents are subjectively engaged in conservation activities. Satoyama has also become popular as a venue of art festival and a tourist site. These show us a kind of potential, but at the same time need to be critically analyzed. The course explores how ecological places can be created in times of change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：環境人文学とマルチスピーシーズ人類学の射程
- 2 回：生態学的帝国主義と生物多様性の危機
- 3 回：植物園による世界征服： プラントハンターとアフリカ
- 4 回：帝国林業と在来知： エコロジーの 20 世紀から 21 世紀の焼畑実践へ
- 5 回：国立公園と自然保護： イギリス帝国の環境・観光史
- 6 回：住民参加型保全とエコツーリズム
- 7 回：自然の遺産化とプロパガンダ
- 8 回：博覧会と人種主義
- 9 回：「里山」の発見： 里山ブームと原風景
- 10 回：里山をめぐる言説の批評： ランドスケープ、場所、ゾーン
- 11 回：里山と芸術祭： 地域アート批評
- 12 回：マルチスピーシーズな里山： マツタケとウルシを生み出す能動的な景観
- 13 回：グリーンシティのパラドクス
- 14 回：まとめ： 場所の構築へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

不明な専門用語は事典や教科書の書籍等で調べる。新聞やインターネット記事などから講義内容に関連する事項を調べて深める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト (10% x 5 回) :50% 授業への参加度 (質問・コメントの提出) :10%

最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しません。

参考文献 / Readings

奥野克巳ほか モア・ザン・ヒューマン： マルチスピーシーズ人類学と環境人文学 以文社 2021
9784753103645

近藤祉秋ほか 食う、食われる、食いあう マルチスピーシーズ民族誌の思考 青土社 2021
9784791774227

森正人 文化地理学講義 新曜社 2021 9784788517394

結城正美ほか 里山という物語： 環境人文学の対話 勉誠出版 2017 9784585221807

草光俊雄・菅靖子 ヨーロッパの歴史 2 植物からみるヨーロッパの歴史 放送大学教育振興会 2015
9784595315473

前川啓治ほか 21世紀の文化人類学 新曜社 2018 9784788515826

観光社会学 6（若者）

Sociology of Tourism 6 (Youth Culture)

若者文化の歴史をメディア論、消費社会論、観光社会学の側面から考察する

新井 克弥 (ARAI KATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB083

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

若者論とは世代世代における若年層（20歳前後）の行動一般について考察する分野である。70年代から立ち上がった本研究分野は、以後一貫してアカデミズムのみでなく、一般にも広く親しまれている。本講義では、若者論概論と称して、その構造と歴史、そしてパラダイムの問題点など全般について考察する。観光については若者とツーリズム、とりわけバックパッキングに注目する。

Youth theory is a field that examines the general behavior of young people (around 20 years old). In this lecture, entitled "Introduction to Youth Theory," we will examine the structure and history of this field, as well as the problems of its paradigm.

授業の内容 / Course Contents

若者論は「若者についての議論」であるが「当事者＝若者が語る議論」ではない。それゆえ議論そのものが大人社会の思惑に基づくと同時に、一般社会を照射する、あるいは一般社会の未来を占うものともみなされていることを認識する。言い換えれば若者論という議論それ自体の相対化を学習の達成目標とする

Youth theory is a "discussion about youth," but it is not a "discussion about the young people involved. Therefore,

it is important to recognize that the discussion itself is based on the speculation of adult society, and at the same time, it is regarded as something that illuminates general society or predicts the future of general society. In other words, the goal of the study is to relativize the discussion of youth theory itself.

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：若者論とは何か。シラバスに基づき講義内容を説明する。

若者論というジャンル全般についてのオーバービュー。とりわけ、これが一つの文化社会論であることを確認する。

2回：若者論の歴史（1）：若者論以前:青年論の時代

若者論の前史として江戸時代から戦後に至る若者像＝青年の描かれ方について見ていく。

3回：若者論の歴史（2）：団塊の世代

若者論の前史として60年代の若者像について触れる。当時の若者の呼称となっていた団塊の世代のイメージを媒介としてサブカルチャー、学生運動、消費文化の広がりを見ていく。

4回：若者論の歴史（3）：青年論

70年代、若者論は心理学の影響を受け青年論と呼ばれていた。E.エリクソンによる発達段階論の「青年期」に該当する世代が分析対象となったためである。この文脈での若者論を展開する。

5回：若者論の歴史（4）：モラトリアム人間とやさしさの時代

70年代若者論の議論の基調となった小此木啓吾のモラトリアム人間論とやさしさ論（栗原彬と大平健）を取り上げる。

6回：若者論の歴史（5）：消費の旗手としての新

80年代、若者論は「若者文化論」という言葉に置き換えられる。そして若者は「新人類」と呼ばれ、消費社会の旗手としてみなされるようになった。これについて見ていく。

7回：若者論の歴史（6）：切り捨てられた若者、そして議論の多様化

90年代、若者は消費だけではなく労働者として、女性として、若年層として、地域居住者としても語られるようになる。こういった多方面からの議論展開の嚆矢となった宮台真司の議論を取り上げる。

8回：メディアと若者 a～マスメディアとの関わり

メディアとりわけテレビ、ビデオ、雑誌、ビデオゲームと若者の関係について考えていく。

9回：メディアと若者 b～ケータイ、スマホ、SNS との関わり

ポケベル・ケータイからスマホに持ち替えることで、若者の情報行動がどのように変化したのかについて考えていく。

10回：消費と若者

消費者、とりわけ「ヤング」「分衆」「オタク」としての若者について考える。

11回：若者とコミュニケーション(1)

若者のコミュニケーション形態はどのように変化していったのか。カプセル人間、みんなぼっち、やさしさといった概念を用いながら考える。

12回：若者とコミュニケーション(2)

2000年以降に出現した若者のコミュニケーションスタイルについて考察する。キーワードは空気を読む、友だち地獄、サードプレイス等。

13回：旅と若者（1）～バックパッキングの60～70年代

若者と旅の関係について戦後以降の変容を見ていく。ちなみに、ここではこれまで提示してきた各種概念を様々に運用し、若者の旅について考察していく。とりわけこの回では国内バックパッキングに注目する。

14回：旅と若者（2）～バックパッキングの80年代～

80年代バックパッキングはメディアと旅をめぐるインフラストラクチャーの発展により、若者を海外に押し出すことになる。さらに21世紀に入るとインターネットとスマホ、SNSの出現によりバックパッキングのスタイルが根本的に変容を来すようになるが、その動向を見ていく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を事前に読んでおいていただければ、講義の理解が進みます。また、毎回コメントを求めますが、これはいくつかをピックアップして次の階の講義でリアクションします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパーへの書き込み:20%

テキスト / Textbooks

-
-
-
-
-

参考文献 / Readings

小谷敏編 若者論を読む 世界思想社 1993 4790704815

新井克弥 バックパッカーズタウン・カオサン探検 双葉社 2000 4575291129

山口誠 ニッポンの海外旅行～若者と観光メディアの50年史 ちくま新書 2010 4480065598

早川洋行編 よくわかる社会学史 ミネルヴァ書房 2011 4623059901

小谷敏編 二十一世紀の若者論—あいまいな不安を生きる 世界思想社 2017 4790716937

須藤廣他編 よく分かる観光コミュニケーション ミネルヴァ書房 2022 4623091872

観光社会学 2（移動）

Sociology of Tourism 2 (Mobility)

観光社会学のフロンティア

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB084

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会学の基礎的な考え方を理解し、社会学の観点から観光行為／観光現象を分析するための手法を習得する。

By understanding the basic modes of thought in sociology, students in this course acquire methods to analyze tourism behaviors and tourism phenomena from sociological perspectives.

授業の内容 / Course Contents

モダニティ、真正性、まなざし、メディア、ローカリティ、パフォーマンス、モビリティ、参加などをキーワードに、観光社会学の基礎的概念から最新の研究動向までを学ぶ。

With the keywords "modernity," "authenticity," "gaze," "media," "locality," "performance," "mobility,"

"participation," etc., this course covers the basic concepts of Sociology of Tourism as well as the latest research trends.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス 観光社会学の問題系

2 回：観光と社会学と近代

- 3回：大衆観光の誕生
 4回：観光のオーセンティシティ
 5回：ディズニーランド・本物・偽物
 6回：ディズニーランド化する社会
 7回：危険なまなざし
 8回：ローカリティへのまなざし
 9回：日本へのまなざし
 10回：日本を「発見」する旅
 11回：まなざしからパフォーマンスへ
 12回：観光のパフォーマティヴな揺らぎ
 13回：モバイルな世界
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド* (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

リアクションペーパーおよび課題の提出が授業毎にそれぞれ課される。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 課題:40%

テキスト / Textbooks

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874 ○

参考文献 / Readings

安村克己他 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

大橋昭一 観光学ガイドブック ナカニシヤ出版 2014 9784779508264

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会学や観光社会学の基礎的な概念や考え方を習得していること。

「観光社会学概論」を履修済であることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料はすべて授業支援システムで共有します。ノート PC やタブレットで表示するか、事前に各自で印刷したうえで受講してください。教室での紙資料の配布はおこないません。

観光社会学 1（都市）

Sociology of Tourism 1 (City)

都市のグローバル化とホテル

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB085

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光の基本施設としてのホテルが有する社会的・文化的意味の分析を通して、グローバル化に伴う移動の結節としての都市を観光の視点から具体的に理解することを目標とする。

From the viewpoint of tourism and through analysis of the social and cultural meaning of the hotel as the basic tourism facility, this course aims to understand the city as the node of mobility accompanied by globalization.

授業の内容 / Course Contents

ホテルという西洋近代発祥の施設の地球規模での普及・一般化が生み出した社会的・文化的意味について、特に非西洋社会（日本およびアジア）におけるホテルの成立と展開を重視しながら複数の事例について比較分析し、観光を含む移動がもたらすグローバル化とローカル化のせめぎあいとその帰結として成立する都市におけるホテルという文化空間の性格を解明する。

While analyzing social and cultural meaning created by proliferation and homogenization of Western-style facilities, such as hotels, and, in particular, emphasizing establishment and development of hotels in non-western societies (Japan and Asia), this course examines a number of case studies. By comparative analysis, it elucidates

the nature of cultural space “hotels” in cities established as a consequence of globalization and localization brought on by the mobility that includes tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：グローバル化・移動・都市をめぐる分析枠組の検討(1)
- 3回：グローバル化・移動・都市をめぐる分析枠組の検討(2)
- 4回：都市とホテル
- 5回：グローバル化とホテル
- 6回：非西洋社会におけるホテル：日本の事例（1）
- 7回：非西洋社会におけるホテル：日本の事例（2）
- 8回：非西洋社会におけるホテル：日本の事例（3）
- 9回：非西洋社会におけるホテル：日本の事例（4）
- 10回：非西洋社会におけるホテル：アジアの事例（1）
- 11回：非西洋社会におけるホテル：アジアの事例（2）
- 12回：非西洋社会におけるホテル：アジアの事例（3）
- 13回：非西洋社会におけるホテル：アジアの事例（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

分析の対象として取り上げる諸事例に関する関連資料を事前・事後に当たり、事例に関する理解を深めること。また、受講者各自が有する経験を客体化し、講義の内容と照らし合わせ、事例分析の一助とすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%
 平常点割合 :30% 授業時のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

適宜紹介する

観光人類学 4 (宗教)

Anthropology of Tourism 4 (Religion)

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB086
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学の一ジャンルである宗教人類学の観点から、ツーリズムや消費社会と宗教との関連を学ぶ。

From the perspective of the anthropology of religion, students will study the relationship between tourism, consumer society and religion.

授業の内容 / Course Contents

人類学における先行研究や事例研究をもとに以下の問いについて考え、人類学的宗教研究の知識を身につける。

- 「宗教」とは何か。または何であると議論されてきたか
- 「宗教」がツーリズムと結びつく社会的なメカニズムはどのようなものか
- 「宗教」と「観光」の境界を引くことは可能か

Drawing on previous research and ethnographic studies in cultural anthropology, we consider the following questions:

1. What is "Religion"? Or, what has been discussed on "religion" in Cultural Anthropology and Sociology of Religion?

2. What are the social mechanisms by which "religion" is linked to tourism?

3. Is it possible to draw a boundary between "religion" and "tourism"?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：「宗教」概念の再検討
- 2回：世俗化と拡散宗教
- 3回：巡礼とツーリズム
- 4回：聖地開発と文化遺産
- 5回：物質宗教論と「聖」の商品化
- 6回：「片付け術」に見る部屋とモノの宗教性
- 7回：寺社参詣と政教分離：憲法判例を読む
- 8回：心霊スポットと「死」の観光
- 9回：スピリチュアリティと消費社会
- 10回：陰謀論とスピリチュアリティ
- 11回：食と宗教
- 12回：集合的沸騰 (Collective Effervescence) (1)：ポピュリズム、デマゴグ
- 13回：集合的沸騰 (Collective Effervescence) (2)：祝祭、スポーツ、メディアイベント
- 14回：人類学から見たコンテンツツーリズムおよび「アニメ聖地巡礼」研究

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

資料・テキストの事前読解及びコメントの用意が必要な場合がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポートおよびコメントペーパー:30%

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

開講時に指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

①批判的思考：ここで言う「批判的」とは否定や批難を意味しない。批判的とはすなわち、ものごとを多角的に見ることでそれまで当たり前だと見なしてきたものを相対化し、自身の常識や社会的通念、規範に別の見方を獲得することである。こうした思考の形に対して積極的であったり、抵抗感がない姿勢は一種の「能力」として求められるが、既に備わっている必要はなく、むしろ学習していくものである。

②批判的思考を養うには、何にでも好奇心を持ち、いかなる事象にも見方によっては面白さが存在するという事に気付くことである。面白さは自分自身

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

観光と社会 3（政策）

Tourism and Society 3 (Cultural Policy)

文化政策とモビリティ

別所 裕介 (BESSHO YUSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

3 年の間続いた感染症の猛威、並びにユーラシア大陸の西側で勃発した 2 つの戦争を受けて、私たちのこれまでの日常における「当たり前」が根幹から揺らいでいる。こうした中で観光業においても、「旅」が生み出す経験の価値について根本的な見直しの機運が高まっている。だがそうした抜本的な見直しに当たっては、既存の観光行政や制度設計だけではなく、近代観光業の発展経路自体を捉え返す「外部」の目線も必要ではなかろうか。本講義では、そうした外的視座のひとつとして、近代ツーリズムの流れからは零れ落ちてしまう「アウトローの旅」を取り上

With the three-year-long ferocity of Covid-19 and two wars in the western part of Eurasia, the "norm" of the past is no longer applicable in everyday life. Under these circumstances, there is also growing momentum in the tourism sector to fundamentally re

授業の内容 / Course Contents

・本講義では、通常の観光モデルからは零れ落ちてしまう「極限的な旅」のあり方を、近代の制度やシステムによる拘束から離れようとする「自由な人間像」への挑戦として受け止め、具体的に検討する。

・題材として、「自然へのあくなき挑戦」と「イデオロギーを乗り越える実践」の2つの局面を設定し、「冒険者」や「イリーガルな越境者」の個別事例から、「自由であること」と移動（モビリティ）の根源的な関係にアプローチする。

・上記の目標のため、以下の講義スケジュールで順次検討を進め、最後に全体の論点を総括する。

①第1回～3回：ガ

In this lecture, we will concretely examine the "extreme journey" that falls outside the usual tourism model, taking it as a challenge to the "free human figure" that tries to leave the restraints of modern institutions and systems.

The fundamental relationship between freedom and mobility is approached through individual cases of 'adventurers' and 'illegal border crossers', based on two aspects: the 'relentless challenge to nature' and the 'practice for overcoming ideology'.

In order to achieve the above objectives, the following lecture schedule will be used to examine the issues sequentially, and the overall discussion will be summarised at the end of lecture.

Sessions 1 to 3: Guidance and presentation of the analytical framework

Sessions 4 to 7: The "Nature" section examines the challenges of individuals who have found extreme freedom in confronting bare nature.

Session 8: Summary of the "Nature" section

Sessions 9 to 12: The "Thought" section focuses on people who pursue the "self" and resist absurdity in the face of ideological domination.

Session 13: Summary of the "Thought" section

Session 14: Summary of the whole course

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション～ポスト・コロナ時代の「自由」と文化行政
- 2回：概念整理①～自然と文化
- 3回：概念整理②～伝統と近代
- 4回：自然篇～極限への挑戦
- 5回：前近代の冒険者～苦行者とニルヴァーナ
- 6回：近代の冒険者～「チベット入り」を目指した人々
- 7回：現代の冒険者～極地における「生」と「死」
- 8回：自然篇のまとめ～「冒険者たち」にとってのゴール
- 9回：思想篇～イデオロギーの時代
- 10回：狂う人～緒方正人と「いのちの海」
- 11回：パスポートの向こう側～佐々井秀嶺とインド
- 12回：イリーガルな越境～現代中国のスピリチュアル・ツーリズム
- 13回：思想篇のまとめ～束縛と依存
- 14回：総括～「自由な人間性」と移動（モビリティ）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・事前学習：事前にオンライン（Canvas LMS を使用予定）で配布されるレジюме（穴埋め問題あり）および資料を読み込んで当日の講義に臨むこと。

・講義時間外：すべての講義資料、ならびに復習用の教材は<Canvas LMS>を通じて受講者に配信される。毎回の講義後は、これらの教材に目を通して講義内容のおさらいを進め、各回ごとの学修を深めること。

・なお、参考文献は講義スケジュールと対応している。受講者は <参考文献>の欄に示した【読書案内】に従って、No.1~No.7 の書籍を出来る限り事前に読み込んでおく

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 受講状況（リアクションペーパー）:40% 小レポート（小テスト）:10%

平常点の評価に当たっては、各回のリアクションペーパーの充実度、特に講義内容への主体的な参加姿勢が読み取れるものを高く評価する。

テキスト / Textbooks

特に定めないが、下記<参考文献>の No.1~7 を、対応する講義回の前に閱讀しておくこと（詳細は【読書案内】参照）。

参考文献 / Readings

服部文祥 サバイバル登山家 みすず書房 2006 9784622072201

井田克征 世界を動かす聖者たち 平凡社 2014 9784582857245

西川一三 秘境西域八年の潜行 中央公論社 1991 9784122017733

ジョン・クラカワー 荒野へ 集英社文庫 2007 9784087605242

大野哲也 旅を生きる人びと—バックパッカーの人類学 世界思想社 2012 9784790715672

緒方正人 チツは私であった：水俣病の思想 河出書房新社 2020 9784309417844

白石あづさ 世界が驚くニッポンのお坊さん：佐々井秀嶺、インドに笑う 文藝春秋 2019 9784163910369

【読書案内】

・No.1 と No.3 以外の書籍は文庫本、もしくは KINDLE の形式で比較的安価に手に入るので、可能な限り事前に読み込んでおいてほしい。

・受講スケジュールと参考文献（No.）の関連は以下のとおりである。

第4回講義 = No. 1

第5回講義 = No. 2

第6回講義 = No. 3（資料としてはダイジェスト版を提供予定）

第7回講義 = No. 4

第9回講義 = No. 5

第10回講義 = No. 6

第11回講義 = No. 7

・各回の講義実施までに目を通しておくことが必須となる上記文献資料については、受講者が事前にオ

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

グローバル化の中で深まる国家／データ覇権主義と、その支配の網の目を逃れる道を独特なやり方で迫する人々のローカルな営みに関心を持つ学生の受講を期待します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

①講師 WEB サイト：<https://sites.google.com/view/amdostudiesjp>

②20代のほとんどの時間を、自転車による人力移動を中心とするアジアひとり旅と、そのための資金稼ぎに費やしてきました。その時の経験がこの講義の素になっています。

観光文学 5（思想）

Tourism Literature 5 (Philosophy of Travel)

観光経験を巡る哲学的考察

原 一樹 (HARA KAZUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB107

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、人間の観光経験を構成する様々な基本的概念について、哲学・倫理学理論や古今東西の文学作品を参照しつつ考察を深める。受講生は、自分自身の旅をより豊かに経験し反省するための力、人々に対して意義深い観光経験を提供するための基礎となる力を身に付ける。

This course aims to deepen the understanding of fundamental concepts that constitute tourism experience through the examination of texts of philosophy, ethics and literature all times and places. Students will acquire the ability to experience and reflect

授業の内容 / Course Contents

この講義では、旅行前・旅行中・旅行後のそれぞれの場面において、観光経験を構成する基本的概念について、哲学・倫理学理論や文学作品を参照しつつ検討する。旅行前については想像力と欲望、旅行中については知覚・感情・理解、旅行後については主体の変容、語り、価値創造の概念をそれぞれ取り上げる。各場面について受講生にレポートを作成して貰い、レポート内容をもとにした受講生同士のディスカッションの回を設ける。

This course examines the fundamental concepts of tourism experience by referring to various texts of philosophy, ethics and literature. The course will be divided in three parts, namely, pre-tour stage, on-tour stage and post-tour stage. The fundamental concepts will be examined along these stages. Students will be required to submit three reports and to participate in discussion with other students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 観光経験の研究状況
- 2回：旅に向かう想像力と欲望の編成 1 全体の見取り図
- 3回：旅に向かう想像力と欲望の編成 2 哲学・倫理学との関わり
- 4回：旅に向かう想像力と欲望の編成 3 文学作品における事例
- 5回：グループディスカッションと報告
- 6回：旅における知覚・感情・理解 1 全体の見取り図
- 7回：旅における知覚・感情・理解 2 哲学・倫理学との関わり
- 8回：旅における知覚・感情・理解 3 文学作品における事例
- 9回：グループディスカッションと報告
- 10回：旅のもたらす効果－主体の変容、語り、価値創造 1 全体の見取り図
- 11回：旅のもたらす効果－主体の変容、語り、価値創造 2 哲学・倫理学との関わり
- 12回：旅のもたらす効果－主体の変容、語り、価値創造 3 文学作品における事例
- 13回：グループディスカッションと報告
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業開始までに教員が配信するテキストを読んでおくこと。授業終了後、当該授業のコメントを提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み（毎回のコメント提出）：40% 第2回～第4回内容に関するレポート：20% 第6回～第8回内容に関するレポート：20% 第10回～第12回内容に関するレポート：20%

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

観光文学 2 (S F)

Tourism Literature 2 (Science Fiction)

観光と空想旅行の系譜学

加藤 一輝 (KATO KAZUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB108

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

旅の形態の変遷と、それが可能にした想像力による空想旅行記について学ぶことで、各時代の旅の欲望を分析する。

By learning about the change of travel form through the eras and the fictional travelogues written by the imagination based on contemporary factors, we will analyse the desire underlying these travels and travelogues.

授業の内容 / Course Contents

古来より人間は旅へ出かけていたが、現在わたしたちが行なっているような周遊や観光といった旅そのものを楽しむための旅は、18 世紀以降に隆盛した比較的新しい形態である。この授業では、まず最初の 5 回で、近代における旅の形態の変遷をたどる。また、旅に際して書かれた旅行記という形式は、文学にフィクションを語るための枠組みを与え、多くの作品を生み出す契機となった。後半では、さまざまな時期に書かれた空想旅行記を読み、それぞれの旅の主眼が何であるかを知ること、各時代ごとの世界認識の特徴を解明する。時間が許せば、既存の作品

Travel has a long history. But travel for the enjoyment of travel itself, such as excursions and tourism, as we do

today, is a new form of travel flourished since the 18th century. In the first part of the course we will trace the history of modern travel. The second part of the course is aimed to analyze the fictional travelogues written in many centuries. The form of the travelogue provides literature with a framework for telling fictional stories. By reading fictional travelogues and finding the subject matter of each work, we will elucidate the specific worldview in their eras. If time permits, we will also hold an atelier d'écriture (writing workshop) for writing own travelogues or fictional travelogues, referring to works covered in course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：観光(1)：イントロダクション——旅行記と旅文学
- 2回：観光(2)：ツーリズムのさきがけ——グランドツアー
- 3回：観光(3)：原風景を求めて——景観の再発見
- 4回：観光(4)：崇高から観光へ——ロマン主義と登山ブーム
- 5回：観光(5)：過去への旅、未来への旅——廃墟論を読む
- 6回：空想旅行(1)：新奇なものの発見——東方見聞録／見えない都市(1)
- 7回：空想旅行(2)：新奇なものの発見——東方見聞録／見えない都市(2)
- 8回：空想旅行(3)：諷刺としての空想旅行——日月両世界旅行記(1)
- 9回：空想旅行(4)：諷刺としての空想旅行——日月両世界旅行記(2)
- 10回：空想旅行(5)：文明の相対化——ブーガンヴィル航海記／ブーガンヴィル航海記補遺(1)
- 11回：空想旅行(6)：文明の相対化——ブーガンヴィル航海記／ブーガンヴィル航海記補遺(2)
- 12回：空想旅行(7)：旅と速度——八十日間世界一周(1)
- 13回：空想旅行(8)：旅と速度——八十日間世界一周(2)
- 14回：空想旅行(9)：旅をしない旅——部屋をめぐる旅

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

岡田温司 『グランドツアー 18世紀イタリアへの旅』に目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・リアクションペーパー:20% 中間レポート:40% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- イタロ・カルヴィーノ 見えない都市 河出文庫 2003 9784309462295
 シラノ・ド・ベルジュラック 日月両世界旅行記 岩波文庫 2005 9784003250617
 デイドロ ブーガンヴィル航海記補遺 岩波書店 2007 9784000088534
 ジュール・ヴェルヌ 八十日間世界一周 岩波文庫 2001 9784003256930
 グザヴィエ・ド・メーストル 部屋をめぐる旅 幻戯書房 2021 9784864882316
 ウンベルト・エーコ 異世界の書 東洋書林 2015 9784887218215

観光文学 1（移動）

Tourism Literature 1 (Migration)

東京という〈場〉の文学的考察

齋藤 秀昭 (SAITO HIDEAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間の〈移動〉が生み出すダイナミズムとして形成されて来た東京という〈場〉を、東京を舞台にした日本近代文学の名短篇の読解を通して分析していきたい。それは、〈場〉の重層的な歴史性を文学的な方面から理解することによって、観光学的地域振興のありかた（「聖地巡礼」的行為の学問化）について考える試みとなるだろう。

This course focuses on "Tokyo" as a topos that is achieved by dynamism of human migration. This course aims to analyze modern Japanese short stories in Tokyo's background. To gain an understanding of multi-historical topos from literature, we think of reg

授業の内容 / Course Contents

東京を舞台にした日本近代文学の名短篇を毎回取りあげ、それらの作品が描き出してきた〈場〉としての東京を考察していく。それは人やモノが〈移動〉し交流する中で歴史的に形成されていく〈場〉について考えるということである。地域振興をおこなう際に欠かせないのは、ハード面ばかり考えるのではなく、生身の人間が「生きる・生きた」時空間としての〈場〉を創造（想像）的に把握することだろう。その訓練を受講者相互

の意見交換を交えながら、実践していく。

This course follows modern Japanese short stories with Tokyo as the background and analyze descriptions of Tokyo. The historical topos of human and materials migration are also considered. Regional promotion needs not only hardware but also human living and thinking as software. Students' learning will be discussion-based.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業に関する説明、東京概論）
- 2回：樋口一葉「十三夜」の読解と意見交換
- 3回：泉鏡花「夜行巡查」の読解と意見交換
- 4回：国木田独歩「窮死」の読解と意見交換
- 5回：永井荷風「監獄署の裏」の読解と意見交換
- 6回：森鷗外「普請中」の読解と意見交換
- 7回：室生犀星「公園小品」の読解と意見交換
- 8回：伊藤整「M百貨店」の読解と意見交換
- 9回：太宰治「東京八景」の読解と意見交換
- 10回：壺井栄「鷺宮二丁目」と上林暁「国民酒場」の読解と意見交換
- 11回：稲垣足穂「有楽町思想」の読解と意見交換
- 12回：林芙美子「下町」の読解と意見交換
- 13回：遠藤周作「札の辻」の読解と意見交換
- 14回：総括（まとめ）、最終レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト3冊を必ず購入した上で、授業で扱う作品は当日までに熟読し、リアクションペーパーを完成させておく（これだけは怠らないでほしい）。

復習として、未だ終息してはいないコロナ禍におけるマナーを遵守しながら、「聖地巡礼」的課外活動に各自取り組んでもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ほぼ毎回提出のリアクションペーパー：60% 最終レポート割合：40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得の対象外となる可能性がある。

テキスト / Textbooks

ロバート キャンベルほか編	東京百年物語 1	岩波文庫	2018	9784003121719	○
ロバート キャンベルほか編	東京百年物語 2	岩波文庫	2018	9784003121726	○
ロバート キャンベルほか編	東京百年物語 3	岩波文庫	2018	9784003121733	○

必要に応じてプリントを配布することもある。

参考文献 / Readings

立教大学観光学部編 大学的東京ガイド—こだわりの歩き方 昭和堂 2019 9784812218143

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

教員の講義以外に受講者同士の対話（話し合い）や議論をおこなっていくので、他者と気軽にコミュニケーションをとる姿勢が必須。

一方通行的な授業にはせず、参加者全員で「観光文学」作品の魅力や価値を発見していこうと思っているので、是非その創造的営みを楽しみつつ、各自学修に励んでもらいたい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料の閲覧や自分のリアクションペーパーの内容を参照する場面があらうかと思うので、ノートパソコンやタブレットを持参できる人は持参してほしい。

その他/ Others

学生への連絡や授業資料の配付、課題の提出及びその評価等は、全て「Canvas LMS」を通しておこなう。

受講者に興味を抱いてもらえるよう、スライドや書画カメラを用いて各種資料を活用する。

リアクションペーパーは毎回採点し、優れたものや興味深いものを授業中に紹介することで全体共有する（これが本授業におけるフィードバックとなる）。

教室では4人一組になるような形で着席すること（2回目の授業から「指定席」にするが、全て話し合いを円滑に進めるための措置である）。

観光と社会 6（国際関係）

Tourism and Society 6 (International Relations)

激動する国際関係を理解するために

今泉 良太 (IMAIZUMI RYOTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

国境を超えて移動する人間・お金・サービスなどの増大は世界的範囲で大きな社会変動を及ぼしている。本講義では、そうした現在の国際社会を理解するための視点を得ることを目標とする。

This course aims to gain perspectives for understanding the current state of international society, focusing on the increased movement of people across borders that is causing major social changes on a global level.

授業の内容 / Course Contents

移民・移住・観光など人間の国際間移動がこれまでどのような形で行われてきたかについて歴史的・政治的・経済的視点から講義していくこととする。またグローバル化がいつそう進みつつある現在における問題点、さらに最も身近な日本における現状や問題点についても考察する。

From historical, political, and economic perspectives, this course offers information on past forms of international movements of people, such as emigration and migration. The course also examines current problems caused by advancing globalization and by conditions and problems now most familiar in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：国境を超える人の移動　－移民・移住・観光－
 2回：人の移動の発生要因
 3回：国境を超える人の移動と国民国家
 4回：国境を超える人の移動の歴史1
 5回：国境を超える人の移動の歴史2
 6回：日本から海外への人の移動の歴史1
 7回：日本から海外への人の移動の歴史2
 8回：日本国内のグローバル化
 9回：国境を超える人の移動と安全保障問題
 10回：観光と国際関係1
 11回：観光と国際関係2
 12回：グローバル化と国際観光1
 13回：グローバル化と国際観光2
 14回：まとめと総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

インターネット・新聞・書籍・テレビ・ラジオなどを通じて常に国内外の政治・経済・社会の最新情勢を把握するように努めること。また授業中に紹介する参考文献についても読むように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパーの内容(複数回):50%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて教材を配布する。

参考文献 / Readings

S. カールズ他 『国際移民の時代』（第4版）名古屋大学出版会 2011 4815806551

吉原和男など編 『人の移動事典－日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版 2013
4621087193

川田侃・大畠英樹編 『国際政治経済辞典』（改訂版）東京書籍 2003 4487732336

国土交通省観光庁 『観光白書』（各年版）国土交通省観光庁

バティスト・コルナバス 『地政学世界地図:超約 国際問題 33 の論点』東京書籍 2020 4487813379

その他、授業時に内容に応じてその都度必要な書籍などを紹介していく予定である。

その他 / Others

リアクションペーパーの内容は厳正に採点する。文字数が極端に少ない（例えば一言しか書かない）、また判読不能な字（殴り書き）などでの提出は採点対象としないので十分に注意すること。

観光人類学 5（グローバルゼーション）

Anthropology of Tourism 5 (Globalization)

[文化/Culture]から見るグローバル世界

小西 公大 (KONISHI KODAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、グローバルな社会状況下におけるポップカルチャー、芸術文化、視覚文化、地域開発といった事例をもとに、これまで人類学がキー概念としてきた「文化 culture」が消費（市場）や政治と結びついていく現代社会特有の仕組みについて理解を深め、新たな価値創造を行うための基礎的な論理と発想法を学ぶことを目的としている。

This lecture aims to deepen students' understanding of how "culture," which has been a key concept in anthropology, is linked to consumption (market) and politics in contemporary society, based on examples of pop culture, artistic culture, visual culture,

授業の内容 / Course Contents

本科目でいう「文化」とは、絵画や芸能などの芸術作品に限らず、文化人類学で定義するような人々の生活様式やものの考え全般を指す。国家や現実政治がこうした意味での「文化」を対象化するということは、ある面では文化を創造し進化させていく側面を持つが、別の面においては自律的な生活世界の統治や管理でもある。

なぜ近代国家、政治や市場は文化をコントロール下に置くようになったのか。またその功罪は何か。「文化の政

「治学」について理解を深めることは、観光と文化との関係を考察するためにも不可欠な視点を提供する。

本科目では日

"Culture" in this subject is not limited to works of art such as paintings and performing arts, but refers to all the lifestyles and ideas of people as defined in cultural anthropology.

The targeting of "culture" by the nation and real politics has the aspect of creating and evolving culture in one respect, but in another aspect it means that the governance and management of the autonomous life world will progress.

Why did modern nations and politics come under control of culture? What are the merits and demerits? A deeper understanding of "politics of culture" provides an essential perspective for considering the relationship between tourism and culture.

In this course, we will look at the process of creating global culture from the perspectives of diversification of cultural content, community initiatives, development of consumer society, and the rise of localism, in line with various ethnographic cases in Japan and around the world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：文化論の源流
- 2 回：文化／カルチャーとはなにか① 教養主義からの脱却
- 3 回：文化／カルチャーとはなにか② フォームとしての文化
- 4 回：消費文化論① 疎外と搾取構造から
- 5 回：消費文化論② 文化生産論
- 6 回：消費文化論③ シミュラクルとリアリティ
- 7 回：文化とグローバリゼーション① 文化帝国主義批判から
- 8 回：文化とグローバリゼーション② 記号の遠心力と求心力
- 9 回：ローカリズムと排外主義① ヘイトスピーチはなぜ起こる？
- 10 回：ローカリズムと排外主義② 新たなコミュニティ創造に向けて
- 11 回：現代アートをめぐるポリティクス：グローバル市場にて
- 12 回：地域開発の可能性：「関係性の美学」でいいのか
- 13 回：複製技術とサウンド経験：with コロナ時代のライブエンターテインメント
- 14 回：まとめ：グローバル空間における価値創造とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 課題レポート:20% 出席状況・授業への取り組み:20%

本科目ではグローバル文化という一見遠い世界のように思える現象が、身近な環境に広がっていることを自らの目で理解するために、簡単な調査に基づくレポートを課す予定です。受講生の主体的な学習を求めます。

テキスト/Textbooks

テキストは指定しないが、授業内で適宜文献を提示もしくは配布する。

参考文献 / Readings

ジョン・トムリンソン グローバリゼーション—文化帝国主義を超えて 青土社
伊豫谷 登士翁 グローバリゼーションとは何か（平凡社新書） 平凡社
小澤正人（編） グローカリゼーションと文化移転 成城大学具ローカル研究センター
毛利嘉孝 ストリートの思想 NHK ブックス

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本講義では、授業内で発言が求められたり、グループディスカッションを行ったりすることがある。発言したり、他者との意見交換を積極的に行う意思のない学生は履修に関して再考を勧める。

観光と社会 1（移動）

Tourism and Society 1 (Mobility)

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC3300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「移動」（モビリティ）の枠組みから観光や人々の日常生活を認識し直すことで、社会は身体、モノ、資本、情報、テクノロジー等の移動によって成り立ち、変化してきたことを理解する。グローバルな格差解消や持続可能な社会の実現を自分事として捉える視野を獲得する。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

1) Reinterpret tourism and society through the framework of mobility to understand that society has been built on and changed by mobile bodies, things, capital, information and technologic

授業の内容 / Course Contents

講義ではグローバル社会が直面する喫緊の課題を題材にし、移動の社会学の視座から考察する。学生による調査プロジェクトとプレゼンテーションでは環境破壊や経済格差など、観光と移動に直結する諸問題の解決に向けた活動例を調査し分析する。

In this course, lectures delve into the sociology of mobility, exploring critical issues confronting global society. Through individual projects and presentations, students conduct research and analyze existing initiatives aimed at tackling problems associated with tourism and mobility, such as environmental destruction and economic

inequality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：モビリティから見る社会
- 3回：環境問題1：マストツーリズムによる環境破壊と持続可能な観光
- 4回：環境問題2：ゴミ問題から消費文化を考える
- 5回：南北問題1：グローバル格差と国際移動
- 6回：南北問題2：移民労働
- 7回：環境問題と南北問題：応用編
- 8回：調査プロジェクトの計画
- 9回：調査プロジェクトの経過報告
- 10回：調査プロジェクトの経過報告
- 11回：調査プロジェクトの経過報告
- 12回：プレゼンテーション準備
- 13回：プレゼンテーション
- 14回：プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

調査プロジェクトや発表の準備は主に授業時間外に行うため、自己学習の時間を確保する必要がある。

他の授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の提出物:30% グループプレゼンテーション:30% プレゼンテーション資料:40%

テキスト / Textbooks

適宜案内する。

参考文献 / Readings

適宜案内する。

その他 / Others

PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料やオンラインコンテンツも適宜取り入れる。デジタルツールを活用した双方向的な講義を実施する。プロジェクトの準備として早い段階から各自、資料調査など行うため、学期を通して学生の能動的な参加を前提とする。

観光歴史学 2 (近代)

History of Tourism 2 (Modern Period)

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB118
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「近代」という時代に焦点を絞り、そこで看取される観光の変遷を把握するとともに、その背景としてあった「近代性」についての理解を得る。また、それらについての学習を通じて、「観光とは何か」や「近代とは何か」といった問いを深めていく。

Understanding the state of tourism developed in colonies in various ways, and the relationship between the colony and tourism, we will deepen our understanding of the questions, “what is a colony?” and “what is tourism?”.

授業の内容 / Course Contents

観光はたびたび「近代の産物」や「近代的な現象」と称される。本講義では、産業革命や帝国主義といった近代を特徴付ける事象に着目し、それらを背景に成立し展開していった観光のありようを取り上げる。また、観光の進展がいかに社会の近代化やグローバル化を促進していったのかについても検討する。

We will highlight the state of tourism established and developed in colonies and occupied territories held by modern Japan. Regionally, focusing on the Japanese colonies in a broad sense, such as Taiwan, Korea, Manchuria and islands in the South Seas, we will also refer to the human flows to the mainland from each colony. In

addition, we will highlight events during the colonial era, found in places of modern tourism, examining their meaning and position.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近代という時代
- 3回：産業革命と観光1【鉄道】
- 4回：産業革命と観光2【船舶】
- 5回：産業革命と観光3【新中間層】
- 6回：産業革命と帝国主義
- 7回：帝国主義と観光1【ホテル】
- 8回：帝国主義と観光2【旅行会社】
- 9回：帝国主義と観光3【台湾の事例】
- 10回：帝国主義と観光4【朝鮮の事例】
- 11回：帝国主義と観光5【満洲の事例】
- 12回：帝国主義と観光6【国際観光局】
- 13回：「近代」の現在
- 14回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワー等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義で紹介する文献を積極的に読み進める。

これまでに身につけた「近代」に関する知識のうち、観光と関連が深いと思われる事柄について振り返っておく。

観光に関するニュースへの関心を高め、現代観光と近代におけるそれとの連続性/非連続性を意識するようにする。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献リストを提示する。

その他/Others

講義時間中の私語、撮影、録画、録音などを禁止する。

観光人類学 2 (エスニシティ)

Anthropology of Tourism 2 (Ethnicity)

人を分ける「境界線」を問いなおす

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は、次のとおりである。

- 1) エスニシティなど集団や文化を分ける境界線が、社会的に構築されたものであることを理解すること。
- 2) 特に社会的に周縁化された人の視点から、既存の境界線のあり方を批判的に考察できるようになること。

In this course, students will be able to:

- 1) understand that the boundaries that demarcate groups and cultures, such as ethnicity, are socially constructed.
- 2) critically examine existing boundaries, especially from the perspective of those who are social

授業の内容 / Course Contents

この授業では、まずグローバル化がいかに社会、文化、国家のあり方を変化させるのかを学ぶ。次に国民国家、先住民、紛争、難民、無国籍、レイシズムといった切り口から、どのように人間集団が創られるのかを学ぶ。これらの事例をもとに、観光資源となるモノや人間集団がいかに構築されるのかを考察するための知識を得る。

First, we will learn how globalization has been changing society, culture, and nation states. Next, we will learn

how different categories of human groups are constructed through the aspects of nation-states, indigenous peoples, conflicts, refugees, statelessness, and racism. Based on these examples, students will gain knowledge to examine how objects and human groups are constructed as resources for tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：比較・分類と社会の秩序
- 2回：グローバル化：国境をこえた世界の繋がり方
- 3回：ローカル化：文化はいかに根付くのか
- 4回：周縁社会からみたグローバル化
- 5回：文化のとらえ方：消滅の語りと生成の語り
- 6回：人間集団のカテゴリー (1)：先住民とはだれか？
- 7回：人間集団のカテゴリー (2)：日本人とはだれか？
- 8回：人間集団のカテゴリー (3)：国民国家とナショナリズム
- 9回：人間集団のカテゴリー (4)：「民族」紛争はいかに生じるのか
- 10回：人間集団のカテゴリー (5)：難民とはだれか？
- 11回：人間集団のカテゴリー (6)：無国籍と複数国籍
- 12回：人間集団のカテゴリー (7)：レイシズム
- 13回：グローバル時代の共生と観光
- 14回：まとめと展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に課す問いに答えること。授業を踏まえた課題に回答すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業後に提示する課題:35% 授業への参加度:35% 事前学習・授業前の問いへの回答:30%

授業への参加は、授業中の質問に答えることで加点される。出席点ではない。

テキスト / Textbooks

使用しない。適宜、文献を紹介する。

参考文献 / Readings

伊豫谷登士翁 『グローバリゼーション—移動から現代を読みとく』 筑摩書房 2021 9784480074485

内藤直樹・山北輝裕 (編) 『社会的包摂／排除の人類学—開発・難民・福祉』 昭和堂 2014

9784812213414

西川克之・岡本亮輔・奈良雅史 (編著) 『フィールドから読み解く観光文化学—「体験」を「研究」にする16章』 ミネルヴァ書房 2019 9784623085859

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人類学的なアプローチでは、すぐに答えがでないテーマや問題に向き合うことができる知的な態度が求められる

る。「タイパ」「コスパ」とは真逆の姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料は、Canvas LMS をとおして穴埋め形式になった PDF ファイルで配布する。教室では配付しない。各自で印刷するか PDF ファイルに書き込みができるタブレットや PC を持参すること。

その他/ Others

予習、復習や授業中に Google フォームや、その他のオンラインツールを用いて質問をしたり理解度をたずねる。質問やコメントについては、翌週にフィードバックする。また授業中に聴取した質問や意見をもとに、ディスカッションやペアワークなどを実施することもある。授業内容はシラバス執筆時のものである。時勢に応じて、若干、内容に変更が生じることがある。

観光社会学 7（文化遺産）

Sociology of Tourism 7 (Cultural Heritage)

文化遺産を通して読みとく現代社会

鍋倉 咲希 (NABEKURA SAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、観光目的として重要性を増している文化遺産の保護・活用の実態を理解するとともに、それを分析するための社会的な基礎知識を身につけることを目標とする。

Upon successful completion of the course, students will be able to understand the reality of the protection and utilization of cultural heritage, which is becoming increasingly important as a tourism objective, and to acquire the basic sociological knowledge

授業の内容 / Course Contents

一般に、美術品や遺跡、伝統的な町並みなどの文化遺産は「正しく」保存され、「正しく」公開・活用されるべき対象として考えられている。しかし、そもそもなぜ、私たちは何らかの事物に価値があると感じ、それを保存すべきだと思うのだろうか。本講義では「文化遺産」という社会的仕組みそのものが、なぜ、どのように、どこで、誰の働きによって成立しているのか、そこにいかなる複雑なプロセスがあるのかを社会的視点から理解し、あらゆる事物の保存を求める現代社会の特性を考察する。講義の前半は各回の問いにしたがい、社会学の理論を紹介する

In general, cultural heritage such as works of art, archaeological sites, and traditional townscapes are considered to be objects that should be "properly" preserved and disclosed. However, why do we feel that some things have value and should be preserved? In this lecture, we will consider the following two points from a sociological perspective.

1) How, why, where, and by whom is the social system of "cultural heritage" itself established, and what complex processes are involved?

2) What are the characteristics of modern society that demand the preservation of all things?

The first half of the lecture will introduce sociological theories according to the questions of each session. The second half of the lecture will focus on themes and cases closely related to the phenomenon of tourism, and analyze the current state of cultural heritage tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：「遺産化」という視点
- 2 回：文化遺産保護制度の歴史と現在
- 3 回：なぜ文化遺産を保存するのか？①：真正性
- 4 回：なぜ文化遺産を保存するのか？②：博物館学的欲望
- 5 回：誰が文化遺産を作るのか？：国民国家とナショナリズム
- 6 回：文化遺産は誰のものか？：多様な価値のせめぎあい
- 7 回：文化遺産が商品になるとき：文化遺産のカジュアル化と観光とのかかわり
- 8 回：文化遺産と経済とのせめぎあい：保存から活用へ
- 9 回：文化を表象するのは誰か？：博物館とモノ
- 10 回：多様な文化遺産と観光①：歴史的環境と町並み保存
- 11 回：多様な文化遺産と観光②：ゲストスピーカー
- 12 回：多様な文化遺産と観光③：芸術／アート
- 13 回：多様な文化遺産と観光④：負の遺産
- 14 回：全体のまとめ：保存世界のゆくえ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業後には各回でリアクションペーパーの提出を想定している。

また、授業中に参考文献や新聞記事、ウェブサイト等を紹介するので、授業後に復習を兼ねて読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 受講態度、提出物:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

木村至聖・森久聡編 『社会学で読み解く文化遺産—新しい研究の視点とフィールド』 新曜社 2020

9784788516878

科目コード：HB127

観光文学3（紀行文）

Tourism Literature 3 (Travelogue)

近現代日本の紀行文学を学ぶ

棕棒 哲也 (MUKUBOU TETSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB135

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

近現代日本のさまざまな「紀行文学」を読んで、各作品の特徴について考えるとともに、その背景を学ぶ。

By reading various kinds of modern and contemporary Japanese travel literature in this course, students consider the characteristics of each work, as well as learn about its background.

授業の内容 / Course Contents

旅をするときに私たちは、旅で得た体験を言葉や映像で記録に残し、それを自他の記憶に刻むための手がかりとする。本授業は、そのような記録のうち近現代の、そして日本語で記されたものを考察の主たる対象と定める。まず「紀行文学」の概要を検討したあとに、よく知られた比較的入手し易い（と担当教員が考える）作品を中心に、時代を下りながら読み進めてゆく。このとき作者たちの旅先は、同時代の「日本」の内か外かを問わない。なお授業の内容は修正することがあるから、留意しておくこと。

When people travel, they record their travel experiences in words or images to help themselves and others retain the memory. This course mainly examines such records, especially those written in the modern era in Japanese.

After providing an overview of travel literature, the course revolves around reading through well-known,

relatively easily available works (in the instructor's view) in chronological order, from older to more recent. The travel destinations of the authors of such works may be inside or outside "Japan" as understood in the given contemporary context. Note: Students should keep in mind that class content are subject to modification.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに：「紀行文学」とは何か
- 2 回：イザベラ・バード「日本奥地紀行」
- 3 回：森鷗外「みちの記」
- 4 回：五人づれ「五足の靴」
- 5 回：夏目漱石「満韓ところどころ」
- 6 回：芥川龍之介「江南游記」
- 7 回：若山牧水「みなかみ紀行」
- 8 回：深田久弥「日本百名山」
- 9 回：林芙美子「下駄で歩いた巴里」
- 10 回：太宰治「佐渡」
- 11 回：三島由紀夫「アポロの杯」
- 12 回：沢木耕太郎「深夜特急」
- 13 回：村上春樹「大いなるメコン川の畔で」
- 14 回：おわりに：ピエール・バイヤール〈行ったことのない場所について語る方法〉

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業が始まる前に教員が指定したテキストを読み、コメントを「Google Forms」で入力すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の出席と、併せて毎回書いてもらうコメントペーパー：70% 最終レポート割合：30%

7割(14回のうち10回)以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。また30分を越えて入室・退出する行為はこれを出席と認めない。なお教育実習ほか各種実習や採用に直接関わる就職活動等による欠席、電車遅延等による遅刻、の場合は相談に応じる。

テキスト / Textbooks

教員が「Canvas LMS」に「モジュール」を設けて、資料を提供する。

参考文献 / Readings

なし。機会があり次第、教員が授業内において紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業は、受講者に積極的な授業参加を求める。まず受講者は、授業前に「Google Forms」へコメントを入力する。次に授業内でグループ・ディスカッションに参加し、上記のコメントに基づいた発表を行う。そして各グループの代表者が、全体へ向けて議論の内容を紹介する。以上本授業は、テキストを読む・コメントを書

く・受講者相互で話す・発表を聞き取る、という四つの活動を軸とするから、その旨を承知しておいて頂きたい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

できればノートPC。ないしはタブレット。どちらも用意できない場合は、授業前にPDFファイルをプリントアウトする算段を整えておいた方がよい。なお以上は機器の購入を勧めるものではない。鉛筆とノートを用意さえすれば、授業参加することは可能。

その他/ Others

第1回はガイダンスを行う回です。授業のアウトラインを説明する、とても重要な回ですので、これへ参加せずに履修の手続きを行い、あとで後悔することのないよう、必ず参加して下さい。

観光地理学 4（文化）

Geography of Tourism 4 (Culture)

文化をめぐる観光地理学

松井 圭介 (MATSUI KEISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB137

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化地域、文化景観、文化生態、文化伝播等、文化・観光地理学の基本的概念を理解する。文化地理学の研究領域をまず示し、続いて具体的な事例や研究成果に即しながら文化・観光地理学の基本的な概念を身につける。

This course aims for students to understand the basic concepts of cultural geography, such as cultural regions, cultural landscapes, cultural ecology, and cultural diffusion. The course first covers research areas of cultural geography and, second, the ba

授業の内容 / Course Contents

文化地域（等質地域と機能地域、頭の中の地域と空間）、文化伝播（伝播概念の背景、文化圏と文化領域、空間的拡散）、文化生態（環境決定論、環境可能論、環境認知論、心の中の景観）、文化統合（統合体としての文化とその説明）、文化景観（文化景観とは何か、その解説、形成と変容、心の中の景観）などに触れる。紹介する文献や簡単な実習などを通して、文化地理学のもつモノの見方・考え方を身につけることに主眼を置く。学期の後半には、テキストを用いて、教員自身の研究成果を踏まえ、現代における文化・観光地理学の諸相について

て講義する。

The first half of this course touches on cultural areas (homogeneous areas, functional areas, areas and spaces in the mind), cultural propagation (background of propagation concept, cultural sphere and area, spatial diffusion), cultural ecology (environmental determinism, environment possibility theory, environment cognition theory, landscape in the heart), cultural integration (culture as an integrated body and its explanation), cultural landscape (what a cultural landscape is, its decipherment, formation, and transformation, landscape in the mind), and so on, by focusing on students learning the perspectives and viewpoints of cultural geography, through the literature introduced and simple practical training. In the semester's second half, lectures use texts on various aspects of contemporary cultural and tourist geography based on the research results of the instructors themselves.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文化・観光地理学の基本概念(1)：地理学の見方・考え方
- 2回：文化・観光地理学の基本概念(2)：文化景観と自然景観
- 3回：文化・観光地理学の基本概念(3)：文化生態と環境論
- 4回：景観と環境から読み解く地域社会 (1)：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態①
- 5回：景観と環境から読み解く地域社会 (2)：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態②
- 6回：文化景観を読み解く (1)：景観修景と場所のポリティクス①
- 7回：文化景観を読み解く (2)：景観修景と場所のポリティクス②
- 8回：文化景観を読み解く (3)：景観修景と場所のポリティクス③
- 9回：ケーススタディ：観光戦略としての宗教 (1)：聖地の観光資源化をめぐるポリティクス
- 10回：ケーススタディ：観光戦略としての宗教 (2)：ホストの側の観光戦略
- 11回：ケーススタディ：観光戦略としての宗教 (3)：世界遺産への動き
- 12回：ケーススタディ：観光戦略としての宗教 (4)：創造される聖地&教会を訪れる人々
- 13回：ケーススタディ：観光戦略としての宗教 (5)：場所の商品化の課題
- 14回：まとめ：文化地理学の見方・考え方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教員が指示した課題について積極的に取り組むこと。配布資料や課題内容、オンデマンド教材の視聴に関する情報等については、「Canvas LMS」を用いて連絡するので、各自で確認すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の小課題:40%

テキスト / Textbooks

講義時に指示する。

参考文献 / Readings

高橋伸夫ほか 文化地理学入門 東洋書林 1996 4887210868

中川正ほか 文化地理学ガイダンス ナカニシヤ出版 2006 4779501016
竹中克行ほか 人文地理学 ミネルヴァ書房 2009 978462305539
山崎孝史 政治・空間・場所 ナカニシヤ出版 2010 9784779505102
山中弘編 宗教とツーリズム 世界思想社 2012 9784790715658
松井圭介 観光戦略としての宗教 筑波大学出版会 2017 9784904074268
講義時に指示する。

その他/ Others

担当教員 HP:<http://www.geoenv.tsukuba.ac.jp/~human/geostaff.html>

観光社会学 5 (メディア)

Sociology of Tourism 5 (Media)

「メディア」から考える観光と現代社会

安 ウンビョル (AHN EUNBYUL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB200

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、受講者がメディア論、メディア・コミュニケーション研究の主要な問題意識を理解し、それを観光と関連付けて考察し、我々の観光経験および現代社会に対する理解を深めることにある。

This course aims to enhance our understanding of the tourism experience and contemporary society through theoretical questions and case studies from media studies or the intersection of media and tourism.

授業の内容 / Course Contents

テレビや雑誌など、時間・空間を超えて情報・イメージを伝達するメディアは、「今、ここ」とは異なる時間・空間に対するイメージや想像をもとに身体移動する観光と共進化してきた。一方、「何かと何かをつなぐもの」「間にあるもの」という根本的なメディア概念に基づくと、観光は、鉄道駅に貼られたポスターからチケット予約システム、スマートフォン、そして鉄道そのものを含む様々なモノやメディアによって媒介される経験である。さらに、観光者はつねに自分の身体をメディアにして、複数の時間、空間とモノが組み合わされたハイブリッドなつながり

Media that transmit information and images across time and space, such as television and magazines, have co-

evolved with tourism, involving physical movement into a world based on images and imaginations of a time and space different from the "now, here." On the other hand, following the broad media concept of "connecting something to something" or "being in the middle," tourism is an experience mediated by various objects and media, ranging from posters at railroad stations to ticket reservation systems, smartphones, and the railroad itself. Furthermore, tourists use their bodies as a medium to create a hybrid network that combines multiple temporalities and objects. The relationship between tourism and the media is not just a matter of "tourist attractions featured in the media becoming popular," but involves a variety of important questions. What questions arise from this intersection of tourism and media, and how can they contribute to a better understanding or insight into contemporary society? In this course, we will explore some of the questions, key concepts, theories, and case studies at this intersection that can lead to a deeper understanding of tourism and contemporary society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：メディアとは何か——メディア論、メディア・コミュニケーション研究の視点
- 2回：メディアと感覚の社会的編成①：マクルーハンという出発点
- 3回：メディアと感覚の社会的編成②：動く馬、映画、列車
- 4回：メディアと感覚の社会的編成③：テレビ、自動車、郊外
- 5回：メディアと感覚の社会的編成④：観光写真をめぐるダイナミズム
- 6回：表象メディアと観光地イメージ①：ポストコロニアリズムと場所をめぐる記号と言説、権力の問題
- 7回：表象メディアと観光地イメージ②：現実とイメージをめぐるせめぎ合い
- 8回：表象メディアと観光地イメージ③：ディスカバー・ジャパンからコンテンツ・ツーリズムまで
- 9回：「モノ」から読み解く観光①：観光研究における移動論的転回、パフォーマンス転回
- 10回：「モノ」から読み解く観光②：観光バスと観光列車を事例に
- 11回：モバイルな世界で観光／観光研究する①：「仮想」世界の物質的ネットワーク
- 12回：モバイルな世界で観光／観光研究する②：モバイルメディアと観光を記録・発信する実践
- 13回：モバイルな世界で観光／観光研究する③：新たな問いと方法
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中、関連する参考文献（英語文献を含む）を紹介するので、予習あるいは復習を兼ねて読んでおくこと。また、自分のこれまでの観光経験、今後の旅行計画、日常のメディアの利用などについて、授業で学んだ概念に照らして観察し、考えて、さらにはメモを取っておくことが勧められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 受講態度、授業への参加、リアクションペーパー等:40%

テキスト / Textbooks

須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎編 『よくわかる観光コミュニケーション論』 ミネルヴァ書房

2022 9784623091874 -

なし

参考文献 / Readings

授業で指示する。

その他 / Others

授業資料がある場合、授業支援システムで共有します。

注意事項 (検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光人類学 3（民俗）

Anthropology of Tourism 3 (Vernacular Culture)

現代民俗学の視点と観光

(Perspectives of contemporary folklore studies and tourism)

法橋 量 (HOKKYO HAKARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB201

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、文化社会的事象としての観光を分析・批判するための民俗学的視点を学ぶ。

The purpose of this course is to acquire the folkloristic perspectives of analyzing and criticizing contemporary tourism as socio-cultural phenomenon.

授業の内容 / Course Contents

民俗学はその学問的な発生の時点から、現在、観光資源となっている文化財（民話、まつり、衣食住、etc.）の形成に重要な役割を果たしてきた。本講義では、民俗学の視点から主として観光の文脈であらわれてくる様々な文化事象を、日本およびヨーロッパの様々な事例を取り上げ、歴史的、現在の学的に分析し考察する。

Since its disciplinary beginning Folklore studies has played an important role of producing cultural properties (folktale, festival, costume, foods etc.) which constitute the touristic resources today. In this course we will analyze and consider the cultural phenomenon in contemporary and historical touristic context, citing various issues from Japan and Europe.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：現代民俗学と観光
- 2回：民俗学の文化概念：民俗・フォークロア・ヴァナキュラー
- 3回：語りと旅Ⅰ：語りの発見
- 4回：語りと旅Ⅱ：物語をめぐる旅
- 5回：まつりと観光：祭りから祭礼へ
- 6回：フォークロリズムの理論：伝統を演じる
- 7回：フォークロリズムと現代のまつり
- 8回：文化と地域形成：郷土と観光
- 9回：ふるさと・郷土とノスタルジー
- 10回：地域イメージとメディア：ガイドブック、文学、アニメ
- 11回：現代の巡礼とツーリズム
- 12回：文化遺産の民俗学
- 13回：博物館ツーリズムと日常の博物館化
- 14回：まとめ：民俗学的視点と観光研究

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示または配布する資料を参照し予習・復習をする。また授業に即し、自分の関心のあるトピックについて知識を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験：80%

平常点割合：20% リアクションペーパー：20%

テキスト / Textbooks

岩本通弥・門田岳久・及川祥平・田村和彦・川松あかり（編）『民俗学の思考法——〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』慶應義塾大学出版会 2021 9784766427318 ○

参考文献 / Readings

授業中に適宜支持する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光地理学 2（農村）

Geography of Tourism 2 (Rural Area)

日本とイタリアの事例から理解する農村観光

五艘 みどり (GOSO MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

日本とイタリアなど欧州地域の事例を通して農村観光の導入と発展および地域への効果を理解する。

Understanding "Rural Tourism" from case studies of Italy and Japan.

授業の内容 / Course Contents

国内は、京都府、栃木県、石川県などの事例から、海外はイタリア北部などの事例から、農村観光の導入と発展の経緯、社会的・経済的な効果について講義します。ひとつの事例を2回の授業に分けて講義します。

Lectures will be given on the history of the introduction and development of rural tourism, and the social and economic effects, from cases in Kyoto, Tochigi, and Ishikawa prefectures in Japan, and from cases in northern Italy. One case study will be divided into two lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：農村観光とは

2 回：イタリア南チロルのアグリツーリズム①

3 回：イタリア南チロルのアグリツーリズム②

- 4回：イタリア・オルチャ渓谷における世界遺産としての農村観光①
 5回：イタリア・オルチャ渓谷における世界遺産としての農村観光②
 6回：京都府和束町における茶畑景観活用の事例から①
 7回：京都府和束町における茶畑景観活用の事例から②
 8回：ミニテスト
 9回：栃木県那珂川町における農村観光と移住者促進①
 10回：栃木県那珂川町における農村観光と移住者促進②
 11回：石川県珠洲市における6次産業化と農村観光①
 12回：石川県珠洲市における6次産業化と農村観光②
 13回：「日本で最も美しい村」連合の活動に見る農村観光の地域間ネットワーク
 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ミニテスト:40% 出席状況および授業参加への積極性:20% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しませんが、新聞や雑誌記事など必要なものは随時掲示します。

参考文献 / Readings

その他 / Others

<https://researchmap.jp/read0144212>

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光歴史学 1 (近世)

History of Tourism 1 (Early Modern Period)

観光を通して見えてくる時代の特徴は何か

内田 彩 (UCHIDA AYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB203

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本講義の到達目標は

- (1) 近世期における旅の基本的知識を身につけることができる。
- (2) 近世期における旅の社会的役割と特徴を理解し、日本における旅の特徴について説明できる。
- (3) 近世期にみられた旅の文化と交流の特徴と役割を理解し、観光における交流の重要性について述べることができる。

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge of travel in the early modern period.
- (2) Understand the social role and characteristics of travel in the early modern period and explain the characteristics of travel in Japan.
- (3) Understand th

授業の内容 / Course Contents

近世期は江戸幕府の成立に伴い政治・経済が安定し人々の往来が盛んになりました。これに伴い五街道の整

備、貨幣経済の普及など、旅をするための諸条件は整備されましたが、幕府は商業・公用を除き人々が自由に移動することを許可していませんでした。

しかし、病氣治療（湯治）と信仰（寺社参詣）は、旅をするための目的として認めており、これが旅の大衆化の先駆けとなるとともに、寺社参詣地・温泉地の発展につながり、日本における旅の特徴を生み出したといわれています。さらに、旅による都市と地方の交流や旅行者と地域の人々の交流は、新

During the early modern period, when the feudal military government the Edo shogunate was established, the political and economic environment in Japan stabilized. Although the shogunate did not permit people to move freely, except for trade and official business, the treatment of illnesses (such as hot spring cures) and religious purposes (such as visits to temples or shrines) were recognized as valid reasons to travel. As a consequence, traveling for these reasons gained popularity and gave rise to the development of more temples, shrines, and hot spring resorts. This phenomenon shaped the nature of travel in Japan. The purpose of this class is to examine the social roles and characteristics of travel based on the acquisition of basic knowledge regarding travel in the early modern period and to learn about the travel culture and exchanges that were nurtured as a result.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近世における旅-人々はなぜ旅をしたのか-
- 3回：特定の目的のもと許可された旅-周遊型と滞在型の誕生-
- 4回：寺社参詣の旅① -なぜ寺社は観光地化したのか-
- 5回：寺社参詣の旅② -寺社参詣における御師の役割-
- 6回：湯治への旅①-温泉地への旅-
- 7回：湯治への旅②-日本型リゾートの成立-
- 8回：都市における物見遊山-都市住民の行楽-
- 9回：女性の旅-旅は女性に何をもたらしたのか-
- 10回：西洋における旅①-グランドツアー-
- 11回：西洋における旅②-温泉地への旅-
- 12回：西洋における旅③-保養地：社交の場としての役割-
- 13回：近世の旅とは何か-プレモダンとしての役割
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【事前学習】事前に紹介された文献や配布資料を熟読し、疑問点などについて整理してください。

【事後学習】事後学修では、授業内容を振り返ってから、参考資料・動画を確認し、発展学修に取り組んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点（リアクションペーパー）:30% ミニテスト:30%

最終テスト割

合：:40%

テキスト/Textbooks

・配布プリントを用いるので特に指定しないが、必要に応じて随時紹介する

参考文献 / Readings

新城常三 『庶民と旅の歴史』 NHK ブックス 1971 0219154

山村順次 『日本の温泉地：その発達・現状とあり方』 日本温泉協会 1998 4930797055

日本温泉文化研究会 『温泉をよむ』 講談社 2011 10 4062880881

金森 敦子 『江戸庶民の旅―旅のかたち・関所と女』 平凡社新書 2002 10 458285148

神崎 宣武 『江戸の旅文化』 岩波新書 2004 10 4004308844

原/淳一郎 『江戸の旅と出版文化』 三弥井書店 2014 10 4838232470

注意事項 (検索結果画面)

2020 年度以降入学者対象

観光歴史学 3（現代）

History of Tourism 3 (Contemporary Period)

おみやげ文化から見る日本の観光

鈴木 勇一郎 (SUZUKI YUICHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB204

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

おみやげ文化の来歴を検討することで、現代日本の観光の特質を明らかにする。その過程で観光について歴史的に考えていく資料調査や叙述の能力を身につける。

The purpose of this class is to clarify the characteristics of modern Japanese tourism by examining the history of souvenir culture.

授業の内容 / Course Contents

私たちが旅行に行くと、おみやげを買って帰ることが多いかと思います。旅先でおみやげを買うという現代日本で一般的な文化は、歴史的にも地域的に見るとかなり特徴的です。

この授業では、そうした現代日本のおみやげ文化がどのように成立してきたのか、その来歴を検討していきます。現代のあり様の特徴を把握するため、江戸時代、明治・大正時代、昭和戦前、戦後というように、時期ごとにおみやげ文化がどのように展開していったのかを検討していきます。その過程を通じて現代日本のおみやげ文化の立ち位置と今後のあり方を考えていく力をつけてい

When we go on a trip, we often buy souvenirs to take home. The culture of buying souvenirs while traveling,

which is common in modern Japan, is quite distinctive from a historical and regional perspective.

In this class, we will examine the history of how modern Japanese souvenir culture came to be. In order to understand the characteristics of the modern state, we will examine how souvenir culture developed in each period: the Edo period, the Meiji and Taisho periods, the Showa period before the war, and the postwar period. Through this process, I hope that you will develop the ability to think about the position and future direction of modern Japanese souvenir culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 授業の目的や内容、進め方について
- 2回：おみやげとは？
- 3回：近世の旅とおみやげ
- 4回：鉄道が変えたおみやげ文化
- 5回：博覧会と名物
- 6回：近代国家とおみやげ
- 7回：ツーリズムの定着とおみやげ
- 8回：修学旅行とおみやげ
- 9回：戦後復興とおみやげ
- 10回：ディスカバー・ジャパンとおみやげ
- 11回：昭和末期の旅とおみやげ
- 12回：海外旅行とおみやげ
- 13回：平成の旅とおみやげ
- 14回：おみやげ文化のゆくすえ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・各回に関わりのある時代の社会や経済といった基本的な知識を、できる限り事前に把握するように努めてください。

・それぞれの回に出てきたおみやげについて、類似する事例がないか、出来る限り調べるようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内小レポート（複数回）:65% 期末レポート:35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

神崎宣武 おみやげ：贈答と旅の日本文化 青弓社 1997年 4787231332

鈴木勇一郎 おみやげと鉄道：名物で語る日本近代史 講談社 2013年 9784062181563

その他の文献については、授業中適宜紹介する。

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

観光と文化1（芸術）

Tourism and Culture 1 (Art)

芸術を「見に行く」ということ——その歴史・条件・理論

星野 太 (HOSHINO FUTOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB300

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、芸術と観光の関係についての基本的な知識を獲得し、それをもとに、現代の芸術をめぐるさまざまな変化について批判的に考察できるようになることを目標とする。

The objective of the class is to acquire a basic knowledge of the relationship between art and tourism and, based on this, to be able to critically examine the various changes in the contemporary art world.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、1793 年のルーヴル美術館開館を出発点として定め、それから現在までの 200 年余りのあいだに、芸術と観光がいかなる関係を結んできたのかを概説的に論じる。詳細は下記の授業計画に譲るが、大きく分けると、1) ミュージアムの歴史、2) パブリックアートの歴史、3) 観光資源としての芸術、4) 国内外の芸術祭、5) ミュージアムとアクセシビリティといった話題を扱う予定である。

This class will take the opening of the Louvre in 1793 as its starting point, and will provide an overview of the relationship between art and tourism over the past 200 years. The details are given in the class plan below, but the major topics include:

1. History of the Museum
2. History of Public Art
3. Art as a Tourism Resource
4. Art Festivals and Tourism
5. Museum and Accessibility

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入——芸術を「見に行く」ということ
- 2 回：美術館の誕生——近代市民社会の成立
- 3 回：美術館の歴史——芸術の公共性
- 4 回：パブリックアートの誕生——美術館の外へ
- 5 回：パブリックアートの歴史——芸術の社会性
- 6 回：中間テスト
- 7 回：観光資源としての芸術 (1) サイト・スペシフィシティ
- 8 回：観光資源としての芸術 (2) 観光地としての美術館
- 9 回：国内外の芸術祭 (1) 海外のケースを中心に
- 10 回：国内外の芸術祭 (2) 日本のケースを中心に
- 11 回：芸術と観光の未来 (1) ヴァーチャル・ミュージアム
- 12 回：芸術と観光の未来 (2) アクセシビリティ
- 13 回：最終テスト
- 14 回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布した資料や参考文献をもとに、各回 90 分程度の予習・復習を要する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間テスト (Midterm Test):30% 最終レポート割合 :40%最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず、毎回の授業で使用する資料を PDF で配布する。

参考文献 / Readings

- パブロ・エルゲラ ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 フィルムアート社 2015 9784845914500
 北川フラム ひらく美術：地域と人間のつながりを取り戻す 筑摩書房 2015 9784480068422
 栗田秀法（編） 現代博物館学入門 ミネルヴァ書房 2019 9784623084661
 熊倉純子（監修） アートプロジェクト：芸術と共創する社会 水曜社 2014 9784880653334
 古賀太 美術展の不都合な真実 新潮社 2020 9784106108617
 洞田貫晋一郎 シェアする美術：森美術館の SNS マーケティング戦略 翔泳社 2019 9784798160009

野田邦弘ほか（編） アートがひらく地域のこれから：クリエイティビティを生かす社会へ ミネルヴァ書房
2020 9784623088003

これらは参考文献の一部であり、その他の文献については授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。ただし、近現代の芸術について一定の関心があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他/ Others

①授業形態：この授業は講義形式で行なう。おもにスライドと配布資料を用いる予定だが、必要に応じて板書も併用する。

②課題へのフィードバック：授業中に実施する中間テスト・最終テストについては、授業時間内に総評を行なう。また、Canvas LMS 等を通じて寄せられた質問・コメントについては、授業中に取りあげる可能性がある。

③その他：担当教員のウェブサイト

<https://nosnino.com/>

https://researchmap.jp/hoshino_futoshi

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

観光と文化2 (メディア)

Tourism and Culture 2 (Media)

ディズニーランドを題材に、メディア論と集合行動論の観点から観光と現代社会を学ぶ。

新井 克弥 (ARAI KATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

東京ディズニーリゾート (TDR) の 40 年間と日本人の関わりを辿りながら、現代社会について考える。

Reflecting on the 40 years of the Tokyo Disney Resort (TDR) and the Japanese people's relationship with it, we will consider contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

社会学者のアラン・ブライマンは「ディズニーランドで起こっていることが、やがて社会にも波及する」とし、これを「ディズニー化」と呼びました。そして、その典型が「テーマ化」と指摘しました。しかし現在、TDR においてはテーマ化の崩壊が見られます。いいかえれば、それは未来において世界はテーマ化の次の段階である「脱ディズニー化」に至るということを意味します。本授業ではこの過程についてメディア論、集合行動論、コミュニケーション論等を用いながら解説していきます。

Sociologist Alan Bryman says, "What happens at Disneyland eventually spread to society. Bryman named it "Disneyization". He also pointed out that the typical example of this is "theme parkization". However, we see a breakdown of the theme at TDR. In other words, in the future, the world will be "Post-Disneyization," the next

stage of theme parkization. In this lesson, I will explain this process using media theory, collective action theory, and communication theory, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：東京ディズニーリゾート、なんかヘン？
メディアとは何か：メディア、メディアはメッセージ
- 2回：集合行動論1：群集、テキスト／コンテキスト、絶対化／相対化、即自／対自
- 3回：集合行動論2：大衆、想像の共同体、自己
- 4回：集合行動論3：分衆、オタク
- 5回：ディズニーランド1：ディズニーランドと日本人(～1980年まで。ディズニーというゆりかごのなかで)
- 6回：ディズニーランド2：パークコンセプト①：テーマパークとファミリーエンターテイメント
- 7回：ディズニーランド3：パークコンセプト②：S.C.I.S.E、感情労働
- 8回：ディズニーランド4：テーマパークの本質①:情報圧によるめまい
- 9回：ディズニーランド5：テーマパークの本質②ハイパーリアリティ
- 10回：ディズニーランド6：テーマ性の崩壊(ごった煮化するパレードを例に) ジャパン・オリジナル化するTDR(アキバ化、ドンキ化)
- 11回：ディズニーランド7：ディズニー化する社会、脱ディズニー化するTDR
- 12回：ディズニーランド8：日本の伝統文化を踏襲するTDR(積分文化と微分文化)
- 13回：ディズニーランド9：アメリカ人にとってディズニーランドとは何か(ゲストの日米比較)
- 14回：ディズニーランドと若者10：宗教とディズニーランド

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストに必ず目を通してください。授業はテキストに沿って進行します。ただし、これに新しい項目が加わります。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :80%
 平常点割合 :20% リアクションペーパーへの書き込み:20%
 三分の二以上の出席がなければ自動的に単位修得資格を失う。

テキスト/ Textbooks

新井克弥 ディズニーランドの社会学～脱ディズニー化するTDR 青弓社 2016 4787234056 ○

参考文献 / Readings

新井克弥 劇場型社会の構造—「お祭り党」という視点 青弓社 2009 9784787233004
 能登路雅子 ディズニーランドという聖地 岩波新書 1990 9784004301325
 須藤廣他編 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181
 谷島貫太他編 メディア・リミックス ミネルヴァ書房 2023 9784623096213
 ニール・ゲイブラー 創造の狂気 ウォルト・ディズニー ダイアモンド社 2007 9784478001813

その他/ Others

勝手にメディア社会論 <http://mediakatsuya.livedoor.blog/>

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

観光と文化4（スポーツ）

Tourism and Culture 4 (Sports)

スポーツ文化の歴史と世界を旅する

坂上 康博 (SAKAUE YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

A) スポーツを文化的な観光資源としてとらえるために必要な基礎的な知識を身につけること。

B) スポーツをテーマとしながら、多文化を理解する国際性、文化の変動をとらえるための視点、文化の価値や意味を問うクリティカルシンキングを身につけること。

A) To acquire the basic knowledge necessary to view sport as a cultural tourism resource.

B) To acquire the internationality to understand multiculturalism, a perspective to capture cultural change and critical thinking to question the value and meaning

授業の内容 / Course Contents

① スポーツのグローバルな発展過程を大きくつかむ。

② 国や地域によるスポーツの多様性について理解する。

③ 日本におけるスポーツを文化として把握し、その歴史的な変化や特徴、問題などについて考える。

④ スポーツのもつ魅力やパワーについて理解する。

以上のような内容に即した講義やグループワーク、発表、ディスカッションなどを行なう。

- (i) Grasp the global development process of sport at large.
- (ii) Understand the diversity of sport in different countries and regions.
- (iii) Understand sport in Japan as a culture and consider its historical changes, characteristics and problems.
- (iv) Understand the appeal and power of sport.

Lectures, group work, presentations and discussions will be conducted in line with the above content.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション&スポーツの母国を探る
- 2 回：世界のスポーツを見渡す
- 3 回：アメリカのスポーツを知る、考える
- 4 回：オーストラリアのスポーツを知る、考える
- 5 回：アジアのスポーツを知る、考える
- 6 回：スポーツという異文化と日本の出会い
- 7 回：日本の教科書の中のスポーツ
- 8 回：スポーツマンガの変化を追う(1)
- 9 回：スポーツマンガの変化を追う(2)
- 10 回：海外からみた日本のスポーツ
- 11 回：変化する日本のスポーツ(1)
- 12 回：変化する日本のスポーツ(2)
- 13 回：スポーツの感動の根源を探る
- 14 回：スポーツ文化の価値と可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義と授業中の議論の内容を自分なりに消化吸収すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :44%
 平常点割合 :56% 小レポート（計14回）:56%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

坂上康博・中房敏朗・石井昌幸・高嶋航編 スポーツの世界史 一色出版 2018 9784909383044
 坂上康博 にっぽん野球の系譜学（電子版） 青弓社 2017
 三輪定宣・川口智久編 先生、殴らないで一学校・スポーツの体罰・暴力を考える かもがわ出版 2013
 坂上康博編 12の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究 かもがわ出版 2019 9784780309973
 その他の参考文献は授業中に紹介する。

その他 / Others

・一方的な講義ではなく、グループワークや個人の意見発表、ディベートなどを行なう。

・動画などの映像資料も使用する。

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光と文化5（食）

Tourism and Culture 5 (Food)

食と料理のグローバル化

光田 達矢 (MITSUDA TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、グローバルな視点に立ち、世界各国の食や料理が、どのようにして広まったのかを学ぶ。その際、忌避と受容を繰り返しながら普及していった食と料理を取り上げ、人々の食生活の一部になっていった要因を多角的に分析できることを目的とする。

In this course, students will learn how foods and cuisines from around the world spread. In doing so, it will analyze the multifaceted factors behind why certain foods and cuisines failed to gain acceptance while others were incorporated in peoples' diets

授業の内容 / Course Contents

私たちの周りには食べ物があふれているが、なぜある食べ物を口にし、別の食べ物を忌避するのかについてあまり考える機会はない。フランス料理を味わうとロマンチックな気分になるのに、中華麺をすするとそうにはならないし、食卓のマナーを通して他人との付き合いを再考することもある。

本講義では、美味しいものも不味いものも、安全なものも危険なものも、自然なものも人工的なものも含め、様々な例を通して、現代の食生活の成立について、歴史的な考察を行う。歴史的事例の多くは、ヨーロッパ、

アメリカ、アジア、南米、日本を参照し、時代は

In this course, we will examine the establishment of modern eating habits through a variety of historical examples, both good and bad, delicious and disgusting, safe and unsafe, natural and artificial. Many of the historical examples will refer to Europe, America, Asia, South America, and Japan, and the time period will focus from the 16th to the 20th century.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：食を学問として「料理」する（導入・オリエンテーション）
- 2回：ヨーロッパ人のアイデンティティと食 — 文化的に「消費」する食
- 3回：中世・近世社会の食生活（1）— 食生活・食文化の「豊かさ」問題
- 4回：中世・近世社会の食生活（2）— 宗教とタブー
- 5回：帝国がもたらした食生活の変化（1）— 大航海時代の食
- 6回：帝国がもたらした食生活の変化（2）— 甘さ・辛さへの渴望
- 7回：産業革命がもたらしたもの（1）— 都市と食生活
- 8回：産業革命がもたらしたもの（2）— 菜食主義と動物愛護運動の台頭
- 9回：レストランと外食産業の発展（1）— 家族・社交・性
- 10回：レストランと外食産業の発展（2）— 趣味としての「料理」
- 11回：エスニック料理と人的移動（1）— インド料理と中華料理
- 12回：エスニック料理と人的移動（2）— フランス料理と和食
- 13回：食文化と地域性（1）— 食事が「不味い」国と「美味しい」国
- 14回：食文化と地域性（2）— 観光と食・食の国籍・食の今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% テスト:20% 最終レポート割合 :40%最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光と社会 2 (交通)

Tourism and Society 2 (Transportation)

根岸 海馬 (NEGISHI KAIMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB304
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC3300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

- 交通・通信技術の発達と、時間・空間認識の連関を説明できる。
- 「移動」の概念を紐解き、その見過ごされてきた側面について議論する。
- 「モビリティ」の概念について理解を深める。

By the end of the course, students are expected to:

- Explain the interplay between the development of transport and communication technologies and the way we understand time and space.
- Unpack the concept of 'movement' and discuss some of its overlook

授業の内容 / Course Contents

近代以降の交通技術や通信技術の発達は、ヒトやモノが移動する速度や範囲、条件や状況を大きく変えました。そうした中で、空間や時間をめぐる科学や経験、認識や表象はどう変わったのか。このコースでは、「観光」という現象を手がかりに近代以降における空間・時間概念の変遷をたどり、「社会」や「コミュニティ」を考える方法を再検討します。またその過程で、以下の問いについて考え、一般的に「移動」と呼ばれる現象の見過ごされてきた側面を学びます。移動とは何か？それはいつ、どこで、どのように起こるのか？それは誰の

ものなのか？それは常

The development of transport and communication technologies in the modern era has drastically changed the speed, distance, conditions, and circumstances of movement of humans and non-humans. How have the science, experience, perception, and representation of space and time shifted amidst these developments? We will trace the transition of the concepts of space and time, with reference to tourism, and aim to review the way we understand "society" and "community". In this process, we will also examine the following questions and consider overlooked aspects of what is today commonly referred to as "movement". What is movement? When, where, and how does it come into being? To whom does it belong? Does it always involve physical presence? How is it perceived, represented, embodied?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：コースガイダンス
- 2回：可能性のポリティクス：動ける、動けない(1)
- 3回：映像視聴①
- 4回：可能性のポリティクス：動ける、動けない(2)
- 5回：受け身の力学：動かされる(1)
- 6回：映像視聴②
- 7回：受け身の力学：動かされる(2)
- 8回：速度認識と速度表現：動いているのか、いないのか？(1)
- 9回：映像視聴③
- 10回：速度認識と速度表現：動いているのか、いないのか？(2)
- 11回：想像／創造の経験：動かずに動く(1)
- 12回：映像視聴④
- 13回：想像／創造の経験：動かずに動く(2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業後に、授業で扱った内容を復習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% コメントペーパー:20% 映画書評:40% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

ジョン・アーリ（吉原直樹・伊藤嘉高 訳） モビリティーズー移動の社会学 作品社 2015

9784861825286

遠藤英樹 ツーリズム・モビリティーズ 観光と移動の社会理論 ミネルヴァ書房 2017 9784623078783

注意事項（検索結果画面）

2020 年度以降入学者対象

観光地理学 6（日本地誌）

Geography of Tourism 6 (Japan)

亀井 啓一郎 (KAMEI KEIICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB305
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地理学的・地誌学的な視点から、日本の観光地を中心とした諸地域の地域性を理解する。地図を正しく読むことができるようになり、地域のことを正しく理解できるような素養を身に付ける。

Understand the regional characteristics of various regions centered on Japan's tourist areas from a geographical perspective. Students will also be able to understand maps accurately and have an accurate understanding of the region.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、地域イメージの広がりをテーマとして、日本の諸地域についてその地域性を考察する。授業ではまず都道府県のイメージについて講義する。続いて、日本の観光地の発達過程や成立について講義する。最後に歌から見る地域、郷土唱歌、郷土かるたに関する講義を行う。

In this course, we will consider the regional characteristics of the various regions of Japan with the theme of the spread of regional images. First, the course will have a lecture on the image of prefectures. Next, lectures will be given on regions as seen through songs, local songs, and local karuta.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス
- 2回：都道府県のイメージ
- 3回：地図から地域を見る（1）広がる軽井沢
- 4回：地図から地域を見る（2）小京都の分布
- 5回：地図から地域を見る（3）小江戸と城下町
- 6回：地図から地域を見る（4）湘南の範囲
- 7回：地図から地域を見る（5）ミニ富士と富士塚
- 8回：歌から地域を見る（1）津軽海峡・冬景色
- 9回：歌から地域を見る（2）信濃の国
- 10回：郷土唱歌の誕生と成立
- 11回：全国各地の郷土唱歌
- 12回：郷土かるたの誕生と成立
- 13回：全国各地の郷土かるた
- 14回：授業のまとめと補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的に新聞やニュースなどにより、地域の出来事に関心を払って欲しい。知らない地名や聞いたことの無い地名があった場合には、地図帳で確認すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する

参考文献 / Readings

菅野峰明・佐野充・谷内達 編 日本の地誌5（首都圏I） 朝倉書店 2009 9784254167658

斎藤功・石井英也・岩田修二 編 日本の地誌6（首都圏II） 朝倉書店 2009 9784254167665

その他 / Others

当然のことながら、授業中の私語や私事は禁止である。

授業の妨げとなる行為を行う者の履修はお断りする。

地図帳を持参すること（二宮書店もしくは帝国書院が望ましい）。

観光と社会 4（医療）

Tourism and Society 4 (Medical Care)

医療の視点から観光と社会を考えましょう

真野 俊樹 (MANO TOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB306

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

医療や社会保障について理解したうえで観光との関連性について学ぶ

To learn tourism based on the knowledge of health and social security

授業の内容 / Course Contents

最初に、医療界の状況や社会保障の現実について学ぶ。そのうえで医療ツーリズムについて概観をする。その後外部講師や事例研究を通して、現状認識を深める。

To learn the basic knowledge of healthcare and medical and wellness tourism.

To learn the reality of healthcare and medical and wellness tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：社会保障とは

2 回：医療の状況

3 回：世界の医療の状況 先進国（1）

4 回：世界の医療の状況 先進国（2）

- 5回：世界の医療の状況 新興国（1）
 6回：世界の医療の状況 新興国（2）
 7回：医療ツーリズムが起きたわけと世界（含む日本）での医療ツーリズム
 8回：日本での取り組みの紹介
 9回：アジアの医療と医療ツーリズム
 10回：J ウェルネスとは
 11回：ウェルネスツーリズムとは
 12回：温泉とスパとツーリズム
 13回：ロングステイ
 14回：まとめと今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを事前に読む
 授業での資料を復習する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%
 平常点割合 :0%
 3分の2以上の出席をしていない場合には、単位修得不可

テキスト / Textbooks

- 真野俊樹 はじめての医療経営論 有斐閣 2020 ○
 真野俊樹 医療で「稼ぐ」のは悪いことなのか 薬事日報社 2018 ○
 真野俊樹 新たな医療危機を超えて ◇コロナ後の未来を医学×経済の視点で考える 日本評論社 2021 ○
 真野俊樹 複眼で見る医療経済とイノベーション 千倉書房 2021 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義を中心に行う

注意事項（検索結果画面）

2020年度以降入学者対象

観光地理学 7 (外国地誌 1)

Geography of Tourism 7 (Foreign Area 1)

パリをめぐる地理学の Study Tour

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB313

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

場所や地域を総合的に捉える地誌学の見方・考え方を習得し、観光研究に活用・応用できる能力を身につける。

This course aims for students to acquire ways of thinking and perspectives on Regional Geography, so they comprehensively understand places and areas, along with the ability to use and apply them to tourism.

授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパの中のフランス、とくにパリの都市空間を対象として、主要な地図と画像をもとに地誌学的な検討と考察を進める。多様な側面からパリを理解するためには、地理的知識を背景とする空間的な視点が欠かせないことについて講義する。理解を深めるために、リヨン、マルセイユほか、フランスの諸都市についても触れる。

This course investigates and considers from perspectives of Regional Geography by using major maps and images and by targeting urban spaces in France, Europe, and especially in Paris. To understand Paris according to its various aspects, students hear lectures on the need for a spatial perspective based on geographical knowledge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フランスを理解するための空間モデル1
 2回：フランスを理解するための空間モデル2
 3回：リセエヌのパリ案内
 4回：パリを理解するための補助線
 5回：パリの立地と南北軸
 —セーヌ渡河点とラ・シャペル隘路—
 6回：パリの形成と同心円1
 —都市壁とフォーブール—
 7回：パリの形成と同心円2
 —徴税請負人の壁と小郊外—
 8回：パリ歴史軸のパーспекティブ
 9回：変貌するパリ1 —パリ大改造—
 10回：変貌するパリ2 —グランプロジェクト—
 11回：移民・外国人のパリ1 —グットドール—
 12回：移民・外国人のパリ2 —ショワジエの三角形—
 13回：パリの生活空間・観光空間1
 14回：パリの生活空間・観光空間2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

地誌学の授業にとって、地図と地図帳は「辞書」である。というのも、授業で取り上げる地域や場所の地理的位置を理解しなければ、授業の内容をもとに自らの考察を深めることは難しいためである。そこで、履修者は教室で配付される地図とは別に、自身の地理的知識に応じた地図帳などを手元に用意して、教室の内外で辞書のように繰り返し参照すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :88%
 平常点割合 :12% 授業内の課題・提出物:12%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業時に書籍・文献リストを配付し、紹介する。

観光地理学 8 (外国地誌 2)

Geography of Tourism 8 (Foreign Area 2)

南北アメリカ地誌

(Regional Geography of the Americas)

石井 久生 (ISHII HISAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB314

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は、

- (1) 南北アメリカの地誌学的特徴の概略と、各地の地誌の詳細を理解できる
- (2) それらを地誌学的観点から説明できる

ようになることである。

The goals of this course are as follows:

- (1) To be able to understand an overview of the geographical characteristics of the Americas and the details of each region.
- (2) To be able to explain them from geographical perspective.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、南北アメリカの地誌の基礎的知識を学修する。前半は北アメリカの地誌、後半は中部アメリカおよび南アメリカの地誌に焦点を当てて講義する。

This course aims to help students acquire basic knowledge about the regional geography of the Americas. The first half of this course focuses on North American geography and the second half on Middle and South American geographies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：「アメリカ」とは

「アメリカ」が含まれた地名とそれぞれの違いを確認する確認する。

2回：南北アメリカの自然環境

大地形と気候区の分布に基づいて、南北アメリカの自然環境の特徴を解説する。

3回：北アメリカの歴史地理：「アメリカ」における人類の歴史と「アメリカ合衆国」の登場

「アメリカ」における人類の歴史を概観するとともに、「アメリカ」が命名された歴史を概観し、「アメリカ」という地名に込められた意味を確認する。「アメリカ合衆国」の登場とその後の南のアメリカの国々との国際関係の変化を概観し、「アングロアメリカ」「ラテンアメリカ」という文化地域概念が登場した経緯を解説する。

4回：北アメリカの農業地理：伝統的土地利用の地域差と農業地域の形成

アメリカ合衆国に入植した人々の出身地による土地利用の地域差と同国で採用された独特の土地区画方式を概観し、そのうえで1920年ごろまでに形成された伝統的農業地域の特徴を解説する。

5回：北アメリカの産業地理：現代の企業的農業とアグリビジネス

家族経営から企業経営へと大きく変貌した現代アメリカ農業を、世界の農産物市場を席卷するアグリビジネス企業の特徴から解説する。

6回：北アメリカの都市地理1：20世紀初頭の工業都市と初期シカゴ学派

19世紀末から20世紀初めの近代工業都市の都市地理学的特徴を、初期シカゴ学派が提唱した学説に基づいて解説する。

7回：北アメリカの都市地理2：21世紀のグローバルシティとロサンゼルス学派

工業がもはや都市機能の中心ではなくなったポストモダン都市の例としてロサンゼルスを取り上げ、ロサンゼルス学部の諸理論からポストモダン都市の都市地理学的特徴を解説する。

8回：北アメリカのエスニック地理1：移民が創造するアメリカ社会

1800年代初めから現代までのアメリカ合衆国に流入した移民の年代別数や出身地の変化を概観し、現代アメリカ合衆国の多民族社会が形成された経緯とその特徴を解説する。

9回：北アメリカのエスニック地理2：ロサンゼルスのエスニック地理と現代エスニック社会の特徴

現代アメリカ合衆国の多文化社会の一例としてロサンゼルス市に着目し、ミクロな地域次元で異なる人種・エスニシティの人々が共存した場合、どのような現象が観察されるのかを、エスニック地理学的に解説する。

10回：中南アメリカ：先コロンブス期の歴史地理

先コロンブス期の諸文明の分布と特徴を歴史地理学的に解説する。

11回：中南アメリカ：1492年以降の人口動態の変化にみる人口地理

先コロンブス期の諸文明の分布と特徴を歴史地理学的に解説する。

12回：中南アメリカの都市地理1：先コロンブス期の都市から19世紀の前産業型都市へ

19世紀末から1980年代ごろまでの都市人口の急増後に出現した「分極化した都市構造」の特徴を、都市地理学的に解説する。

13回：中南アメリカの都市地理2：20世紀の分極化する都市から21世紀の分断化する都市へ

20世紀末以降のグローバル化の中で中南アメリカ諸都市が経験した諸環境の変化の結果、新たに出現した「分断化した都市構造 Fragmented Urban Structure」の特徴を都市地理学的に解説する。

14回：総括

これまでの学習内容を総復習するテストを実施し、学習到達度を確認する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習として、毎回授業終了後に Canvas LMS を用いた小テストを実施する。それ以外の授業時間外の学習は、必要に応じて別途指示する。指示された内容以外に、少なくとも地図や web を利用して次回の対象地域について事前に学習しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 小テスト:30%

3分の2以上の出席をしていない場合は、原則として単位修得不可。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。資料プリントファイルを Canvas LMS を通じて毎回配布する。

参考文献 / Readings

矢ヶ崎典隆 『アメリカ』 (世界地誌シリーズ 4) 朝倉書店 2011 4254168586

丸山浩明 『ブラジル』 (世界地誌シリーズ 6) 朝倉書店 2013 4254169264

石井久生・浦部浩之 『中部アメリカ』 (世界地誌シリーズ 10) 朝倉書店 2018 4254169302

Birdsall, S.S., J.C. Malinowski and W.C. Thompson Regional Landscapes of the US and Canada 8th ed. Wiley 2017 1118790340

Jackiewicz, E.L. and F.J. Bosco Placing Latin America: Contemporary Themes in Geography 4th ed. Rowman & Littlefield 2020 1538126303

Blouet, Brian W. and Olwyn M. Blouet Latin America and the Caribbean: A Systematic and Regional Survey 7th ed. Wiley 2015 1118729846

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回授業終了後に Canvas LMS を用いた小テストを実施するので、PC あるいはタブレットが必要になります。

その他 / Others

授業形態は Power Point を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。

授業終了後に行う小テストは出席確認を兼ねるので、期限内に必ず受験すること。

小テストに対するフィードバックは、小テスト終了後のコメントや次回授業開始時に行う。

期末試験のフィードバックは、試験終了後に Canvas LMS を通じて行う。

観光地理学 9 (外国地誌 3)

Geography of Tourism 9 (Foreign Area 3)

朝鮮半島の地域性と観光資源を学ぶ。

張 景泰 (JANG KYUNGTAE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB315

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自然環境と伝統的生活、現代文化などあらゆる点で密接なつながりを有する東アジアについて、その成り立ちと現代社会に関する知識を体系的に身につける。

This course systematically explores East Asia's close connections among the natural environment, traditional life, and modern society, for students to learn about the formation of modern society, culture, and so on.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおける自然環境と人間生活・文化・観光のさまざまな関係を紹介する。特に朝鮮半島 (韓国) に焦点をあて、自然環境と人間生活、産業構造、観光地がどのように成立しているかを学ぶ。そして韓国と日本とのつながりについても考察する。授業では、朝鮮半島の地図および韓国の写真、映像資料を多用しながら進めていく。

This course introduces the various relationships between East Asia's natural environment and human life, culture, and tourism. In particular, focusing on the Korean peninsula (South Korea), the course examines how the natural environment, human lifestyles, industrial structures, and tourist sites are formed. The course also

examines the relationship between Japan and Korea. The course extensively uses maps of the Korean Peninsula, video materials, and photographs of South Korea.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、韓国に関する全体概要
- 2回：異文化の理解について（韓国文化を事例として）①
- 3回：異文化の理解について（韓国文化を事例として）②
- 4回：朝鮮半島の自然環境と暮らし
- 5回：韓国と北朝鮮、朝鮮戦争について
- 6回：韓国の産業構造と地域性
- 7回：韓国政治と地域性
- 8回：韓国の行政区域と世界遺産について
- 9回：「韓流」について①（音楽、アニメ）
- 10回：「韓流」について②（ドラマ、映画）
- 11回：日本と韓国の文化の差異・共通点について（日・韓の結婚式について）
- 12回：韓国の観光地①について（ソウル）
- 13回：韓国の観光地②について（釜山、鉄道による旅）
- 14回：韓国の観光地③について（韓国のリゾート地）、韓国における観光資源の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ニュースと新聞，インターネットを利用して東アジア情勢に関心を持つようにしてください。授業で学んだ内容がどれほど活用できるか自分で確認してみてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内テスト（複数回）：60% 期末レポート：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時間内に紹介する。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、地図、映像資料、現物資料なども適宜活用する。

観光地理学 10 (外国地誌 4)

Geography of Tourism 10 (Foreign Area 4)

地誌的な視点からとらえる東南アジアの世界

大塚 直樹 (OTSUKA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB316

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 地誌的な視点から観光地理学の多面性を理解する。
- ベトナムを中心に東南アジアに関する歴史・地理的な知識を涵養する。

The purposes of this course are for students to: (1) understand the diversity of Tourism Geography from a perspective of regional geography and

(2) gain local knowledge of Southeast Asia, especially Vietnam.

授業の内容 / Course Contents

講義では、まずグローバル化した現代社会における地誌 (学) の位置づけを検討する。次に、地誌の学説史をたどりつつ、学校教育と地誌との関係を把握する。以上の理解に基づき、東南アジア社会、特にベトナムを事例として、具体的な観光現象に関する講義をおこなう。

This course first considers the position of Regional Geography in the globalized modern society. Next, it traces the history of Regional Geography to grasp the relationship between school education and regional geography.

Based on this understanding, the course offers specific lectures on the phenomenon of tourism in Southeast

Asian society, particularly Vietnam.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：現代社会と地誌
- 3回：地誌とは
- 4回：地誌の学説史(1)：海外編
- 5回：地誌の学説史(2)：日本編
- 6回：東南アジア世界の地域像
- 7回：東南アジア社会の歴史地理
- 8回：ベトナム戦争に関する映像資料
- 9回：ベトナム地誌：ベトナム戦争と国民国家の形成
- 10回：ベトナム地誌：ベトナム戦争の記憶
- 11回：ベトナム地誌：歴史空間としてのベトナム
- 12回：ベトナム地誌：ベトナムの多様な生活空間
- 13回：ベトナム地誌：関係性からとらえるベトナム社会
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワー等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

地図帳などにて東南アジア諸国の地理的位置を確認し、当該地域の基礎知識を修得しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業時にベトナム戦争に関するドキュメンタリー資料(DVD)を用いる可能性がある。

観光社会学3（ジェンダー）

Sociology of Tourism 3 (Gender)

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB337
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と人の移動をジェンダーの社会学の視座から分析する力を養う。ジェンダー、階層、セクシュアリティなど、交差するさまざまな権力関係を理解し、社会・文化・経済・歴史的な要因が現代を生きる人々の日常に及ぼす影響を多面的に考察できるようになる。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Analyse tourism and migration from the viewpoint of the sociology of gender.
- 2) Understand the intersecting power relations such as gender, class and sexuality to consider from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

ジェンダーの社会学の基礎概念を紹介し、日本国内外の観光現象を分析する。とりわけ近代社会の変遷とインターセクショナリティ（交差性）に重点を置き、ジェンダー規範が観光、人の移動や個人と社会構造の相互関係に与える影響を考察する。

This course introduces foundational concepts from the sociology of gender to analyse national and international tourism phenomena. In particular, it emphasises the changing characteristics of modern society and intersectionality to examine the impact of gender norms on tourism, migration and the mutual relationship

between individuals and social structure.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：ジェンダーの社会学の基礎概念
- 3回：近代化と女性消費者の誕生
- 4回：近代社会の消費文化とジェンダー
- 5回：マスツーリズムから観光の差異化へ
- 6回：後期近代社会：旅する自己とアイデンティティ
- 7回：観光産業、労働とジェンダー
- 8回：前半の振り返り
- 9回：セクシュアリティの基礎知識
- 10回：多様性の時代の観光1
- 11回：多様性の時代の観光2
- 12回：多様性の時代の観光3
- 13回：医療観光とジェンダー
- 14回：全体の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー(複数回):50% 中間テスト:20% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

適宜案内する。

参考文献 / Readings

- 佐藤文香 監修 一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同 著 ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた――あなたがあなたらしくいられるための29問 明石書店 2019 9784750348520
- 石田仁 はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで ナツメ社 2019 9784816365829
- 伊藤公雄, 牟田和恵編 ジェンダーで学ぶ社会学 世界思想社 2017 9784790716686
- 国立歴史民俗博物館 監修 「性差の日本史」展示プロジェクト 編 性差 (ジェンダー) の日本史 集英社インターナショナル 2021 9784797680836
- 杉田俊介 マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か #MeTooに加われない男たち 集英社 2021 9784087211825
- 中村敏子 女性差別はどう作られてきたか 集英社新書 2021 9784087211528
- 電子書籍版がある場合はキャンパス外からもアクセス可能 (立教大学図書館ウェブサイト参照)。

参考文献は他にも適宜案内する。

その他/ Others

デジタルツール等を活用した双方向的な講義を実施し、学生の能動的な参加を前提とした講義を行う。

観光と社会 5（環境）

Tourism and Society 5 (Environment)

環境社会学の視点から観光と環境の関係を考える

湯浅 陽一 (YUASA YOUICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB339

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境社会学の視点から観光と環境に関わる諸問題について考察し、観光と環境、地域社会の関わり方への理解を深めます。とくに、持続可能なまちづくりについての理解を深めます。

In this course, by examining some topics on tourism from the perspective of Environmental Sociology, students deepen their understanding of the relationship between tourism and local communities.

授業の内容 / Course Contents

景観の保存に関するものと、鉄道に関するものを中心に、環境社会学の研究の中から、観光と持続可能なまちづくりに関わりの深いものを取り上げます。

This course takes some topics on tourism from research in Environmental Sociology, landscape preservation, and, particularly, from railway construction.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業のガイダンスと導入：環境社会学の視点と観光

2 回：観光開発による地域振興と環境の破壊

- 3回：景観の保存と地域社会1：景観への視点（自然環境編）
 4回：景観の保存と地域社会2：歴史的環境の保存
 5回：景観の保存と地域社会3：小樽における運河の保存
 6回：景観の保存と地域社会4：鞆の浦の事例
 7回：鉄道開発と社会1：新幹線公害とは
 8回：鉄道開発と社会2：受益圏と受苦圏
 9回：鉄道開発と社会3：整備新幹線とは
 10回：鉄道開発と社会4：並行在来線問題
 11回：鉄道開発と社会5：ミニ新幹線と地域社会
 12回：鉄道開発と社会6：日本の鉄道史と地方ローカル線
 13回：環境と観光によるまちづくり1：徳島県や岩手県における事例の紹介
 14回：環境と観光によるまちづくり2：持続可能なまちづくりの条件とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に事前を目を通したうえで、授業資料の復習をすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 足立重和・金菱清 環境社会学の考え方 ミネルヴァ書房 2019 9784623085279
 船橋晴俊 新幹線公害 有斐閣 1985 4641024871
 船橋晴俊他 政府の失敗の社会学 ハーベスト社 2001 4938551535
 古川彰・松田素二編 観光と環境の社会学 新曜社 2003 9784788508675
 堀川三郎 町並み保存運動の論理と帰結 東京大学出版会 2018 4130561146
 笠松和市・佐藤由美 持続可能なまちは小さく、美しい 学芸出版社 2008 9784761512453

観光と文化 6 (風景)

Tourism and Culture 6 (Scenery)

近代日本人の見た風景

野村 典彦 (NOMURA NORIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB346

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

風景を味わうとはいかなることか。旅とはいかなるものか。

鉄道の開業とほぼ同じ頃に生まれた民俗学者・柳田国男の論を参照しながら、近代日本人が楽しんだ旅とそのあり方について理解する。

What does it mean to savor a landscape?

What does travel mean to you?

Students will understand the journey enjoyed by modern Japanese people, referring to Yanagida Kunio's theory.

授業の内容 / Course Contents

絵葉書やスタンプ、ソノシートなど、近代日本人が旅を楽しんだ痕跡を具体的に確認しながら、日本人の旅のあり方を具体的に検証し、柳田国男の構築した学問と世の中によるその消費を学びながら、今日の観光を考える。

We will examine Japanese travel in detail, confirming the traces of modern Japanese people's enjoyment of travel.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：精神的に向上心のない者はばかだー漱石の房州への旅ー
- 2回：郷土の景観と国境の長いトンネルー視点・視線の変化ー
- 3回：菟印趣味と行楽の流行ー御朱印あるいは駅スタンプー
- 4回：活字メディアと鉄道旅行ー日本新八景などー
- 5回：富士には月見草がよく似合うーバスガイドの語りー
- 6回：桃太郎の1930年ー桃太郎神社の誕生、あるいは瀬戸内海の鬼退治ー
- 7回：旅と伝説ー柳田国男の風景論ー
- 8回：旅順の戦跡と鴨緑江ー大陸の風景を見る日本人の視線ー
- 9回：風景と民謡ー絵葉書あるいはソノシートー
- 10回：ディスカバージャパン（1）ー「民話のふるさと」の誕生ー
- 11回：ディスカバージャパン（2）ー秘境あるいはツチノコー
- 12回：町の盛衰を語る物語ー駅はなぜそこにあるかー
- 13回：ユースホステルと「奇跡の一本松」ー風景の焦点ー
- 14回：まとめー旅に出てどのように見るかー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて授業時におこなう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

柳田国男 雪国の春（角川ソフィア文庫） 角川書店 2011

野村典彦 鉄道と旅する身体近代 青弓社 2011

『雪国の春』は、『定本柳田國男集』『柳田國男全集』（ちくま文庫）『柳田國男全集』など、さまざまな書籍で読むことが可能。

その他 / Others

板書による講義をおこなう。

資料は印刷して配布するが、論文については一部分のみの引用となるので、授業後に各人において確認することが望ましい。

レポートは授業内容に関連する課題（詳細は授業時に指示）。2000字程度。

観光人類学 6 (コミュニティ)

Anthropology of Tourism 6 (Community)

小河 久志 (OGAWA HISASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB357

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

コミュニティ概念をめぐる基本的な理論枠組みを理解し、多様なコミュニティのあり様とその動態を多面的な角度から把握できるようになることを目指す。

At the end of this course, students should be able to explain basic concepts related to the idea of community and obtain multiple perspectives about the diverse communities and their dynamics.

授業の内容 / Course Contents

コミュニティは、これまで場所と文化が結びついた地域社会という意味で用いられてきた。しかし、グローバル化の進行にともない社会や文化が変化するなかで、さまざまなコミュニティが出現している。本講義では、世界各地の事例を取り上げながら、文化人類学の視点から、多様なコミュニティの様態と特徴、社会文化的背景について検討する。講師のタイでの調査経験も紹介しながら、主に「宗教」「民族」「生業」「移動」「災害」「観光」等のトピックを取り上げる。

Community has been used to mean a local society where place and culture are linked. However, as societies and cultures change with the advance of globalization, various communities have emerged. From the perspective of cultural anthropology, this course considers examples from around the world to examine the states,

characteristics and socio-cultural backgrounds of diverse communities. The instructor's own research experience in Thailand is also introduced. Topics such as "religion," "ethnicity," "livelihood," "migration," "disaster," "tourism," etc. are discussed in particular.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文化人類学とコミュニティ
- 3回：婚姻と家族
- 4回：ネットワーク
- 5回：コミュニティと宗教①
- 6回：コミュニティと宗教②
- 7回：コミュニティと生業
- 8回：まとめと中間テスト
- 9回：民族とコミュニティ①
- 10回：民族とコミュニティ②
- 11回：人の移動とコミュニティ①
- 12回：人の移動とコミュニティ②
- 13回：災害とコミュニティ
- 14回：まとめと最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（予習）

書籍や新聞、インターネット等を通して、次回の授業テーマに関する情報を集めること。

（復習）

授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、配布資料やノートを読み返すなど復習をして授業内容に対する理解を深めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終テスト:30% 中間テスト:20% 講義内課題（10回）:50%

欠席が1/3を超えた場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

プリント（毎回の授業で配布）

参考文献 / Readings

授業中に適宜、紹介する。

その他 / Others

授業では適宜、映像資料を用いる。

観光地理学 5（自然環境）

Geography of Tourism 5 (Physical Environment)

その観光地はなぜその自然にあるのか

小森 次郎 (KOMORI JIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB374

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 現地のリアルな状況を共有することを目的として、2・4・6・8・10・12 回目授業をオンラインで実施する。頻繁に発言を求めるので各自でマイクが使える状態で参加すること。正当な理由以外でマイクから発言できなかった場合は受講態度の評価を厳しく評価するので注意すること。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

海、山、川など観光資源の要素となる「自然環境」の素地について、その形成の背景から利用や防災の観点まで改めて理解できるようになること、さらにこの授業を受けることで、目の前の景色が単なる景色ではなく「意味を持った景観」として見られる眼力をもつようになることを目標とする。

The goal of this course is to learn a new understanding of the natural environment, which is an element of tourism resources such as oceans, mountains, and rivers, from the background of their formation to the perspective of disaster prevention in their u

授業の内容 / Course Contents

14 回の授業全体では、各回のテーマについて、それがどこにあり、なぜそこにあるのか、について地形・地質的背景、および人とのかかわり（恩恵や災害）について学んでいく。いくつかの授業ではその回のテーマについて個人やグループで検討し、他者へ紹介する時間を設ける。授業の素材はパワーポイントのスライドのほか

か、インターネットの地形図・地質図閲覧サイト等を用い、受講者自らがそれらを判読したり、周囲との相談やプレゼンテーションを行う時間を設ける。

We will learn about the geomorphological and geological background of each topic, and its relationship to humans (benefits and disasters), in order to understand where it is and why it is there. Especially in the latter half of the class, students are encouraged to do their own research and study. In the latter half of the class, students will be encouraged to do their own research and study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス。観光資源としての自然。

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

2回：観光資源としての海（沿岸）。

三浦半島・城ヶ島の自然。特に湾入地形、隆起海岸地形、人新世堆積物、漁港近隣商店街。■現地からオンラインで実施。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

3回：観光資源としての山。

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

4回：観光資源としての山。

富士山の山麓の自然。特に火砕丘、宝永噴火、山体崩壊、雪崩と泥流。■現地からオンラインで実施。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

5回：観光資源としての河川。

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

6回：観光資源としての河川。

多摩川下流域の自然。等々力溪谷、河岸段丘、東日本台風、旧河道。■現地からオンラインで実施。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

7回：自然災害・人為災害の現場を見る

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

8回：自然災害・人為災害の現場を見る

地震、活断層、津波、福島第一原発。■現地からオンラインで実施。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

9回：都心の観光資源としての地形・地質

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

10回：都心の観光資源としての地形・地質

日本の原点、入り江と砂州。■現地からオンラインで実施。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

11回：観光地の光と影①

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。（配信元：未定）

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

12回：観光地の光と影②

スラム，ゴミ問題，ダークツーリズム，■現地からオンラインで実施。

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

13回：観光地の光と影③

翌週のオンライン配信のテーマと配信元に関する事前学習。（配信元：未定）

授業開始時アンケート・理解度チェック・終了時リアクションペーパーの提出。

14回：まとめ・補足・理解度チェック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業では以下のインターネットの地図・地質図閲覧サイトを使う。予習・復習としてそれらのサイトでテーマとした地形や地質を概観しておくこと。（閲覧の仕方は授業期間の前半で指導する）。

- 1) 国土地理院 電子国土 Web.
- 2) 産総研 地質図 Navi.
- 3) 今昔マップ.
- 4) Google Map（3Dバージョン。ストリートビューの履歴）.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回授業のリアクションペーパー:60% 授業内での理解度チェック:20% 最終
テスト割合 :20%

テキスト / Textbooks

指定のテキストは無し。授業にはインターネットの地図・地質図サイト，および大学入学前までに使っていた地図帳が見られるようにして臨むこと。

参考文献 / Readings

観光文学4（トラベルライティング）

Tourism Literature 4 (Travel Writing)

抜井 ゆかり (NUKUI YUKARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB376
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

リテラシーを重視した修辞法に重きを置くトラベルライティングを意識し、活用することにより、旅の楽しみ方を改めて捉え直し、観光消費を牽引する作用を考察する。

By consciously using travel writing that places importance on rhetoric emphasizing literacy, and reconsidering our enjoyment of travel, we will consider behaviors that drive consumption of tourism.

授業の内容 / Course Contents

ICTの発達により旅行記事を表し、発信する人々が増えているが、トラベルライティングの知識を得て旅の表現を学び、発信することは、自らの旅の楽しみを増大させるだけでなく、他の人々を旅へ誘う要素とも成り得る。旅の構成要素を分解し、それぞれの基礎知識と表現を紹介した上で、それらを魅力ある表現としてまとめられるよう講義するとともに、トラベルライティングの活用事例を紹介する。

The development of ICT has increased the number of people who send and share travel articles, but acquiring knowledge of travel writing, learning and sharing travel experiences can increase one's own pleasure in travel, becoming an element that invites others to travel. After deconstructing elements of the trip, instructor will introduce basic knowledge and expressions aiming for the students to be able to summarize them in attractive

expressions along with examples of travel writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス, 「旅を伝える」トラベルライティングとは？
- 2回：旅の構成要素と表現
- 3回：差異を意識する
- 4回：風景・情景を表現する, 描く, 書く
- 5回：「新座」を識る, 表現する
- 6回：旅の修辞法 1
- 7回：旅の修辞法 2
- 8回：食べ物を表す
- 9回：建築物を表す
- 10回：キャッチフレーズ考察／導入文考察
- 11回：宿泊施設を表す／交通機関を表す
- 12回：宗教／文化を表す
- 13回：トラベルライティングを愉しむ／人物描写を愉しむ
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況及び各回リアクションペーパー:70% レポート:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

テーマに合わせて適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

各回講義に出席の上、各々のテーマに即したトラベルライティングをリアクションペーパーとして提出すること。

観光と文化3（ポップカルチャー）

Tourism and Culture 3 (Popular Culture)

宮入 恭平 (MIYAIRI KYOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB377
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRC3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ポピュラー音楽と観光の関係を確認しながら、ポップカルチャーと社会、経済、政治や文化との近接性を理解する。

This course aims for students to understand the proximity of pop culture to society, economy, politics and culture, while confirming the relationship between popular music and tourism.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、ポップカルチャーの代表的な存在であるポピュラー音楽に注目しながら、「観光」や「文化」の意味を問い直しつつ、教科書『ライブカルチャーの教科書』に沿って、ポップカルチャーが日本および海外の社会、経済、政治や文化とどのようにかかわっているのかについて考える。

In this class, while re-questioning the meaning of "tourism" and "culture", we will focus on popular music as a representative of pop culture, and consider how pop culture is related to Japanese and overseas society, economy, politics, and culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：ライブカルチャーの全体像
 3回：メディア
 4回：産業
 5回：法律
 6回：政治
 7回：社会
 8回：アイデンティティ
 9回：教育
 10回：アイドル
 11回：アニソン
 12回：ツーリズム
 13回：ストリート
 14回：レジャー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業はテキストに準じておこないます。予習・復習のためにテキストを活用してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー（4～6回）:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

宮入恭平 ライブカルチャーの教科書 青弓社 2019年 9784787274229 ○

参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

その他 / Others

リアクションペーパーとレポートの提出、および資料の配布は「Canvas LMS」を利用します。

観光と社会 7（国際協力）

Tourism and Society 7 (Global Cooperation)

国際協力の視点から観光を考える

下田 恭美 (SHIMODA YUKIMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB381

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRC3300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本コースでは、国際協力、特に国際開発協力という視点から観光を捉え、国際開発の基礎知識を学びながら、途上国における観光を通じた開発の現状と課題を考察します。対象となる国／地域の社会・文化および人びとに焦点を当て、観光と国際協力の関係について包括的に理解を深めることを目標とします。

This course considers tourism from the viewpoint of international cooperation, especially international development cooperation. It explores the current circumstances and issues of development through tourism in developing countries, through which student

授業の内容 / Course Contents

アジアやアフリカなどで実施されている具体的な国際開発協力の事例を学びながら、観光による開発の課題や可能性について検討・考察します。また、観光開発に直接的・間接的に関連するビジネス等についても学びます。

This course examines and considers the challenges and possibilities of development through tourism, using specific cases of international development cooperation that are implemented in, for instance, Asia and Africa.

This course also provides knowledge about businesses that are directly or indirectly related to development through tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：国際協力の変遷と観光
- 3回：貧困削減と観光
- 4回：開発の受け手
- 5回：観光開発と文化1
- 6回：観光開発と文化2
- 7回：観光開発と人権
- 8回：観光開発とジェンダー
- 9回：開発とエコ・ツーリズム
- 10回：観光開発とボランティア
- 11回：観光分野の人材育成
- 12回：開発とビジネス1
- 13回：開発とビジネス2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ディスカッションに用いる資料を配布・指示しますので、事前に読み込んでください。新聞やテレビなどメディア等における関連トピックに関心を向けるようにしてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への積極的な参加およびリアクションペーパー:30% 小論文:20%

10回以上の出席がない場合は、単位修得の要件を満たさないものとします。

テキスト / Textbooks

特にありません。読んでくるべき資料については事前に適宜配布・指示します。

参考文献 / Readings

D.J.テルファー, R.シャープリー 『発展途上国世界の観光と開発』 古今書院 2011

紀谷昌彦, 山形辰史 『私たちが国際協力する理由：人道と国益の向こう側』 日本評論社 2019

下村恭民, 辻一人, 稲田十一, 深川由起子 『国際協力 (第3版)』 有斐閣 2016

牧田東一 『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』 学陽書房 2013

勝俣誠 『娘と話す世界の貧困と格差ってなに』 現代企画室 2016

ヒューム, デビッド 『貧しい人を助ける理由 遠くの子とあなたのつながり』 中央評論社 2016

佐藤 寛 (監修)、国際開発学会 (編集) 『国際協力用語集』第4版 国際開発ジャーナル社 2014

その他 / Others

各授業の後半では、ディスカッションを通して自分の考えを深めたり、発表したりしてもらう時間を作る予定です。

データ情報処理

Data Processing

量的調査データの取得から分析までのプロセスを学ぶ

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB412

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM1200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

量的調査の技術的側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集、分析に至るまでのプロセスを理解する
Focus on the technical aspects of quantitative research and understand the process from survey planning and design to data collection and analysis.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、調査の企画・設計、量的調査の種類（面接法、留置法、郵送法など）、サンプリングの理論と方法、調査票を作成する際の注意点、実査の手続きなど、データ収集のための基本的な方法論について解説する。また、収集したデータのクリーニング、分析方法（主に2変量）および分析結果の解釈と提示の仕方について講義、演習を行う。

In this class, basic methodologies for data collection will be explained, including survey planning and design, types of quantitative surveys (e.g., interview, retention, and mail methods), theories and methods of sampling, precautions in preparing survey forms, and actual survey procedures. Lectures and exercises will also be given on the cleaning of collected data, methods of analysis (mainly bivariate), and interpretation and presentation of

analysis results.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会調査の目的
- 2 回：社会調査の種類
- 3 回：社会調査のプロセスとデザイン (1)
- 4 回：社会調査のプロセスとデザイン (2)
- 5 回：実査の方法
- 6 回：調査票の作成
- 7 回：サンプリング
- 8 回：調査の実施
- 9 回：データのコーディング・クリーニング
- 10 回：データの基礎集計
- 11 回：統計的推測
- 12 回：変数間の関連 (1)
- 13 回：変数間の関連 (2)
- 14 回：レポート・報告書のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ニュースなどで調査や統計データを目にすることがあれば、それらに関心を持って触れていくことが望ましい。

また、授業で提示したレジュメや文献などで学習を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内の課題（複数回）:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

松本渉 社会調査の方法論 丸善出版 2021 9784621306314

轟亮・杉野勇・平沢和司 入門・社会調査法〔第4版〕 法律文化社 2021 9784589041418

注意事項（検索結果画面）

人数制限科目（48名）

フィールドワーク論

Fieldwork Methods

他者と接合するための技法

小西 公大 (KONISHI KODAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB415

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目ではフィールドワークに最も重きを置いた分野である文化（社会）人類学の方法論・理念を学ぶことで、調査実習や卒論執筆にも応用可能な技法の習得を目指す。また、フィールド経験を通じた自己変容の契機を重視し、他者と接合することで生みだされる創造的側面をフィールド哲学として読み解いていく。

In this course, we will study the methodology and philosophy of cultural (social) anthropology and ethnography, the fields that place the greatest emphasis on fieldwork, and aim to acquire techniques that can be applied to research practice and thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

講義はフィールドワーク（FW）の理念・歴史を学んだのち、行動観察・インタビュー・地域調査という三つの手法を講義する。通常 FW というインタビュー調査がメインと思われがちだが、生態学や動物行動学の影響を受けてヒトの社会性を考察してきた人類学では、相互行為や行動を「観る」「記録する」技法を駆使してきた分野でもあり、これは観光行動などの観光研究にも応用し得るものである。講義では民族誌的作品を読みながらこれらの技法を具体的に理解していくとともに、調査計画の立案や記録の技術（インタビュー方法、フィー

ルドノート、写真

In the lecture, after learning about the philosophy and history of fieldwork (FW), the three methods of behavioral observation, interviews, and community surveys are discussed. In the latter half of the course, we will learn practical techniques such as planning research and recording techniques (interview methods, field notes, photography techniques).

While this course is a lecture course, it also has a practical goal of acquiring techniques while learning the logic of the next generation's way of life mainly through field studies, so it requires a reasonable amount of effort and time. Students will be asked to complete assignments (some students may be asked to give presentations in class depending on the number of students). The assignments are designed to apply the techniques learned in the lectures and to conduct research on familiar people and environments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：理念と歴史 (1) 他者を知る
- 2回：理念と歴史 (2) 日常への視点
- 3回：理念と歴史 (3) 自己変容への視点
- 4回：フィールド実践例 (1) 人類学者のフィールド経験①
- 5回：フィールド実践例 (2) 人類学者のフィールド経験②
- 6回：様々な方法 (1) 行動観察と記録
- 7回：様々な方法 (2) インタビュー・生活史
- 8回：様々な方法 (3) 地域調査とは
- 9回：調査を計画する (1) 調査テーマの発見
- 10回：調査を計画する (2) 調査計画の立て方
- 11回：調査の実用 (1) データの取り方 (インタビュー技術編)
- 12回：調査の実用 (2) データの取り方 (フィールドノート編)
- 13回：調査の実用 (3) データの取り方 (フィールド写真術編)
- 14回：データ整理の方法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

上述の通り課題を課すので、授業で学んだ技法を試してみるという経験的学習が必要となる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への主体的な取り組み (含出席率) :10% コメントペーパー:20%

テキスト / Textbooks

箕曲在弘 (他編) 人類学者たちのフィールド教育：自己変容に向けた学びのデザイン ナカニシヤ出版
2021 ○

上記テキストは、フィールドでの学びを理解するための基礎的テキストとして利用する。

参考文献 / Readings

秋山裕之・小西公大（編） フィールド写真術 古今書院 2016

その他/ Others

『メイキング文化人類学』（太田好信・浜本満編，世界思想社，2005年）は，B.マリノフスキーら近代人類学の創始者のFWについて書かれており，本科目前半の講義で扱う事象を多々含んでいる。

『フィールドワークズ・ハンドブック』（日本文化人類学会監修，世界思想社，2011年）はFWの実用的な方法論である。特に日帰りのFW，1週間のFWなど，ゼミなどで実践可能な説明がなされている。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

観光地理学演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB611

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光地理学の研究方法を、地域調査の計画と実際をとおして習得し、観光研究にアプローチできるようにする。

To acquire the research methods of the geography of tourism, through the practice of field research and planning and become able to conduct tourism research.

授業の内容 / Course Contents

旅行者一人一人の振る舞いは、場所と地域にいかなる影響と変容を与えてきたのか。人が移動する道筋（交通ルート）、道筋が集散する拠点都市（結節点）、結節点の背後に展開する都市空間（後背地）、これらをおもな対象に、地理学の方法に基づく調査・研究を推し進め、観光の空間的広がりをとおして場所・地域の一般性と特性について考察を進める。

What kind of impact and changes arise in places and regions from the individual behavior of travelers? Promoting investigation on the spatial spread of tourism through the general and special characteristics of places and regions, advancing research and surveys based on geographical methods, mainly focused on the routes on which

people move (traffic routes), the base city from where the routes are dispersed (nodal points), and the urban space developed behind the nodal points (hinterlands).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：演習の進め方（国内地域調査に向けて）
- 2 回：国内地域調査の概要
- 3 回：地形図の判読と利用 1
- 4 回：地形図の判読と利用 2
- 5 回：地形図の判読と利用 3
- 6 回：地形図の判読と利用 4
- 7 回：国内地域調査に関連する文献講読 1
- 8 回：国内地域調査に関連する文献講読 2
- 9 回：国内地域調査に関連する文献講読 3
- 10 回：国内地域調査に関連する文献講読 4
- 11 回：国内地域調査に関連する統計・資料の活用 1
- 12 回：国内地域調査に関連する統計・資料の活用 2
- 13 回：国内地域調査に関連する統計・資料の活用 3
- 14 回：国内地域調査に関連する統計・資料の活用 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は 2024 年度春学期開講科目「観光地理学 7」、秋学期開講科目「観光地理学 1」を履修することが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加度と課題に対する取り組み方:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習時に紹介する。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

観光地理学演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB612

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

演習（2年）Aから継続して、観光地理学の研究方法を、地域調査をとおして習得し、観光研究にアプローチできるようにする。

Continuing on from Seminar (2nd year) A, acquiring geography of tourism research methods through field research, so as to be able to conduct tourism research.

授業の内容 / Course Contents

演習（2年）Aから継続して、人が移動する道筋（交通ルート）、道筋が集散する拠点都市（結節点）、結節点の背後に展開する都市空間（後背地）、これらをおもな対象に、地理学の方法に基づく調査・研究を推し進め、観光の空間的広がりをとおして場所・地域の一般性と特性について考察を進める。

Continuing on from Seminar (2nd year) A, promoting investigation on the spatial spread of tourism through the general and special characteristics of places and regions, advancing research and surveys based on geographical methods, mainly focused on the routes on which people move (traffic routes), the base city from where the routes are dispersed (nodal points), and the urban space developed behind the nodal points (hinterlands).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文献講読 1
- 2回：文献講読 2
- 3回：文献講読 3
- 4回：文献講読 4
- 5回：国内地域調査のまとめ
- 6回：調査班による発表と討論 1
- 7回：調査班による発表と討論 2
- 8回：調査班による発表と討論 3
- 9回：調査班による発表と討論 4
- 10回：個別課題の構想発表に向けて
- 11回：個別課題構想発表 1
- 12回：個別課題構想発表 2
- 13回：個別課題構想発表 3
- 14回：個別課題構想発表 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加度と課題に対する取り組み方:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

演習時に紹介する。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB613
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学の手法に則って「他者を知り理解する」、そのための想像力を養うことを目的とします。
The objective is to "know and understand others", and for this purpose to cultivate empathy in accordance with cultural anthropology and folkloristic methods.

授業の内容 / Course Contents

演習2年では宗教人類学に関わる平易な論文を用いることで、読解する・要約する・コメントする・議論するというアカデミックな思考の基本形式を身につけます。また適宜校外で巡検（短期調査）を行います。

In this course, students will learn the basic forms of academic thinking: reading, summarizing, commenting, and discussing through introductory papers on the anthropology of religion. We will also conduct off-campus field trips.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義：エスノグラフィーの手法の多様化
- 2回：講義：他者を知ること、文化を理解すること

- 3回：テキストを元にした受講生による発表
 4回：テキストを元にした受講生による発表
 5回：テキストを元にした受講生による発表
 6回：テキストを元にした受講生による発表
 7回：テキストを元にした受講生による発表
 8回：テキストを元にした受講生による発表
 9回：テキストを元にした受講生による発表
 10回：テキストを元にした受講生による発表
 11回：テキストを元にした受講生による発表
 12回：テキストを元にした受講生による発表
 13回：テキストを元にした受講生による発表
 14回：全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

春学期開講「観光人類学 (宗教)」、「フィールドワーク論」の受講を強く推奨します。その他、人類学関係の科目はできるだけ多く履修しておくこと、演習での理解が深まるだけでなく、自分自身の専門性が身につくでしょう。

また希望があれば、教員が実施するフィールドワーク (授業の一環ではない調査研究) に同行する機会があります。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加状況:20% セミでの文献報告:40% レポート:40%

テキスト / Textbooks

講読文献や映像資料は随時指示します。

参考文献 / Readings

文化人類学や民俗学の概論的な書籍を事前に読んでおくことをおすすめします。『人類学のコモンセンス』(浜本満他編)、『文化人類学の思考法』(松村圭一郎他編)、『民俗学入門』(菊地暁)、『民俗学の思考法』(岩本通弥他編)あたりが良いと思います。

その他 / Others

演習は講義と違って受動的な聴講ではなく、受講生の能動的な参加によって成り立ちます。指導にも関わらず参加態度が改善されない場合、受講の継続可否の判断を行います。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB614
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学の手法に則って「他者を知り理解する」、そのための想像力を養うことを目的とします。
The objective is to "know and understand others", and for this purpose to cultivate empathy in accordance with cultural anthropology and folkloristic methods.

授業の内容 / Course Contents

演習2年では宗教人類学に関わる平易な論文を用いることで、読解する・要約する・コメントする・議論するというアカデミックな思考の基本形式を身につけます。また秋休み前後に、校外で巡検（短期調査）を行います。行き先はゼミ生から複数案を提案してもらい、プレゼンテーションと議論により決定します。

In this course, students will learn the basic forms of academic thinking: reading, summarizing, commenting, and discussing through introductory papers on the anthropology of religion. We will also conduct off-campus field trips.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：聖地・宗教性へのアプローチ

- 2回：テキストを元にした受講生による発表
 3回：テキストを元にした受講生による発表
 4回：テキストを元にした受講生による発表
 5回：巡検先の検討会
 6回：巡検先の検討会
 7回：巡検先の検討会
 8回：テキストを元にした受講生による発表/巡検のフィードバック
 9回：テキストを元にした受講生による発表/巡検のフィードバック
 10回：テキストを元にした受講生による発表/巡検のフィードバック
 11回：テキストを元にした受講生による発表
 12回：テキストを元にした受講生による発表
 13回：テキストを元にした受講生による発表
 14回：全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

秋学期は何らかの成果報告書を作成しますので、その執筆や巡検に時間を確保しておく必要があります。また月曜5限に演習3年と合同でディスカッションを行うことが多くあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加状況:20% セミでの文献報告:40% レポート:40%

テキスト / Textbooks

講読文献や映像資料は随時指示します。

参考文献 / Readings

文化人類学や民俗学の概論的な書籍を事前に読んでおくことをおすすめします。『人類学のコモンセンス』（浜本満他編）、『文化人類学の思考法』（松村圭一郎他編）、『民俗学入門』（菊地暁）、『民俗学の思考法』（岩本通弥他編）あたりが良いと思います。

その他 / Others

演習は講義と違って受動的な聴講ではなく、受講生の能動的な参加によって成り立ちます。指導にも関わらず参加態度が改善されない場合、受講の継続可否の判断を行います。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB619
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と歴史の関係を理解する。

Understanding the place of tourism from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や履修者による調査にもとづき、報告とディスカッションを繰り返しながら、各時代における観光の機能や役割についての分析を行う。

Based on reading literature and surveys by students, we will repeat reports and discussions, analyzing the functions and roles of tourism in each era.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：報告とディスカッション 1
- 3 回：報告とディスカッション 2
- 4 回：報告とディスカッション 3
- 5 回：報告とディスカッション 4

- 6回：報告とディスカッション5
 7回：報告とディスカッション6
 8回：報告とディスカッション7
 9回：報告とディスカッション8
 10回：報告とディスカッション9
 11回：報告とディスカッション10
 12回：報告とディスカッション11
 13回：報告とディスカッション12
 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習に臨むための準備を行う。

演習で明らかになった課題に取り組む。

関連する先行研究を読む。

関連する史料を収集する。

報告およびディスカッションに臨むための準備を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題の内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

後日指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB620
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と歴史の関係を理解する。

Understanding the place of tourism from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や履修者による調査にもとづき、報告とディスカッションを繰り返しながら、各時代における観光の機能や役割についての分析を行う。

Based on reading literature and surveys by students, we will repeat reports and discussions, analyzing the functions and roles of tourism in each era.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：報告とディスカッション 1
- 3 回：報告とディスカッション 2
- 4 回：報告とディスカッション 3
- 5 回：報告とディスカッション 4

- 6回：報告とディスカッション5
 7回：報告とディスカッション6
 8回：報告とディスカッション7
 9回：報告とディスカッション8
 10回：報告とディスカッション9
 11回：報告とディスカッション10
 12回：報告とディスカッション11
 13回：報告とディスカッション12
 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習に臨むための準備を行う。

演習で明らかになった課題に取り組む。

関連する先行研究を読む。

関連する史料を収集する。

報告およびディスカッションに臨むための準備を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題の内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB621
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学や文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。

The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of "culture".

授業の内容 / Course Contents

「文化」を単に既存の観光の対象としてのみとらえるのではなく、「文化」と観光とのダイナミックな関係の中で、いかに「文化」が「文化」として社会的に成立しているか、観光がいかなる「文化」を生み出しているかを把握する視点を重視する。このような問題を「観光文化」という概念に基づいて「日本」をめぐる事例について具体的に考察する。

"Culture" is not only regarded simply as an object of existing tourism, but within a dynamic relationship between "culture" and tourism is established socially, and tourism emphasizes the viewpoint of grasping what kind of culture is produced. Based on the concept of "tourism culture", we will specifically consider such cases involving Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：分析視角の検討（1）：社会的構築物としての「文化」
 3回：分析視角の検討（2）：社会的構築物としての「文化」
 4回：分析視角の検討（3）：社会的構築物としての「文化」
 5回：分析視角の検討（4）：社会的構築物としての「文化」
 6回：分析視角の検討（5）：社会的構築物としての「文化」
 7回：「文化」をめぐる実態分析（1）：観光の場における複数の「日本」
 8回：「文化」をめぐる実態分析（2）：観光の場における複数の「日本」
 9回：「文化」をめぐる実態分析（3）：観光の場における複数の「日本」
 10回：「文化」をめぐる実態分析（4）：観光の場における複数の「日本」
 11回：「文化」をめぐる実態分析（5）：観光の場における複数の「日本」
 12回：総合討論（1）
 13回：総合討論（2）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				
				ディスカッション・ディベート	：
					○

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「文化」に対する意識的な態度を常日頃から心がけておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・演習への参加度：60% 演習内での発表：15% 最終レポート割合：25%

テキスト / Textbooks

参加者と相談の上、適宜選定・案内する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

その他 / Others

時間割に設定された演習時間以外に行われる各自またはグループでの準備作業、また学外での各種見学・調査などへの参加が求められる。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB622
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学や文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。

The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of "culture".

授業の内容 / Course Contents

「文化」を単に既存の観光の対象としてのみとらえるのではなく、「文化」と観光とのダイナミックな関係の中で、いかに「文化」が「文化」として社会的に成立しているか、観光がいかなる「文化」を生み出しているかを把握する視点を重視する。このような問題を「観光文化」という概念に基づいて「日本」をめぐる事例について具体的に考察する。

"Culture" is not only regarded simply as an object of existing tourism, but within a dynamic relationship between "culture" and tourism is established socially, and tourism emphasizes the viewpoint of grasping what kind of culture is produced. Based on the concept of "tourism culture", we will specifically consider such cases involving Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：観光文化の実態分析（1）：観光の場における複数の「日本」
 3回：観光文化の実態分析（2）：観光の場における複数の「日本」
 4回：観光文化の実態分析（3）：観光の場における複数の「日本」
 5回：観光文化の実態分析（4）：観光の場における複数の「日本」
 6回：観光文化の実態分析（5）：観光の場における複数の「日本」
 7回：観光文化の実態分析（6）：観光の場における複数の「日本」
 8回：観光文化の実態分析（7）：観光の場における複数の「日本」
 9回：観光文化の実態分析（8）：観光の場における複数の「日本」
 10回：観光文化の実態分析（9）：観光の場における複数の「日本」
 11回：観光文化の実態分析（10）：観光の場における複数の「日本」
 12回：総合討論（1）
 13回：総合討論（2）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「文化」に対する意識的な態度を常日頃から心がけておくこと。各回の課題文献を必ず熟読した上で、自分なりの論点や疑問点などを整理し、演習に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・演習への参加度：60% 演習内での発表：15% 最終レポート割合：25%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜案内する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

その他 / Others

時間割に設定された演習時間以外に行われる各自またはグループでの準備作業、また学外での各種見学・調査などへの参加が求められる。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB623
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差，地域の個性を具体的に調査することによって，地域調査のスキルを修得する。

We will study the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area, while acquiring field survey skills.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの設定から調査の企画，報告書の作成に至るまで，学生が自主的・主体的に行いながら，地域調査の全過程を体験的に学習する。具体的な社会現象を研究対象として，立地や地域形成，地域変容，観光圏と観光行動，客層と集客圏などを考えていく。

Students will independently conduct research on topics chosen themselves, as well as planning and producing reports, while empirically studying the overall process of field research. We will consider the location and regional make-up, along with regional transformation, tourism area and activities, visitor profiles and area, with specific social phenomena as the object of research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査研究テーマの設定
- 2回：調査の企画
- 3回：仮説の立案
- 4回：文献講読1
- 5回：文献講読2
- 6回：調査項目の設定
- 7回：調査票の作成1
- 8回：調査票の作成2
- 9回：サンプリングと調査票の修正
- 10回：図表・地図作成スキルの修得
- 11回：図表・地図作成スキルの修得
- 12回：フィールドワークの実施1
- 13回：フィールドワークの実施2
- 14回：フィールドワークの実施3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

下記の参考文献『地域調査ことはじめ』（ナカニシヤ出版）を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題の達成度:50% 発表とディスカッション:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか 地域調査ことはじめ ナカニシヤ出版 2007 9784779501326

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB624
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差，地域の個性を理解する。そうすることで地域の魅力を発見し，引き出し，ひいては観光まちづくりに結実させる。

We will understand the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area. By doing so, we will discover what makes the area attractive, and eventually make it into a tourist destination.

授業の内容 / Course Contents

演習の実施にあたっては，地理学の理論や手法を援用する。具体的には，どこに何があるのか・なぜそこにあるのか（立地），どのようにしてできたのか（地域形成と変容），どこになぜ行くのか（観光圏と観光行動），どのような人がどこから来るのか（客層と集客圏）などを考えていく。

We will use geographical theory and methods in the seminar. Specifically, we will consider, what is there, why it is there (location), how it was made (regional formation and transformation), where and why to go (tourist sphere and tourism behaviors), and who comes from where (visitor profiles and areas).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：グループ研究のテーマ探し
- 2回：グループ研究のテーマと調査地の決定
- 3回：研究方法の決定
- 4回：資料収集と調査票の設計
- 5回：調査票の作成
- 6回：調査票の試行と調査内容の再検討
- 7回：調査結果の整理
- 8回：調査結果の分析
- 9回：調査結果の分析
- 10回：補足調査
- 11回：図表の作成
- 12回：論文の執筆
- 13回：論文の添削
- 14回：最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に、グループのメンバー同士で討論を交わして、研究方法から資料収集と分析、配付資料とスライド作成、プレゼン技術、論文執筆にいたるまで、自分たちの型を見出しつつ実行する。現地視察会を企画し、全員で各グループの対象地域を巡検する。学期末には、論文を執筆し、論文集を出版する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表とディスカッション:30% 現地調査:30% 論文の内容:40%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

梶田・加藤・仁平 地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく ナカニシヤ出版 2007

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

観光社会学

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB625

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点や手法を身につける。

Acquiring the perspectives and methods of Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文献講読

3 回：文献講読

4 回：文献講読

- 5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：文献講読
 9回：文献講読
 10回：フィールド調査
 11回：フィールド調査
 12回：研究論文指導
 13回：研究論文指導
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

神田孝治他 移動時代のツーリズム ナカニシヤ出版 2023 9784779517686 -

参考文献 / Readings

須藤廣他 よくわかる観光コミュニケーション論 ミネルヴァ書房 2022 9784623091874

安村克己他 よくわかる観光社会学 ミネルヴァ書房 2011 9784623060375

遠藤英樹他 現代観光学 新曜社 2019 9784788516052

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

観光社会学

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB626

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点や手法を身につける。

Acquiring the perspectives and methods of Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：フィールド調査

3 回：文献講読および研究発表

4 回：文献講読および研究発表

- 5回：文献講読および研究発表
 6回：文献講読および研究発表
 7回：文献講読および研究発表
 8回：文献講読および研究発表
 9回：文献講読および研究発表
 10回：フィールド調査
 11回：文献講読および研究発表
 12回：文献講読および研究発表
 13回：文献講読および研究発表
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

未定

参考文献 / Readings

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

エコクリティシズムと観光

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB627

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはエコクリティシズムと観光である。この三年間の経験をもとに、変容した世界と観光について、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of the Seminar has been "Ecocriticism and Tourism". Ecotourism and Environmental Ethics will be examined in the context of Tourism Studies of the relationship between nature and humans.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う。

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う。

分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：図書館データベース講習
- 3回：プロジェクト・個人テーマ確認
- 4回：エコクリティシズム、環境人文学の研究の対象範囲
- 5回：エコクリティシズム研究講読 1
- 6回：エコクリティシズム研究講読 2
- 7回：エコクリティシズム研究講読 3
- 8回：エコクリティシズム研究講読 4
- 9回：エコクリティシズム研究講読 5
- 10回：エコクリティシズム研究講読 6
- 11回：個人テーマ報告・討論
- 12回：個人テーマ報告・討論
- 13回：個人テーマ報告・討論
- 14回：個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

結城正美 文学は地球を想像する エコクリティシズムの挑戦 岩波新書 1988 2023 9784004319887 ○

参考文献 / Readings

野田研一ら 環境人文学 I,II 勉誠出版 2017 9784585291282

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz に FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

エコクリティシズムと観光

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB628
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはエコクリティシズムと観光である。エコツーリズムや環境倫理について、自然と人間の関係を観光学の文脈で検討する。

The theme of the Seminar has been “Ecocriticism and Tourism”. Ecotourism and Environmental Ethics will be examined in the context of Tourism Studies of the relationship between nature and humans.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う。

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う。

分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：Refworks 図書館講習
 3回：個人テーマ報告・討論
 4回：個人テーマ報告・討論
 5回：個人テーマ報告・討論
 6回：エコクリティシズム研究講読
 7回：エコクリティシズム研究講読
 8回：エコクリティシズム研究講読
 9回：エコクリティシズム研究講読
 10回：エコクリティシズム研究講読
 11回：個人テーマ報告・討論
 12回：個人テーマ報告・討論
 13回：個人テーマ報告・討論
 14回：個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加状況:100%

テキスト / Textbooks

野田研一ら 環境人文学 I,II 勉誠出版 2017 9784585291282 -

参考文献 / Readings

結城正美 文学は地球を想像する エコクリティシズムの挑戦 岩波新書 1988 2023 9784004319887

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz に FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

観光による文学、文学による観光/Literature through Tourism, Tourism through Literature

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB631

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature - primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読および討議 1
- 3回：文献講読および討議 2
- 4回：文献講読および討議 3
- 5回：文献講読および討議 4
- 6回：文献講読および討議 5
- 7回：文献講読および討議 6
- 8回：文献講読および討議 7
- 9回：文献講読および討議 8
- 10回：文献講読および討議 9
- 11回：文献講読および討議 10
- 12回：文献講読および討議 11
- 13回：文献講読および討議 12
- 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

本年度は、文学における軽井沢を主要テーマとして設定する。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB632
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM2003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature - primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション（対象作品の選択）

- 2回：文献講読および討議 1
 3回：文献講読および討議 2
 4回：文献講読および討議 3
 5回：文献講読および討議 4
 6回：文献講読および討議 5
 7回：文献講読および討議 6
 8回：文献講読および討議 7
 9回：文献講読および討議 8
 10回：文献講読および討議 9
 11回：文献講読および討議 10
 12回：文献講読および討議 11
 13回：文献講読および討議 12
 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

本年度は、文学における軽井沢を主要テーマとして設定する。

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

フォトエスノグラフィーの制作

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB633

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この演習をとおして、受講者は、1) 人類学的なものの見方を理解することができるようになること。また、2) 人類学的な視点から問いを立てることができるようになること。

Students will be able to 1) understand anthropological perspectives and 2) develop questions from an anthropological standpoint.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、人類学的なアプローチについて文献の講読とフォトエスノグラフィーの制作をとおして学ぶ。
In this course, students will learn about anthropological approaches through reading literature and producing photo-ethnographies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：写真をとおした自己紹介

3 回：人類学的なアプローチについて

- 4回：文献講読（1）
 5回：文献講読（2）
 6回：文献講読（3）
 7回：文献講読（4）
 8回：フォトエスノグラフィーの制作に向けて
 9回：フィールドワークと写真撮影
 10回：写真の選定
 11回：写真報告会（1）
 12回：撮影した写真の選定と考察
 13回：写真報告会（2）
 14回：成果物とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定した文献について熟読し、疑問点や論点をまとめたうえで受講すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:35% 議論への参加:35% 事前学習:30%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に発言しゼミに参加する姿勢

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

写真を整理したり PowerPoint を作成するので、該当する回では PC を持参すること。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

観光人類学の視点

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB634

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文献講読をとおして、受講者は 1) 観光人類学の分析枠組みを理解し、それとともに、2) 自身の研究の問いを立てることができるようになること。

Students will be able to 1) understand the analytical framework of anthropology of tourism and 2) develop their own research questions based on this framework through the literature readings.

授業の内容 / Course Contents

観光人類学の文献を講読し、そこで扱われる様々な研究対象について議論する。

Students will read literatures on the anthropology of tourism and discuss various topics of research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：報告とディスカッション

3 回：報告とディスカッション

4 回：報告とディスカッション

- 5回：報告とディスカッション
- 6回：報告とディスカッション
- 7回：報告とディスカッション
- 8回：報告とディスカッション
- 9回：報告とディスカッション
- 10回：報告とディスカッション
- 11回：報告とディスカッション
- 12回：報告とディスカッション
- 13回：研究テーマについて報告
- 14回：研究テーマについて報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

報告者はレジユメを作成する。すべての受講者は指定箇所を熟読し、あらかじめ疑問点と論点を抽出して演習に参加すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジユメの作成と報告:35% 議論への参加:35% 事前学習:30%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加する能力

演習（2年）A

Seminar (2nd year)A

観光、移動と多様性

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB635

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「観光」や「移動」というレンズを通して、新しい働き方、遊び方、移動や定住の仕方、そして地域振興の仕方について模索する。社会学的想像力を育み、公正で持続可能な社会の姿について考える。とりわけ若者、女性、LGTBQI+、外国にルーツを持つ人など、マイノリティ当事者の立ち位置から見える社会の風景を大切に、他者との連帯の可能性を探る。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Examine new ways of working, playing, moving, dwelling, and building local communities through the lens of tourism and mobility.
- 2) Develop the sociological imagination to consider mak

授業の内容 / Course Contents

社会学的な文献を読むことで格差の構造とアイデンティティの関係を学び、多様で持続可能な社会を作るための取り組みについて知識を得る。プレゼンテーションやフィールド調査の準備を行い、実践的で相互協力に基づいた学習方法を身につける。学外学習では座学で学んだ知識を応用し、理解と関心を深める。

In this course, students read sociological literature to learn about the relationship between identity and structural inequality, and gain knowledge of existing initiatives that seek to create a more diverse and sustainable society. By giving presentations and preparing for field research as a group, students gain skills to learn collaboratively and through hands-on practice. Field trips provide opportunities to apply classroom knowledge and further stimulate students' understanding and interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：フィールドトリップ
- 3回：グループ発表、ディスカッション
- 4回：文献講読、ディスカッション
- 5回：文献講読、ディスカッション
- 6回：文献講読、ディスカッション
- 7回：文献講読、ディスカッション
- 8回：文献講読、ディスカッション
- 9回：フィールドトリップ計画と準備
- 10回：フィールドトリップ計画と準備
- 11回：フィールドトリップ計画と準備
- 12回：フィールドトリップ計画と準備
- 13回：フィールドトリップ計画と準備
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読や発表の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

「観光社会学3 (ジェンダー)」の履修を強く勧める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:50% 授業内に指示した提出物:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同, 佐藤文香 ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための29問 明石書店 2019 9784750348520

石田仁 はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで ナツメ社 2019 9784816365829

ケイン樹里安, 上原健太郎 ふれる社会学 北樹出版 2019 9784779306181

一橋大学社会学部貴堂ゼミ生&院ゼミ生有志 大学生がレイシズムに向き合って考えてみた 明石書店 2023 9784750356730

カリド・コーザー 移民をどう考えるか 勁草書房 2021 9784326654291

平井太郎、松尾浩一郎、山口恵子 地域・都市の社会学 -- 実感から問いを深める理論と方法 有斐閣ストア
ディア 2022 9784641150959

清水展、小國和子 現場グラフイーダーダイバーシティ時代の可能性をひらくために 明石書店 2021
9784750351445

随時案内する。

その他/ Others

一人一人が、これまでの人生経験や関心事に基づいて自分の取り柄や長所を（再）発見し、「誰もが生きやすい社会」の実現に向けた活動に活かしていけるようなゼミを一緒に作っていきたいと思います。担当者は英語圏の大学で長く勤務した経験があるので、英語で活動、発信したい履修生への対応も可能です。

演習（2年）B

Seminar (2nd year)B

観光、移動と多様性

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB636

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM2003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

演習（2年）A に引き続き、社会学的想像力を育み、公正で持続可能な社会の姿について模索する力をつける。関心のある事柄について調査し、その成果を効果的に発信するスキルを磨く。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Build on their learning in the spring semester by continuing to develop the sociological imagination to consider what makes a fair and sustainable society.
- 2) Develop skills to research

授業の内容 / Course Contents

引き続き社会学的な文献を読むことで格差の構造とアイデンティティの関係を学ぶ。学外学習では座学で学んだ知識を応用し、多様で持続可能な地域社会を作るための活動を調査する。調査結果は自由な形式でまとめ、情報を発信する経験を積む。主な調査関心は若者、ジェンダー、セクシュアリティや多文化共生の視点だが、それ以外も受け付ける。

By continuing to read sociological literature, students learn about the relationship between identity and structural

inequality. During field trips, students can apply classroom knowledge to research existing activities that seek to create a more diverse and sustainable society. By putting together research outcomes in creative formats, students build on their experience of disseminating information effectively. The main research interests are youth, gender, sexuality and multiculturalism, but others are also acceptable.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：関心の掘り下げ
- 3回：関心の掘り下げ
- 4回：文献講読、ディスカッション
- 5回：文献講読、ディスカッション
- 6回：中間発表
- 7回：文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 8回：文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 9回：文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 10回：文献講読、ディスカッション、レポート作成の準備
- 11回：レポート作成の準備
- 12回：レポート作成の準備
- 13回：レポート発表の準備
- 14回：レポートの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読や発表の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加度:50% 研究成果のまとめ(発表・最終レポート等):50%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

適宜案内する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

観光地理学演習

大塚 直樹 (OTSUKA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB641

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

演習（2年）の成果を発展させ、各自が個別課題の作成に向けて、主題と研究対象地域を選定するとともに、研究方法を明瞭にできるようにする。

Developing the results of (2nd year) seminars, each student will select a theme and study area for the production of individual research, while becoming able to elucidate their research methods.

授業の内容 / Course Contents

文献の読解と紹介，統計資料の収集と図表化，地域調査のまとめ方など，地理学の分析・研究方法を習得し，各自が個別課題の主題と研究対象地域を確定できるよう発表と討論を行う。

Students will learn how to analyze and research geography, by reading and collecting documents such as statistical data charts, regional surveys and so on, so that each individual can present a research topic of their choice and present for discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：演習の進め方

—海外地域調査と個別課題の進展—

- 2回：海外地域調査の課題と概要
 3回：個別課題第1回中間発表1
 4回：個別課題第1回中間発表2
 5回：個別課題第1回中間発表3
 6回：個別課題第1回中間発表4
 7回：海外地域調査の調査計画と文献講読1
 8回：海外地域調査の調査計画と文献講読2
 9回：海外地域調査の調査計画と文献講読3
 10回：海外地域調査の調査計画と文献講読4
 11回：海外地域調査の調査計画と文献講読5
 12回：海外地域調査の調査計画と文献講読6
 13回：海外地域調査の調査計画と文献講読7
 14回：海外地域調査の調査計画と文献講読8

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

秋季休暇中の海外地域調査に向けたグループワークとともに、個別課題の進展を目指して履修者各自が準備を進める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度と課題に対する取り組み方:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

演習時に紹介する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

観光地理学演習

大塚 直樹 (OTSUKA NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB642

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

演習（3年）Aの成果を発展させ、各自が個別課題に向けた調査を推進するとともに、海外地域調査の調査結果をまとめる。

Developing the results of Seminar (3rd year) A, promoting the investigation of each subject individually, and summarizing the results of the overseas field surveys.

授業の内容 / Course Contents

文献の読解と紹介，統計資料の収集と図表化，地域調査のまとめ方など，地理学の分析・研究方法を活用することによって，各自が個別課題に向けた調査を進め，その発表をもとに質疑と討論を行う。

Making use of what they have learned, students will analyze and research geography, by reading and collecting documents such as statistical data charts, regional surveys and so on, so that each individual can present a research topic of their choice and present for discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：演習の進め方

—個別課題の設定と海外地域調査から導き出せること—

- 2回：調査班による発表と討論1
- 3回：調査班による発表と討論2
- 4回：調査班による発表と討論3
- 5回：海外地域調査レポートの作成1
- 6回：海外地域調査レポートの作成2
- 7回：文献講読1
- 8回：文献講読2
- 9回：文献講読3
- 10回：文献講読4
- 11回：個別課題第2回中間発表1
- 12回：個別課題第2回中間発表2
- 13回：個別課題第2回中間発表3
- 14回：個別課題第2回中間発表4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

海外地域調査に関する共同作業とともに、履修者各自の個別課題を確定できるよう準備を進める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題に対する取り組み方:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習時に紹介する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

社会調査実習

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB643

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学的な視点や方法論にもとづくフィールドワーク（FW）に実習として従事し、その成果をエスノグラフィー（民族誌）として表現します。

Engaging in fieldwork based on cultural anthropology and folklore perspectives and methodologies, the class aims to express the results as ethnography.

授業の内容 / Course Contents

演習 3 年では「宗教とツーリズム」に関わる論文読解および映像民族誌の分析を通じて、各自の具体的な関心を深め、沖縄にて約 10 日間のフィールドワークを実施する。

In this seminar, students will deepen their specific interests through the analysis of articles and visual ethnographies related to "Religion and Tourism". In addition, we will conduct about 10 days of fieldwork in Okinawa.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：論文検討
- 3回：論文検討
- 4回：論文検討
- 5回：映像民族誌の分析
- 6回：映像民族誌の分析
- 7回：映像民族誌の分析
- 8回：映像民族誌の分析
- 9回：調査計画の作成
- 10回：調査計画の作成
- 11回：調査計画の作成
- 12回：調査計画の作成
- 13回：調査の事前打ち合わせ
- 14回：調査の事前打ち合わせ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「フィールドワーク論」を履修すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% フィールドワークへの参加状況:50% 事前学習への参加状況:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

社会調査実習は調査計画の立案、調査地との折衝、旅程の手配を含めて受講生の主体的な実践や共同作業により遂行されます。そのため意欲的な関わりが見られなかったり、欠席が目立ったりする受講生には中途であっても受講を停止する場合があります。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

社会調査実習

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB644

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学的な視点や方法論にもとづくフィールドワーク（FW）に実習として従事し、その成果をエスノグラフィー（民族誌）として表現します。

Engaging in fieldwork based on cultural anthropology and folklore perspectives and methodologies, the class aims to express the results as ethnography.

授業の内容 / Course Contents

演習 3 年では「宗教とツーリズム」に関わる論文読解および映像民族誌の分析を通じて、各自の具体的な関心を深め、沖縄にて約 10 日間のフィールドワークを実施します。秋学期では、フィールドワークの成果を文章や映像にまとめます。

In this seminar, students will deepen their specific interests through the analysis of articles and visual ethnographies related to "Religion and Tourism". In addition, we will conduct about 10 days of fieldwork in Okinawa.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：調査報告書作成に向けた検討
- 2回：調査報告書作成に向けた検討
- 3回：調査報告書作成に向けた検討
- 4回：調査報告書作成に向けた検討
- 5回：調査報告書作成に向けた検討
- 6回：調査報告書作成に向けた検討
- 7回：調査報告書作成に向けた検討
- 8回：調査報告書作成に向けた検討
- 9回：調査報告書作成に向けた検討
- 10回：調査報告書作成に向けた検討
- 11回：調査報告書作成に向けた検討
- 12回：校正、編集
- 13回：校正、編集
- 14回：講評会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドワークは夏期休暇中に実施し、成果報告の文章もしくは映像資料の提出は、初稿が11月半ばであり、1月半ばには印刷入稿を行います。そのため、短期集中して取り組むことが必要であり、ゼミ活動を基軸に大学生活を送ることが求められます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% フィールドワークへの参加状況:50% 事前学習への参加状況:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

社会調査実習は調査計画の立案、調査地との折衝、旅程の手配を含めて受講生の主体的な実践や共同作業により遂行されます。そのため意欲的な関わりが見られなかったり、欠席が目立ったりする受講生には中途であっても受講を停止する場合があります。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB645
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会の変化・交流・創造現象に関する実証的・実践的学習・研究を目指したゼミ形式の授業です。
A seminar format class aimed at empirical and practical learning and research on cultural and social change, exchange and the phenomena of creation.

授業の内容 / Course Contents

インタビュー調査実習の作業を通して、調査研究能力を実践的に身につけることを目指します。下記の授業計画はインタビュー調査作業の概要を整理して記したもので、時間的系列にはなっていません。

The aim is to practically acquire investigative research skills through interview research practical work. The lesson plan below is an organized outline of the interview research work, and is not in chronological order.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：インタビュー調査のテーマ・対象の検討 (1)
- 2 回：インタビュー調査のテーマ・対象の検討 (2)
- 3 回：インタビュー調査のテーマ・対象の検討 (3)
- 4 回：インタビューの担当の検討・調整 (1)

- 5回：インタビューの担当の検討・調整（2）
 6回：インタビュー対象（協力者）に関する資料の収集・整理（1）
 7回：インタビュー対象（協力者）に関する資料の収集・整理（2）
 8回：質問内容の検討（1）：共通質問
 9回：質問内容の検討（2）：共通質問
 10回：質問内容の検討（3）：個別質問
 11回：質問内容の検討（4）：個別質問
 12回：依頼状の検討・作成（1）
 13回：依頼状の検討・作成（2）
 14回：依頼状の送付

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

作業の多くは授業時間内に教室での作業として完結するものではなく、むしろ授業時間外にも、そして学外でも、継続的あるいは集中的に展開します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%　ゼミ活動への参加（授業への出席）：30%　インタビュー調査実習への取り組み：70%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配付します。

参考文献 / Readings

立花隆 『二十歳のころ』 新潮社 1998年

随時、資料を配付します。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB646
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会の変化・交流・創造現象に関する実証的・実践的学習・研究を目指したゼミ形式の授業です。
A seminar format class aimed at empirical and practical learning and research on cultural and social change, exchange and the phenomena of creation.

授業の内容 / Course Contents

インタビュー調査実習の作業を通して、調査研究能力を実践的に身につけることを目指します。下記の授業計画はインタビュー調査作業の概要を整理して記したもので、時間的系列にはなっていません。

The aim is to practically acquire investigative research skills through interview research practical work. The lesson plan below is an organized outline of the interview research work, and is not in chronological order.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：インタビュー・シートの作成（1）
- 2 回：インタビュー・シートの作成（2）
- 3 回：インタビュー・シートに基づいた模擬インタビュー（1）
- 4 回：インタビュー・シートに基づいた模擬インタビュー（2）

- 5回：インタビュー対象（協力者）との打ち合わせ（1）
 6回：インタビュー対象（協力者）との打ち合わせ（2）
 7回：<<インタビュー調査および現場見学 4つ・5つ程度のインタビュー実践（1人2回）を目標として>>
 8回：<<インタビュー調査および現場見学 4つ・5つ程度のインタビュー実践（1人2回）を目標として>>
 9回：<<インタビュー調査および現場見学 4つ・5つ程度のインタビュー実践（1人2回）を目標として>>
 10回：<<インタビュー調査および現場見学 4つ・5つ程度のインタビュー実践（1人2回）を目標として>>
 11回：インタビュー録音テキストの作成（1）
 12回：インタビュー録音テキストの作成（2）
 13回：インタビュー記録資料の作成と整理・考察（1）
 14回：インタビュー記録資料の作成と整理・考察（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

作業の多くは授業時間内に教室での作業として完結するものでなく、むしろ授業時間外にも、そして学外でも、継続的あるいは集中的に展開します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミでの議論:50% 学外での調査活動:50%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配付します。

参考文献 / Readings

随時、資料を配付します。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

観光社会学

石野 隆美 (ISHINO TAKAYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB649

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点から研究をおこなう。

Conducting research from the perspective of tourism sociology.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：フィールド調査

3 回：文献講読および研究発表

4 回：文献講読および研究発表

- 5回：文献講読および研究発表
 6回：文献講読および研究発表
 7回：文献講読および研究発表
 8回：フィールド調査
 9回：文献講読および研究発表
 10回：文献講読および研究発表
 11回：文献講読および研究発表
 12回：文献講読および研究発表
 13回：文献講読および研究発表
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

観光社会学

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB650

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点から研究をおこなう。

Conducting research from the perspective of tourism sociology.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論をもとに観光社会学の理論や概念について理解を深める。また、フィールド調査をもとに研究論文を執筆する。

To deepen understanding of the theory and concepts of tourism sociology based on reading documents and on discussions. In addition, students will write research papers based on field surveys.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：フィールド調査

3 回：文献講読および研究発表

4 回：文献講読および研究発表

- 5回：文献講読および研究発表
- 6回：文献講読および研究発表
- 7回：文献講読および研究発表
- 8回：フィールド調査
- 9回：文献講読および研究発表
- 10回：文献講読および研究発表
- 11回：文献講読および研究発表
- 12回：文献講読および研究発表
- 13回：文献講読および研究発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

鈴木 涼太郎 (SUZUKI RYOTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB651
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学、文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。

The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of “culture”.

授業の内容 / Course Contents

2年次の演習で習得した基礎に立って、「文化」と観光の関係をより専門的に検討するため、より具体的な課題に絞り込んだ調査研究を共同で実施する。

Based on the foundation acquired in the 2nd year seminars, we will jointly conduct research focused on specific issues, in order to examine the relationship between culture and tourism in a more specialized manner.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（1）
- 3回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（2）

- 4回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（3）
 5回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（4）
 6回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（5）
 7回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（6）
 8回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（7）
 9回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（8）
 10回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（9）
 11回：関連文献の輪読と分析視角の獲得（10）
 12回：事例研究対象の検討と調査計画の立案（1）
 13回：事例研究対象の検討と調査計画の立案（2）
 14回：事例研究対象の検討と調査計画の立案（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間では全体での課題の検討や議論を集中的に行うこととしたい。そのため関連文献の輪読や検討，授業時に全体で議論する課題の事前検討などの作業を授業時間外にサブゼミを組織しておこなってもらおう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参加度：70% 報告内容：30%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB652
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会学、文化人類学をベースに「文化」という観点から観光現象を分析する視点を養うことを目的とする。

The purpose of this seminar is to cultivate perspectives based on sociology and cultural anthropology from which to analyze tourism phenomena in terms of “culture”.

授業の内容 / Course Contents

2年次の演習で習得した基礎に立って、「文化」と観光の関係をより専門的に検討するため、より具体的な課題に絞り込んだ調査研究を共同で実施する。演習（3年）Aの成果を踏まえ、その内容を検討し、さらに深め発展させる。

Based on the foundation acquired in the 2nd year seminars, we will jointly conduct research focused on specific issues, in order to examine the relationship between culture and tourism in a more specialized manner. Based on the results of seminar (3rd year) A, we will examine the findings, and these will be developed on a deeper level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

- 2回：事例調査成果の検討（1）
- 3回：事例調査成果の検討（2）
- 4回：事例調査成果の検討（3）
- 5回：事例調査成果の検討（4）
- 6回：関連文献調査とその検討（1）
- 7回：関連文献調査とその検討（2）
- 8回：関連文献調査とその検討（3）
- 9回：関連文献調査とその検討（4）
- 10回：研究成果のとりまとめ（1）
- 11回：研究成果のとりまとめ（2）
- 12回：研究成果の発表（1）
- 13回：研究成果の発表（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間では全体での課題の検討や議論を集中的に行う。そのため関連文献の輪読や検討、授業時に全体で議論する課題の事前検討などの作業を授業時間外にサブゼミを組織しておこなってもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・演習への参加度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜案内する。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB653
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差，地域の個性を具体的に調査することによって，地域調査のスキルを修得する。

We will study the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area, while acquiring field survey skills.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの設定から調査の企画，報告書の作成に至るまで，学生が自主的・主体的に行いながら，地域調査の全過程を体験的に学習する。具体的な社会現象を研究対象として，立地や地域形成，地域変容，観光圏と観光行動，客層と集客圏などを考えていく。春学期は，夏休みに実施する海外フィールドワークを念頭において以下の授業計画を実行する。

Students will independently conduct research on topics chosen themselves, as well as planning and producing reports, while empirically studying the overall process of field research. We will consider the location and regional make-up, along with regional transformation, tourism area and activities, visitor profiles and area, with specific social phenomena as the object of research. In the spring semester, we will commence the following lesson plans

looking towards overseas fieldwork in the summer.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマ設定
- 2回：調査企画
- 3回：仮説立案
- 4回：文献講読 1
- 5回：文献講読 2
- 6回：調査項目の設定
- 7回：調査票の作成 1
- 8回：調査票の作成 2
- 9回：サンプリングと調査票の修正
- 10回：図表・地図作成スキルの修得
- 11回：図表・地図作成スキルの修得
- 12回：フィールドワークの実践 1
- 13回：フィールドワークの実践 2
- 14回：フィールドワークの実践 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

下記の参考文献『地域調査ことはじめ』(ナカニシヤ出版) を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題の達成度:50% 発表とディスカッション:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか 地域調査ことはじめ ナカニシヤ出版 2007 9784779501326

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB654
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域の自然・文化の多様性や地域差，地域の個性を具体的に調査することによって，地域調査のスキルを修得する。

We will study the diversity of regional nature and culture, regional differences, and the unique characteristics of an area, while acquiring field survey skills.

授業の内容 / Course Contents

研究テーマの設定から調査の企画，報告書の作成に至るまで，学生が自主的・主体的に行いながら，地域調査の全過程を体験的に学習する。具体的な社会現象を研究対象として，立地や地域形成，地域変容，観光圏と観光行動，客層と集客圏などを考えていく。後期は，夏休みに実施したフィールドワークに基づいて以下を実施する。

Students will independently conduct research on topics chosen themselves, as well as planning and producing reports, while empirically studying the overall process of field research. We will consider the location and regional make-up, along with regional transformation, tourism area and activities, visitor profiles and area, with specific

social phenomena as the object of research. The second half will cover the following:

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：収集資料の整理
- 2回：収集資料の分析
- 3回：収集資料の分析
- 4回：仮説の再検証
- 5回：分析結果の図表化1
- 6回：分析結果の図表化2
- 7回：分析結果の地図化1
- 8回：分析結果の地図化2
- 9回：補足調査
- 10回：調査結果の考察
- 11回：論文の執筆
- 12回：論文の添削
- 13回：論文の校正
- 14回：最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○
上記いずれも用いない予定	：				
				校外実習・フィールドワーク	：○

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に、グループのメンバー同士で討論を交わして、研究方法から資料収集と分析、配付資料とスライド作成、プレゼン技術、論文執筆にいたるまで、自分たちの型を見出しつつ実行する。学期末には、論文を執筆し、論文集を出版する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表とディスカッション:30% 現地調査:30% 論文の内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか『地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく』（ナカニシヤ出版）

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

アフターコロナの観光学

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB657

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはアフターコロナの観光学である。過去の経験をもとに、変容した世界と観光について、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of Seminar has been "Tourism Studies in Post Covid era". Post covid tourism will be the theme of our research, based on our experiences in the past years, reading and fieldwork.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う。

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う。

分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：個人テーマ確認
 3回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 4回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 5回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 6回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 7回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 8回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 9回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 10回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 11回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 12回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 13回：研究講読/個人テーマ報告・討論
 14回：研究講読/個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加状況：100%

テキスト / Textbooks

遠藤英樹ら 現代観光学 新曜社 2019 9784788516052 ○

参考文献 / Readings

遠藤英樹 フィールドワークの現代思想 ナカニシヤ出版 2022 1921030024004

市野澤潤平ら 観光人類学のフィールドワーク ミネルヴァ書房 2021 9784623091881

須藤廣ら 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz から FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

アフターコロナの観光学

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB658

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習のテーマはアフターコロナの観光学である。過去の経験をもとに、変容した世界と観光について、講読やフィールドワークによって考察する。

The theme of Seminar has been “Tourism Studies in Post Covid era”. Post covid tourism will be the theme of our research, based on our experiences in the past years, reading and fieldwork.

授業の内容 / Course Contents

研究視点を身につけるために文献講読を行う。

研究対象へのアプローチ方法として、現地調査を行う。

分析と情報収集が行えるよう、ICT 実習を行う。

In this seminar, we:

- 1) read a textbook to acquire a research perspective;
- 2) conduct a field survey to approach a research subject; and
- 3) practice ICT technology to learn the skill to analyze and collect information.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：春学期以降のふりかえり
- 2回：個人テーマ再確認
- 3回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 4回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 5回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 6回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 7回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 8回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 9回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 10回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 11回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 12回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 13回：研究講読/個人テーマ報告・討論
- 14回：研究講読/個人テーマ報告・討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

議論を深めるためのプレゼン合宿や、実地確認するためのフィールドワークおよび社会連携活動の準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加状況：100%

テキスト / Textbooks

遠藤英樹ら 現代観光学 新曜社 2019 9784788516052 ○

参考文献 / Readings

遠藤英樹 フィールドワークの現代思想 ナカニシヤ出版 2022 1921030024004

市野澤潤平ら 観光人類学のフィールドワーク ミネルヴァ書房 2021 9784623091881

須藤廣ら 観光が世界をつくる 明石書店 2023 9784750356181

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz から FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB661
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

演習(2年)の成果を踏まえ、より高次のレベルで観光と歴史の関係を理解する。

Based on the results of the (second year) seminars, we will interpret tourism from a historical perspective at a higher level.

授業の内容 / Course Contents

履修者が選択した研究テーマにもとづき、文献講読、史料収集、成果報告、ディスカッションなどを実施する。

Document reading, collection of historical materials, and field surveys and so on will be conducted according to the theme chosen by the student (limited to those focusing on the relationship between tourism and history).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：テーマ選定
- 3回：テーマ選定
- 4回：テーマ選定

- 5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：史料収集
 9回：史料収集
 10回：史料収集
 11回：成果報告およびディスカッション
 12回：成果報告およびディスカッション
 13回：成果報告およびディスカッション
 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 演習に臨むための準備を行う。
 演習で明らかになった課題に取り組む。
 関連する先行研究を積極的に読む。
 関連する史料を積極的に収集する。
 成果報告およびディスカッションに臨むための準備を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 報告の内容:50% ディスカッションへの参加:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB662
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM3003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

演習(2年)の成果を踏まえ、より高次のレベルで観光と歴史の関係を理解する。

Based on the results of the (second year) seminars, we will interpret tourism from a historical perspective at a higher level.

授業の内容 / Course Contents

履修者が選択した研究テーマにもとづいて研究、調査を行い、報告会で成果を発表するとともに報告書原稿を執筆する。

Research and surveys will be conducted, based on the themes chosen by students (limited to those focusing on the relationship between tourism and history), with results presented in both a written report and orally.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：報告書原稿執筆
- 3回：報告書原稿執筆
- 4回：報告書原稿執筆

- 5回：報告書原稿執筆
 6回：報告書原稿執筆
 7回：報告書原稿執筆
 8回：報告書原稿執筆
 9回：報告書原稿執筆
 10回：報告書原稿執筆
 11回：報告書原稿執筆
 12回：報告書原稿執筆
 13回：報告書原稿執筆
 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- 演習に臨むための準備を行う。
 演習で明らかになった課題に取り組む。
 関連する先行研究を積極的に読む。
 関連する史料を積極的に収集する。
 報告会に臨むための準備を行う。
 報告書を作成する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加:50% 報告書原稿の内容:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

観光による文学、文学による観光/Literature through Tourism, Tourism through Literature

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB663

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature - primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読および討議 1
- 3回：文献講読および討議 2
- 4回：文献講読および討議 3
- 5回：文献講読および討議 4
- 6回：文献講読および討議 5
- 7回：文献講読および討議 6
- 8回：文献講読および討議 7
- 9回：文献講読および討議 8
- 10回：文献講読および討議 9
- 11回：文献講読および討議 10
- 12回：文献講読および討議 11
- 13回：文献講読および討議 12
- 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

本年度は、文学における軽井沢を主要テーマとして設定する。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB664
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM3003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光現象を文学との接点から分析する。

We will analyze tourism phenomena from references in literature.

授業の内容 / Course Contents

1890 年代以降に日本語で書かれた小説作品を中心とする文献講読および討議を通じ、多様な観光現象がいかに日常に浸透し、われわれの思考や感情に影響を及ぼす「無意識」を形成しているか、考察する。また、土地を生成過程にある「作品」、そのモデル作者を「土地の精霊」と捉え、前者の社会的受容とそれを通じた「書き換え」のプロセスを実践的に学ぶ。春学期の学習を踏まえて各自が対象を選び、文献調査および現地調査をまとめて雑誌「ゲニウス・ロキ」を作成する。

We will consider how various tourist phenomena pervade everyday life and form "unconsciously", affecting our thoughts and emotions, through reading and discussing literature - primarily Japanese novels written after the 1890s.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション（対象作品の選択）

- 2回：文献講読および討議 1
 3回：文献講読および討議 2
 4回：文献講読および討議 3
 5回：文献講読および討議 4
 6回：文献講読および討議 5
 7回：文献講読および討議 6
 8回：文献講読および討議 7
 9回：文献講読および討議 8
 10回：文献講読および討議 9
 11回：文献講読および討議 10
 12回：文献講読および討議 11
 13回：文献講読および討議 12
 14回：演習のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

演習で扱う文献および関連文献を読む。また、現地調査や資料収集を自主的に行い、演習にフィードバックする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

受講者と相談の上、決定する。

参考文献 / Readings

演習で文献リストを配付する。

その他 / Others

本年度は、文学における軽井沢を主要テーマとして設定する。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

質的調査の実践とレポート執筆

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB667

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的調査の手法を学び実践することができるようになること。

研究テーマを決めて対象についての理解を深めること。

Students will be able to learn methods of qualitative research and practice it.

Students are expected to decide on a research topic and to develop their understanding of the research subject.

授業の内容 / Course Contents

参与観察、インタビュー、エスノグラフィーの作成という質的調査の手法を学び、実践する。

Students will learn the methods of qualitative research - participant observation, interviews, and the writing ethnography - and practice it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：「語り」のとらえ方 (1)

3 回：「語り」のとらえ方 (2)

- 4回：マイクロ・エスノグラフィーを読む
 5回：インタビューの方法
 6回：インタビューの実践（1）
 7回：インタビューの実践（2）
 8回：参与観察にむけた準備
 9回：一日フィールドワーク
 10回：一次資料の報告
 11回：二次資料をくわえた報告
 12回：マイクロ・エスノグラフィーのレジюме作成と執筆
 13回：マイクロ・エスノグラフィーのレジюме作成と執筆
 14回：後期に向けたまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

マイクロ・エスノグラフィーの執筆、報告にむけた事前準備をしておくこと。

夏休み中に調査を実施、結果をまとめ、夏休み明けに一万字程度の報告書を作成し提出する必要がある。秋学期の演習は、この報告書をもとにすすめるからである。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 成果物のマイクロ・エスノグラフィー:35% 資料の作成と報告:35% 議論への参加:30%

テキスト / Textbooks

授業内で提示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

2年次の演習をとおしてテーマが確定しており、テーマにかんする文献リストを作成済みであること。

就活を理由とした欠席とならずゼミに必ず参加できるように、日程を調整する能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で論文・レポートの書き方の指導をするので、該当する回ではノートパソコンを持参すること。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

成果報告書の作成

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB668

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学術的な手続きにもとづき、正確な日本語で学術的な報告書を作成することができるようになること。

Students are expected to be able to write academic reports according to academic procedures and in proper Japanese.

授業の内容 / Course Contents

成果報告書の執筆にむけて、各自の問題意識にあわせて研究をすすめる。他の受講者との意見交換をとおして、自分なりの視点・切り口にもとづく報告書を作成する。

Students will conduct research in accordance with their own interests in order to write a final report. Students will exchange opinions with other participants and write reports based on their original viewpoints and perspectives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：構想の報告（章立て、先行研究、着眼点）

- 3回：構想の報告（章立て、先行研究、着眼点）
 4回：構想の報告（章立て、先行研究、着眼点）
 5回：構想の報告（章立て、先行研究、着眼点）
 6回：草稿をもとにした報告（1）
 7回：草稿をもとにした報告（1）
 8回：草稿をもとにした報告（1）
 9回：草稿をもとにした報告（1）
 10回：草稿をもとにした報告（2）
 11回：草稿をもとにした報告（2）
 12回：草稿をもとにした報告（2）
 13回：草稿をもとにした報告（2）
 14回：まとめと完成原稿の提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集と渉猟、報告資料の作成、報告書の執筆などは授業外の時間に実施すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 成果物:35% 資料作成と報告:35% 議論への参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ゼミに必ず参加できるように（就活を理由とした欠席とまらないよう）日程を調整する能力が求められる。報告者は論文や資料を熟読し、論文の内容と事実関係をもとにディスカッションのベースとなる論点を抽出して授業にのぞむこと。受講者間で進捗状況や草稿を共有しながらすすめる。

演習（3年）A

Seminar (3rd year)A

観光、移動と多様性

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB669

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

多様性が尊重される持続可能な社会を作るための取り組みについて知識を深め、社会的なつながりや協力関係を模索するために必要な多角的な視点を養う。社会調査の基礎を学び、実践する。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Deepen knowledge of existing initiatives that seek to create a more diverse and sustainable society.
- 2) Develop a multidimensional perspective to effectively explore possibilities for

授業の内容 / Course Contents

2年次に触れてきたテーマの中から具体的な調査トピックを設定し、関連資料や文献から理解を深める。自分で調査データを得る経験を積み、結果をまとめる。フィールドワークでは座学で学んだ知識を応用し、調査技術を習得する。

In this course, students select a concrete research topic of interest based on the themes they engaged with in their second year, and deepen their knowledge by reading relevant literature. Fieldwork provides opportunities to apply classroom knowledge and acquire research skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：関心の掘り下げ
- 3回：調査方法について文献から学ぶ
- 4回：調査方法について文献から学ぶ
- 5回：関連文献の調査、レビュー
- 6回：関連文献の調査、レビュー
- 7回：文献講読・調査方法の実践
- 8回：文献講読・調査方法の実践
- 9回：文献講読・調査方法の実践
- 10回：調査結果をまとめる
- 11回：調査結果をまとめる
- 12回：調査結果をまとめる
- 13回：調査結果をまとめる
- 14回：調査結果の発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読や調査の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

フィールドワークは基本的に授業時間外に行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業の参加度:30% 授業内に指示した提出物:70%

テキスト / Textbooks

適宜案内する。

参考文献 / Readings

三井さよ、三谷はるよ、西川知享、工藤保則 はじめての社会調査 世界思想者 2023 9784790717775
 岸政彦、石岡丈昇、丸山里見 質的社会調査の方法=他者の合理性の理解社会学 有斐閣ストゥディア 2016
 9784641150379

前田拓也、秋谷直矩、朴沙羅、木下衆 最強の社会調査入門 ナカニシヤ出版 2016 9784779510793

適宜案内する。

その他 / Others

調査対象によってデータ取得の時期や方法は様々であるため、上記の授業計画に変更が生じることもある。

未履修の場合、「観光社会学（3）ジェンダー」の履修を強く勧める。

演習（3年）B

Seminar (3rd year)B

観光、移動と多様性

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB670

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM3003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会学的想像力を使い、関心のある事象を学術的に調査する力を養う。適切な調査計画、データ取得・分析に基づき、説得力のある議論を展開する力をつける。調査結果を構成がしっかりしたレポートにまとめるスキルを習得する。

Upon successful completion of the course, students will be able to:

- 1) Acquire the skills to apply their sociological imagination in conducting academic research on a phenomenon of interest.
- 2) Develop the ability to build a convincing argument based on

授業の内容 / Course Contents

関心のある具体的な調査トピックを選び、学術的、社会的意義のある問いを立てる。調査方法と研究倫理の基礎を学び、整合性と説得力のある調査計画書を書く。計画に基づきデータ取得・分析を進め、結果をレポートにまとめる。発表とフィードバックを通して考察を深め、執筆を進める。一連の流れを通して自己の調査の社会的、学術的意義を明確にし、研究倫理と調査のプロセスが結果に及ぼした影響について振り返る。

In this course, students select a concrete research topic of interest and formulate academically and socially meaningful research questions. They learn the basics of research methods and ethics, and craft a logical and convincing research plan. Subsequently, they advance to data analysis based on the research plan and articulate their findings in a comprehensive report. By presenting their work in progress and receiving constructive feedback, they refine their ideas and the draft report. Throughout the course, they work to clarify the social and scholarly significance of their research and reflect on the impact of research ethics and the process on the resulting work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、関心の掘り下げ
- 2回：関連文献の調査、レビュー
- 3回：関連文献の調査、レビュー
- 4回：調査計画書の作成
- 5回：調査計画書の作成
- 6回：データ取得、分析、調査の進捗報告
- 7回：データ取得、分析、調査の進捗報告
- 8回：データ取得、分析、調査の進捗報告
- 9回：データ取得、分析、調査の進捗報告
- 10回：データ取得、分析、調査の進捗報告
- 11回：調査レポートの執筆
- 12回：調査レポートの執筆
- 13回：調査レポートの編集、校正
- 14回：調査レポートの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備などをしてから授業に参加することが履修の前提となる。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 研究成果のまとめ:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜案内する。

その他 / Others

調査対象によって調査の時期や方法は様々であるため、上記の授業計画に変更が生じることもある。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

観光地理学の卒業論文演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB701

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と地域に関わる卒業論文を完成させる。

Completion of graduation thesis on tourism and the community.

授業の内容 / Course Contents

観光地理学に関わる定期的な研究発表と全体での討論を基盤として、先行研究の整理、地域調査、調査レポートの作成を進め、その過程を卒業論文の作成に結びつけられるようにする。履修者は研究課題と研究対象地域、関連文献、現地調査の結果を交えて口頭発表を行い、その内容に関して全体で討論する。また、履修者が自らのフィールドの巡検を企画し、現地での討論をとおしてフィールドに関する地理的情報を共有できるようにする。

Based on periodical research presentations and overall discussions concerning the geography of tourism, we will advance the organization of previous research, field surveys, and the preparation of survey reports, so that the process can be linked to the production of graduation thesis. Students will give oral presentations on their research subjects and regions, related literature, the results of field surveys, and discuss the contents in general.

In addition, students can plan their own field trips so that they can share related geographical information through discussions on the sites.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究指導の進め方
- 2回：論文紹介 1
- 3回：論文紹介 2
- 4回：論文紹介 3
- 5回：論文紹介 4
- 6回：論文紹介 5
- 7回：卒業論文のフィールド案内（首都圏） 1
- 8回：研究課題と研究方法の検討 1
- 9回：研究課題と研究方法の検討 2
- 10回：研究課題と研究方法の検討 3
- 11回：研究課題と研究方法の検討 4
- 12回：研究課題と研究方法の検討 5
- 13回：卒業論文のフィールド案内（首都圏） 2
- 14回：卒業論文のフィールド案内（首都圏） 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文のフィールドを全体で共有するための巡検を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業論文への取り組み方：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修者の研究内容に応じて紹介する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

観光地理学の卒業論文演習

松村 公明 (MATSUMURA KOUMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB702

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と地域に関わる卒業論文を完成させる。

Completion of graduation thesis on tourism and the community.

授業の内容 / Course Contents

観光地理学に関わる定期的な研究発表と全体での討論を基盤として、先行研究の整理、地域調査、調査レポートの作成を進め、その過程を卒業論文の作成に結びつけられるようにする。履修者は研究課題と研究対象地域、関連文献、現地調査の結果を交えて口頭発表を行い、その内容に関して全体で討論する。また、履修者が自らのフィールドの巡検を企画し、現地での討論をとおしてフィールドに関する地理的情報を共有できるようにする。

Based on periodical research presentations and overall discussions concerning the geography of tourism, we will advance the organization of previous research, field surveys, and the preparation of survey reports, so that the process can be linked to the production of graduation thesis. Students will give oral presentations on their research subjects and regions, related literature, the results of field surveys, and discuss the contents in general.

In addition, students can plan their own field trips so that they can share related geographical information through discussions on the sites.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究指導の進め方
- 2回：収集データの検討と分析 1
- 3回：収集データの検討と分析 2
- 4回：収集データの検討と分析 3
- 5回：収集データの検討と分析 4
- 6回：考察とまとめ 1
- 7回：考察とまとめ 2
- 8回：卒業論文中間発表 1
- 9回：卒業論文中間発表 2
- 10回：卒業論文中間発表 3
- 11回：卒業論文中間発表 4
- 12回：卒業論文報告会に向けて 1
- 13回：卒業論文報告会に向けて 2
- 14回：卒業論文報告会に向けて 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文のフィールドを全体で共有するための巡検を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業論文への取り組み方：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修者の研究内容に応じて紹介する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまでの講義や演習を通して得た知識や思考方法を活かし、卒業論文の完成に向け調査や分析、考察、執筆を行う。

By the end of this course, students will be able to apply the knowledge and ways of thinking in the course, and write up their graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

学生は自らの関心に即して研究テーマを決め、調査及び執筆計画をたてる。調査および卒業論文の執筆を効果的に進めるため、教員および他学生からのアドバイスを得る。

Students are to plan their research on topics of their choice and receive guidance on the process of writing a graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：研究テーマの設定 1

- 3回：研究テーマの設定2
- 4回：研究テーマの設定3
- 5回：文献研究1
- 6回：文献研究2
- 7回：文献研究3
- 8回：調査計画の設定1
- 9回：調査計画の設定2
- 10回：調査計画の設定3
- 11回：予備調査の実施1
- 12回：予備調査の実施2
- 13回：調査計画の再検討1
- 14回：調査計画の再検討2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

調査及び執筆は演習の時間外で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゼミへの貢献（発表、発言、議論への参加）：100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

各学生の興味関心に応じて、その都度紹介する。

その他 / Others

4年次において、卒業論文を書くために乗り越えるべき山は概ね4回ある。第一は就職活動に忙しい春であり、この時期に就活だけのことを考えず卒論のことも同時に考える余裕のある者がいずれにおいても成功する。第二は夏であり、文献研究やフィールド調査に専念することが成否を分かつ。第三は秋であり、データや構想が未完成ながらも「できることからやる」精神を持って日々取り組むことが肝要である。第四は卒論提出前の初冬であり、諦めないことが大事である。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

門田 岳久 (KADOTA TAKEHISA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB704
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM4003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

文化人類学・民俗学的な視点に基づいて現代社会の具体的な現象を考究し、観光学部／演習におけるこれまでの学びの成果を、各自の卒業論文として具体化させることを目標とする。

Based on perspectives from cultural anthropology and folklore, we will study specific phenomena in modern society, with the aim of utilizing the results of past learning in the College of Tourism seminars in your own graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業研究指導 A で計画した各自の研究計画、調査計画に沿い、受講生の研究発表（フィールドワークの成果、および論文の進捗状況）と議論を軸として進められる。本科目は卒業論文の指導それ自体を目的とし、論文執筆に資する内容を目指すことになる。とりわけ後半では執筆途中の論文を本人が原文通りに読み上げ、それを元に議論を行う、いわゆる「ライティングアップセミナー」の形式を採る。

Based on their research and survey plans created in Seminar A, the class will mainly focus on students' research presentations (results of fieldwork and progress of paper) and discussions. This course is aimed at providing guidance for the graduation thesis itself and is intended to contribute to the writing of the thesis. In the second

half, in particular, we will adopt the so-called "writing-up seminar" format, whereby the author reads out the manuscript in progress, which then forms the basis of a discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義：なぜ「書く」のか
- 2回：夏休み中の成果報告と研究計画の再構成
- 3回：夏休み中の成果報告と研究計画の再構成
- 4回：夏休み中の成果報告と研究計画の再構成
- 5回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 6回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 7回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 8回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 9回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 10回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 11回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 12回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 13回：受講生による論文草稿の読み上げと議論
- 14回：受講生による論文草稿の読み上げと議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

開講時に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告等、演習への参加状況:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

4年次において、卒業論文を書くために乗り越えるべき山は概ね4回ある。第一は就職活動に忙しい春であり、この時期に就活だけのことを考えず卒論のことも同時に考える余裕のある者がいずれにおいても成功する。第二は夏であり、文献研究やフィールド調査に専念することが成否を分かた。第三は秋であり、データや構想が未完成ながらも「できることからやる」精神を持って日々取り組むことが肝要である。第四は卒論提出前の初冬であり、諦めないことが大事である。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB705
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会の変化・交流・創造現象に関する実証的な卒業論文研究あるいはゼミ論文研究への実践的指導です。

Practical guidance on empirical research for the graduation thesis, and seminar research on the changes in culture and society, as well as the creation and exchange of phenomena.

授業の内容 / Course Contents

以下の授業計画を参照して下さい。

See below for lesson plans.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：学術的な研究とは、卒業論文研究とは。
- 2 回：各人が自らの研究テーマと論文目次案を紹介し、皆で議論する（1 巡目）。
- 3 回：各人が自らの研究テーマと論文目次案を紹介し、皆で議論する（1 巡目）。

- 4回：各人が自らの研究テーマと論文目次案を紹介し、皆で議論する（1巡目）。
- 5回：各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する（2巡目）。
- 6回：各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する（2巡目）。
- 7回：各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する（2巡目）。
- 8回：各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する（3巡目）。
- 9回：各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する（3巡目）。
- 10回：各人が自らの研究に関連する基本的先行研究を簡潔に紹介し、皆で議論する（3巡目）。
- 11回：各人がオリジナルな研究へ向けての「調査計画」を簡潔に紹介し、皆で議論する（4巡目）。
- 12回：各人がオリジナルな研究へ向けての「調査計画」を簡潔に紹介し、皆で議論する（4巡目）。
- 13回：各人がオリジナルな研究へ向けての「調査計画」を簡潔に紹介し、皆で議論する（4巡目）。
- 14回：夏休み中の資料収集や調査活動について。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の授業計画以外に、随時、個人指導を行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業論文研究・ゼミ論文研究への取り組み姿勢:70% 研究の報告発表の評価:30%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布します。

参考文献 / Readings

随時、資料を配布します。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

葛野 浩昭 (KUZUNO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB706

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会の変化・交流・創造現象に関する実証的な卒業論文研究あるいはゼミ論文研究への実践的指導です。

Practical guidance on empirical research for the graduation thesis, and seminar research on the changes in culture and society, as well as the creation and exchange of phenomena.

授業の内容 / Course Contents

以下の授業計画を参照して下さい。

See below for lesson plans.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：学術的論文作法の確認。

2 回：学術的論文作法の確認。

3 回：各人が自らの夏休み中の研究・調査活動の概要を紹介し、皆で議論する（1 巡目）。

4 回：各人が自らの夏休み中の研究・調査活動の概要を紹介し、皆で議論する（1 巡目）。

- 5回：各人が自らの論文の目次案を紹介し、皆で議論する（2巡目）。
- 6回：各人が自らの論文の目次案を紹介し、皆で議論する（2巡目）。
- 7回：各人が論文第1章の、先行研究の整理と自らの研究の目的・方法の部分を中心とした発表を行い、皆で議論する（3巡目）。
- 8回：各人が論文第1章の、先行研究の整理と自らの研究の目的・方法の部分を中心とした発表を行い、皆で議論する（3巡目）。
- 9回：各人が論文第2章の、自らのオリジナルな研究部分（事例やデータ）を中心とした発表を行い、皆で議論する（4巡目）。
- 10回：各人が論文第2章の、自らのオリジナルな研究部分（事例やデータ）を中心とした発表を行い、皆で議論する（4巡目）。
- 11回：各人が論文第3章の、考察・総括の部分を中心とした発表を行い、皆で議論する（5巡目）。
- 12回：各人が論文第3章の、考察・総括の部分を中心とした発表を行い、皆で議論する（5巡目）。
- 13回：卒業論文発表会へ向けて発表レジюме案の紹介と検討。
- 14回：卒業論文発表会へ向けて模擬発表。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の授業計画に加えて、個人指導も行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業論文研究・ゼミ論文研究への取り組み姿勢:70% 研究の報告発表の評価:30%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布します。

参考文献 / Readings

随時、資料を配布します。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB709
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまでの演習の成果を踏まえ、社会・文化現象としての観光についてより総合的な視座を獲得することを目指とする。

Based on the results of the previous seminars, the objective is to gain a more comprehensive view of tourism as a social and cultural phenomenon.

授業の内容 / Course Contents

観光現象を「社会」や「文化」という視点からとらえるテーマを各自の問題関心に応じて自由に設定してもらい、設定テーマに関する既存研究の文献研究や独自のフィールド調査を通して、観光と「社会」「文化」の関係を総合的に検討するため、報告、発表を順次行い、参加者相互に検討しあう。成果を論文の形にまとめることを目指す。

Themes which tackle tourism phenomena from the perspective of “society” and “culture” can be set freely according to each issue of concern, and through researches on existing studies on the theme and independent field surveys, a comprehensive study of the relationship between tourism and “society and culture” will be investigated. Reports and presentations will be made one after another, followed by a discussion among the

participants. The aim being to incorporate the results in the thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：課題設定（1）
- 3回：課題設定（2）
- 4回：文献研究：関連文献の渉猟とリスト化（1）
- 5回：文献研究：関連文献の渉猟とリスト化（2）
- 6回：文献研究：関連文献の内容の検討（1）
- 7回：文献研究：関連文献の内容の検討（2）
- 8回：文献研究：関連文献の内容の検討（3）
- 9回：文献研究：関連文献の内容の検討（4）
- 10回：文献研究：関連文献の内容の検討（5）
- 11回：研究計画の再検討（1）
- 12回：研究計画の再検討（2）
- 13回：調査計画の立案（1）
- 14回：調査計画の立案（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自らの問題関心を明確にするように心がけること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・演習への参加度:70% 報告内容:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

大橋 健一 (OHASHI KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB710
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまでの演習の成果を踏まえ、観光と「文化」との関係についてより総合的な視座を獲得することを目標とする。

Based on the outcome of previous seminars, the aim is to gain a more comprehensive view on the relationship between tourism and "culture".

授業の内容 / Course Contents

観光現象を「文化」という視点からとらえるテーマを各自の問題関心に応じて自由に設定してもらい、設定テーマに関する既存研究の文献研究や独自のフィールド調査を通して、観光と「文化」の関係を総合的に検討するため、報告、発表を順次行い、参加者相互に検討しあう。その上で成果を論文の形にまとめる。

Themes which tackle tourism phenomena from the perspective of "culture" can be set freely according to each issue of concern, and through existing research on the theme and independent field surveys, a comprehensive study of the relationship between tourism and "cultural" will be investigated. Reports and presentations will be made one after another, followed by a discussion among the participants. In addition, each student will write a research paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：調査結果の検討（1）
- 3回：調査結果の検討（2）
- 4回：調査結果の分析（1）
- 5回：調査結果の分析（2）
- 6回：論文構成案の作成と検討（1）
- 7回：論文構成案の作成と検討（2）
- 8回：論文内容の検討（1）
- 9回：論文内容の検討（2）
- 10回：論文内容の検討（3）
- 11回：論文内容の検討（4）
- 12回：論文内容の検討（5）
- 13回：研究成果の発表（1）
- 14回：研究成果の発表（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自らの問題意識の明確化に努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・演習への参加度:60% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB711
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまで学習してきた知識を活かして、地域の自然・文化の多様性や地域差、地域の個性を見出し、卒業論文として公表する。

By utilizing the knowledge that has been learned so far, we will identify the diversity of nature and culture of regions, the differences between regions and their individual characters, and make public as graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自が関心のあるテーマを設定し、これまでの学習で得た諸概念、文献調査やフィールドワーク、PCスキルなどをフルに活かして研究を進める。研究の進ちょく状況の定期的な発表を通じて指導する。

Each student will determine their theme of interest and conduct research, making full use of the ideas acquired though class, literary research, fieldwork and computer skills. Periodic research progress updates will be given and guidance provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：これまでの卒業論文の例

2 回：テーマの設定

- 3回：テーマの設定
 4回：文献調査
 5回：文献調査
 6回：調査方法の確定
 7回：調査方法の確定
 8回：調査準備（地図収集・聞き取り調査票・アンケート調査票などの作成）
 9回：調査準備（地図収集・聞き取り調査票・アンケート調査票などの作成）
 10回：サンプル調査の実施
 11回：調査準備の再検討
 12回：現地調査の実施
 13回：現地調査の実施
 14回：現地調査の実施

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

下記の参考文献を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究レポートの提出とその完成度:50% ゼミへの貢献度（ディスカッション等）:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか 地域調査ことはじめ ナカニシヤ出版 2007 4779501326

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

佐藤 大祐 (SATO DAISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB712
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまで学習してきた知識を活かして、地域の自然・文化の多様性や地域差、地域の個性を見出し、卒業論文として公表する。

By utilizing the knowledge that has been learned so far, we will identify the diversity of nature and culture of regions, the differences between regions and their individual characters, and make public as graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

学生各自が関心のあるテーマを設定し、これまで学習してきた諸概念、文献調査やフィールドワーク、PCスキルなどをフルに活かして研究を進める。研究の進ちょく状況の定期的な発表を通じて指導する。

Each student will determine their theme of interest and conduct research, making full use of the ideas acquired though class, literary research, fieldwork and computer skills. Periodic research progress updates will be given and guidance provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究テーマの探求

2 回：研究テーマと調査地の決定

- 3回：研究方法の決定
- 4回：資料収集と調査票の設計
- 5回：調査票の作成
- 6回：調査票の試行と調査内容の再検討
- 7回：調査結果の整理
- 8回：調査結果の分析1
- 9回：調査結果の分析2
- 10回：補足調査
- 11回：図表の作成
- 12回：地図の作成
- 13回：論文の執筆
- 14回：論文の添削

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

3年までに習得したスキルや考え方を活かして地域調査を実施する。調査の途中経過を中間発表として授業内で発表してもらおう。最後に調査結果を論文等としてまとめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表とディスカッション:30% 現地調査:30% 研究論文の提出とその完成度:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶田真ほか『地域調査ことはじめ』（ナカニシヤ出版）

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

卒論執筆演習

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB713

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

4 年次の演習は、各自が設定したテーマに基づき、卒業論文と関連づけて研究をすすめる。今年度のテーマは、観光学の研究理論とそれに基づく現地調査の実践である。

The 4th year seminars will be based on individually determined themes relating to the graduation thesis. This year's theme is the implementation of field surveys based on tourism studies and related theories.

授業の内容 / Course Contents

本演習では各自が設定したテーマを講義、講読と参加者による報告を交えて探究する。この演習の履修者には、卒業論文の執筆を義務づける。

Lectures will be given on themes related to regional development through tourism and along with reports and reading from participants. Students taking this seminar are required to write a graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：観光学講読
 3回：観光学講読
 4回：観光学講読
 5回：観光学講読
 6回：観光学講読
 7回：個人テーマ確認・討論
 8回：個人テーマ確認・討論
 9回：個人テーマ確認・討論
 10回：個人テーマ確認・討論
 11回：個人テーマ確認・討論
 12回：個人テーマ確認・討論
 13回：個人テーマ確認・討論
 14回：卒論中間報告準備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者ごとに、関心のあるテーマに基づく論文執筆のための資料収集、プレゼン、レポート作成を重ねることで、問題意識を深める。並行して講読を行い、入学以来の学びから観光学の理論と現地調査の手法を復習する。社会連携活動や合宿などの準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加状況：100%

テキスト / Textbooks

前田勇ら 新現代観光総論 学文社 ○

テキストの版、年次は問わない。

参考文献 / Readings

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz から FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

卒論執筆演習

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB714

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

4 年次の演習は、各自が設定したテーマに基づき、卒業論文と関連づけて研究をすすめる。今年度のテーマは、観光学の研究理論とそれに基づく現地調査の実践である。

The 4th year seminars will be based on individually determined themes relating to the graduation thesis. This year's theme is the implementation of field surveys based on tourism studies and related theories.

授業の内容 / Course Contents

本演習では各自が設定したテーマを講義、講読と参加者による報告を交えて探究する。この演習の履修者には、卒業論文の執筆を義務づける。

Lectures will be given on themes related to regional development through tourism and along with reports and reading from participants. Students taking this seminar are required to write a graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：春学期以降のふりかえり

- 2回：個人テーマ発表・討論
 3回：個人テーマ発表・討論
 4回：個人テーマ発表・討論
 5回：個人テーマ発表・討論
 6回：個人テーマ発表・討論
 7回：個人テーマ発表・討論
 8回：個人テーマ発表・討論
 9回：個人テーマ発表・討論
 10回：卒論執筆指導
 11回：卒論執筆指導
 12回：卒論執筆指導
 13回：卒論レジュメ指導
 14回：卒論報告指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者ごとに、関心のあるテーマに基づく論文執筆のための資料収集、プレゼン、レポート作成を重ねることで、問題意識を深める。並行して講読を行い、入学以来の学びから観光学の理論と現地調査の手法を復習する。社会連携活動や合宿などの準備と遂行について、主体的かつ積極的な関与が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加状況：100%

テキスト / Textbooks

前田勇ら 新現代観光総論 学文社 ○

テキストの版、年次は問わない。

参考文献 / Readings

<https://cir.nii.ac.jp/> から検索した個人テーマ関連論文

その他 / Others

ゼミウェブ masutani.biz から FAQ ページなどを用意している。

授業支援システムとして、演習では Google Classroom とそれに連携した Google ドライブを多用する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB717
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を構想する。

Develop concepts of their graduation papers.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文のテーマや内容を確定させ、先行研究や関連文献の精読、必要な史料の収集などを行う。

Determine the theme, objective, perspective, outline, table of contents and so on for the graduation thesis, as well as read prior research and related documents, and gather the necessary historical materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：履修者による報告 1
- 3 回：履修者による報告 2
- 4 回：履修者による報告 3
- 5 回：履修者による報告 4
- 6 回：履修者による報告 5

- 7回：履修者による報告6
 8回：履修者による報告7
 9回：履修者による報告8
 10回：履修者による報告9
 11回：履修者による報告10
 12回：履修者による報告11
 13回：履修者による報告12
 14回：秋学期「卒業研究指導B」に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 卒業論文に関する先行研究を精読する。
 卒業論文に関する史料を収集する。
 卒業論文に関する情報を積極的に収集する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

- 平常点のみ
 平常点割合 :100% 講義への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 適宜提示する。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

千住 一 (SENJU HAJIME)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB718

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を執筆する。

Write graduation papers.

授業の内容 / Course Contents

春学期「卒業研究指導 A」での成果にもとづいて卒業論文の執筆を行う。

Writing of graduation thesis based on the results of Seminar on Graduation Research A in the spring semester, and deliver the results in a presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：進捗の確認 1

3 回：進捗の確認 2

4 回：進捗の確認 3

5 回：進捗の確認 4

6 回：進捗の確認 5

- 7回：進捗の確認 6
- 8回：進捗の確認 7
- 9回：進捗の確認 8
- 10回：進捗の確認 9
- 11回：進捗の確認 10
- 12回：進捗の確認 11
- 13回：進捗の確認 12
- 14回：大学における学修の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

推敲と加筆修正を繰り返す。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への取り組み:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

適宜提示する。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

観光社会学

石野 隆美 (ISHINO TAKAYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB719

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点にもとづいて研究をおこなう能力を身につける。

Research abilities will be acquired based on the perspectives in the Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論を踏まえ、研究論文を執筆する。

Research paper writing based on reading texts and discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文献講読および研究論文指導

3 回：文献講読および研究論文指導

4 回：文献講読および研究論文指導

5 回：文献講読および研究論文指導

6 回：文献講読および研究論文指導

- 7回：文献講読および研究論文指導
 8回：文献講読および研究論文指導
 9回：文献講読および研究論文指導
 10回：文献講読および研究論文指導
 11回：文献講読および研究論文指導
 12回：文献講読および研究論文指導
 13回：文献講読および研究論文指導
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

ジョンストン他 フーディー 青弓社 2020 9784787234735 -

参考文献 / Readings

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

観光社会学

高岡 文章 (TAKAOKA FUMIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB720

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光社会学の視点にもとづいて研究をおこなう能力を身につける。

Research abilities will be acquired based on the perspectives in the Sociology of Tourism.

授業の内容 / Course Contents

文献講読や議論を踏まえ、研究論文を執筆する。

Research paper writing based on reading texts and discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：文献講読および研究論文指導

3 回：文献講読および研究論文指導

4 回：文献講読および研究論文指導

5 回：文献講読および研究論文指導

6 回：文献講読および研究論文指導

- 7回：文献講読および研究論文指導
 8回：文献講読および研究論文指導
 9回：文献講読および研究論文指導
 10回：文献講読および研究論文指導
 11回：文献講読および研究論文指導
 12回：文献講読および研究論文指導
 13回：文献講読および研究論文指導
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習が前提となる。詳細は別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:60% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB721
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の執筆に向けた準備作業を行う。

This course will help you to prepare your graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文のテーマを決定し、その執筆に必要な文献調査と書誌の作成、問題と仮説の設定、目次の作成を行う。

Students will establish research topics, conduct bibliographic research, create the bibliographie, construct the problem statement and make the table of contents of their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：論文とはなにか
- 2 回：発表と討議 1
- 3 回：発表と討議 2
- 4 回：発表と討議 3
- 5 回：発表と討議 4
- 6 回：発表と討議 5

- 7回：発表と討議 6
- 8回：発表と討議 7
- 9回：発表と討議 8
- 10回：発表と討議 9
- 11回：発表と討議 10
- 12回：発表と討議 11
- 13回：発表と討議 12
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各自のテーマに関連する論文を収集し、読み込んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内発表:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

石橋 正孝 (ISHIBASHI MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB722
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文を実際に執筆する過程で発生する問題を共有し、ともにその解決法を模索することにより、論文執筆に必要な知識および技術を身につけるとともに、卒業論文の最終的な完成度を上げることを目標とする。

The objective is to share issues that arise in the process of writing a graduation thesis, to search for solutions together, and to acquire the knowledge and techniques necessary for writing a thesis, so that the graduation thesis may be finally completed

授業の内容 / Course Contents

卒業研究指導 A で各自が設定した計画（テーマおよび調査・分析法）に基づいて論文を執筆し、その途中経過を随時プレゼンテーションしつつ、論文の完成に必要な指導を適宜行う。

具体的には、説得的な議論の進め方、論理的な文章の書き方、発展的ないしは補足的な調査の行い方、さらにはその内容を適切に伝えるために必要なプレゼンテーション能力等である。

Guidance will be provided as necessary for the completion of the thesis to be written according to the plans (themes, surveys and analytical methods) determined individually in graduation research project A, and while presentations are given as necessary. Specifically, it is persuasive discussion, written in logical sentences, using

the methods of developing or supplementary research, with the presentation ability necessary to convey the contents appropriately.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（授業に関する説明、優れた卒論とは何か）
 - 2 回：卒業論文下書きの発表と討論①
 - 3 回：卒業論文下書きの発表と討論②
 - 4 回：卒業論文下書きの発表と討論③
 - 5 回：卒業論文下書きの発表と討論④
 - 6 回：卒業論文下書きの発表と討論⑤
 - 7 回：卒業論文下書きの発表と討論⑥
 - 8 回：卒業論文下書きの発表と討論⑦
 - 9 回：卒業論文下書きの発表と討論⑧
 - 10 回：卒業論文下書きの発表と討論⑨
 - 11 回：卒業論文下書きの発表と討論⑩
 - 12 回：卒業報告会予行練習①
 - 13 回：卒業報告会予行練習②
 - 14 回：卒業報告会予行練習③
- 総括（まとめ）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒論下書き発表の際は、対象作品を全員が読んだ上でのディスカッションが出来るよう、そのデータや資料を事前に用意して提出すること。

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って準備を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度は当然のことだが、それを受けた論文作成への取り組み並びに卒業論文報告会における報告や質疑応答を対象に行う。:100%

3分の2以上の出席をしていない場合は、単位修得の対象外となる。本科目は、あくまで論文作成に必要な作業の一環としての発表や討論を行い、その成果を報告するための指導を受けることが目的であり、その際の取り組みが成績評価の対象となる。卒業論文本体の提出のみでは成績評価の対象とならないので注意すること。

テキスト / Textbooks

特に使用しない。

参考文献 / Readings

戸田山和久 最新版 論文の教室 NHK 出版 2022 9784140912720

斎藤理生ほか 卒業論文マニュアル 日本近現代文学編 ひつじ書房 2022 9784823411465

上記以外は、各自のテーマに応じて個別に紹介する。

その他/ Others

資料の配付や課題の提出に関しては、「Canvas LMS」のみを使用する。

報告集『ゲニウス・ロキ』の編集・校正作業が随時授業に追加されることにもなる。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB723
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM4003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、卒業論文の執筆に向けて、研究計画の指導を行う。

This advanced seminar provides students with instructions on how to plan a graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講生各自が関心のあるテーマを設定し、3 次年までに学んだ調査研究方法などのスキルを活かして先行研究のレビューや論文構成の作成、ディスカッションも踏まえながら研究を進める。その結果を卒業論文として秋学期にまとめる。必要に応じて個別指導を行う。

Students will decide their theme of interest and proceed with their research based on the skills like research methods they developed up to third year and also through discussions. The results will be summarized in the fall semester as a graduation thesis. Individual guidance will be provided as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation (オリエンテーション)
- 2 回：Research theme setting and literature review 1 (研究テーマの設定・先行研究のレビュー 1)
- 3 回：Research theme setting and literature review 2 (研究テーマの設定・先行研究のレビュー 2)

- 4回：Research theme setting and literature review 3 (研究テーマの設定・先行研究のレビュー 3)
 5回：Research theme setting and literature review 4 (研究テーマの設定・先行研究のレビュー 4)
 6回：Drafting and reviewing of thesis structure 1 (論文構成成案と検討 1)
 7回：Drafting and reviewing of thesis structure 2 (論文構成成案と検討 2)
 8回：Reviewing of thesis content 1 (論文内容の検討 1)
 9回：Reviewing of thesis content 2 (論文内容の検討 2)
 10回：Reviewing of thesis content 3 (論文内容の検討 3)
 11回：Research progress reporting and discussions 1 (研究経過報告と議論 1)
 12回：Research progress reporting and discussions 2 (研究経過報告と議論 2)
 13回：Presentation and discussion on the research results 1 (研究成果の発表 1)
 14回：Presentation and discussion on the research results 2 (研究成果の発表 2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to follow the seminar content and proceed with the preparation of their graduation theses based on their research themes. Students are encouraged to write at least 500 Japanese characters every day. 指導内容を参考に、各自のテーマに沿って卒業論文の作成を進めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Overall grades will be based on class participation, discussion, presentation, and report (演習での発表、ディスカッションへの参加、およびレポート等を総合的に評価) :100%

テキスト / Textbooks

There is no specific textbook (なし)。

参考文献 / Readings

References will be provided as necessary (必要に応じて適宜紹介する)。

その他 / Others

※ Pronouns (代名詞) : he/him/his

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the students' understanding.

一部の内容に変更される場合がある。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB724
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM4003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

これまでの演習の成果を踏まえ、卒業論文を執筆することを目標とする。

Based on the results of the previous seminars, this advanced seminar provides students with instructions on writing a graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

春学期の卒業研究指導 A で設計された研究計画に基づいて卒業論文を作成する。毎週、研究進捗状況を発表し、ディスカッションを通じて、構成や独自性、分析手法、結果の考察などの卒業論文の作成に関する指導を行う。また、最終発表に向けて、プレゼンテーション作法・技術についても学ぶ。必要に応じて個別指導を行う。

Students will prepare a graduation thesis based on the research plan they designed in the Seminar on Graduation Research A in the spring semester, Every week, students will present their research progress, and through discussions, will receive guidance on graduation thesis writing such as the structure, originality, analysis methods, and findings. In addition, student will learn presentation methods and techniques for the final presentation. Individual guidance will be provided as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Orientation (オリエンテーション)
 2回：Discussion on thesis progress 1 (論文の進捗と議論 1)
 3回：Discussion on thesis progress 2 (論文の進捗と議論 2)
 4回：Discussion on thesis progress 3 (論文の進捗と議論 3)
 5回：Discussion on thesis progress 4 (論文の進捗と議論 4)
 6回：Discussion on thesis progress 5 (論文の進捗と議論 5)
 7回：Discussion on thesis progress 6 (論文の進捗と議論 6)
 8回：Discussion on thesis progress 7 (論文の進捗と議論 7)
 9回：Discussion on thesis progress 8 (論文の進捗と議論 8)
 10回：Discussion on thesis progress 9 (論文の進捗と議論 9)
 11回：Discussion on thesis progress 10 (論文の進捗と議論 10)
 12回：Preparation for final presentation 1 (発表会に向けた準備 1)
 13回：Preparation for final presentation 2 (発表会に向けた準備 2)
 14回：Rehearsal of final presentation (発表会のリハーサル)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to follow the seminar content and proceed with the preparation of their graduation theses based on their research themes. Students are encouraged to write at least 500 Japanese characters every day.

指導内容を参考に、各自のテーマに沿って卒業論文の作成を進めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Overall grades will be based on class participation, discussion, presentation, and report (演習での発表、ディスカッションへの参加、およびレポート等を総合的に評価) :100%

テキスト / Textbooks

There is no specific textbook (なし)。

参考文献 / Readings

References will be provided as necessary (必要に応じて適宜紹介する)。

その他 / Others

※ Pronouns (代名詞) : he/him/his

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the students' understanding.

一部の内容に変更される場合がある。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

卒業論文の執筆にむけて

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB725

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の構想を完成させること。

Students will develop a concept of their undergraduate thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の執筆にむけて、各自の問題意識にあわせて研究をすすめる。他の受講者との意見交換をとおして、自分なりの視点・切り口にもとづく卒業論文の構想を練り上げる。

Students will conduct research in accordance with their own perspectives on the issues. Through the discussion with other students, students will develop their own ideas and perspectives for their undergraduate thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：受講者による報告（1）：先行研究の報告

3 回：受講者による報告（2）：先行研究の報告

4 回：受講者による報告（3）：先行研究の報告

- 5回：受講者による報告(1)：問題意識と全体の構想を報告
 6回：受講者による報告(2)：問題意識と全体の構想を報告
 7回：受講者による報告(3)：問題意識と全体の構想を報告
 8回：受講者による報告(1)：進捗報告①
 9回：受講者による報告(2)：進捗報告①
 10回：受講者による報告(3)：進捗報告①
 11回：受講者による報告(1)：進捗報告②
 12回：受講者による報告(2)：進捗報告②
 13回：受講者による報告(3)：進捗報告②
 14回：夏休みの資料収集・執筆作業について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

報告に向けた準備、調査と執筆は授業時間外におこなう。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:35% 議論への参加:35% 事前準備と研究姿勢:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

演習(2年)、演習(3年)で、資料の検索方法と報告の仕方について習得しておくこと。

ゼミに必ず参加できるように(就活を理由とした欠席とならないよう)日程を調整する能力が求められる。

夏休み明けに卒論の草稿となるレポートを提出することを了承のうえ履修すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

報告資料を閲覧するためのPCやタブレット(書き込み可能なもの)を持参することが望ましい。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

卒業論文の執筆

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 観光学部

科目コード等： HB726

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： TRM4003

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学術的な手続きにもとづき卒業論文を執筆すること。

Students will write a undergraduate thesis in accordance with academic procedures.

授業の内容 / Course Contents

調査結果をまとめ卒業論文を執筆する

Students will write their undergraduate thesis based on the results of the survey.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：夏休みの成果報告

3 回：夏休みの成果報告

4 回：夏休みの成果報告

5 回：草稿の報告と議論

6 回：草稿の報告と議論

- 7回：草稿の報告と議論
 8回：草稿の報告と議論
 9回：草稿の報告と議論
 10回：草稿の報告と議論
 11回：草稿の報告と議論
 12回：草稿の報告と議論
 13回：草稿の報告と議論
 14回：草稿の報告と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

執筆と報告準備は授業時間外におこなう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:35% 議論への参加:35% 事前準備と研究姿勢:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ゼミに必ず参加できるように（就活を理由とした欠席とならないよう）日程を調整する能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

報告資料を閲覧するためのPCやタブレット（書き込み可能なもの）を持参することが望ましい。

卒業研究指導 A

Seminar on Graduation Research A

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 観光学部
科目コード等： HB727
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： TRM4003
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまで獲得した知識と経験を活かし、社会的事象を学術的に調査する力を養う。根拠に基づき説得力のある議論を展開するスキルを身につける。

By successfully completing the course, the students will be able to develop:

- 1) The ability to research a social phenomenon academically, building on their existing knowledge and experience.
- 2) The skills to develop a convincing and well-grounded argument.

授業の内容 / Course Contents

各自調査テーマを決め、先行研究の知見と適切な調査方法に関する理解を深める。進捗状況を発表し、フィードバックから学ぶことで自分の考えを練り上げ、実行可能な研究計画書を仕上げる。

In this course, students choose a research topic based on their interest, and develop an understanding of existing research findings and appropriate research methods. They refine their ideas by receiving feedback on their work in progress and complete a viable viable research plan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：文献調査の方法と実践
- 3回：先行研究の調査と文献レビュー（1）
- 4回：先行研究の調査と文献レビュー（2）
- 5回：先行研究の調査と文献レビュー（3）
- 6回：先行研究の調査と文献レビュー（4）
- 7回：調査方法と研究倫理についての文献講読（1）
- 8回：調査方法と研究倫理についての文献講読（2）
- 9回：研究計画の進捗状況報告（1）
- 10回：研究計画の進捗状況報告（2）
- 11回：研究計画書執筆（1）
- 12回：研究計画書執筆（2）
- 13回：研究計画書執筆（3）
- 14回：研究計画のまとめと発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業での指導とフィードバックを参考にし、各自で文献講読やレビューに取り組むことが履修の前提となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミへの参加度:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

大熊英二 基礎からわかる論文の書き方 講談社現代新書 2022 9784065280867

上野千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 9784480071675

適宜案内する。

その他 / Others

調査対象によって調査方法やデータ取得の時期は様々であるため、上記の授業計画に変更が生じることもある。

各自、関連資料や先行研究を参考にしながら第一回授業までに関心のある研究テーマやトピックについて考えておくことが望ましい。

卒業研究指導 B

Seminar on Graduation Research B

川嶋 久美子 (KAWASHIMA KUMIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	観光学部
科目コード等：	HB728
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	TRM4003
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

データや理論に基づき説得力のある議論を展開し、構成のしっかりした論文に仕上げるスキルを習得する。

By successfully completing the course, the students will be able to:

- 1) Formulate a sound argument based on data and/or theory
- 2) Write a well-structured and coherent thesis.

授業の内容 / Course Contents

研究計画書に基づいて調査を実施し、その結果をしっかりとした構成の卒業論文にまとめる。

In this course, students carry out their research plan and complete a well-structured and coherent graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：調査結果の報告と議論（1）
- 3 回：調査結果の報告と議論（2）
- 4 回：卒業論文の構成と論点の整理（1）

- 5回：卒業論文の構成と論点の整理（2）
 6回：卒業論文の構成と論点の整理（3）
 7回：卒業論文の執筆と進捗状況の報告（1）
 8回：卒業論文の執筆と進捗状況の報告（2）
 9回：卒業論文の執筆と進捗状況の報告（3）
 10回：卒業論文の執筆と進捗状況の報告（4）
 11回：卒業論文の執筆と進捗状況の報告（5）
 12回：卒業論文の最終執筆
 13回：報告会に向けての準備（1）
 14回：報告会に向けての準備（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業での指導とフィードバックを参考にし、各自でデータ分析や論文執筆に取り組むことが履修の前提となる。

卒業論文の書き方に関する情報を積極的に収集し、参考にすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミへの参加度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜案内する。

その他 / Others

研究や執筆の進捗状況により、上記の授業計画に変更が生じることもあります。